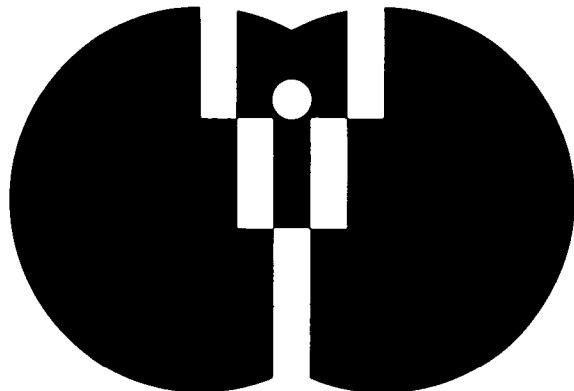


こどもの城

事業年報

昭和63年度

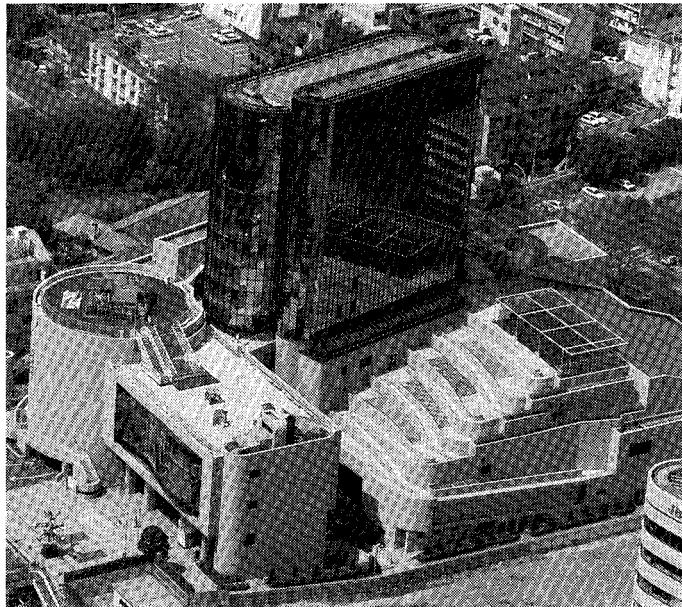


財団法人 日本児童手当協会

こどもの城

事業年報

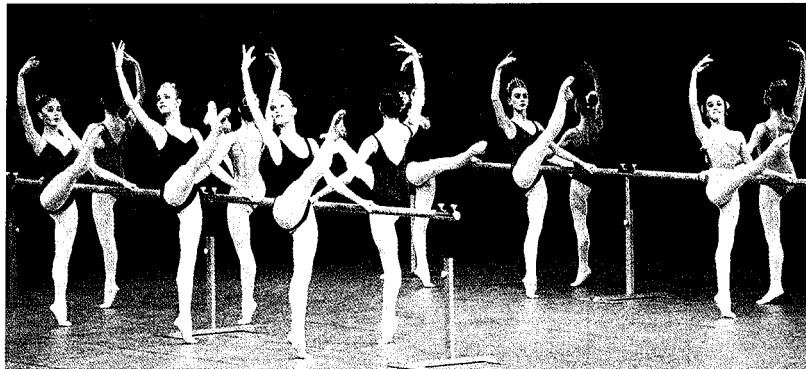
昭和 63 年度



財団法人 日本児童手当協会

年間スケッチ

ローザンヌ国際バレエコンクール
(平成元年1月)

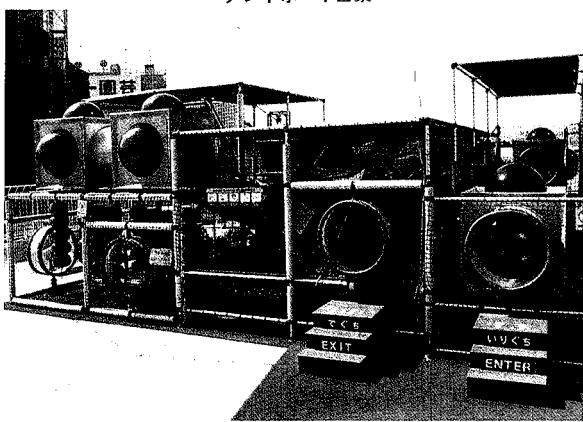


プレイポートオープン(7月)

4万5000個のボールのプール



プレイポート全景

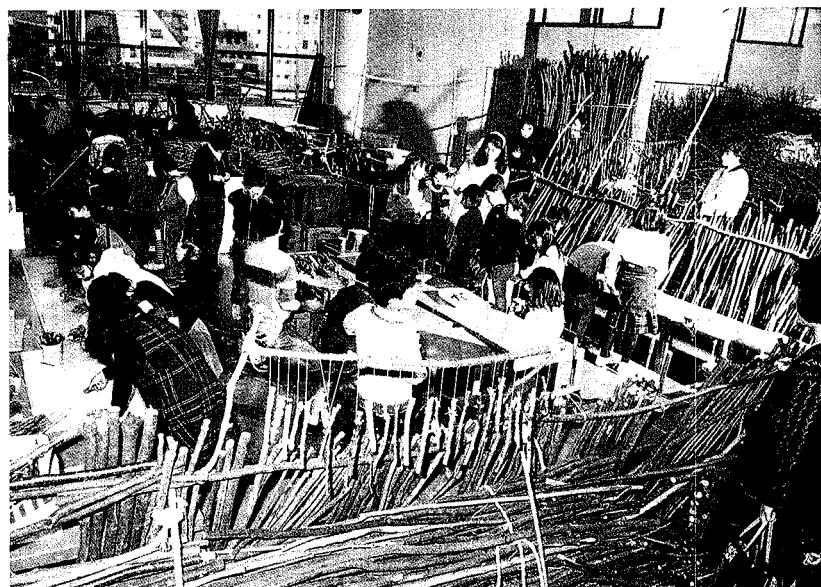


テープカットする小島理事長(右)

メキシコ大統領夫人来館（平成元年2月）



「木と造形」（8月）



300万人目の入館者（8月）



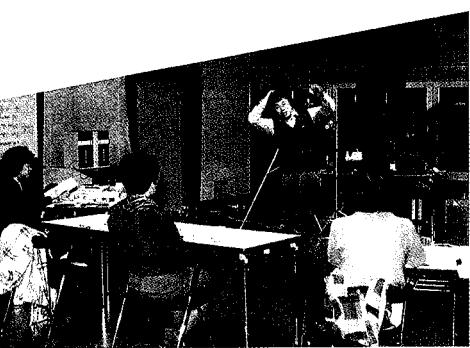
ふくわらい（平成元年1月）

第3回渋谷夏のスタンプラリー
(7・8月)



ミステリーハウス
(8月)

全国保育研究大会・実践講座
(11月)



ひなまつり（平成元年2月）



こどもの城事業年報 63年度

目 次

| | |
|----------------------|-----|
| I 事業の概要 | |
| 1 事業と運営 | 1 |
| (1) 基本構想 | 1 |
| (2) 運営の基本的な考え方 | 1 |
| (3) (財)日本児童手当協会組織機構図 | 4 |
| (4) 63年度の活動 | 5 |
| 1) 入館者数 | 5 |
| 2) 一般来館者のための活動 | 5 |
| 3) グループ活動 | 6 |
| 4) 講座・クラブ活動 | 6 |
| 5) 劇場事業 | 6 |
| 6) 各種の普及・協力活動 | 7 |
| (5) 活動時間・入館料 | 7 |
| (こども活動エリア) | |
| 1) 平常期間 | 7 |
| 2) 学校の季節休み | 7 |
| 3) その他 | 8 |
| 4) 入館料 | 8 |
| II 活動状況一覧 | |
| 1 入館者数 | 9 |
| 2 団体入館実績 | 10 |
| 3 事業・催し | 12 |
| 4 グループ活動 | 18 |
| 5 講座・クラブ等 | 20 |
| 6 視察・見学実績 | 23 |
| 7 事業経理収支計算書 | 24 |
| III 各部の活動(1) | |
| 1 体育事業部 | 25 |
| 2 プレイ事業部 | 40 |
| 3 造形事業部 | 56 |
| 4 音楽事業部 | 72 |
| 5 A V事業部 | 91 |
| 6 保育研究開発部 | 112 |
| 7 小児保健部 | 120 |
| 8 劇場事業本部 | 131 |
| 9 全館行事 | 144 |
| IV 各部の活動(2) | |
| 1 広報部 | 149 |
| 2 研修教養部 | 152 |
| 3 国際交流部 | 167 |
| 4 営業部 | 171 |
| V グループ活動 | |
| グループ活動 | 177 |
| VI その他の活動 | |
| 1 こどもの城全国連絡協議会 | 185 |
| 2 チャリティー事業 | 187 |
| 3 こどもの城友の会 | 189 |
| ・第32回全国保育研究大会 | 190 |
| ・入館者アンケート調査結果 | 192 |
| ・主要年表 | 8 |
| ・内部施設の概要 | 2 |
| ・建築概要 | 3 |
| ・(財)日本児童手当協会役員 | 3 |

I 事業の概要

I 事業の概要

1 事業と運営

「子どもの城」は、厚生省が1979年（昭和54年）の国際児童年を記念して計画、建設したものである。国が東京都から譲り受けた、渋谷区神宮前5-53-1の約1万平方メートルの敷地に、昭和56年11月、着工された。以来、4年の歳月と323億円（土地取得費を含む）の国費をかけ、地上13階、地下4階の、ミラーガラスに包まれた美しい建物が完成、60年11月1日に開館した。厚生省の委託を受けて、財団法人日本児童手当協会がその運営に当たっている。この経営委託契約の締結は同年9月14日に行われた。

「子どもの城」は、新生児から高校生までの全児童を対象にした、幅広い福祉と文化活動を行うとともに、当然、ハンディキャップを持つ児童も一緒に活動する施設である。親たちをはじめ、児童の福祉・文化の関係者、研究者、教育者などのためにも開かれている。次代を担う子どもたちを心身ともに健やかに育成し、その資質の向上を図ることを目的に、常に先駆的で実験的なプログラムを企画、実践し、全国に普及させていくこと、そして、国際的視野に立ち、世界各国の子どもたちと、福祉・文化活動を通じて交流を図ることを運営の基本としている。

(1) 基本構想

「子どもの城」の創設に当たって、昭和54年、厚生省により、「子どもの城企画委員会」（葛西嘉賀資座長）が設けられ、委嘱を受けた有識者メンバーによって基本構想の検討が重ねられた。委員会は同年6月、この結果を「基本構想に関する意見」として取りまとめ、児童家庭局長に提出した。

意見書は「近年、わが国の社会の都市化、工業化に伴い、児童の健康や安全が損なわれており、また、核家族化、家庭規模の縮小に伴う児童の人間関係の変化によって、さまざまな問題が生じている。一方で、高齢化が急速に進んでおり、この中で、豊かな活力ある社会を維持していくために、未来を担う児童の健全育成の必要性が高まっている。このときにあたり、わが国の児童をとりまく諸問題に適切に対処し、明るい21世紀を展望する総合施設を建設することは、時宜に適したものである。（要約）」と述べ、「子どもの城」の性格、機能、運営に関して積極的な提言がなされ、基本方針が打ち出された。

以来、厚生省と財団法人日本児童手当協会は、この「基本構想に関する意見」を踏まえ、協力しながら、「子どもの城」の建設に当たり、運営に取り組んできた。

(2) 運営の基本的な考え方

(1) 出生率の低下傾向による人口構造の急速な老齢化、青少年の非行問題、体位に追い

I 事業の概要

つかない子どもの体力、その心をむしばむ要因の増加など、我が国の児童を取り巻く環境は、活力のある未来社会を期待するうえで、憂慮すべき現況にある。こうした、重要な課題に対応していくためには、単に国や自治体の行政に頼るだけではなく、家庭、学校、地域社会が相互に協力しつつ児童の健全育成に取り組んでいかねばならない。

「こどもの城」はこのような多くの問題を克服し、明るい21世紀の日本を築いていくための児童福祉、文化の拠点でありたいと願っている。

(2) 「こどもの城」は、全国の児童を対象とした施設であり、東京及びその周辺の児童だけの施設ではない。すなわち、「こどもの城」における事業について広く全国各地に情報を伝え、更には各地の児童センターなどの児童福祉、文化活動を全国に紹介するといった全国的な広がりを持つ「こどもの城」として運営している。

(3) 「こどもの城」は、いわゆる幼児のみを対象とするのではなく、幅広く新生児から高校生までの全児童を対象とした福祉・文化活動に関する施設であるとともに、ハンディキャップを持つ児童も当然参加し、ともに活動する施設である。

更に、「こどもの城」は、親をはじめ、児童の福祉・文化の関係者、研究者、教育者など、子どもの幸せを願うすべての人が利用できるよう開かれている。

(4) 「こどもの城」は、既製のプログラムだけではなく、先駆的、実験的なプログラムを企画し、実践する。また、国内だけでなく、国際的な視野に立って世界各国の児童福祉・文化活動との交流を図る。

(5) 以上のように「こどもの城」は、①芸術、文化、科学、スポーツなどの活動による児童の健全育成、②児童福祉関係者の研修、現任訓練、③児童福祉に関する研究、開発、④国際交流、といった各種の機能を併せ持つ総合施設である。これらの機能を相互に関連させながら、総合的な運営を図ることが、肝要であると考えている。

内部施設の概要

| こども活動エリア | 保育場 | サッピスエリア | 内部施設の概要 | |
|----------|-----|---------|-----------------------------------|------------|
| | | | 施設名 | 階層 |
| | | | ○アトリウム（こども活動エリア入り口）・ギャラリー | [1・1～2階] |
| | | | ○プール・体育室・健康開発室 | [地下2階] |
| | | | ○プレイホール・コンピュータプレイルーム (パソコンルーム) | [3階] |
| | | | ○造形スタジオ | [10階] |
| | | | ○音楽スタジオA、B・音楽ロビー・シンセサイザー室 | [3階] |
| | | | ○AVライブラリー | [4階] |
| | | | ○屋上・ともだち広場・ふしげが丘・まんまる広場 | [4階] |
| | | | ○小児保健・診療・相談室 | [3～5階] |
| | | | ○保育研究開発・保育室I、II | [5階] |
| | | | ○青山劇場 | [5階] |
| | | | ○青山円形劇場 | [1・2階] |
| | | | ○駐車場 | [3階] |
| | | | ○フリーホール（休憩室・催し場） | [地下2・3・4階] |
| | | | ○カフェテラス「アンファン・ひさご寿司」 | [地下1階] |
| | | | ○コーヒーラウンジ「アミティーエ」 | [1階] |
| | | | ○売店 | [2階] |
| | | | ○ホテル | [1・3階] |
| | | | ○レストラン「ラブニール」 | [6・7階] |
| | | | ○研修室 | [8階] |
| | | | | [8・9階] |

1 事業と運営

| こどもの城の建築概要 | |
|------------|--|
| 所 在 地 | 東京都渋谷区神宮前 5 丁目 53 番地 1 号 |
| 地域・地区 | 住居地域・商業地域（特定街区指定）・ 防災地域・準防火地域・一部第 2 種文教 地域 |
| 建 築 主 | 厚生省 |
| 敷 地 面 積 | 9,923.39m ² |
| 建 築 面 積 | 6,001.5m ² |
| 延 床 面 積 | 41,665.3m ² |
| 建 べ い 率 | 60.48% |
| 容 積 率 | 346.04% |
| 階 数 | 地下 4 階・地上 13 階・塔屋 1 階 |
| 最 高 高 さ | GL + 57.6m |
| 基 礎 下 端 | GL - 28.5m |
| 主 要 構 造 | 高層部 鉄骨造 低層部 鉄骨鉄筋コンクリート造 地下 鉄筋コンクリート造 |
| 設 計・管 理 | 株式会社 山下設計 |
| 着 工 | 昭和 56 年 11 月 |
| 完 成 | 昭和 60 年 9 月 |

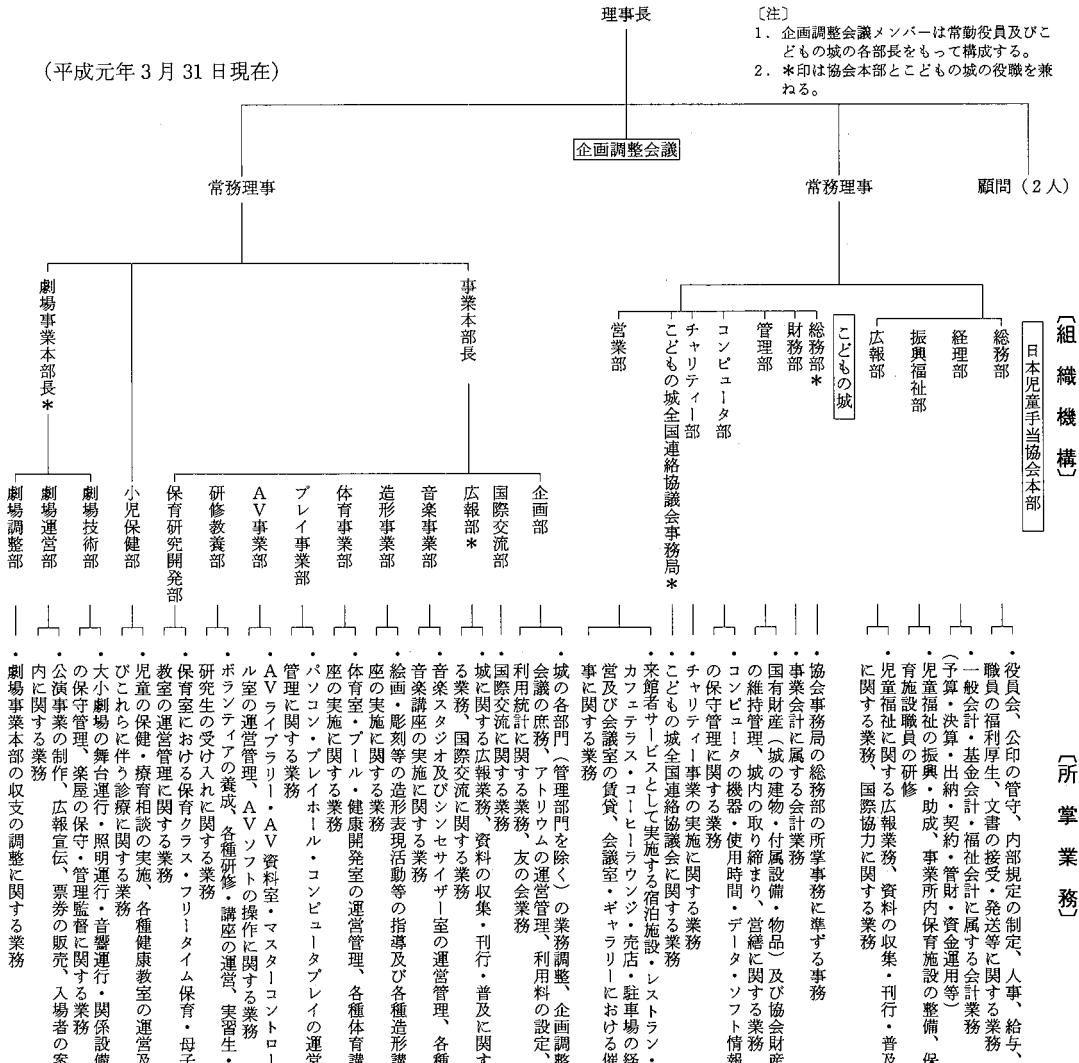
(財) 日本児童手当協会役員 (平成元年 3 月 31 日現在)

| 役 職 | 氏 名 | | | | |
|---------|-----------|--|--|--|------------------|
| 会 長 | 竹 内 嘉 巳 | | | | |
| 理 事 長 | 小 島 弘 伸 | | | | |
| 常 務 理 事 | 堀 利 雄 | | | | |
| 常 務 理 事 | 大 野 出 穂 | | | | |
| 理 事 | 石 野 清 治 | | | | 資生堂副社長 |
| 理 事 | 井 川 博 | | | | 日本商工会議所専務理事 |
| 理 事 | 花 村 仁 八 郎 | | | | 経済団体連合会相談役 |
| 理 事 | 松 崎 芳 伸 | | | | 日本経営者団体連盟特別顧問 |
| 理 事 | 河 合 三 良 | | | | 経済同友会副代表幹事 |
| 理 事 | 翁 久 次 郎 | | | | (財)厚生団理事長 |
| 理 事 | 金 平 輝 子 | | | | 東京都社会福祉振興財団理事長 |
| 理 事 | 平 田 寛 一 郎 | | | | 早稲田大学政治経済学部教授 |
| 理 事 | 平 山 宗 宏 | | | | 日本総合愛育研究所所長 |
| 監 事 | 武 内 稔 和 | | | | (財)厚生団常務理事 |
| 監 事 | 杉 本 敏 雄 | | | | (社福) こどもの国協会常勤理事 |

I 事業の概要

(3) (財)日本児童手当協会組織機構図

(平成元年3月31日現在)



| 職員数 部 | 職員数 | | | 職員数 部 | 職員数 | | | 職員数 部 | 職員数 | | |
|----------|-----|----|---|----------|-----|----|----|----------|-----|----|-----|
| | 一般 | 嘱託 | 計 | | 一般 | 嘱託 | 計 | | 一般 | 嘱託 | 計 |
| 総務部 | 8 | | 8 | 營業部 | 19 | 1 | 20 | 研修教養部 | 4 | | 4 |
| 経理部 | 2 | | 2 | 企画部 | 10 | | 10 | 保育研究開発部 | 10 | | 10 |
| 振興福祉部 | 3 | | 3 | 国際交流部 | 1 | | 1 | 小児保健部 | 9 | | 9 |
| 広報部 | 3 | 1 | 4 | 音楽事業部 | 6 | 1 | 7 | 劇場技術部 | 7 | | 7 |
| 財務部 | 5 | | 5 | 造形事業部 | 5 | | 5 | 劇場運営部 | 9 | | 9 |
| 管理部 | 3 | | 3 | 体育事業部 | 6 | 1 | 7 | 劇場調整部 | 2 | | 2 |
| コンピュータ部 | 5 | | 5 | A V事業部 | 8 | | 8 | 合計 | 135 | 4 | 139 |

(4) 63年度の活動

「子どもの城」は昭和63年11月1日、開館3周年を迎えた。63年度は発足以来、積み重ねてきた基礎と実績の上に立って、事業内容をいっそう充実、発展させ、業務を効率化して運営の安定を図ることを重点目標とした。

そのため、事業関係各部は連携、協力して斬新なプログラムの開発と実施に積極的に取り組み、「子どもの城」の最大の特徴である総合機能の発揮に努めた。

前年度の62年度は、開館直後から続いていた一種のブーム現象が冷めて、児童活動エリアの一般入館者数は減少したが、63年度はこれを、もとの上昇カープに近づけることができた。各種の活動が従来より組織的、効率的になり、広報面なども充実したことが、入館者数の回復につながったと考えられる。

また、この3年間に蓄積された各種の活動資料・実績などによる対外的な協力・普及活動が活発化した年度でもあった。

63年度は、このように「子どもの城」の運営が基礎づくりの段階を経て安定軌道に乗り始めた時期といえる。その半面、開館以来の活動の中から現ってきた問題点や課題も少なくない。この年報における各報告は、それらの実態も含めてありのままを述べている。

これまで歩んできた道の率直な見直しから、更に新しい前進を目指したい。

1) 入館者数（9ページの表参照）

無料の6歳未満児を含めた総入館者数は1,100,995人。前年度より46,700人ほど増え、初めて110万人台に達した。内訳は一般来館454,286人、劇場（青山・青山円形両劇場）440,816人、保育、小児保健、講座、研修室利用など、その他の入館が205,893人。

一般のうち有料入館のおとな、子ども、団体は計281,024人で、前年度より約17,800人、6.8%の増となった。

月別の前年度比では8月と3月の増加が際立っている。これは夏休みと春休みの特別期間の増え方が著しかったことを示している。

2) 一般来館者のための活動（12～17ページにプログラム一覧表）

(1) 平常期間

「子ども活動エリア」と総称している体育、プレイ、造形、音楽、AV（オーディオ・ビジュアル）の各事業部とも、日曜・祝日には多くの来館者に楽しく参加・体験してもらえるようにプログラムの内容や数を工夫し、全館あげて活気のみなぎる受け入れができるようにした。来館者が比較的少ない平日においても、毎日、手づくりのプログラムをキメ細かく実施することによって来館者との触れ合いを深めるように心がけた。

季節行事などは各部がプログラムを関連させ、館内の活動に楽しい流れを作り出すよう努めた。

また来館者の増加とソフトの充実によって、コンピュータ・プレイやAVライブラリーの利用者はいずれも大幅に増えた。屋上遊園の設備、遊具も徐々に整い、特に夏休み前に国費

I 事業の概要

によって設置されたボールのプール「プレイポート」がたいへんな人気を集めた。

11月と12月には延べ13日間、来館者を対象にアンケート（回収数708）を行い、平常期間運営の参考資料とした（アンケート結果は192ページ）。この中で「子どもの城にまた来たいと思うか」の問い合わせに対して90.8%の人が「思う」と答えた。

保育研究開発部は、事業の柱である幼児グループ、保育クラブ、母子教室のうち、特にフリータイム保育を行う保育クラブの運営改善を試み、前年度より大幅に受け入れ数を伸ばした。

小児保健部も、その特徴がしだいに周知されるようになって診療相談件数は着実に増えてきた。加えて他の部門と協力して実施している肥満児の健康教室、ダウン症児のリズム教室、マタニティースイミングなどの活動が軌道に乗った。

(2) 特別期間

学校の季節休み（春休み、夏休み、冬休み）の期間及び児童福祉週間を特別期間とし、各部が協力しての大型の催しを含む各種の行事を集中的に実施した。各特別期間のプログラムに強調ポイントを決め、これを早目に広報に乗せるという組織的な動きの面でも63年度は従来より前進があった。

62年の夏休みから始めた、子どもの城とNHK展示プラザ、東京電力の電力館、たばこと塩の博物館の4館共催による「渋谷スタンプラリー」は63年度も引き続き特別期間を中心実施し、城のPRと来館者誘致に力を発揮した。

このほか夏休みには青山劇場で公演されたミュージカル「12ヶ月のニーナ」、西友ミュージカル「赤い靴」の入場券と城の入館券をリンクさせ、劇場活動と子ども活動エリアとの連携を図った。

3) グループ活動（18ページ参照）

一般来館のない平日の午前中に、保育所、幼稚園、小学校などを単位とした児童およびハンドディキャップを持つ児童を10人以上のグループで受け入れ、「子どもの城」の特色を生かしたプログラムによって新しい形の園外・校外活動をしてもらうのがグループ活動。

63年度は83グループ、2,134人を迎えた。前年度よりグループ数は5つ増えている。

4) 講座・クラブ活動（20ページ参照）

講座は43種・98コースを開設した。受講者数は計2,303人で、定員に対する年間平均の充足率は89%。前年度より受講者数は約130人増え、年間充足率も前年度を2.7%上回った。

このほか夏や春の特別期間に体育、音楽など5つの部門で短期集中講座を実施し、430人の参加があった。

5) 劇場事業（131ページに公演名一覧）

自主および提携公演として青山劇場で計10公演、青山円形劇場で計20公演を開催した。

この中では青山劇場での「ビッグ・リバー」（63年2月～5月）が外部との提携制作による初の大型ミュージカルとして成功したこと、また「ローザンヌ国際バレエコンクール」（元年1月）が世界の若い舞踊手のための国際的な催しとして注目されたことが特筆される。

1 事業と運営

青山円形劇場での自主・提携公演の多くは低料金で、特別期間などには子ども、家族向けのものを選んで上演した。

また両劇場の貸与は青山劇場が22件、青山円形劇場が内部使用の7件を含む67件。貸し館の申し込みは多く、貸し館公演も質のいい演目選択ができた。

6) 各種の普及・協力活動

「子どもの城」の活動の趣旨・内容を広く知ってもらい、関係団体との交流を進めるために、開館以来の活動実績や記録などを資料とする下記のような各種の事業を行った。

児童厚生員等実技指導講習会（5月、10月）、肥満児指導者講習会（8月）、一日保育セミナー（8月）、小児保健シンポジウム「子どもの言葉を考える」（11月）、全国保育研究大会における「子どもの城」各部職員・講師による実践講座（11月）、全国教育養成栄養士協議会研修会での体育事業部職員による運動実技指導（3月）

このほか、本年報は「子どもの城」の運営並びに趣旨の普及・推進のために大切な下記の活動について報告している。

①広報 ②国際交流 ③子どもの城友の会 ④子どもの城全国連絡協議会 ⑤ボランティアの養成、実習生・研修生の受け入れ ⑥チャリティー事業 ⑦利用者サービス事業。

(5) 活動時間・入館料（子ども活動エリア）

基本的には前年度と変わりはない。

1) 平常期間

平 日 開館（午後1時～午後5時30分）

土曜日
日曜日 } 開館（午前10時～午後5時30分）
祝 日

月曜日 休館（祝日または振り替え休日に当たるときは開館＝午前10時～午後5時30分＝翌日の火曜日が休館）。

（注）1 夏時間 4月下旬～9月中旬<63年度の場合、4. 29（金）㊎～9. 15（木）㊎>

閉館時間を30分繰り下げ（午後5時30分→午後6時）。開館時間は変わらず。

2 入館券の発売 閉館時間の30分前まで（通常は午後5時まで、夏時間中は午後5時30分まで）。

2) 学校の季節休み

曜日にかかわりなく土・日曜日・祝日なみの午前10時～午後5時30分（夏は午前10時～午後6時）。

年末年始は休館

12.29（木）～1. 2（月）休館。1. 3（火）は正午開館。

休館日の特例

夏休みの休館日は隔週月曜日（7.25, 8.8, 8.22）。

I 事業の概要

春休み・冬休みの月曜日は開館。

3) その他

5月2日（月） ゴールデンウイーク中のため開館。5月6日（金）はその振り替え休館。

11月14日（月） 「埼玉県民の日」のため開館（午前10時から）。11月15日（火）はその振り替え休館。

アトリウムにおける講座、クラブ、友の会の申し込み受け付け＝平日・土・日曜・祝日とも午前10時～午後5時（夏時間中は午後5時30分に。休館日を除く）。

4) 入館料

(1) 文化体育事業部門（こども活動エリア）を利用する一般来館者を対象とした入館料

一般 18歳未満 300円（保護者に同伴される6歳未満児は無料）、18歳以上 400円。

団体 20人以上の団体は一般入館料の2割引き。

なお、講座の受講者及びクラブの会員について設けられている入館の特例（受講証又はクラブ員証を提示することにより入館できる）は、従来どおり。

(2) 団体見学料（一般団体・子どもの城の要員により案内）1人当たり200円。

(3) 62年5月5日（子どもの日）及び同年11月1日（子どもの城開館記念日）は18歳未満児の入館料は無料。

（注）入館料は、消費税制施行のため、平成元年4月1日以降、18歳未満310円、おとな410円（いずれも消費税を含む）に改定（同伴の6歳未満児無料は従来どおり）。

主 要 年 表

| | | | |
|-------------|---|------------|--|
| 3. 20～5. 8 | 第2回渋谷春のスタンプラリー開催 | 11. 1 | 開館3周年記念（18歳未満入館無料） (財)日本児童手当協会職員永年勤続者表彰 |
| 3. 26～4. 5 | 春休み特別期間 | " | ねむの木賞・高木賞の贈呈式に常陸宮・同妃両殿下ご来館 |
| 4. 1 | 国際銀行頭取夫人来館 | 11. 24 | 「第7回肢体不自由児・者の美術展」に常陸宮殿下ご来館 |
| 4. 29～5. 5 | 児童福祉週間特別期間（子どもの日は18歳未満入館無料） | 12. 6 | 冬休み特別期間 |
| 5. 4 | 東ドイツテレビ取材 | 1. 24～29 | 第17回ローザンヌ国際バレエコンクール開催 |
| 5. 17 | 子どもの城自衛消防隊の消防訓練 | 2. 23 | メキシコ大統領夫人来館 |
| 5. 20 | 小島弘仲副理事長が理事長に、竹内嘉巳理事長が会長に就任。石野清治会長が会長を退任。 | 3. 13 | 子どもの城全国連絡協議会平成元年総会開催 |
| 7. 21～8. 31 | 夏休み特別期間 | 3. 19～5. 7 | 第4回渋谷春のスタンプラリー開催 |
| " | 第3回渋谷夏のスタンプラリー開催 | 3. 26～4. 5 | 春休み特別期間 |
| 8. 2 | 入館者300万人を突破 | | |
| 10. 27 | ハンガリー国営テレビ取材 | | |

II 活動状況一覧

| | |
|-------------|----|
| 1 入館者数 | 9 |
| 2 団体入館実績 | 10 |
| 3 事業・催し | 12 |
| 4 グループ活動 | 18 |
| 5 講座・クラブ等 | 20 |
| 6 視察・見学実績 | 23 |
| 7 事業経理収支計算書 | 24 |

1 入館者数

II 活動状況一覧

1 入館者数

| | 一般来館者 | | 劇場 | | | その他 | 計 | |
|-----|-----------------|------------------------------|---------------------------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------------------------|
| | 有料 | 総数 | 青山劇場 | 青山円形劇場 | 小計 | | | |
| 4月 | 大人 こども 団体 | 12,166人 9,344 1,463 | (人) 24,395 推計 (36,561) | (人) 31,376 | (人) 7,318 | (人) 38,694 | (人) 17,642 | (人) 80,731 推計 (92,897) |
| | 小計 | 22,973 | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 5月 | 大人 こども 団体 | 15,247 9,241 686 | 28,329 推計 (43,576) | 24,575 | 8,180 | 32,755 | 17,549 | 78,633 推計 (93,880) |
| | 小計 | 25,174 | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 6月 | 大人 こども 団体 | 9,899 5,908 1,122 | 17,999 推計 (27,898) | 32,995 | 6,459 | 39,454 | 20,628 | 78,081 推計 (87,980) |
| | 小計 | 16,929 | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 7月 | 大人 こども 団体 | 13,645 10,545 2,201 | 27,809 推計 (41,454) | 42,507 | 6,925 | 49,432 | 20,054 | 97,295 推計 (110,940) |
| | 小計 | 26,391 | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 8月 | 大人 こども 団体 | 29,852 24,682 5,820 | 63,877 推計 (93,729) | 30,778 | 8,402 | 39,180 | 12,971 | 116,028 推計 (145,880) |
| | 小計 | 60,354 | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 9月 | 大人 こども 団体 | 11,621 6,456 702 | 19,950 推計 (31,571) | 27,091 | 7,477 | 34,568 | 18,735 | 73,253 推計 (84,874) |
| | 小計 | 18,779 | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 10月 | 大人 こども 団体 | 9,027 5,600 592 | 16,227 推計 (25,254) | 27,337 | 7,696 | 35,033 | 18,325 | 69,585 推計 (78,612) |
| | 小計 | 15,219 | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 11月 | 大人 こども 団体 | 9,871 5,896 1,044 | 18,418 推計 (28,289) | 28,925 | 5,603 | 34,528 | 20,776 | 73,722 推計 (83,593) |
| | 小計 | 16,811 | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 12月 | 大人 こども 団体 | 5,752 3,375 506 | 10,417 推計 (16,169) | 20,276 | 5,441 | 25,717 | 13,793 | 49,927 推計 (55,679) |
| | 小計 | 9,633 | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 1月 | 大人 こども 団体 | 12,465 7,342 967 | 22,345 推計 (34,810) | 32,173 | 5,889 | 38,062 | 12,945 | 73,352 推計 (85,817) |
| | 小計 | 20,774 | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 2月 | 大人 こども 団体 | 9,969 5,383 1,421 | 18,220 推計 (28,189) | 34,153 | 5,881 | 40,034 | 16,970 | 75,224 推計 (85,193) |
| | 小計 | 16,773 | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 3月 | 大人 こども 団体 | 13,825 11,467 7,651 | 35,450 推計 (49,275) | 26,820 | 6,539 | 33,359 | 15,485 | 84,294 推計 (98,119) |
| | 小計 | 32,943 | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 計 | 大人 こども 団体 | 153,339 105,239 24,175 | 303,436 推計 (456,775) | 359,006 | 81,810 | 440,816 | 205,873 | 950,125 推計 (1,103,464) |
| | 小計 | 282,753 | | | | | | |

II 活動状況一覧

2 団体入館実績

| 区分 | 件数 | 月別内訳 | | | | | | | | | | | | 地域別内訳 | |
|----------------------|-----|------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-------|-----|
| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 東京都 | その他 |
| こども会 | 62 | 1 | 3 | 4 | 15 | 7 | 3 | 1 | 4 | 3 | 1 | 3 | 17 | 19 | 43 |
| ガールスカウト ボーイスカウト | 11 | | | 2 | | | 2 | 1 | 1 | | 1 | 2 | 2 | 4 | 7 |
| 幼稚園・保育園 | 24 | 2 | | 2 | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | 3 | 12 | 16 | 8 |
| 幼稚園・保育園に 関係するグループ | 4 | | | | 1 | 1 | | 1 | | | | | 1 | 3 | 1 |
| 学校 | 32 | 3 | 5 | 3 | 2 | | 3 | 2 | 3 | 1 | 2 | 6 | 2 | 17 | 15 |
| 学校に 関係するグループ | 30 | 1 | 2 | 1 | 6 | 3 | 2 | 3 | 1 | 3 | | 1 | 7 | 23 | 7 |
| 学童グループ | 66 | 2 | 4 | 6 | 10 | 12 | 3 | 2 | 3 | 2 | 3 | 2 | 17 | 37 | 29 |
| 旅行会社による団体 | 6 | 2 | | 1 | | 2 | | | | | | 1 | | 2 | 4 |
| 家族グループ | 19 | | | 1 | 6 | 2 | 2 | 2 | | 1 | | 2 | 3 | 8 | 11 |
| その他 | 45 | 6 | 3 | 5 | 4 | 7 | 3 | 2 | 4 | | 4 | 3 | 4 | 23 | 22 |
| 合計 | 299 | 17 | 17 | 25 | 46 | 34 | 19 | 14 | 17 | 10 | 12 | 23 | 65 | 152 | 147 |

(注) この表は団体入館券(2割引)による入館の件数及び人数の実績である。

2 団体入館実績

| 人 数 别 内 訳 | | | | | | | | 人 数 | | 備 考 |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|--------------------|-------------|--------------------|-------|
| 20 人 | 30 人 | 40 人 | 50 人 | 60 人 | 80 人 | 100 人 | 150 人 以 上 | 延 べ 数 | 1 件 当 た り | |
| 18 | 15 | 11 | 7 | 2 | 4 | 4 | 1 | 3,078 | 49.6 | |
| 9 | 1 | 1 | | | | | | 305 | 27.7 | |
| 7 | 5 | 5 | | 1 | 2 | 2 | 2 | 1,438 | 59.9 | PTA 等 |
| 2 | | 2 | | | | | | 145 | 36.3 | |
| 13 | 4 | 4 | 4 | 1 | 4 | 2 | | 1,506 | 47 | |
| 11 | 8 | 5 | 2 | 2 | | 2 | | 1,253 | 41.8 | PTA 等 |
| 27 | 22 | 10 | 3 | 4 | | | | 2,198 | 33.3 | |
| 1 | | 4 | | | | 1 | | 331 | 55.2 | |
| 13 | 3 | 2 | | | 1 | | | 562 | 29.6 | |
| 21 | 11 | 6 | 1 | 5 | 1 | | | 1,657 | 36.8 | 地域有志等 |
| 122 | 69 | 50 | 17 | 15 | 12 | 11 | 3 | 12,473 | 41.7 | |

II 活動状況一覧

3 事業・催し

| | 体 育 | プ レ イ | 造 形 | 音 楽 |
|----------------------------|---------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------|--------------------------------------|
| 平 常 期 間 | プール一般利用 毎日 | パソコン体験教室 こども・親子コース 木・日曜日 | 光と造形 ステップ1～4 4～7月 | 世界の音楽 (展示・演奏と参加) 毎日 |
| | | パソコン一般利用 毎日 | オープNSTUDIO ステップ1～3 9～12月 | わいわいスタジオ (音楽ショー生中継など) 毎週 日曜・祝日 |
| | 健康体力測定 毎日 | プラモデル模型工作教室 毎週 日曜日 | 木と造形 ステップ1～2 1～3月 | |
| | バスケットボール 第1日曜日とその前日 の土曜日 | おはなし紙芝居の集い 毎週 火曜日 | | |
| | バトミントン 第2日曜日とその前日 の土曜日 | チャレンジゲーム・ギネス大会 毎週 水曜日 | | |
| | 卓球 第3日曜日とその前日 の土曜日 | おはなし人形広場 I・II 毎週 木・土曜日 | | |
| | ユニホック・ゲーム 第4日曜日とその前日 の土曜日 | みんなで遊ぼうゲーム 大会 毎週 金曜日 | | |
| | ミニサッカー 第5日曜日とその前日 土曜日 | サタデー・プレイ タイム 毎週 土曜日 | | |
| 春 の 特 別 期 間 | | マックロ一人形劇広場 毎月1回 土曜日 | | |
| | 家族でスポーツ バドミントン 4.2～4 | 春休み人形劇 フェスティバル 4.1～5 | 素材との出会い展 「木と造形」 3.18～4.19 | ぼくらのサウンド'88 音楽合同コンサート 4.1～3 |
| | みんなで楽しむ レクリエーション 3.26～28 | おもしろチャレンジゲーム (研修教養部共同) 3.26～30 | 公開制作展示 ～4.10 | 風の音楽 (各種の音遊び) 3.26～4.5 |

3 事業・催し

| A V | 企画・国際・研修教養 | 小児保健 | 保育研究開発 |
|--------------------------------------|-------------------------------|---|------------------------------|
| AV ライブラー 一般利用 毎日 | 児童厚生員等実技指導 講習会 5・10月 | 診療・相談 (総合健康) (育児生活・発達) (神経・心理・精神) (言語・耳鼻科) (ダウント症・アレルギー 喘息) | 保育クラブ 毎週 火～土曜日 |
| おもしろビデオ館 毎週 金曜日 | ボランティア講習会 第12期 6.4～7.7 | 肥満児指導者講習会 8.23 | 幼児グループ 毎週 火～金曜日 |
| ぱたぱたアニメを つくろう 毎週 土曜日 | ボランティア講習会 第13期 11.5～12.9 | | 一般来館児対応 親子活動プログラム 毎月1回 |
| ディズニービデオ 試写会 毎週 日曜日 | ボランティア講習会 第14期 2.4～3.10 | | |
| マックTV こどもの城情報局 毎週 日曜日 | 婦人ボランティア講習会 第4期 10.19～28 | | |
| しねまでいく 1～3月 毎月1回、日曜・祝日 | (全館) こどものデパート 4.24 | | |
| | 第4回 ふれあい セミナー 4.14～21 | | |
| | おもちゃ図書館 毎週 水曜日 | | |
| | 救急法講習会 7.12～14 | | |
| インフォビジョン特集 (AV ライブラー) 3.26～4.5 | ジュニア・スキー・キャ ンプ 3.31～4.4 | おんぶにだっこ・乳母車 (展示会) 4.1～6 | 親子で遊ぼう 4.1～4 |
| しねまでいく (8ミリ・16ミリ映画) 3.30～4.2 | あそびのパスポート 3.26～4.5 | 子育て相談コーナー 1.26～30 3.26～30 | |

II 活動状況一覧

| | 体 育 | プ レ イ | 造 形 | 音 楽 |
|---------|--------------------------------|--|------------------------------|--------------------------------------|
| 春の特別期間 | 母と子のふれあい広場 4.1 | 春休み人形劇 フェスティバル 3.26~30 | | ザグッバイコンサート 4.5~19 |
| | 春休み集中水泳講習会 3.26~30 | | | |
| 児童福祉週間 | 母と子のふれあい広場 4.30 | みんなでつくろう デカデカ鯉 4.29~5.5 | 光と造形 ステップ1 4・5月 | スタジオ 55 5.3~5 |
| | スポーツ遊びの記録会 5.3~5 | こどもの日人形劇 フェスティバル 5.1~5 | 「ひかるこいのぼりと かざぐるま」 | アドベンチャーゲーム 4.29~5.5 |
| | こどもの城ユニホック 4.29~5.1 | | | |
| 夏の特別期間 | 新体操へのいざない 7.21~24 | インドア・キャンプ I・II・III・IV 7.21・22・26・27 8.25・26・29・30 | 造形発見展 「光と造形」 7.19~8.31 | 世界の音楽（ブラジル） 夏休みスペシャル 7.21~8.31 |
| | トランポリン大会 7.30・31 8.15・16 | 屋上ちびっこプール 7.20~8.31 | 光の造形展 8.4~31 | 夏休み特別プログラム 7.21~8.31 |
| | 親と子のふれあい広場 8.11・25 | 屋上プレイポート オープントセレモニー 7.20 | | こどもの城 おまつり劇場 8.21 |
| 特 别 期 間 | 親と子の体育 8.23・24・26 | プールゲーム大会 7.20 プールじまいゲーム大会 8.30・31 | | おもしろ楽器展 8.9~18 |
| | ぼくの大きな夏体験 8.27~30 | 世界人形劇 フェスティバル '88 8.9~11 | | |
| | 生活に体育を健康づくりと体力測定 7.21~8.31 | ウォーター・アドベンチャー (企画部) 7.21~31 | | |
| | | | | |

3 事業・催し

| A V | 企画・国際・研修教養 | 小児保健 | 保育研究開発 |
|---|-----------------------------------|---|----------------------------|
| ぱたぱたアニメをつくろう 4.1~3 | | | |
| ディズニービデオ試写会 3.26~4.5 | | | |
| のりもの大百科 (AVライブラリー) 4.29~5.5 | あそびチャレンジゲーム大会 4.29~5.5 | 子育て相談コーナー 4.29・5.3・5 | 親子で遊ぼう 5.3~5 |
| ディズニービデオ試写会 4.29~5.5 | アートスケープ展 4.29~5.5 | | |
| | チルドレンズ フェスティバル 4.28~5.1 | | |
| マックTV 7.21~8.31 | おはなしキャラバン 7.21~24 | 子育て相談コーナー 7.23・24・30・31 8.6・7・27・28 | 親子遊び 7.24・31 8.14・28 |
| オリジナルソフト特集 (AVライブラリー) 7.21~8.18 | 第5回 ジュニア・アウト・ドア・スクール 8.1~4 | こども一日ドック 7.26~28 | おやつの実演 8.7・21 |
| 自由研究に役立つかな (AVライブラリー) 8.19~31 | あそびガヤカヤ研究所 ミステリーハウス 8.27~28 | 夏休み健康教室 (肥満児クラス) 8.25~27 | 1日保育セミナー 8.23 |
| アニメフェスタ 8.20・21 | あそびガヤガヤ研究所 夏期合宿 8.26~28 | | |
| わいわいスタジオ 「チャレンジ・ザ・イン フォビジョン」 7.23・24 | くもの巣城たんけん 7.20~8.7 | | |
| わいわいスタジオ おもしろビデオ館 7.30・31 | ウォーター アドベンチャー 7.21~8.31 | | |
| ディズニービデオ試写会 7.23・24 8.12・21・27・28 | こどもの城の夏まつり 8.20・21 | | |

II 活動状況一覧

| | 体 育 | プ レ イ | 造 形 | 音 楽 |
|---------------|--|---|-------------------------------|------------------------------------|
| 春 期 間 | | | | |
| 冬 の 特 別 期 間 | 簡易スポーツ大会 12.26~28 | クリスマス人形劇 フェスティバル 12.24~28 | オープNSTジオ 「かお」 12.13~1.8 | クリスマス 特別プログラム 12.24・25 |
| 期 間 | ジュニア・スキー・キャンプ 12.27~31 | 年忘れサヨナラゲーム 大会 2.24~28 | | 世界の音楽(日本) 和楽器にさわろう 12.26~28 |
| | ジャンボカルタとり大会, 羽根つき・バドミントン 大会 1.3~6 | | | 正月 特別プログラム 1.3~5 |
| その他の季節行事・特別行事 | 新体操合宿 7.21~24 | 母の日お母さんへのて づくりプレゼント 5.7・8 | 開館記念 造形スタジオ展 11.1~30 | 開館記念 特別プログラム11.1・3 |
| | スポーツキャンプ 7.27~30 | 父の日 ここは父さん ラリー 6.19 | 遊びと造形発想法 5.15~29 | わいわいスタジオ 体育の日スペシャル 10.9・10 |
| | 水泳合宿 8.3~6 | みんなでお願い七夕 不思議体験 カラクリ・ボックス 7.1~10 | レミーシャーリップの 絵本教室 6.29 | アジア音楽祭 11.30 |
| | わんぱくキャンプ 8.8~10 | NCC カップ熱気球・ ヨットレース 10.9・10 | | 〈夏季研修合宿〉 こどもの城ユースバンド 7.21~24 |
| | 体育の日展示 オリンピック選手に挑戦 10.8~10 | 開館記念 人形劇フェスティバル 11.1~3 | | 三味線講座 7.21~24 |
| | | NCC カップ 第1回パンパー大会 11.19~26 | | ガムラン講座グループ 7.26~28 |
| | | 神出鬼没まめまき大会 1.28・29 | | パーカッションアンサンブル 8.23~25 |
| | | 春一番 ひなまつりの集い 2.25・26 | | こどもの城児童合唱団 8.10~13 |

3 事業・催し

| A V | 企画・国際・研修教養 | 小児保健 | 保育研究開発 |
|---|----------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------|
| | サウンド・オブ・シザース展示会 8.11~31 | | |
| 昔のヒーロー特集 (AVライブラリー) 12.24~1.7 | 親子で楽しむ昔遊び 1.3~8 | こども一日ドック 1.5・6 | 親子で遊ぼう 12.24・25 1.3 |
| ぱたぱたアニメをつくろう 12.26・27 | ソウルオリンピック写真展 12.20~1.20 | ママのいきいき子育て相談 12.24~28 | |
| しねましていく 1.7・8 | | | |
| ディズニービデオ試写会 12.25 1.4~8 | 七夕まつり 博士クイズ大会 7.2・3 | こどもの城マタニティコンサート 5.7・8 9.10・11 | 保育フェスティバル 7.16・3.10 |
| INCチャイルドビジョン試写会 1.3 | ひなまつりクイズ大会 2.25・26 | 開館記念 小児保健シンポジウム 11.26 | 全国保育研究大会 (各部協力) 11.29~12.1 |
| こどもの城アニメフェスティバル(AVライブラリー及びフリーホール) 4.10・3.4・5 | 紙相撲初場所 1.4~6 | | |
| スポーツソフト特集 (AVライブラリー) 10.1~31 | カボチャのチャチャチャ 10.29・30 | | |
| 開館記念青山劇場公演 ダイジェスト(AVライブラリー) 11.1~3 | 全国保育研究大会 特別プログラム実践講座 11.29 | | |
| | カムカムクリスマス 12.16~18 | | |
| | | | |
| | | | |

II 活動状況一覧

4 グループ活動

| 区 分 | 件 数 | 月別内訳 | | | | | | | | | | | | 地域別内訳 | | |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|--------|--------|--------|----------|-------------|----|
| | | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 東京都 区 | 他 府 県 | |
| | | | | | | | | | | | | | | 市 | | |
| 保育園 | 18 | | | | 1 | | | 4 | 1 | 2 | 2 | 8 | 13 | 2 | 3 | |
| 幼稚園 | 26 | 4 | | 2 | | | 1 | | | 5 | 9 | 5 | 20 | 1 | 5 | |
| 児童館 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 通園施設 | 1 | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | |
| 幼兒教室 | 2 | | | | | | | 1 | | 1 | | | | 1 | | 1 |
| 研究所 | 1 | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | |
| 自主保育グループ | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | | |
| 自主訓練グループ | 2 | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | 2 | |
| 小学校 | 3 | | | | 1 | | | | 1 | | 1 | | | 1 | | 2 |
| 中学校 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 高等学校 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 養護学校 | 8 | | | | | | 1 | 2 | 2 | | 1 | 2 | | 3 | | 5 |
| 精薄児施設 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 肢体不自由児施設 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小学校特殊学級 | 18 | | 2 | | | | 3 | 1 | 2 | | | 6 | 4 | 13 | 2 | 3 |
| 中学校特殊学級 | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | |
| 子供会 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 養護施設 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他 | 2 | | | 2 | | | | | | | | | | | | 2 |
| 計 | 83 | 4 | 2 | 4 | 2 | | 5 | 5 | 10 | 2 | 11 | 20 | 18 | 55 | 5 | 23 |

4 グループ活動

| 参加児童数別内訳(人) | | | | | | | | | | | 参加児童数 | | 活動部門 | | | | | |
|--------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|------------|-----------|-------|-----------|----|------|----|----|--------|----|--|
| 10 未 満 | 10 19 | 20 29 | 30 39 | 40 49 | 50 59 | 60 79 | 80 99 | 100 149 | 150 以上 | 延べ数 | 1件 当たり | 体育 | プレイ | 音楽 | 造形 | A V | 劇場 | |
| | | | | | | | | | | 438 | 24.3 | 5 | 4 | 7 | 2 | 1 | | |
| 3 | 8 | 9 | 3 | 1 | 1 | 1 | | | | 638 | 24.5 | 4 | 3 | 14 | 6 | 5 | | |
| | | | 1 | | | | | | | 37 | 37.0 | | 1 | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | 25 | 12.5 | | | 1 | | 3 | | |
| | | 1 | | | | | | | | 25 | 25.0 | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | 16 | 16.0 | | | 1 | | | | |
| | | | | | | | | | | 17 | 8.5 | | 2 | | | 1 | | |
| | | | | | | | | | | 402 | 134.0 | | 3 | 3 | 2 | 5 | | |
| 2 | 3 | 1 | | 2 | | | | | | 169 | 21.1 | | 2 | 6 | | 1 | 2 | |
| 8 | 7 | 3 | | | | | | | | 213 | 11.8 | 3 | 2 | 5 | 3 | 7 | | |
| | | 1 | | | | | | | | 26 | 26.0 | 1 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 128 | 64.0 | | 2 | 1 | | 1 | | |
| 15 | 27 | 24 | 6 | 3 | 3 | 3 | | | 1 | 2,134 | 25.7 | 14 | 19 | 38 | 13 | 24 | 2 | |

II 活動状況一覧

5 講座・クラブ等

(1) 講 座

| 部門 | プロ グ ラ ム | 対 象 | コス | 定 員 | 受講者数 |
|----------|------------------|------------|--------|-------|--------|
| 体 育 | 幼児・母親水泳 | 幼児・母親 | 1年 2 | 60(人) | ✓66(人) |
| | 幼児水泳 | 幼 児 | 同上 6 | 270 | ✓358 |
| | 幼児体育 | 同 上 | 同上 3 | 120 | ✓110 |
| | 小学生水泳 | 小 学 生 | 同上 5 | 280 | ✓310 |
| | シニア・スイミング | 小・中学生 | 同上 3 | 90 | ✓47 |
| | シニア・スイミング・フレッシュ | 同 上 | 同上 1 | 30 | ✓33 |
| | 小学生体育 | 小 学 生 | 同上 1 | 30 | ✓16 |
| | 小学生総合体育 | 同 上 | 同上 1 | 40 | ✓28 |
| | ジュニア新体操 | 同 上 | 同上 1 | 40 | ✓32 |
| | シニア新体操 | 小・中学生 | 同上 1 | 35 | ✓31 |
| | 手足の不自由なこどものスイミング | 同 上 | 同上 1 | 30 | ✓7 |
| | レディース・スイミング | 婦 人 | 同上 3 | 180 | ✓198 |
| | レディース・リズム&ストレッチ | 同 上 | 同上 2 | 80 | ✓36 |
| | レディース・エアロビクス | 同 上 | 同上 4 | 160 | ✓31 |
| | 幼児・母親体育 | 幼児・母親 | 3か月 3 | 90 | ✓90 |
| | 幼児リズム運動 | 幼 児 | 同上 3 | 90 | ✓95 |
| | 母と子のすくすくランド | 乳幼児・母親 | 同上 3 | 65 | ✓58 |
| 小計 (17種) | | | 43 | 1,690 | 1,546 |
| プレイ | 小学生パソコン教室I | 小 学 生 | 2か月 2 | 40 | ✓23 |
| | 小学生パソコン教室II | 同 上 | 同上 2 | 40 | ✓25 |
| | 小計 (2種) | | 4 | 80 | 48 |
| 造 形 | こどもクリエイティブクラブ | 幼児・小・中・高校生 | 3か月 15 | 150 | ✓30 |
| | 小計 (1種) | | 15 | 150 | 130 |
| 音 楽 | お母さんもいっしょ(リトミック) | 幼児・母親 | 1年 4 | 80 | ✓64 |
| | リズムムービング | 幼児・小学生 | 同上 3 | 55 | ✓44 |
| | パークッション・アンサンブル | 小・中学生 | 同上 1 | 15 | ✓18 |

5 講座・グラフ等

| 部門 | プログラム | 対象 | コース | 定員 | 受講者数 |
|-------------|------------------|------------|-------|-------|--------|
| 音 楽 | 合唱 | 小 学 生 | 1年 1 | 30(人) | ✓25(人) |
| | ガムラン | 小・中学生 | 同上 1 | 15 | ✓ 6 |
| | 三味線Ⅰ | 小・中・高校生 | 同上 1 | 8 | ✓ 9 |
| | 三味線Ⅱ | 同 上 | 同上 1 | 8 | ✓ 6 |
| | おとなのためのガムラン | 高校生以上 | 同上 1 | 10 | ✓ 9 |
| | 混声合唱 | 同 上 | 同上 1 | 15 | ✓ 12 |
| | シンセサイザーⅠ | 中・高校生 | 9月 2 | 16 | ✓ 15 |
| | シンセサイザーⅡ | 小・中・高校生 | 3か月 2 | 16 | ✓ 12 |
| | 小計(11種) | | | 18 | 220 |
| A V | 母と子のビデオ教室 | 幼児・母親 | 3か月 2 | 16 | 10 |
| | 小計(1種) | | | 2 | 10 |
| 研修教養 | 手話講座 | 高校生以上 | 6か月 2 | 60 | ✓ 57 |
| | 点訳入門講座 | 同 上 | 9か月 1 | 30 | ✓ 60 |
| | お話講座 | 一 般 | 3か月 1 | 30 | ✓ 20 |
| | 小計(3種) | | | 4 | 137 |
| 国際交流 | 切り絵教室 | 小 学 生 | 1年 1 | 30 | ✓ 19 |
| | パフォーミング・アーツグループ | 小・中学生 | 3か月 2 | 60 | ✓ 71 |
| | 小計(2種) | | | 3 | 90 |
| 保育研究 開 発 | 幼児グループ | 幼 児 | 1年 1 | 20 | ✓ 17 |
| | 母子教室 | 母親・幼児 | 3か月 3 | 36 | ✓ 37 |
| | 小計(2種) | | | 4 | 54 |
| 小児保健 | 健康スポーツ教室<肥満児> | 小 学 生 | 1年 1 | 30 | ✓ 24 |
| | 母と子のリトミック<ダウン症児> | ダウントン症児・母親 | 同上 1 | 10 | ✓ 10 |
| | 健康教室<ぜんそく児> | 小 学 生 | 3か月 2 | 40 | ✓ 3 |
| | マタニティ・スイミング | 妊娠(16週～) | 通年 1 | 各月 35 | ✓ 31 |
| | 小計(4種) | | | 5 | 115 |
| 合 計 | 43種 | | | 98 | 2,585 |
| | | | | | 2,303 |

II 活動状況一覧

(注) 1. 以上は、個人を対象とした継続的参加の講座である。

43種 98コース

2. 表の中の「定員」及び「受講者数」の整理方法は、次のとおりである。

- (1) 2コース以上ある講座については、各コースの合計数とした。
- (2) 1年コースの講座については、第1期、第2期及び第3期の平均数とした。
- (3) マタニティ・スイミング(小児保健)については、各月の平均数とした。

3. 夏休み期間等においては、短期の集中講座を実施した。

| | | | |
|---------|-------------------|----------|----------|
| (体 育) | こども水泳集中講習会 | (夏) 5コース | (春) 2コース |
| | 体育教室 | (夏) 1コース | |
| (プ レ イ) | 小学生パソコン教室 | (夏) 1コース | (春) 1コース |
| | 中学生パソコン教室 | | (春) 1コース |
| | ロゴ・プログラミング講習会 | (夏) 1コース | |
| (音 楽) | リズム・ムービング&パークッション | (夏) 1コース | |
| | 三味線 | (夏) 1コース | |
| (A V) | 母と子のビデオ教室 | (夏) 2コース | |
| (小児保健) | 健康教室集中講座<肥満児> | (夏) 1コース | |

4. 以上のはか、継続的に開講しているが参加者は月ごとに又は1回ごとに変わるものとして次のプログラムを実施した。

| | |
|-----------|-------------|
| 成人集中水泳講習会 | パソコンこども体験教室 |
| 一日造形教室 | パソコン親子体験教室 |
| 公開講座 | プラモデル模型工作教室 |

(2) クラブ

| 部 門 | プロ グ ラ ム | 会員数 (人) |
|--------|----------------|------------|
| 体 育 | ダイナミック・ヘルス・クラブ | 340 |
| | マックロー・スポーツクラブ | 18 |
| | 小計 | 358 |
| プレイ | パソコンクラブ | 51 |
| 音 楽 | 児童合唱団 | 80 |
| | おはやしグループ | 5 |
| | ユースバンド | 21 |
| | ガムラングループ | 10 |
| | 小計 | 116 |
| A V | ファミリー・ビデオクラブ | 5 |
| 研究教養 | 点訳サークル | 18 |
| 保育研究開発 | 保育クラブ | 562 |
| 計 | 10 種 | 1,110 |

(注) 会員数は、昭和63年度末の数である。

(3) こどもの城友の会

| | |
|---------------------|----------|
| 家族単位で入会 (会員数の推移) | 3,758 家族 |
| 62年度末会員数 | 3,482 家族 |
| 63年度中の増減 | 276 |
| 入会者 | 1,394 |
| 非継続者 | △1,118 |
| 63年度末会員数 | 3,758 |

6 観察・見学実績

6 観察・見学実績

(カッコ内は件数)

| | | 都道府県・市区町村の本庁その他の行政部局、公共的団体 | 児童館、保育所、幼稚園、学校、施設、サークル、これらの中の団体 | 外 国 人 | そ の 他 | 計 | | | | | |
|-------|-------|----------------------------|---------------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|--------|
| 60 年度 | (100) | 1,122 | (100) | 1,578 | (22) | 169 | (18) | 410 | (240) | 3,279 | |
| 61 年度 | (121) | 714 | (192) | 4,085 | (52) | 359 | (31) | 513 | (396) | 5,671 | |
| 62 年度 | (107) | 439 | (123) | 2,437 | (36) | 347 | (20) | 477 | (286) | 3,700 | |
| 63 年度 | 4月 | (3) | 19 | (2) | 6 | (5) | 11 | (2) | 8 | (12) | 44 |
| | 5月 | (6) | 20 | (11) | 131 | (3) | 20 | (2) | 24 | (22) | 195 |
| | 6月 | (8) | 93 | (8) | 49 | (2) | 6 | (8) | 58 | (26) | 206 |
| | 7月 | (10) | 117 | (6) | 113 | (2) | 38 | — | — | (18) | 268 |
| | 8月 | (6) | 86 | (2) | 17 | (1) | 5 | (2) | 4 | (11) | 112 |
| | 9月 | (6) | 32 | (5) | 101 | (1) | 1 | (1) | 4 | (13) | 138 |
| | 10月 | (12) | 73 | (5) | 79 | (8) | 69 | (4) | 38 | (29) | 259 |
| | 11月 | (5) | 17 | (6) | 71 | (5) | 36 | (6) | 44 | (22) | 168 |
| | 12月 | (2) | 6 | (4) | 54 | (1) | 3 | — | — | (7) | 63 |
| | 1月 | (3) | 8 | (4) | 60 | — | — | (1) | 63 | (8) | 131 |
| | 2月 | (10) | 40 | (3) | 23 | (1) | 16 | (1) | 1 | (15) | 80 |
| | 3月 | (20) | 87 | (13) | 66 | (1) | 6 | (5) | 52 | (39) | 211 |
| 計 | | (91) | 598 | (69) | 770 | (30) | 211 | (32) | 296 | (222) | 1,875 |
| 累計 | | (419) | 2,873 | (484) | 8,870 | (140) | 1,086 | (101) | 1,696 | (1,144) | 14,525 |

備考 (1) 「外国人」 韓国、北朝鮮、中国、香港、台湾、タイ、ネパール、マレーシア、シンガポール、フィリピン、インドネシア、フィジー、スリランカ、インド、パキスタン、ビルマ、オーストラリア、ニュージーランド、ヴァヌアツ、ソロモン、キリバス、トゥvalu、西サモア、パプア・ニューギニア、イラン、イラク、クエート、イスラエル、イギリス、フランス、西ドイツ、スイス、イタリア、デンマーク、フィンランド、ソ連、チェコ、ポーランド、カナダ、アメリカ、メキシコ

(2) 「その他」 中央官庁、中央団体、会社等

II 活動状況一覧

7 事業経理収支計算書

事業経理収支実績

(単位:千円)

| 収入の部 | | 備考 |
|-----------------|----------------------------|-------------------------------|
| 款項 | 63年度 63.4.1 平成1.3.31 | |
| 事業収入 | 1,798,352 | |
| 管理運営収入 | 152,183 | 入館料収入、友の会収入他 |
| 文化体育事業収入 | 188,097 | 受講料収入、集団利用収入、一般利用収入、施設使用料金収入他 |
| 保育事業収入 | 27,350 | 保育収入、受講料収入他 |
| 小児保健事業収入 | 14,994 | 診療収入、相談指導収入、受講料収入他 |
| 劇場事業収入 | 740,067 | 公演収入、劇場使用料収入他 |
| 利用者サービス収入 | 675,661 | 宿泊収入、レストラン等収入他 |
| 繰入金収入 | 932,037 | 基金経理より繰入収入等 |
| 収入合計 | 2,730,389 | |
| 支出の部 | | |
| 事業運営費 | 2,704,943 | |
| 役員賃給 | 600,619 | 役員報酬、職員給与他 |
| 諸支出金 | 58,847 | |
| 非常勤嘱託手当 | 26,922 | |
| 業務諸費用 | 865,116 | 諸謝金、旅費交通費、事業庁費、業務委託費他 |
| 公演事業費 | 366,021 | 公演費、公演諸費用 |
| 舞台管理費 | 313,596 | 事業庁費、業務委託費他 |
| 利用者サービス事業費 | 443,635 | 営業費、業務委託費他 |
| 協賛事業費 | 25,741 | 協賛事業費、チャリティ事業費 |
| 子どもの城全国連絡協議会助成金 | 4,447 | |
| 特定預金支出 | | |
| 退職手当引当預金支出 | 25,446 | |
| 支出合計 | 2,730,389 | |

III 各部の活動(1)

| | | |
|---|---------|-----|
| 1 | 体育事業部 | 25 |
| 2 | プレイ事業部 | 40 |
| 3 | 造形事業部 | 56 |
| 4 | 音楽事業部 | 72 |
| 5 | AV 事業部 | 91 |
| 6 | 保育研究開発部 | 112 |
| 7 | 小児保健部 | 120 |
| 8 | 劇場事業本部 | 131 |
| 9 | 全館行事 | 144 |

体育事業部

1 体育

(1) 63年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

| 曜日 場所 時間 | 火 | | 水 | | 木 | | 金 | | 土 | |
|----------------|---------------------------------|----------------------------------|------------------------------|--------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|---|--|--------------------------|------------------------|
| | 体育室 | プール | 体育室 | プール | 体育室 | プール | 体育室 | プール | 体育室 | プール |
| 10:00 | グループ活動 | レディース スイミング A | レディース リズム & ストレッチ A | 幼・母水泳A | グループ活動 | レディース スイミング B | レディース リズム & ストレッチ 母と子の すくすく ラン | (6月まで) J I S | 幼・母水泳 B | レディース スイミング C |
| 11:00 | | マタニティ スイミング | 幼・母体育 | 保育研究 開発部 | | マタニティ スイミング | (6月まで) J I S | (6月まで) 西町インター ナショナル スクール | | |
| 12:00 | ダイナミック クラブ | ダイナミック クラブ | ダイナミック クラブ | ダイナミック クラブ | ダイナミック クラブ | ダイナミック クラブ | ダイナミック クラブ | ダイナミック クラブ | ダイナミック クラブ | ダイナミック クラブ |
| 13:00 | | 幼児水泳 A | | 幼児水泳 B | | 幼児水泳 C | | | | |
| 14:00 | 幼児体育 A | 幼児水泳 D | 幼児体育 B | 小学生 水泳A | 幼児体育 C | 幼児水泳 E | 幼児リズム 運動 | 幼児水泳 F | 一般利用 | 一般利用 |
| 15:00 | 小学生 総合体育 | 小学生 水泳B | ジニア・シニア 新体操 | 小学生 水泳C | 小学生 体育 | 小学生 水泳E 総合 体育 | ジニア・シニア 新体操 | 小学生 水泳D | 健康教室 | 健康教室 |
| 16:00 | コ シニア ス A | コ シニア ス B | コ シニア ス B | コ シニア ス B | マ ッ ク ロ ー ・ ス C | マ ッ ク ロ ー ・ ス C | コ シニア ス C | シニア スイミング ユ ニ ア ス イ ミ ン グ | 手足の不自由 な子どもの スイミング | |
| 17:00 | スポーツ クラブ | マッ ク ロ ー ・ ス A | | | | | | | | |
| 18:00 | エ ア ロ ビ ク ス A | エ ア ロ ビ ク ス B | 集中水泳 | 成人 | エ ア ロ ビ ク ス C | エ ア ロ ビ ク ス D | ダイナミック ・ヘルス・クラ ブ | 集中水泳 | ダイナミック ・ヘルス・クラ ブ | ダイナミック ・ヘルス・クラ ブ |
| 19:00 | ダイナミック ・ヘルス ・クラブ | | ダイナミック ・ヘルス・クラ ブ | | ダイナミック ・ヘルス・クラ ブ | ダイナミック ・ヘルス・クラ ブ | ダイナミック ・ヘルス・クラ ブ | 成人 | ダイナミック ・ヘルス・クラ ブ | ダイナミック ・ヘルス・クラ ブ |
| 20:00 | | | | | | | | | | |
| 21:00 | | | | | | | | | | |

III 各部の活動(1)

2) 特別期間プログラム

| 名 称 | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 要 員 | 備 考 |
|-------------------------------------|---------|------------------------------------|--------------|---------------|---|
| 〈春休み〉 母と子のふれあい広場 | 4/1 | 11:00～ 12:00 13:30～ 14:30 | 体育室 | (人) 外部講師 2 | “おかあさんといっしょ” の前体操のお兄さんといっしょに親子で楽しいひととき、イベント |
| 〈同上〉 楽しいバドミントン | 4/2～4 | 10:00～ 17:30 | 同上 | 職員 | 友達、親子でネットをはさんでのバドミントン、指導にも熱が入ります。 |
| 〈同上〉 元気に卓球 | 4/5 | 10:00～ 17:30 | 同上 | 同上 | いろいろな形をした卓球台で一味違った卓球を元気に。 |
| 〈同上〉 体力・成長の記録会 | 4/1～5 | 11:00～ 17:00 | 健康開発室 | 同上 | 測定の結果から遊び、運動へのアドバイスを積極的に行なった。 |
| 〈同上〉 エンジョイスイミング | 同上 | 10:30～ 17:30 | プール | 職員 プールガード | コースロープに沿って泳ぐことと、みんなで楽しく水遊びができるようアドバイス。 |
| 〈児童福祉週間〉 ユニホック大会 | 4/29 | 10:00～ 17:30 | 体育室 | 職員 | 板橋区の児童館チーム、マックローチームなどでユニホックの大会 |
| 〈同上〉 母と子のふれあい広場 | 4/30 | 11:00～ 12:00 13:30～ 14:30 | 同上 | 外部講師 2 | “あかあさんといっしょ” の前体操のお兄さんといっしょに親子で楽しいひととき、イベント。 |
| 〈同上〉 スポーツ遊びの記録会 | 5/3～5 | 10:00～ 17:30 | 同上 | 職員 | スポーツ遊びの記録会とそれらを含んだスポーツゲーム。 |
| 〈同上〉 エンジョイスイミング | 5/3～5 | 10:30～ 18:00 | プール | 職員 プールガード | 水泳シーズンを控えて、準備。 |
| 〈同上〉 健康度を測ろう | 同上 | 11:00～ 17:00 | 健康開発室 | 職員 | バランスのよい体力を目指して足りないところを適切なアドバイス。 |
| 〈夏休み〉 こども水泳集中講習会 Aコース Bコース | 7/21～26 | 8:30～ 9:30 9:30～ 10:30 | プール | 同上 | 対象：小・中学生 こどもの城水泳カリキュラムに基づき、正しい泳法の習得を目指す。 |
| 〈同上〉 新体操へのいざない | 7/21～24 | 10:00～ 18:00 | 体育室 | 同上 | 新体操の公式マットの上で、みんなで新体操にチャレンジ。 |
| 〈同上〉 スポーツ・キャンプ | 7/27～30 | 3泊4日 | グリーンピア 津南 | 同上 | キラキラと輝く太陽の下、元気に、スポーツを楽しみます。 |

1 体 育

| 名 称 | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 要 員 | 備 考 |
|-------------------------------------|----------------|---------------------------------|-------------|--------------|---|
| 〈夏休み〉 こども水泳集中講習会 Cコース Dコース | 7/27~31 | 8:30~ 9:30 9:30~ 10:30 | プール | (人) 職員 | 対象C:小・中学生, D: 幼児 小・中学生は、こどもの 城のカリキュラムに基づ き正しい泳法の習得を, 幼児は、まず水に慣れ, 水の中で自由に体を動か することを目指す。 |
| 〈同上〉 宇宙時代の体操・トラン ポリン | 7/30・31 | 10:00~ 18:00 | 体育室 | 外部講師 2 | トランポリンの正しい跳 び方の指導、無重力空間 を皆で体験。 |
| 〈同上〉 こども水泳集中講習会 Eコース | 8/2~6 | 9:30~ 10:30 | プール | 職員 | 対象:小中学生 こどもの城水泳カリキュ ラムに基づき正しい泳法 の習得を目指す。 |
| 〈同上〉 水泳合宿 | 8/3~6 | 3泊4日 | ロマンの森 | 同上 | 4日間の集中的な練習に より、いっそうの泳力の 向上と、合宿生活により 友情が芽生える。 |
| 〈同上〉 わんぱくキャンプ | 8/8~10 | 2泊3日 | 山中湖 YMCA | 同上 | 対象:年長児 豊かな緑の中で、キャン プを体験。 |
| 〈同上〉 母と子のふれあい広場 | 8/11・25 | 11:00~ 13:30~ | 体育室 | 外部講師 2 | “おかあさんといっしょ” の前体操のお兄さんといっ しょに、親子で楽しいひ とときを。 |
| 〈同上〉 宇宙時代の体操・トラン ポリン | 8/15・16 | 10:00~ 18:00 | 同上 | 同上 | トランポリンの正しい跳 び方の指導、無重力空間 を体験。 |
| 〈同上〉 がんば!! '88 | 8/23~27 | 9:00~ 10:30 | 同上 | 職員 | 体操が苦手な子どもたち も、マットや、跳び箱・ 鉄棒に挑戦。 |
| 〈同上〉 冒険広場 | 8/23~25 | 11:00~ 18:00 | 同上 | 同上 | 親子で、簡単なアスレチックに挑戦。 |
| 〈同上〉 チャレンジ・レクリエー ション | 8/23 | 13:30~ 18:00 | 同上 | 同上 | さまざまなレクリエーション・ゲームを親子で体験。 |
| 〈同上〉 みんなで踊ろう | 8/24 | 13:30~ | 同上 | 同上 | 楽しいフォークダンスを 踊る。 |
| 〈同上〉 ぼくの大きな夏体験 | 8/27~30 | 11:00~13:30 | 体育室 | 同上 | マット等の体操に挑戦。 |
| 〈同上〉 サマー・エアロビクス | 8/2~9／1 水・金 | 18:30~19:30 | 同上 | 外部講師 | シェイプアップには、エ アロビクスが一番!! |
| 〈同上〉 おもいきり、水しぶき | 7/21~8/31 | 10:30~17:30 | プール | 職員 プールガード | 夏は、みんなでプールで、 水しぶき。 |

III 各部の活動(1)

| 名 称 | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 要 員 | 備 考 |
|-------------------------------------|-------------------|--|-----------------------------|-----------------------|---|
| 〈体育の日〉 オリンピック選手に挑戦 | 10/9・10 | 11:00～ 12:00 15:00～ 16:00 | 健康開発室 | (人) 職員 | 体力測定に並行してオリ ンピック選手の反応時間、 垂直跳び、競歩のスピ ード、エルゴバイクの4種 に挑戦する。 |
| 〈同上〉 プチ・トライアスロン | 10/9 | 13:30～ 15:00 | 健康開発室 プール 子どもの城外 周 | 同上 | トライアスロンの子どもの城版、城外周ランニング、エルゴバイク、水泳 にチャレンジする。 |
| 〈同上〉 世界の記録をみよう | 10/9・10 | 10:00～ 17:00 | 体育室 | 同上 | 世界記録の高さ、長さを 体験できるよう展示開放 |
| 〈同上〉 カヌーを体験 | 10/9 | 15:00～16:00 | プール | 同上 | 普段乗る機会のないカヌー に乗ってみる。 |
| 〈同上〉 ミニ水球 | 10/10 | 14:30～ 15:30 | 同上 | 同上 | ミニ水球のゲームにみんなで参加、体験する。 |
| 〈開館3周年記念〉 スポーツ遊びの記録会 | 11/1～3 | 10:00～ 17:00 | 体育室 | 職員 ボランティア | スポーツ遊びの記録会と それらを含んだゲーム。 |
| 〈冬休み〉 年忘れスポーツ大会 | 12/24～28 | 同上 | 同上 | 職員 | 年末にサッカー、チェックボール、インディアカ をみんなで楽しむ。 |
| 〈同上〉 スキーキャンプ | 12/27～31 | 3泊4日 | グリーンピア 津南 | 職員 外部講師3 ボランティア | 広々とした白銀の世界で、 楽しいスキーの講習を行 う。参加費 44,000円 |
| 〈同上〉 体力測定 | 12/24～28 1／3～6 | 11:00～16:00 | 健康開発室 | 職員 | 年末、年始のこの時期に 体力測定を行い、成長の 記録とする。 |
| 〈冬休み〉 正月羽根つきとバドミントン | 1/3～6 | 3日 13:30～ 17:00 4～6日 11:00～ 17:00 | 体育室 | 同上 | お正月恒例の羽根つきと バドミントン。 |
| 〈同上〉 ジャンボかるた大会 | 1/4～6 | 11:00～ 17:00 | 同上 | 同上 | ジャンボかるたを作り、 体育室を全部使って、行 う。 |
| 第1回水泳記録会 | 3/12 | 10:00～ 12:30 | プール | 職員 外部講師3 | 子どもの城小学生水泳講 座の受講生を対象に11種 目の競技を行う。参加申 し込み 100人 参加費 300円 |
| 〈春休み〉 子ども集中水泳講習会 Aコース Bコース | 3/27～31 | 8:30～ 9:30 9:30～ 10:30 | 同上 | 職員 外部講師 | 子どもの城水泳指導カリ キュラムに添って主に初 心者を指導。 参加費 7,000円 |
| 〈同上〉 ユニホック大会 | 3/25～31 | 10:00～ 17:00 | 体育室 | 職員 | フェンスを使ったボール ゲーム。ユニホックの指 導とゲーム。 |

1 体 育

3) 講座・クラブ

| 名 称 | 対 象 | 人 数 | | 曜 日 間 | 場 所 | 期 間 回 数 | 料 金 | 講 師 等 | 備 考 |
|------------------|--------------|-----------|------------------|------------------------|-----|-----------|---------------|------------|-----|
| | | 定 員 | 受講数 | | | | | | |
| 幼児・母親 水泳A | 1・2歳 児と母親 | (人) 30 | (人) 1学期 36 | 水曜日 10:00～ 11:00 | プール | (回) 14 | (円) 26,000 | 専門職員 | |
| | | | 2 33 | | | 14 | 26,000 | | |
| | | | 3 33 | | | 10 | 18,000 | | |
| | | | | | | | | | |
| 幼児・母親 水泳 B | 同上 | 30 | 1 34 | 土曜日 10:00～ 11:00 | 同上 | 14 | 26,000 | 専門職員 講師 | |
| | | | 2 33 | | | 14 | 26,000 | | |
| | | | 3 29 | | | 10 | 18,000 | | |
| | | | | | | | | | |
| 幼児・水泳 A | 3・4歳 | 40 | 1 39 | 火曜日 13:30～ 14:30 | 同上 | 14 | 20,000 | 同上 | |
| | | | 2 50 | | | 14 | 20,000 | | |
| | | | 3 54 | | | 10 | 14,000 | | |
| | | | | | | | | | |
| 幼児水泳 B | 同上 | 40 | 1 52 | 水曜日 13:30～ 14:30 | 同上 | 14 | 20,000 | 同上 | |
| | | | 2 50 | | | 14 | 20,000 | | |
| | | | 3 52 | | | 10 | 14,000 | | |
| | | | | | | | | | |
| 幼児水泳 C | 同上 | 40 | 1 46 | 木曜日 13:30～ 14:30 | 同上 | 14 | 20,000 | 同上 | |
| | | | 2 53 | | | 14 | 20,000 | | |
| | | | 3 56 | | | 10 | 14,000 | | |
| | | | | | | | | | |
| 幼児水泳 D | 4・5歳 | 50 | 1 68 | 火曜日 14:30～ 15:30 | 同上 | 14 | 20,000 | 同上 | |
| | | | 2 69 | | | 14 | 20,000 | | |
| | | | 3 69 | | | 10 | 14,000 | | |
| | | | | | | | | | |
| 幼児水泳 E | 同上 | 50 | 1 63 | 木曜日 14:30～ 15:30 | 同上 | 14 | 20,000 | 同上 | |
| | | | 2 71 | | | 14 | 20,000 | | |
| | | | 3 71 | | | 10 | 14,000 | | |
| | | | | | | | | | |
| 幼児水泳 F | 同上 | 50 | 1 70 | 金曜日 14:30～ 15:30 | 同上 | 14 | 20,000 | 同上 | |
| | | | 2 69 | | | 14 | 20,000 | | |
| | | | 3 70 | | | 10 | 14,000 | | |
| | | | | | | | | | |

III 各部の活動(1)

| 名 称 | 対 象 | 人 数 | | 曜 時 | 日 間 | 場 所 | 期 間 回 数 | 料 金 | 講 師 等 | 備 考 |
|--------------------|------------|--------------------------------------|-----------------------|------------------------|-----|-----|-----------------------|-----------------------------------|--------------|-----|
| | | 定 員 | 受講数 | | | | | | | |
| 幼児体育 A | 3・4歳 | (人) 1 40 2 35 3 25 | (人) 40 35 25 | 火曜日 14:30~ 15:30 | | 体育室 | (回) 14 14 10 | (円) 18,000 18,000 13,000 | 専門職員 講師 | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 幼児体育 B | 同上 | 1 41 2 39 3 38 | 40 | 水曜日 14:30~ 15:30 | | 同上 | 14 14 10 | 18,000 18,000 13,000 | 専門職員 講師 1 | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 幼児体育 C | 4・5歳 | 1 40 2 39 3 36 | 40 | 木曜日 14:30~ 15:30 | | 同上 | 14 14 10 | 18,000 18,000 13,000 | 専門職員 | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 小学生水泳 A | 1~6年 | 1 69 2 68 3 63 | 60 | 水曜日 14:30~ 15:30 | | プール | 14 14 10 | 20,000 20,000 14,000 | 専門職員 講師 | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 小学生水泳 B | 同上 | 1 66 2 70 3 58 | 60 | 火曜日 15:30~ 16:30 | | 同上 | 14 14 10 | 20,000 20,000 14,000 | 同上 | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 小学生水泳 C | 同上 | 1 78 2 75 3 66 | 60 | 水曜日 15:30~ 16:30 | | 同上 | 14 14 10 | 20,000 20,000 14,000 | 同上 | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 小学生水泳 D | 同上 | 1 70 2 65 3 61 | 60 | 金曜日 15:30~ 16:30 | | 同上 | 14 14 10 | 20,000 20,000 14,000 | 同上 | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 小学生水泳 E | 同上 | 1 41 2 40 3 38 | 40 | 木曜日 15:30~ 16:30 | | 同上 | 14 14 10 | 20,000 20,000 14,000 | 同上 | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| シニア・ スイミング A | 小1~ 中3年 | 1 30 2 26 3 18 | 30 | 火曜日 16:30~ 18:00 | | 同上 | 14 14 10 | 20,000 20,000 14,000 | 専門職員 | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |

1 体 育

| 名 称 | 対 象 | 人 数 | | 曜 日 間 | 場 所 | 期 間 回 数 | 料 金 | 講 師 等 | 備 考 |
|--------------------------|------------------|---------|----------|--------------------------|--------------------------|---------|--------|---------------|-----|
| | | 定 員 | 受 講 數 | | | | | | |
| シニア・ スイミング B | 小1～ 中3年 | (人) | (人) | 水曜日 16:30～ 18:00 | プール | (回) | (円) | 専門職員 | |
| | | 1 30 | 16 | | | 14 | 20,000 | | |
| | | 2 3 | 11 9 | | | 14 | 20,000 | | |
| シニア・ スイミング C | 同上 | 1 30 | 9 | 木曜日 16:30～ 18:00 | 同上 | 14 | 20,000 | 同上 | |
| | | 2 3 | 11 11 | | | 14 | 20,000 | | |
| | | 3 | | | | 10 | 14,000 | | |
| シニア・ スイミング ・フレッシュ | 同上 | 1 30 | 38 | 金曜日 16:30～ 18:00 | 同上 | 14 | 20,000 | 同上 | |
| | | 2 3 | 33 27 | | | 14 | 20,000 | | |
| | | 3 | | | | 10 | 14,000 | | |
| 小学生体育 | 1～6年 | 1 30 | 21 | 木曜日 15:30～ 16:30 | 体育室 | 14 | 16,000 | 同上 | |
| | | 2 3 | 13 13 | | | 14 | 16,000 | | |
| | | 3 | | | | 10 | 11,000 | | |
| 小学生総合 体育 | 1～3年 | 1 40 | 27 | 火・木曜日 15:30～ 16:30 | 火曜日 体育室 木曜日 プール | 14 | 16,000 | 同上 | |
| | | 2 3 | 31 27 | | | 14 | 16,000 | | |
| | | 3 | | | | 10 | 11,000 | | |
| ジュニア 新体操 | 小1～3年 女子 | 1 40 | 32 | 水・金曜日 15:30～ 17:00 | 体育室 | 14 | 25,000 | 専門職員 講師 | |
| | | 2 3 | 31 33 | | | 14 | 25,000 | | |
| | | 3 | | | | 10 | 19,000 | | |
| シニア 新体操 | 小3～ 中3年 女子 | 1 35 | 35 | 水・金曜日 16:30～ 18:00 | 同上 | 14 | 25,000 | 同上 | |
| | | 2 3 | 30 28 | | | 14 | 25,000 | | |
| | | 3 | | | | 10 | 19,000 | | |
| 手足の不自由 な子どもの スイミング | 小1～ 中3年 | 1 30 | 10 | 土曜日 17:00～ 18:00 | プール | 14 | 15,000 | 専門職員 アルバイト | |
| | | 2 3 | 6 5 | | | 14 | 15,000 | | |
| | | 3 | | | | 10 | 10,000 | | |

III 各部の活動(1)

| 名 称 | 対 象 | 人 数 | | 曜 時 | 日 間 | 場 所 | 期 間 回 数 | 料 金 | 講 師 等 | 備 考 |
|-------------------------------|--------------|---------|----------------|------------------------|------------------|-----|----------------|--|------------|-----|
| | | 定 員 | 受講数 | | | | | | | |
| レディース・ スイミング A | 18歳以上 の女性 | (人) | (人) | | | | (回) | (円) | | |
| | | 1 60 | 72 75 73 | 火曜日 10:00～ 11:00 | | プール | 14 14 10 | 1単位 (週1回) 1,2学期 各20,000 3学期 15,000 2単位 (週2回) 1,2学期 各28,000 3学期 20,000 | 専門職員 | |
| レディース・ スイミング B | 同上 | 1 60 | 61 65 72 | 木曜日 10:00～ 11:00 | 同上 | | 14 14 10 | 同上 | 同上 | |
| レディース・ スイミング C | 同上 | 1 60 | 60 59 59 | 土曜日 11:00～ 12:00 | 同上 | | 14 14 10 | 同上 | 専門職員 講師 | |
| レディース ・リズム & ストレッチ A | 同上 | 1 40 | 19 16 17 | 水曜日 10:00～ 11:00 | 体育室 | | 14 14 10 | 同上 | 専門職員 | |
| レディース ・リズム & ストレッチ B | 同上 | 1 40 | 22 19 16 | 金曜日 10:00～ 11:00 | 同上 | | 14 14 10 | 同上 | 講師 | |
| レディース・ エアロビクス A | 18歳以上 の女性 | 1 40 | 12 12 13 | 火曜日 18:00～ 19:00 | B リハ ーサル 室 | | 14 14 10 | 1単位 (週1回) 1,2学期 各20,000 3学期 15,000 2単位 (週2回) 1,2学期 各28,000 3学期 20,000 | 同上 | |
| レディース・ エアロビクス B | 同上 | 1 40 | 7 5 3 | 火曜日 19:00～ 20:00 | 同上 | | 14 14 10 | 同上 | 同上 | |

1 体 育

| 名 称 | 対 象 | 人 数 | | 曜 時 日 間 | 場 所 | 期 間 数 | 料 金 | 講 師 等 | 備 考 |
|----------------|-----------------|-------------------------|--------------------------------|--|---------|--------------------|--|------------|-----|
| | | 定 員 | 受講数 | | | | | | |
| レディース・エアロビクス C | 18歳以上の女性 | (人) 40 | (人) 1 6 2 6 3 8 | 木曜日 18:00～ 19:00 | Bリハーサル室 | (回) 14 14 10 | (円) 1単位 (週1回) 1,2学期各20,000 3学期 15,000 2単位 (週2回) 1,2学期各28,000 3学期 20,000 | 講師 | |
| レディースエアロビクス D | 同上 | 40 | 1 10 2 8 3 2 | 木曜日 19:00～ 20:00 | 同上 | 14 14 10 | 同上 | 同上 | |
| 幼児・母親体育 | 2・3歳児と母親 | 30 | 1 29 2 31 3 30 | 水曜日 11:00～ 12:00 | 体育室 | 10 10 10 | 16,000 16,000 16,000 | 講師 専門職員 | |
| 幼児リズム運動 | 3・4歳 | 30 | 1 30 2 30 3 35 | 金曜日 14:30～ 15:30 | 同上 | 10 10 10 | 12,000 12,000 12,000 | 同上 | |
| 母と子のすくすくランド | おすわりのできる赤ちゃんと母親 | | 20 25 20 | 22 16 20 | Bリハーサル室 | 10 10 10 | 20,000 20,000 20,000 | 専門職員 | |
| マックロー・スポーツ・クラブ | 小3年以上 | 前期100 後期100 後期100 | 25 18 18 | 火・木曜日 16:30～ 18:00 | 体育室 | 28 28 20 | 年20,000 2回分割可 | 同上 | |
| ダイナミック・ヘルス・クラブ | 18歳以上の男女 | | | 火～土曜日 12:00～ 13:30 18:30～ 21:00 日(祭) 18:00～ 20:00 | 体育エリア全域 | フリー | 1期 (4か月) 22,000 1年 60,000 | | |

(2) 体育事業部の活動

一般利用、講座、ダイナミック・ヘルス・クラブ（D・H・C）の各主要活動それぞれに内容、参加人数の充実を図った。特に、講座参加者の増加、あるいはニーズに対応して、新講座を開設、順調に実施することができた。更に、指導者の知識、技術の向上を図るとともに、より効果的な子どもの運動を開発するために、学会等の発表を含め、研究活動を積極的に実施した。

1) 平常期間

講座・クラブが中心となるため、一般利用は土・日・祭日が中心となった。これは利用者にも定着してきたようで、年間を通して有意義な利用がなされた。

(ア) 体育室

- ・第1土・日 バスケット
- ・第2土・日 バドミントン
- ・第3土・日 卓球
- ・第4土・日 ミニ・サッカー
- ・第5土・日 ユニホック

以上のようにプログラムを定め、一般開放をした。球技系は小学生を中心に人気があり、1日2回のゲームも盛り上がった。バドミントン・卓球は家族連れに人気があり、一家でゲームに興じる姿が見られた。このプログラムは更に積極的に入館者にPRし、内容・方法等の改良を加え、利用者の増大を図っていかなければならない。

体育一般利用実績

(カッコ内は62年度)

| | プ　ー　ル (人) | 健康開発室 (人) | D・H・C (人) | ビ　ジ　タ　ー (人) |
|-----|-----------------|---------------|-----------------|----------------|
| 4月 | 2,106 (2,723) | 257 (323) | 1,230 (1,064) | 575 (424) |
| 5月 | 2,794 (3,183) | 237 (200) | 1,166 (1,221) | 621 (623) |
| 6月 | 2,524 (2,843) | 167 (116) | 2,096 (1,349) | 767 (796) |
| 7月 | 3,787 (5,978) | 118 (184) | 1,786 (1,582) | 603 (1,061) |
| 8月 | 8,846 (6,904) | 326 (354) | 1,526 (1,352) | 615 (766) |
| 9月 | 3,089 (2,532) | 120 (148) | 1,569 (1,465) | 367 (647) |
| 10月 | 1,699 (1,427) | 84 (96) | 1,581 (1,327) | 331 (562) |
| 11月 | 1,375 (1,520) | 99 (114) | 1,412 (1,186) | 260 (486) |
| 12月 | 760 (838) | 47 (90) | 1,182 (1,085) | 215 (706) |
| 1月 | 2,118 (2,018) | 145 (88) | 1,271 (1,261) | 262 (488) |
| 2月 | 1,563 (1,558) | 110 (69) | 1,388 (1,127) | 237 (537) |
| 3月 | 2,173 (2,058) | 139 (175) | 1,689 (1,219) | 305 (572) |
| 計 | 32,834 (33,582) | 1,850 (1,957) | 17,896 (15,238) | 5,158 (7,668) |

1 体 育

(イ) プール

火～金 16:30～17:30 土 13:30～16:00

日・祭日 10:30～17:00

講座・クラブとの関係で限られた時間帯になるが、やはり人気は高く、年間32,834人の利用者があった。また、時間帯が周知されるようになり、利用方法も定着してきた。プールのコースも遊び専用・競泳専用と分け、利用者のニーズにこたえた。

(ウ) 健康開発室

土曜日の午後と日・祭日のみ一般利用としたが、利用者は前年度よりやや少なかった。もっと広くPRをしていきたい。

2) 特別期間

(ア) 児童福祉週間

プールの一般開放と体力測定に加え、今年度は次のプログラムを行った。

・ユニホック大会 (4.29, 5.1)

都内の児童館から4チームと、「こどもの城」のマックロースポーツクラブの交流試合を、公式審判員2人を迎えて行った。専用のフェンスを利用して、小学生に適したホッケー型のユニホックを、指導と試合を通して一般に紹介した。また、児童館との交流、職員の知識・技術の習得（講座への還元）という意味で、成果は大きかった。

・母と子のふれあい広場 (4.30)

元NHKの体操のお兄さん瀬戸口清文氏を迎えての人気イベントの1つで、今回もたくさんの参加者があった。幼児と母親が歌・リズムを通して、身体を動かし、コミュニケーションを図るという楽しい内容で、参加者の満足度も高かった。

・スポーツ遊びの記録会 (5.3・4・5)

3年目に入りかなり定着してきたが、参加者がやや少なく、また参加者の満足度という点からも、今後は改善していく余地がある。

(イ) 夏休み

① 体育室

主に次のプログラムを行った。

・新体操への誘い (7.21～24) • ミニバスケット (7.26～29)

・トランポリン (7.30・31, 8.15・16) • 卓球 (8.1～4)

・ユニホック (8.5～10) • 母と子のふれあい広場 (8.11・25)

・ビックリマンショー (8.17) • ミニサッカー (8.12～14)

・母と子体育 (8.23・24・26) • ぼくの大きな夏体験 (8.27～30)

平均して参加者が多かった。特に後半の体操のプログラムには、幼児・小学生が親子で参加し、活発に活動していた。

III 各部の活動(1)

② プール

講座・クラブ・講習会（マタニティスイミング、成人集中講習会等）と平行して的一般開放だったため、変則的な時間帯だった。しかし、期間を通して天候が悪く、屋上ちびっこプールがオープンできなかったこともあり、利用者が多く、連日にぎわった。期間中の利用者総数は10,989人。

③ 健康開発室

初めて利用する人を中心に、8月の中ごろ利用者が多く、各種の測定結果で自分の体力を改めて認識していた。

(ウ) 開館記念日

体育室でのスポーツ遊びの記録会を中心だったが、平日でもあり、利用者は少なかった。

(エ) 冬休み

① 体育室

主に次のプログラムを行った。・バスケットボール（12.24, 1.7・8）・ディズニービデオ試写会（12.25）・簡易スポーツゲーム（12.26～28）・バドミントン、はねつき、ジャンボカルタ大会（1.4～6）

全体的に利用者は少なかったが、お正月のはねつき、カルタ大会は、子どもたちに人気があり、盛り上がった。

② プール・健康開発室

お正月を除いては、利用者が少なかった。より積極的なPRを考えていきたい。

③ オリンピック写真展示（12.22～1.20、ギャラリー）

ソウル五輪開催の年ということで、オリンピックを理解してもらうため、「東京オリンピック」に焦点を当てて展示を行った。朝日新聞社、毎日新聞社、オリンピック記念青少年センターなどの協力を得て、競技場建設などに伴うオリンピック開催までの東京の変容、競技の名場面など、60点余りを展示した。子どもだけでなく、同行の父母にもたいへん好評だった。

(オ) 春休み

① 体育室

主に次のプログラムを行った。・バウンズサッカー（3.25・26）・ユニホック（3.2～4.2）・母と子のふれあい広場（4.3）・バドミントン（4.4・5）

② プール・健康開発室

地方からの来館者を含めて初めて利用する人が割が多く、レンタル用品の利用が多かった。

〔体育の日特別プログラム〕

ソウルオリンピックをより身近に感じてもらおうと、10月8～10日の3日間次のプログラムを行った。

① 体育室

主な有名選手の等身大の切り抜き、オリンピック記録（幅跳び、棒高飛び等）のほか、新体操の演技写真など、実際に見て触れて体験できるような展示をした。想像を越えるものが

1 体 育

多かったようで、スポーツへの認識を触発するユニークな催しになった。

② プール

一般開放に加え、カヌーを行った。初めての企画だったが、利用者は子どもを中心に、初めての体験を楽しんでいた。

③ 健康開発室

体育室と同じく、オリンピックを体験してもらおうと、測定機器を使って、全身反応時間や垂直跳びの高さをオリンピック選手と比べ、挑戦する企画をした。ここでも参加者は驚くことが多く、さまざまな形で、刺激・動機付けになったようだった。

④ プチ・トライアスロン

人気が高まっているトライアスロンの内容を、子ども向けに工夫し、「子どもの城」の周囲のランニング(1,300m)、エアロバイク(6分間)、水泳(400m)の順で行った。初めてでもあり、参加した子は8人だったが、苦しい中にも充実感があると好評を得た。

3) 講座・クラブ・講習会・合宿

体育事業部の柱となる、講座・クラブをより充実させるため、63年度は新規事業として、次のものを実施した。

・母と子のすくすくランド

お座りのできる乳児と母親の楽しい触れ合いを目指して開設した。母親が3か月間の講座期間中の子どもの“動き”的成長を認識し、更に産後の運動不足を補う運動を実施した。母親同士の情報交換の場にもなった。

・小学生水泳Eコース

幼児から小学生の水泳講座に継続する子どもが多くなり、新講座の開設が必要になった。また、木曜日には週1回の小学生対象の水泳講座がなかったため、小学生総合体育(週2)の木曜日のプール活動にEコースを併設した。

(ア) 講座

① 幼児と母親・幼児プログラム

母子の触れ合いの場である幼母水泳コースは人気が高く、年間を通してキャンセル待ちが絶えなかった。幼児のコースもほぼ満員に近い状況。幼母・幼児のクラスは、マタニティから小・中学生まで継続的に参加するという流れの中で重要なコースとなるが、ひとつの形はできてきたようだ。

② 小学生のプログラム

幼児からの継続者も含め、水泳各講座はほぼ定員を満たす状況となった。水泳に対する子どもたちの意欲も増し、レベルも高くなってきた。それでも、競技指向に走ることなく、常に楽しさを背景に持った活動であった。

③ 成人のプログラム

レディース講座は、スイミングを中心に参加者も定着し、健康づくりへの活動が行われた。

III 各部の活動(1)

④ 受講者への主な行事

前年に引き続き、講座の質的向上を図って、次のプログラムを行った。

- ・講座参観——各学期末に、父母を招いて直接活動を見てもらった。ふだんは見られない子どもの表情・動きに关心を寄せていた。
- ・泳力判定表——各学期に、泳力を判定して受講者・家族に配布した。受講者の目安、ねらいとなり、効果的だった。
- ・ガイダンスとカウンセリング——3学期に新入学児を対象に、コースの選択方法、運動全般について父母と懇談した。父母からも好評であり、継続して受講してもらうという意味でも、効果的だった。

(イ) クラブ

① マックロースポーツクラブ

シーズン制をとり、前期はバスケット、後期はサッカーを行った。前期は個人技を中心に、後期は幅広い運動能力の向上を目指した。ウォーミングアップには、ラグビーも行った。

② ダイナミック・ヘルス・クラブ (D・H・C)

6月1日からビジター料金を1,500円から2,000円に改訂した。これにより、ビジターは減少したが、その分D・H・Cメンバーが増える傾向が見られ、個人メンバーは年間44人増えて、年度末現在340人となった。ほかに法人登録会員約250人。活動としては、プログラム（ウエイトトレーニング、エアロバイク、ストレッチ等）の充実、トレーニング記録用紙の整備により、フロアトレーニングがメンバー間に定着してきた。また、体育室を利用したシーズンプログラム（バドミントン、ゴルフ、エアロビクス、テニス等）も好評を得た。

(ウ) 講習会

<幼児・母親体育、幼児リズム運動>（4～7月・9～12月・1～3月各10回） 2年目に入り定着し、講座同様人気が高く、定員を上回る参加希望があった。運動だけでなく、育児全体を眺めての指導内容は、母親の希望に十分こたえるものだった。

<春のこども集中水泳>（2コース）、夏のこども集中水泳（5コース） 早朝に行われるこのコースは、受講生のみならず、外部からの参加者も多く、次期の受講生となるケースも多い。泳力の向上と、受講生の拡大を図ることができた。

<がんば'88>（夏期体操教室） 器械体操（跳び箱、マット、鉄棒、トランポリン）のマスターを中心に、いろいろな動きを体験した。運動が苦手な子が多かったが、5日間で動くことの楽しさを知り、動きに対し積極的になった子が多かった。

<成人集中講習会>（月単位） 短期間で泳力の向上を図るために、社会人を中心に入気がある。成人の泳法取得のニーズは全体的に高く、今後はこれにこたえる方法を検討したい。

<指導者講習会> 小児保健・保育研究開発部など他事業部との協力事業として、肥満児指導者講習会（8.23）、全国教育養成栄養士協議会研修会（3.29）、全国保育研究大会（11.30）など各種指導者講習会での指導を行った。

(エ) 合宿

1 体 育

① 新体操合宿（7.21～24, こどもの城）

受講生を対象に、集中的に技術の向上を図った。夏休み期間で体育室の使用が制限されるので、今後は練習方法を更に検討したい。

② スポーツキャンプ（7.27～30, 新潟・グリーンピア津南）

球技系（サッカー、ユニホック、ドッジボール、野球など）の運動を中心に、体力・技術の向上を主目的に、84人の参加で行った。運動のほかに、野外炊事、ナイトハイク、花火なども行った。大自然の中での体験は、子どもたちにとって、印象深いものだったようだ。

③ 水泳合宿（8月3～6日、千葉・ロマンの森）

水泳の泳法習得・泳力向上を主目的として、顔を水につけられる程度から4泳法ができる程度までの30人の参加で行った。運動のほか、ハイキング、フィールドアスレチック、迷路等、施設や自然を活用したプログラムを行い、多彩なメニューの合宿となった。

④ わんぱくスポーツキャンプ（プレ：7.20・21, こどもの城 本キャンプ：8.8～10, 山梨・YMCA 山中湖センター）

充実してきた幼児講座の一環として、新しく企画した。5歳児40人を対象に、さまざまな運動を体験した。幼児の場合は外泊を含む生活自体が貴重な体験で、まさに心身ともに大きな刺激となったようだ。こうした幼児の特徴を踏まえ、プログラムの改善を図らなければならない。なお、外泊を伴う集団生活が幼児に与える影響の大きさを考慮し、「こどもの城」において1泊2日のプレキャンプを行い、本キャンプに臨んだ。プレキャンプはふだんから慣れている「こどもの城」で実施したので、子どもたちの緊張感も余りなく、スムーズに宿泊を体験することができた。また、指導者との信頼関係や子ども同士のつながりもでき、本キャンプの成果につながった。

4) グループ活動

今年も3学期の利用が多かったが、昨年と比べると1・2学期の利用も少しづつ増えてきた。内容的にも、今までの幼児・小学生のグループに加えて障害を持つ子どもたちの利用も受け入れられるようになるなど、プログラムが増え変化が出てきた。また、未体験のスポーツを行いたいという希望が多いので、今後はその面の充実を図りたい。

5) 研究活動

小児保健部との協力事業の、「健康教室」について運動面から研究を行い、AV事業部の協力により、10月28・29日、新潟で行われた小児保健学会で、次の演題で発表をした。

＜肥満児のユニホックにおける動きの特徴＞ ——こどもの城 健康スポーツ教室の場合——

- ・第1報：移動軌跡とスピードの変化に視点をあてて
- ・第2報：移動距離と滞留時間に視点をあてて

(いずれも羽崎泰男、秋元宏之、下村 一)

2 プレイ事業部

III 各部の活動(1)

(1) 63年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

| 曜日 区分 時間 | 火 | | 水 | | 木 | | 金 | | 土 | | 日 | |
|----------------|---------------------------------|-------------|---------------------------------|-------------|---------------------------------|-------------|---------------------------------|-------------|------------------|-------------|------------------|----------------------------|
| | プレイ ホール ほか | パソコ ンルーム | プレイ ホール ほか | パソコ ンルーム | プレイ ホール ほか | パソコ ンルーム | プレイ ホール ほか | パソコ ンルーム | プレイ ホール ほか | パソコ ンルーム | プレイ ホール ほか | パソコ ンルーム |
| 10:00 | (グループ活動 パソコン体験教室 クリエーション) | | (グループ活動 パソコン体験教室 クリエーション) | | (グループ活動 パソコン体験教室 クリエーション) | | (グループ活動 パソコン体験教室 クリエーション) | | | | | |
| 11:00 | | | | | | | | | | | 一般 | 一般利用 |
| 12:00 | | | | | | | | | | | | 利 用 |
| 13:00 | 一般利用 プレイホール・ピュータ・プレイ・屋上遊園 | | 一般利用 | | 一般利用 | | 一般利用 | | | | | プラモデル模型工作教室 |
| 14:00 | | 一般利用 | | 一般利用 | | 一般利用 | | | | | | おはなし人形広場 II |
| 15:00 | おはなし紙しば いの集い | 一般利用 | 一般利用 | 一般利用 | 一般利用 | 一般利用 | みんなであそぼ うゲーム大会 | 一般利用 | 一般利用 | 一般利用 | | マッククローリー人形劇場 サタデープレイタイム |
| 16:00 | | 利 用 | 利 用 | 利 用 | 利 用 | 利 用 | | | | | | パソコソン体験教室 |
| 17:00 | | 利 用 | 利 用 | 利 用 | 利 用 | 利 用 | | | | | | |
| 18:00 | | | | | | | | | | | | |

2 プレイ

2) 平常期間プログラム

| 名 称 | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 料 金 | 要 員 | 備 考 |
|---------------|--------------|-------------|------------------|-----------------------|--------------------------------------|---|
| プラモデル模型工作教室 | 毎日曜日 | 13:00~15:00 | プレイホール | (円) 入館料 | (人) プラモデル協会 専門指導員 職員・ボランティア | プラモデル工業協同組合の協力で、手作り工作の基礎を学べる教室。50回開催、延べ1,581人参加。 |
| おはなし紙しばいの集い | 火曜日 | 15:00~16:00 | プレイホール 幼児コーナー | 無料 | 職員1 ボランティア | 子どもの城婦人ボランティアの協力により幼児向けの30分ぐらいいの楽しいお話の時間。 |
| チャレンジギネスゲーム大会 | 水曜日 | 15:30~16:30 | プレイホール | 同上 | 同上 | 年齢に関係なくだれでも練習すれば上手になっていく「わなげ」大会。 |
| おはなし人形広場 I | 木曜日 | 15:00~16:00 | 同上 | 同上 | 職員2~3 | プレイ事業部のスタッフが幼児に向けて人形劇やパネルシアターの楽しい集いを実施。 |
| みんなであそぼうゲーム大会 | 金曜日 | 16:00~17:00 | 同上 | 同上 | 同上 | だれでも参加できることを目標に「bingoゲーム」を中心としたゲーム大会を実施。 |
| おはなし人形広場 II | 土曜日 | 14:00~15:00 | 同上 | 同上 | 職員1 外部人形劇サークル | 外部のサークル、ボランティア集団による人形劇の集い。水曜日の広場より少しゆっくりとした時間をもって実施。 |
| マックロ一人形劇場 | 月1回 第3土曜日 | 15:00~16:00 | 同上 | 同上 | 職員1 ボランティア | 子どもの城の青年ボランティアによる、子どもの城キャラクターの楽しい人形劇の集い。 |
| サタデープレイタイム | 土曜日 | 15:00~17:00 | 同上 | 同上 | 同上 | 自分の手で作って遊ぶ「遊びは自分で作り出すもの」を合言葉にじっくり遊んでみようという小学生のためのクラブ的な活動。 |
| パソコンこども体験教室 | 日曜日 | 16:00~17:30 | パソコンルーム | 1回 100 | 職員1 | 16回実施。延べ133人参加。 |
| パソコン親子体験教室 | 日曜日 | 同上 | 同上 | 親子 1組 1回 200 | 同上 | 7回実施。延べ98人参加。 |

III 各部の活動(1)

3) 特別期間（季節・特別行事）プログラム

| 名 称 | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 料 金 | 要 員 | 備 考 |
|----------------------------|---------------|--|--|-----------|--|--|
| <春休み特別期間> 春休み人形劇フェスティバル | 4.1～5 | ①13：30～ ②15：30～ | 音楽スタジオB | (円) 無料 | 外部人形劇団4 グループ プレイ・音楽職員 | (出演者) ぱねるっぽ パペットマーケット 劇団 夕やけ 木ぐつの木 |
| <児童福祉週間> みんなでつくろうデカ鲤 | 4.29～ 5.5 | 11：00～ 16：00 | プレイホール | 同上 | 職員 ボランティア | |
| <同上> こどもの日人形劇フェスティバル | 5.1～5 | (5.1～5) ①12：30 ②14：30 (5.2～4) ①12：30 ②15：00 | (5.1～5) フリーホール (5.2～4) 青山円形劇場 | 無料 500 | 人形劇団5 グループ 職員・劇場スタッフ | (出演者) 人形劇団トロッコ ひとみ座 つばくろ 人形座 わけちゃん とつばめ Hoppy |
| <夏休み特別期間> プールびらきゲーム大会 | 7.20 | 13：00～ 16：00 | 屋上ちびっこプール | 無料 | 職員2 ボランティア | |
| <同上> インドア・キャンプI | 7.21・22 | 1泊2日 | プレイホール ふしげが丘ほか | | 職員3 ボランティア8 | 39人参加 |
| <同上> インドア・キャンプII | 7.26・27 | " | " | | 職員3 ボランティア7 | 35人参加 |
| <同上> インドア・キャンプIII | 8.25・26 | " | " | | 職員3 ボランティア8 | 37人参加 |
| <同上> インドア・キャンプIV | 8.29・30 | " | " | | 職員3 ボランティア7 | 35人参加 |
| <同上> 屋上ちびっこプール | 7.20～ 8.31 | 10：30～ 17：00 | 屋上広場 | 200 | 職員1 アルバイト3 プールガード2 | 延べ24日稼動 7月183人 8月3,444人 計3,627人参加 |
| <同上> プールじまいゲーム大会 | 8.30・31 | ①11：00～ ②13：00～ ③15：00～ | 屋上ちびっこプール | 無料 | 職員2 ボランティア | |
| <同上> 世界人形劇フェスティバル'88 東京 | 8.9～11 | ①11：00～ ②13：30～ ③15：30～ | フリーホール | | 人形劇団13 グループ ユニマ（国際人形劇連盟スタッフ） 職員2 | (出演者) 人形劇団ブーク 高津人形座 人形劇サークルあお虫 劇団すぎのこ 帝京大ゆりかご座 人形劇団ペベ 韓国人形劇 人形劇団フレデリック 吉祥女子高人形劇団ボボ 人形劇団ボボロ 人形劇団けやき座 第一保短大人形劇団ガチャパル 人形劇団コスマス |

2 プレイ

| 名 称 | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 料 金 | 要 員 | 備 考 |
|------------------------------------|-----------------|---|--------------------------|-----------|--|---|
| <冬休み特別期間> クリスマス人形劇フェスティバル | 12.24~28 | ①13:00~ ②15:00~ | フリーホール | (円) 無料 | (人) 人形劇団5グループ 職員2 | (出演者)たけとんば 木ぐつの木 テアトルジアスターぜ パペットボックス 劇団タやけ |
| <春休み特別期間> 春休み人形劇フェスティバル | 3.26~30 | ①13:00~ ②15:00~ | 同上 | 同上 | 同上 | (出演者)たけとんば 木ぐつの木 テアトルジアスターぜ ぱねるっぽ パペットボックス |
| <母の日> おかあさんへ手作りプレゼント | 5.7・8 | 11:00~ 16:00 | プレイホール | 同上 | 職員 ボランティア | |
| <父の日> ここはとうさんラリー | 6.19 | 同上 | プレイホール ふしげが丘 | 同上 | プレイ・研修教養職員 ボランティア | |
| <七夕まつり> みんなでお願い七夕・不思議体験カラクリボックス | 7.1~10 | (7.1・4~8) 13:30~ 16:00 (7.2・3・9・10) 11:00~ 16:00 | プレイホール | 同上 | プレイ・AV職員 ボランティア | |
| <七夕まつり> 七タクイズ大会 | 7.2・3 | (7.2) 15:00~ (7.3) ①12:00~ ②15:00~ | 同上 | 同上 | プレイ・研修教養職員 ボランティア | |
| <敬老の日> 昔あそびの名人におしゃべりおもてなし | 9.11 | 11:00~ 16:00 | 同上 | 同上 | 渋谷区老友会 プレイ・研修教養職員 | |
| NCC カップ 熱気球、ヨットレース大会 | 10.9・10 | 11:00~ 16:00 | コンピュータプレイルーム | | 職員 | 75組 150人参加 |
| <こどもの城開館記念> 人形劇フェスティバル | 11.1~3 | ①13:00~ ②15:00~ | フリーホール | | 人形劇団3グループ 職員 | (外部協力団体) 人形劇団ちと 人形劇団こばん 人形劇団 Hoppy |
| NCC 杯 第1回パンパード大会 | 11.19・ 11.26 | 15:00~ 17:00 | プレイホール | | 職員 | (11.19) 中学生の部5人 (11.26) 小学生の部13人 |
| <節分会> 神出鬼没おにたいじ、 大まめまき会 | 1.28・29 | (1.28) 13:00~ 16:00 (1.29) 11:00~ 16:00 | 全館 | 無料 | プレイ・音楽・ AV造形職員 企画・研修教養職員 ボランティア | |
| <ひなまつり> 春一番ひなまつり | 2.25 26 | 13:00~ 16:00 11:00~ 16:00 | プレイホール 4階ロビー 音楽ロビー | 同上 | プレイ・音楽・ AV・研修教養職員 ボランティア | |

(2) プレイ事業部の活動

プレイ事業部はオープン以来、発達年齢に即した遊びの場づくりを軸に、事業計画を立ててきた。そして、これらハード面とともに、ソフト面でのプログラム開発を進めてきた。

63年度はその中で具体的に、子どもたちの反復利用の促進・定着ということを中心に展開する平常期間プログラムの開発を目標とした。

大都会の居住児童の少ない地域、そのうえ、入館料のかかる児童厚生施設で子どもたちが定着するのかといった疑問もあるが、あえて、これにチャレンジし、ほぼ当初のねらいどおりの手ごたえを得ることができた。

1) 平常期間

(ア) プレイホール週間活動

プレイホールは「幼児のコーナー」「高学年のコーナー」に大小さまざまな遊具が用意されており、子どもたちが安全に楽しく活動できるように配慮されている。ここでは、幼児や親子でのままごと遊び、広いホールや大型遊具での運動遊び、そして、高学年の子ども同士

プレイホール週間プログラム

| 名 称 | 曜 日 | 時 間 | 対 象 | 内 容 |
|----------------|-------|-------------|---------------------|---|
| プラモデル・模型工作教室 | 日曜日 | 13:00~15:00 | 小学生以上 (教材により異なる) | プラモデル工業協同組合の協力により手作り工作の基礎を学べる教室 |
| おはなし紙しばいの集い | 火曜日 | 15:00~16:00 | 幼 児 | こどもの城婦人ボランティアの協力により幼児向けの楽しいお話を時間 |
| チャレンジ・ギネスゲーム大会 | 水曜日 | 15:30~16:30 | 小 学 生 | 年齢に関係なく、だれでも練習すれば上手になっていく「わなげ」などのゲーム大会 |
| おはなし人形広場 I | 木曜日 | 15:00~16:00 | 幼 児 | プレイ事業部のスタッフによる幼児向けの人形劇やパネルシアターの楽しい集い |
| みんなであそぼう ゲーム大会 | 金曜日 | 16:00~17:00 | 幼 児 小 学 生 | だれでも参加できることを目標に「ビンゴゲーム」などの楽しいゲームの集い |
| おはなし人形広場 II | 土曜日 | 14:00~15:00 | 幼 児 | 外部の人形劇団やサークルによる人形劇の集い。水曜日の広場より少しゆったりとした時間をもって実施 |
| マックロー人形劇場 | 第3土曜日 | 15:00~16:00 | 同 上 | こどもの城青年ボランティアによる、こどもの城のキャラクター、マックローの楽しい人形劇 |
| サタデープレイタイム | 土曜日 | 15:00~17:00 | 小 学 生 | 自分の手で作って遊ぶ「あそびは自分の手で作り出すもの」を合い言葉に、じっくり遊んでみようという小学生のためのクラブ的な活動 |

2 プレイ

はバンパーといった遊具で自由に遊ぶことができる。

63年度も前年度同様、このような活動とともに、子どもたちの遊びの幅を広げたり、仲間同士や知らない子同士が遊ぶことができるような場面づくりのため、毎日異なった形態の週間プログラムを年間を通して実施した。

集団遊びを始める幼児のためのゲームの集い、高学年のための記録に挑戦するゲーム大会、人形劇や紙芝居など、それぞれのプログラムに参加するために、多くの子どもたちが定期的にプレイホールに集まって来るようになってきた。

(1) コンピュータプレイ

63年度利用者は、延べ52,065人で、前年度に比べて約2,800人の増。おとなが増えており、親子での利用が多くなったと考えられる。

ソフト充実の面では、集団プレイ用としてこどもの城オリジナルの第3作「エンドレス・ワールド」が国費によって新しく備えられた。

(1)個人・集団別 63年度コンピュータプレイ利用実績

| | 個 人 プ レ イ | 集 団 プ レ イ | | | | 計(人) | |
|-------|-----------------|---------------|---------------|--|--|-----------------|--|
| | | 組 数 | 人 数 | | | | |
| 4月 | 3,329 (2,861) | 194 (222) | 593 (640) | | | 3,922 (3,501) | |
| 5月 | 3,306 (3,153) | 218 (216) | 691 (592) | | | 3,997 (3,745) | |
| 6月 | 3,040 (2,529) | 220 (190) | 672 (493) | | | 3,712 (3,022) | |
| 7月 | 3,305 (4,236) | 279 (282) | 904 (821) | | | 4,209 (5,057) | |
| 8月 | 7,880 (6,916) | 356 (401) | 1,284 (1,217) | | | 9,164 (8,133) | |
| 9月 | 3,184 (3,078) | 204 (219) | 653 (616) | | | 3,837 (3,694) | |
| 10月 | 3,055 (2,722) | 205 (209) | 660 (555) | | | 3,715 (3,277) | |
| 11月 | 3,033 (3,198) | 202 (204) | 610 (600) | | | 3,643 (3,798) | |
| 12月 | 2,203 (2,551) | 182 (177) | 513 (465) | | | 2,716 (3,016) | |
| 平1.1月 | 3,560 (3,473) | 225 (213) | 733 (599) | | | 4,293 (4,072) | |
| 2月 | 2,864 (2,685) | 199 (180) | 614 (492) | | | 3,478 (3,177) | |
| 3月 | 4,530 (4,121) | 259 (221) | 849 (669) | | | 5,379 (4,790) | |
| 計 | 43,289 (41,523) | 2,743 (2,734) | 8,776 (7,759) | | | 52,065 (49,282) | |

注 カッコ内は62年度実績

(2)年齢層別 (人)

| | 幼 児 | 小 1 | 小 2 | 小 3 | 小 4 | 小 5 | 小 6 | 中 | 高 | 大 人 | 合 計 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|--------|
| 男 | 3,363 | 2,529 | 3,065 | 3,701 | 3,761 | 3,249 | 3,011 | 2,187 | 133 | 2,793 | 27,792 |
| 女 | 1,919 | 1,557 | 2,296 | 3,086 | 3,513 | 2,976 | 2,376 | 1,316 | 199 | 5,035 | 24,273 |
| 合 計 | 5,282 | 4,086 | 5,361 | 6,787 | 7,274 | 6,225 | 5,387 | 3,503 | 332 | 7,828 | 52,065 |

III 各部の活動(1)

個人プレイのソフトでは増える幼児利用に対応して「パズルフラッシュ」（花や風景など9分割から25分割にばらばらになった絵のピースを、もとの形に並べ変えるパズルゲーム）を開発した。

初めての試みとして、10月10日の体育の日にちなんで、「NCCカップ 熱気球・ヨットレース大会」を行った。親子や友人同士のチームで参加し、集団プレイの得点を競うもので、コンピュータプレイルームの活動にアクセントをつける楽しいプログラムとなった。

＜集団プレイソフト「エンドレス・ワールド」＞コンピュータプレイの集団プレイソフトで従来の「ホットバルーン・アドベンチャー」「エキサイティング・ヨットレース」は早さなどを競うゲームのため、それを通して参加者同士がかわりあいをもつといった要素が少なかった。この点を改善するため、4人が1つの大型画面上で協力しながらゲームを進める、「子どもの城」ならではのソフト開発を62年度から進めていたが、3本目の集団プレイソフト「エンドレス・ワールド」が完成し、春休みからお目見えした。これは力を合わせて、宇宙船を組み立てたりクイズに答えながら、捕えられた王女を助けるというアドベンチャーゲーム。ストーリーと映像の楽しさもあって幼児も参加でき、集団プレイの利用率は高くなつた。

のことからも、目標を定めたゲームソフトの追加、更新を今後も常に行う必要のあることを痛感させられた。

(ウ) パソコンルーム

パソコンルームはコンピュータのことを知りたいと思っている子どもや、ゲームだけではなく、少し自分でプログラミングをしてみたいと思っている子どもたちのために、ロゴ言語によるグラフィックス作りが自由にできるようになっている。

パソコンに初めて触れる子どもでもキーボードの操作から簡単な図形や絵をパソコンで作って楽しむことができる。少なくとも30~40分は取り組む必要があること、また図形や角度などの基本的な知識が必要なため、小学生3・4年生以上が中心であるが、特に休日などは友達同士が自分で作ったグラフィックスの作品を比べ合ったり、また親子が相談しながらプログラムを入力している姿が見られる。

平日は人数こそ少ないが、繰り返し通ってくる子どもも多く、より深い内容のプログラミングもできるようになってきている。最近は幼児や親子など今までより年齢的に幅広くなつてきており、今後はそれに合わせたプログラムを開発していく必要がある。

(エ) 屋上遊園

63年度の屋上遊園整備では「まんまる広場」への国費による「プレイポート」新設が特筆される。これにより乗り物広場の混雑は大きく緩和された。乗り物では手こぎの四輪自動車5台、5人乗り円形自転車3台を補充、また組み立てハウスを3台設置し乗り物広場に変化をもたらせた。

＜プレイポートの新設＞屋上遊園にあるアスレチックの遊具の上部、「まんまる広場」に置いた「風船ラッシュ」などの遊具の損傷がひどく、ここにふさわしい設備を長期間検討し

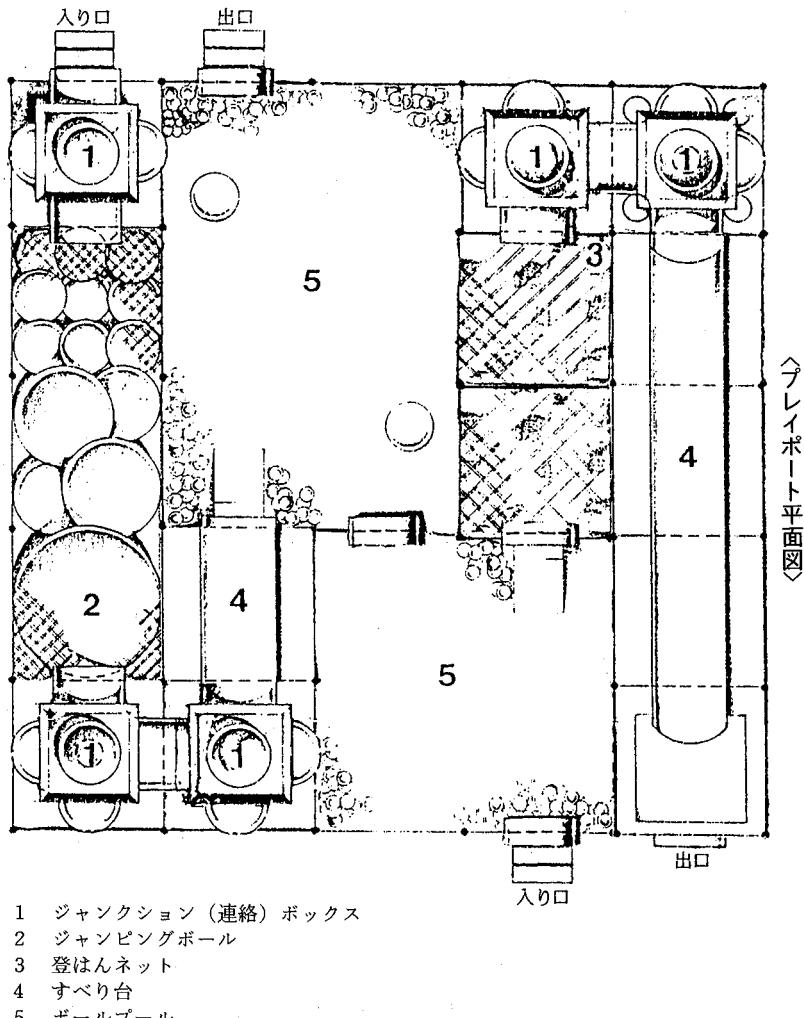
2 プレイ

ていたが、アメリカ・ペンテスデザイン社の「プレイポート」が最適であるとの結論になり、7月に設営工事をし夏休みからオープンした。

この遊具の特徴は全体がネットで覆われていて、その中心を占める場がボールのプールとなっていることである。このボールは摩擦系数が低く、中に子どもが入ると自然にボールが左右に分かれ、あたかも“ボールの水”にひたっているような感じになる。「子どもの城」で予想される利用態様と「まんまる広場」の空間の状況を勘案してユニットの変更を行い、プール部分の面積を広げ、45,000 個のボールを入れた。

プレイポートそれ自体は見ても楽しく構造体のすべてがウレタンのマットで囲まれて安全配慮がよくなされており、幼児から小学校高学年の子どもまでが、同時に 80 人程度思いっきり遊ぶことができる。

この遊具の運用に問題点があるとすればボールの洗浄に手間どること（屋上に設置したので直接、水を流すことができ、いちいちボールを取り出す必要はないが、それでも 1 回の洗



III 各部の活動(1)

淨に2時間程度かかる）。それに雨天の日とその翌日が、水ぬれのため、利用できない点であろう。

運用上注意すべき点としては、子どもたちの持ち物や靴の保管場所などについての配慮が必要になることがあげられる。

しかし、総じて、健常児も障害児もボールのソフトな感触に身をまかせながら遊ぶことのできる運動遊具として大きな人気が集まっている。

2) 季節行事、その他の特別行事

年間の活動の中で、七夕や節分など、子どもたちに伝えていきたい季節の行事、また、母の日や敬老の日といった生活の中で大切にしたい祝・祭日などには、例年どおりそれぞれ新しい工夫をこらしたプログラムを実施した。特に伝統行事などは、現代の生活の中からは、少しづつ消えてきており、大切にしていきたいプログラム活動である。

また、コンピュータプレイルームで催した「NCC カップ熱気球・ヨットレース大会」や、高学年コーナーにおける「NCC杯—パンパー大会」などの行事は普段の流れとも異なった“晴れ”の場となり、プログラムの活性化と活動に、変化や強調点を加える意味で、たいへんよい催しとなった。

本年度に実施した活動の中で、初めて行ったもの、また特徴的なものについて、以下に概要を報告する。

① 父さんラリー（6月19日）

前年は父の日行事も父親にプレゼントを贈るためのカード作りといった製作主体のプログラムであったが、63年度は趣を変え、お父さんと子どもが一緒に参加して楽しむことができるレクリエーションプログラムとした。

このプログラムは親子が1組になり、最初は別々にそして最後には再び一緒になって館内の定められたコースを進むというもの。このコースの途中には、父親には子どもの誕生日や今日着ている服の色など自分の子どもに関するクイズに答えたり、子どもの得意なテレビゲームに挑戦するコーナーがあり、子どもには父親の似顔絵を描かせ、何枚もの中から父親に当ててもらうゲームなど、親と子別々の課題が設定してある。そして最後にはAV事業部の協力で行ったビデオカメラ使用のコミュニケーションゲームなど、親子がお互いの理解を深める趣向のプログラムを開発した。親も子も熱中し、日ごろは幼児コーナーの畳でゴロゴロしているお父さんもありったけ知恵を絞り、汗を流すプログラムになったようだ。

② パンパー大会（11月19日＝中学生の部・26日＝小学生の部）

高学年コーナーに設置したビリヤード状の遊具「パンパー」の人気の高まりもあり、従来から課題になっていた小学校高学年以上の子どもたちの、グループづくりの動機づけの意味で爱好者大会を実施した。

冒険的な試みではあったが、日常来館する子どもたちに個人的に呼びかけたほか、ポスターを掲示し、小学生の部13人、中学生の部5人の参加があった。ささやかな参加者数で

2 プレイ

はあったが、子ども同士の学校、学年を超えた輪がこの大会を契機に広がり始めたようだ。

日常的な輪なげ大会、ビンゴ大会と異なり、人と人とが直接対面してゲームを行うプログラムの効果を知るよい機会となった。

③ 熱気球・ヨットレース大会（10月9・10日）

体育の日にちなんでコンピュータプレイルームに設置されている集団プレイのソフトである熱気球のレースとヨットレースの2種類の競技会を行った。

これはオープン以来、この2つのゲームがよく利用され、熟練した子どもたちも増えたのを考慮したことである。

「テレビゲーム」などはかなりの率で普及し、コンピュータゲームは子どもたちの遊びの1つとして定着した。しかし、この種の遊びについては、疑問視する意見もある。確かに長時間にわたり1人で孤独なテレビゲームを続けたり、ただ敵を撃ち落とすだけといった内容のソフトもある。「子どもの城」のコンピュータプレイでは、コンピュータを使った遊びの望ましい姿を求めて、コンピュータの効果的な利用方法を試行してきた。個人プレイに関しては、絵を描く、音楽を演奏する、などを含めたコンピュータのさまざまな能力を紹介できるソフトを選択した。集団プレイでは多くの子どもたちが一緒に遊び、考えることができる開発のねらいとした。

今回のゲーム大会は、この集団プレイの趣旨を強調し、コンピュータプレイルームにおける子どもたちの交流を進めるためのプログラムであった。実際、大会に出場した我が子や友達をまわりから応援する風景が見られ、一応ねらいどおりの成果が得られた。ただ参加人数は9日のヨットレース大会が72人、10日の熱気球レース大会が78人で、1回に参加できる人数に限りがあり、参加者同士の十分な交流にはいたらなかった。このような点にまだ課題が残されている。

④ 全国保育研究大会の関連行事

＜おりがみラリー＞第32回全国保育研究大会が、「子どもの城」を会場に開催された。その関連行事として、館内ウォークラリー形式の「おりがみラリー」を開催した（11月29日～12月1日）。

1つ1つの場所の図を頼りに全館を回りながら各チェックポイントで課題の折り紙を折る。コースは2つに分かれ、幼児とお母さんにはクリスマスの飾りを折ってもらい、小学生以上には折り紙を使って遊ぶコースを設けた。

この催しは日本折り紙協会、全国保育協議会との共催で、両会の方々の全面的な協力を得て実施された。

＜実践講座＞11月30日の同大会特別プログラムの実践講座でプレイ事業部が担当したコースのテーマは「ボランティア活動を積極的に取り入れていただくために」。日常的なプレイホールの活動に対する援助者の重要性ということで婦人ボランティアに協力をお願いし、影絵と紙芝居の実演、並びに婦人ボランティアの制作した遊具の展示を通じて、城の婦人ボランティアの活動を報告し、ボランティア養成について話した。

3) 特別期間

(ア) 児童福祉週間

<みんなでつくろうデカデカ鯉>児童福祉週間には毎年恒例となっている「みんなでつくろうデカデカ鯉」を実施した。4月29日から5月5日まで、1週間かけて3,000人以上の子どもたちによって1枚1枚ウロコが彩色され、長さ12メートルの大きな鯉をプレイホールに作り上げた。

<人形劇フェスティバル>毎年行っている子どもの日人形劇フェスティバルを、8月の「世界人形劇フェスティバル'88東京」<ユニマ（世界人形劇連盟）主催>のプレフェアとして開催。円形劇場、フリーホールでの上演のほか、子どもたちが上演の合い間にワークショップ形式で自由に参加できる、手づくり人形のコーナーをフリーホールに設けた。

この“見て、作る”は、会場の人形に向いた関心と雰囲気が途切れずに流れる点でも効果があった。

(イ) 夏休み

夏休み期間は、屋上遊園に「屋上ちびっこプール」を設置したが、特に7月中は天候不順でほとんど稼動できない状態であった。

またこの期間には「子どもの城」での宿泊プログラムである「インドア・キャンプ」を4回、そして「世界人形劇フェスティバル'88東京」の会場の1つとして、プログラムを実施した。

① ちびっこプール（7月21日～8月31日）

利用者総数は3,627人。前年より約2,000人少なかった。曇りと雨続きの冷夏で7月中に開くことができたのは31日の1日だけ。8月に入っても悪天候による閉鎖は計5日間あり、例年のような活気は出なかった。

② インドア・キャンプ（①7月21・22日②7月26・27日③8月25・26日④8月29・30日）

今年で3回目を迎えたインドア・キャンプ。天候に恵まれず、7月中の第1回、第2回は、プログラムを変更しなければならなかった。屋外が使えないことによるプログラム内容の変更は、特に小学生の参加者にとって、動的なものから静的なものに変わることになり、かなり不満もあった。しかし、半面、城ならではのプログラム（ウォーター・アドベンチャーゲームへの参加、パソコンの利用等々）の活用という面では、新しいプログラム展開ができ、実際にやってみると、こちらのほうも子どもたちには好評であった。

次年度からの実施を考えると、やはり日ごろ城を利用している子どもたちの参加が多いという面からも、小学生にとって館内キャンプでは限界があるようと思われる。

その意味で、保護者の希望の多い他施設を利用してのキャンプ活動への移行が考えられる。しかし、この3年間で蓄積された館内キャンプのノウハウは、幼児のためのいわゆる「おとなり会」という形で十分に生かすことができるだろう。

2 プレイ

③ 世界人形劇フェスティバル（8月9日～11日）

63年の夏は日本の人形劇界にとってたいへん意義深い時期だった。それは「第15回世界人形劇フェスティバル」がアジアで初めて日本を会場に、開かれたからだ。

メイン会場は名古屋市、第2会場は長野県伊那市と東京になり、その第2会場の一部として青山円形劇場が利用された。毎年プレイホールで実施してきた「夏休み人形劇フェスティバル」をこれとタイアップさせる形で、手作り人形のワークショップやアマチュアの人形劇団による人形劇公演、また、ビデオによる世界の人形劇団のデモンストレーションのほか、飛び入りの人形劇大道パフォーマンスが行われた。特に、西ドイツの高校教諭ラルフ氏によるプレイホールでの大道人形芝居は大きな反響があり、今後の人形劇フェスティバル運営に大いに参考になった。

(ウ) 冬休み

冬休み期間は、毎年恒例の「クリスマス人形劇フェスティバル」を12月24日から5日間催した。また、お正月は3日から8日まで「親子で楽しむ昔あそび」と題して、伝承遊びを中心としたプログラムを行った。プレイホールではけん玉、福笑い、お手玉、カルタ取りといった室内遊び的なもの、屋上ふしげが丘では竹馬や三馬を楽しめるようにした。また音楽スタジオでは子どもたちが自分で作って参加する「ジャンボ紙すもう大会」を行った。いずれも親子で参加できる新しいプログラムになった。

(エ) 春休み

春休みは3月26日から5日間「春休み人形劇フェスティバル」を実施し、延べ1,300人以上の子どもたちが人形劇やパネルシアターを楽しんだ。

春休み人形劇フェスティバル

63. 4. 1～5

4階音楽スタジオB

| | 出 演 団 体 | 演 目 |
|------|-----------|---|
| 4. 1 | ばねるっぽ | カレーライス、私のワンピース、あひるの散歩、他 |
| 4. 2 | わけちゃん | 日天さん月天さん、なかよし |
| 4. 3 | わけちゃんとつばめ | スリリングでこわくてゾーとするようなそれでいてわくわくする ようなおもしろいおはなし、だるまちゃんとてんぐちゃん |
| 4. 4 | 劇団夕やけ | 三枚のおふだ、光とあそぼう、みんなでうたおう |
| 4. 5 | 木ぐつの木 | 牛とカエル、かくれんぼ、他 |

世界人形劇フェスティバル'88 東京 こどもの城プレフェア

63. 5. 2～4

青山円形劇場

| | 出 演 団 体 | 演 目 |
|------|---------|--------------------------|
| 5. 2 | 人形劇トロッコ | ざるしばい・さるかに、なかよし、トランクシアター |
| 5. 3 | ひとみ座 | パンチ君の大冒険、くまちゃんの魚つり |
| 5. 4 | つばくろ人形座 | こぐまの体操、りすさんのしっぽ、ヴギウギ |

III 各部の活動(1)

世界人形劇フェスティバル'88 東京 こどもの城プレフェア

63. 5. 1・5

地下1階フリーホール

| | 出 演 団 体 | 演 目 |
|------|-----------|---|
| 5. 1 | わけちゃんとつばめ | スリリングでこわくてゾーとするようなそれでいてワクワクする ようなおもしろいおはなし, なかよし |
| 5. 5 | HOPPY | 動物コンサート, ブラックガイコツ, おどらにゃそんそん, 他 |

世界人形劇フェスティバル'88 東京 協賛公演

63. 8. 9~11

地下1階フリーホール

| | 出 演 团 体 | 演 目 |
|-------|---|--|
| 8. 9 | 人形劇プーカ 高津人形座 | カン助とカン助とカン助と 山姥と牛方 |
| 8. 10 | 人形劇サークルあお虫 劇団すぎのこ 帝京大ゆりかご座 | 三枚のお札 このつぎなあに きつねのおつかい |
| 8. 11 | 人形劇団ペペ 韓国人形劇 人形劇団フレデリック 吉祥女子高人形劇団ボボ 人形劇団ボボロ 人形劇団けやき座 第一保短大人形劇団ガチャ パル 人形劇団コスモス | 瓜どろぼう 永遠の長い道 三枚のお札 しっぽをなくしたきつね トロトロとガアガ どろぼう学校 のぶちゃんの大冒険 三匹のこぶた, 十七歳のはる |

こどもの城開館記念 人形劇フェスティバル

63. 11. 1~3

地下1階フリーホール

| | 出 演 团 体 | 演 目 |
|-------|---------|-----------------------|
| 11. 1 | 人形劇団ちと | 黄色いサルと青いネコの仲良し |
| 11. 2 | 人形劇団こばん | うさぎの手品, 毛虫, まんまるさん, 他 |
| 11. 3 | HOPPY | 何ができるかな, ブレーメンの音楽隊, 他 |

クリスマス人形劇フェスティバル

63. 12. 24~28

地下1階フリーホール

| | 出 演 团 体 | 演 目 |
|--------|------------|---|
| 12. 24 | 木ぐつの木 | クリスマスヤアヤアヤア, うさぎとかめ, 他 |
| 12. 25 | たけとんぼ | 裸の王様, クリスマスメドレー, いいものなあに, 他 |
| 12. 26 | テアトルジアスターぜ | スリリングでこわくてゾーとするようなそれでいてワクワクする ようなおもしろいおはなし |
| 12. 27 | ぱねるっぽ | あわてんぼうのサンタクロース, マッチ売りの少女, 他 |
| 12. 28 | パペットボックス | ジャックと豆のつる, 他 |

2 プレイ

春休み人形劇フェスティバル

平成1. 3. 26~30

地下1階フリーホール

| | 出 演 団 体 | 演 目 |
|-------|------------|------------------------------|
| 3. 26 | たけとんぼ | 裸の王様, おひさま, とんでいったバナナ, 他 |
| 3. 27 | テアトルジアスターぜ | もりもり森ものがたりーおおかみなんかこわくない?ー, 他 |
| 3. 28 | ペベットボックス | びっくりボックスーなにがとびだすかわからないー, 他 |
| 3. 29 | 劇団夕やけ | 三枚のお札, 光とあそぼう |
| 3. 30 | 木ぐつの木 | 春よ来い, どうしたしっぽ, 他 |

4) 講座・クラブ

(ア) パソコン教室

パソコン教室は「小学生パソコン教室I」とその修了者のための「小学生パソコン教室II」, そして「中学生パソコン教室」の3コースを開講した。パソコン教室はコンピュータの仕組みや操作を学ぶことよりも、コンピュータを利用したり、プログラミングする過程を重視し、子どもたちの科学する心、考える力や創造性を大切にしている。

小学生のコースIのテーマは、パソコンの基本的な操作に慣れること以外に4～5人のグループごとにグラフィックスのプログラムをつくり、コンピュータでさまざまなことを表現することを通して、メンバー同士が上手にコミュニケーションをとることである。コースIIは、コースIの修了者を対象に簡単なゲームのプログラミングを行った。63年度、初めてグラフィックスを使ったゲーム以外に言葉や文字を扱う機能（リスト処理）を使い、パソコンで占いのプログラムを作成した。このような活動の中で数学的に大切な変数や再帰（リカーシブコード）といった概念も楽しく学べるように工夫した。また、中学生のコースではさまざまな関数を表現するプログラム作りを行った。

コンピュータにはいろいろな用途があり、子どもたちにとっても非常に創造性豊かで表情に富む「遊具」になり得る可能性を持っている。この教室でも、子どものコンピュータ利用の有効な方法をもっと考えていく必要がある。なお、教室においてはすべてLOGO（ロゴ）言語を使用した。

(イ) ロゴプログラミング講習会（8月1日～5日）

ロゴプログラミング講習会は中学・高校の数学や物理の教師を中心とする学校の先生、教育系の学生などを対象に開き、11人の参加者のほか多数の見学者もあった。内容は主に中学や高校の数学教育に関するテーマを例にとりあげ、コンピュータやロゴ言語がいかに活用できるか、その可能性と利用の際の基本的な考え方について講習が行われた。現場で実践されている先生やその準備に苦労している先生も多く、参加者同士の情報交換やディスカッションを交えながらの講習会となった。近年、各学校にもコンピュータが導入され始めたが、コンピュータをどう生かして使うかは、まだまだ模索中である。このようなコンピュータや教育全般にわたる現在の状況や今後の展望についても考えさせられるものとなった。また、「子どもの城」における中・高校生のコンピュータ利用プログラム作成の参考にもなった。

III 各部の活動(1)

ロゴプログラミング講習会カリキュラム

| | 内 容 |
|-------------|---|
| 8月1日 (月) | ◆LOGO の基本理念と 4 つの基本命令のもつ意味 基本的な平面図形の作図（プログラミング）を通してロゴの持つ教育上の意味を考えます。 ディスカッション |
| 〃 2日 (火) | ◆正多角形と円の性質（π の意味とやさしい三角関数） 正多角形の作図を通じ、そこに隠されたさまざまな問題をロゴならではの面白さを味わいながら解きます。 ディスカッション |
| 〃 3日 (水) | ◆座標平面とやさしい関数の表現法 座標平面のプログラミングおよびその活用法と、やさしい関数の表現法を学びます。 ディスカッション |
| 〃 4日 (木) | ◆三平方の定理とその応用問題のロゴによる処理法 三平方の定理に絡む問題について、ロゴのプログラミングに取り組みます。 ディスカッション |
| 〃 5日 (金) | ◆ロゴの高度な応用例とコンピュータ教育の今後の展望 数学や理科、美術教育などへのロゴの応用ソフトを紹介しながらコンピュータ教育の今後の展望について考えます。 ディスカッション |

講師：本田成親氏（東京芸大講師・数理哲学の専門家）

(ウ) パソコン体験教室

パソコン体験教室はパソコン利用の初歩を体験するコース。キーボードの操作からロゴ言語によるグラフィックスづくりを楽しむ内容で、「こども体験教室」と「親子体験教室」の2コースを実施した。参加者は「こども体験教室」が16回で133人、「親子体験教室」が7回98人であった。

(エ) パソコンクラブ

パソコンクラブはパソコン活動を通してメンバー同士の交流を図るためのもので、またパソコン教室を修了した子の活動の場となっている。小学4年生から中学3年生の約50人が所属しており、ゲームなどのプログラミングやパソコンミュージック以外にワープロの利用も多くなってきた。また、クラブ全体の活動として新しい機械の使用法講習会を開いたり、「子どもの城」のこどもデパートに「パソコン占い」を企画し、出店した。

63年度は延べ912人が活動に参加した。年ごとにメンバーの参加率は高くなっています。

指導内容、指導体制をより充実させなければと考えている。

5) グループ活動

前年同様、グループクリエーション、パソコン体験教室、コンピュータ・プレイゲームといったプログラムを行ったが、パソコン体験教室、コンピュータ・プレイゲームの実施回数は、前年よりも若干減少した。これは小学校の利用数が減少したことが原因と考えられる。

その一方で、保育園、幼稚園の利用が増えた。またインターナショナルスクールや米軍キャンプ児童グループの初めての利用もあり、折り紙、竹馬など日本の伝統的な遊びを忍者修行に見立てて行うプログラムを開発してこれを受け入れた。これも63年度の特色の1つである。

障害児のためのプログラムでは、グループクリエーションの劇遊びを新しく作って実施した。このプログラムはシミュレーションを経て仕上げたが、これには養護学校の先生方の協力もあって、今後のプログラム作成のために良い経験となった。

プレイホールの自由利用も数多く行われたが、特に障害を持つ幼児に対しては、更にこの自由利用を発展させた形で、大型遊具遊びというプログラムを実施した。また、自由利用の形態の1つとしては63年7月に屋上にオープンしたボールのプール「プレイポート」も使用した。

63年度は、このようにインターナショナルスクールや障害児に対するプログラムの開発と実施が中心目標だった。ニーズの高い自由利用は、遊具の整備・充実を図る一方、スタッフの適切な指導など、ソフト面の改善も加えての積極的な受け入れが今後の課題である。



こどもの城「ボランティア通信」から

5 造形事業部

III 各部の活動(1)

(1) 63年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

| 曜日 区分 時間 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|----------------|-------------|------------|------------|----------|------------|------------|
| 10:00 | | | | | | |
| 11:00 | 、 幼児グループ | プログラム検討会 | グループ活動 | グループ活動 | | クリエイティブクラブ |
| 12:00 | | | | | | |
| 13:00 | | | | | 来館児プログラム | |
| 14:00 | 来館児プログラム | 来館児プログラム | 来館児プログラム | 来館児プログラム | | |
| 15:00 | クリエイティブクラブ | クリエイティブクラブ | クリエイティブクラブ | | クリエイティブクラブ | |
| 16:00 | | | クリエイティブクラブ | | | |
| 17:00 | | | | | | |
| 18:00 | | | | | | |

3 造形

2) 平常期間プログラム

| 名 称 | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 要 員 | 備 考 |
|---------------------|----------------|-----------------|--------|----------|-----|
| 光と造形ステップ1 | 4.12~5.8 | 開館時間中 | 造形スタジオ | スタッフ・指導員 | (人) |
| 光と造形ステップ2 | 5.10~29 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| 光と造形ステップ3 | 5.31~6.19 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| 光と造形ステップ4 | 6.21~7.17 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| オープニングスタジオ ステップ1 | 9.1~10.2 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| オープニングスタジオ ステップ2 | 10.4~30 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| オープニングスタジオ ステップ3 | 11.1~ 12.11 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| 木と造形ステップ1 | 1.10~2.10 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| 木と造形ステップ2 | 2.11~3.17 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| グループ活動 「木をつくろう」 | 6.2 | 10:00~ 12:00 | 同上 | 造形スタッフ5 | |
| ※ 「かげをうつそう」 | 6.30 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| ※ 「木をつくろう」 | 11.4 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| ※ 「かげをうつそう」 | 11.11 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| ※ 「かげをうつそう」 | 1.19 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| ※ 「かげをうつそう」 | 1.26 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| ※ 「かげをうつそう」 | 1.27 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| ※ 「木をつくろう」 | 2.2 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| ※ 「木をつくろう」 | 2.16 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| ※ 「木をつくろう」 | 2.23 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| ※ 「木をつくろう」 | 3.2 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| ※ 「木をつくろう」 | 3.3 | 同上 | 同上 | 同上 | |

※はグループ活動

III 各部の活動(1)

3) 特別期間プログラム

| 名 称 | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 要 員 | 備 考 |
|------------------------|-----------|-------|---------------------------------|-----|-----|
| 遊びと造形発想展 | 5.15~29 | 開館時間中 | 造形スタジオ アトリウムギャラリー、フリー ホール | | |
| 造形発見展「光と造形」 | 7.19~8.31 | 同上 | 造形スタジオ | | |
| 特別展「光の造形展」 | 8.4 ~31 | 同上 | アトリウムギャラリー | | |
| オープنسタジオ「かお」 | 12.13~1.8 | 同上 | 造形スタジオ | | |
| 素材との出会い展「木と 造形」No.2 | 3.18~4.9 | 同上 | 同上 | | |
| 「木と造形」ギャラリー ワークショップ | 3.18~4.9 | 同上 | アトリウムギャラリー | | |
| 造形スタジオ展 | 11.1~30 | 同上 | 同上 | | |

4) 講座・クラブ等

| 名 称 | 対 象 | 人 数 | | 曜 日 時 間 | 場 所 | 期 間 回 数 | 料 金 | 講 師 等 | 備 考 |
|--|---------------------------------|-----------|-----------|------------------------|------------|--|---------------|--------------|-----|
| | | 定 員 | 受講数 | | | | | | |
| こどもクリエイティブ クラブA 「幼児の造形」 一かみとあそぼうー | 幼児 (昭57.4.2 ~58.4.1 生) | (人) 10 | (人) 10 | 水曜日 15:00~ 16:00 | 造形ス タジオ | 4.20・27 5.11・18・ 25, 6.1・8 7回 | (円) 10,000 | スタッフ・ 指導員 | |
| こどもクリエイティブ クラブB 「光と造形」 | 小学生 | 10 | 10 | 水曜日 16:00~ 17:30 | 同上 | 4.20・27 5.11・18・ 25 6.1・8・ 15・22・ 29 10回 | 13,000 | 同上 | |
| こどもクリエイティブ クラブC 「アニメ体 験」 | 小3~ 高校生 | 10 | 10 | 土曜日 15:00~ 16:30 | 同上 | 4.23 5.14・21・ 28 6.4・11・ 18・25 7.2・9 10回 | 13,000 | 同上 | |
| こどもクリエイティブ クラブD 「粘土であ そぼう」 | 小学生 | 10 | 10 | 日曜日 10:30~ 12:00 | 同上 | 4.24 5.8・15・ 22・29 6.5・12・ 19・26 7.3 10回 | 13,000 | 同上 | |

3 造形

| 名 称 | 対 象 | 人 数 | | 曜 日 間 | 場 所 | 期 間 回 数 | 料 金 | 講 師 等 | 備 考 |
|--------------------------------------|---------------------------------|-----------|-----------|------------------------|------------|---|---------------|--------------|-----|
| | | 定 員 | 受 講 數 | | | | | | |
| こどもクリエイティブクラブA 「幼児の造形かみであそぼう」 | 幼児 (昭57.4.2 ~58.4.1 生) | (人) 10 | (人) 10 | 火曜日 15:00~ 16:00 | 造形ス タジオ | 9.20・27 10.4・18・ 25 11.8・22・ 29 8回 | (円) 11,000 | スタッフ・ 指導員 | |
| こどもクリエイティブクラブB 「幼児の造形粘土あそび」 | 幼児 (昭57.4.2 ~59.4.1 生) | 10 | 10 | 水曜日 15:00~ 16:00 | 同上 | 9.21・28 10.5・12・ 19・26 11.9・16 8回 | 11,000 | 同上 | |
| こどもクリエイティブクラブC 「飾りロウソクをつくろう」 | 小学生 | 10 | 2 | 水曜日 16:00~ 17:30 | 同上 | 9.21・28 10.5・12・ 19・26 11.9・16・ 30 12.7 10回 | 13,000 | 同上 | |
| こどもクリエイティブクラブD 「アニメ体験II」 | 小3~ 高校生 | 10 | 7 | 土曜日 15:00~ 16:30 | 同上 | 9.24 10.8・15・ 22・29 11.5・12・ 19・26 12.3 10回 | 同上 | 同上 | |
| こどもクリエイティブクラブE 「木の造形」 | 小学生 | 10 | 10 | 土曜日 15:00~ 16:30 | 同上 | 9.24 10.1・8・ 15・22・ 29 11.5・12・ 19・26 10回 | 同上 | 同上 | |
| こどもクリエイティブクラブF 「粘土体験」 | 同上 | 10 | 10 | 日曜日 10:30~ 12:00 | 同上 | 9.25 10.2・16・ 23・30 11.6・13・ 20・27 12.4 10回 | 同上 | 同上 | |
| こどもクリエイティブクラブA 「幼児の造形ーねんど あそび」 | 幼児 (昭57.4.2 ~58.4.1 生) | 10 | 10 | 火曜日 15:00~ 16:00 | 同上 | 1.24・31 2.7・14・ 21・28 6回 | 9,000 | 同上 | |
| こどもクリエイティブクラブB 「幼児の造形ー木とあ そぼう」 | 幼児 (昭57.4.2 ~59.4.1 生) | 10 | 10 | 水曜日 15:00~ 16:00 | 同上 | 1.18・25 2.1・8・ 15・22 6回 | 同上 | 同上 | |

III 各部の活動(1)

| 名 称 | 対 象 | 人 数 | | 曜 時 | 日 間 | 場 所 | 期 間 回 数 | 料 金 | 講 師 等 | 備 考 |
|-------------------------------|------------|-----------|----------|---------------------------|-------|----------------|---------------------------------------|--------------|--------------------|-----|
| | | 定 員 | 受 講 數 | | | | | | | |
| こどもクリエイティブクラブC 「ベースデーローソク」 | 小学生 | (人) 10 | (人) 3 | 木曜日 16:00~ 17:30 | | 造形スタジオ | 1.18・25 2.1・8・ 15 2.22 6回 | (円) 9,000 | スタッフ・ 指導員 | |
| こどもクリエイティブクラブD 「アニメ体験III」 | 小3~ 高校生 | 10 | 7 | 土曜日 15:00~ 16:30 | | 同上 | 1.21・28 2.4・18・ 25 3.4 6回 | 同上 | 同上 | |
| こどもクリエイティブクラブE 「粘土と造形」 | 小学生 | 10 | 10 | 日曜日 10:30~ 12:30 | | 同上 | 1.22・29 2.5・19・ 26 3.5 6回 | 同上 | 同上 | |
| 造形発見展「光と造形」——日造形教室—— | | | | | | | | | | |
| 「のぞきめがねをつくろう」 | 小3~ 中3 | 10 | 80 | 火~金曜日 10:30~ 14:30~ | | 同上 | 7.26~29 8回 | | スタッフ | |
| 「動くしかけ絵をつくろう」 | 小学生 | 10 | 65 | 同上 | | 同上 | 8.2~5 8回 | | 同上 | |
| 「かぎりローソクをつくろう」 | 同上 | 10 | 54 | 同上 | | 同上 | 8.9~12 8回 | | 同上 | |
| 「ピンホールカメラをつくろう」 | 同上 | 10 | 78 | 同上 | | 同上 | 8.16~19 8回 | | 同上 | |
| 「光の箱をつくろう」 | 同上 | 10 | 79 | 同上 | | 同上 | 8.23~26 8回 | | 同上 | |
| オープンスタジオ——日造形教室—— | | | | | | | | | | |
| 「立体ふくわらい」 | 小学生 | 10 | 2 | 土・日曜日 | 同上 | 1.7・8 8回 | | 同上 | | |
| 「ロウソクのクリスマスツリーをつくろう」 | 同上 | 10 | 4 | 同上 | 同上 | 12.24・25 8回 | | 同上 | | |
| 「レミー・シャーリップの絵本教室」 | 大人 | 30 | 52 | 水曜日 18:00~ 20:00 | 9階研修室 | 6.29 1回 | 52,000 | レミーシャーリップ | 諸経費及び収入をJBKYと折半した。 | |

(2) 造形事業部の活動

造形事業部は前年度と同様に

- (1) 一般来館児へのワークショップ活動
- (2) 少人数の子どもへのクラブ活動
- (3) グループ活動

の3つを活動の中核に据えてスタジオ運営を行った。

(1)の一般来館児へのワークショップ活動のハイライトは、1年のうち夏休みと春休み。また、冬休みは年末年始の日本の伝統行事の最たるものがあり、マイナーなハイライトになる。この3つの時期は、多くの子どもたちが全国から来館するので、春・夏・冬の休み期間に向けて、スタジオでは日常的な準備用意が行われていて、それを私たちは、さまざまな準備と試行をする《ステップ》と称している。例えば春休みが終わって、夏休みのワークショップのため、4～7月初旬まで、数々のプログラムを考え、試行していく。それをステップ1、ステップ2、3と積み重ね、ステップ4が終わって、夏休みの活動へ一挙に収斂（しゅうれん）していくことになる。このステップ期間は、単なる準備期間ではなく、プログラムの検討や試行を含めた部分が強調される活動の時期である。

63年度が前年度と特に変わった点は、春休みの催事であった。春休みは、素材に焦点を当てたワークショップを行っているが、63年度は前年度に引き続いて「素材との出会い展一木と造形」No.2を開催した。このワークショップには、1階のギャラリーと3階造形スタジオを使用し、スタジオは小学校1年以上、それ以下の子どもはギャラリーで制作を行わせた。春休みには、小学校の子どもが多数来館するが、今まで彼らに対して十分対応できるスペースと時間がなかったため、試みにこのように分けたものである。春休み15日間にスタジオでの活動に参加した小学校以上の子どもは約700人であった。これは私たちにとって、「試行」であったとしても、潜在的な《大きな》子どもを掘り起こす企てだと思われた。

なお、通常は無料で開放している1階のギャラリーを、入館券を提示して入ってもらう児童活動エリアとして使用したのは、開館以来これが初めてである。

1) 平常・特別期間

(ア) 光と造形

〔平常期間〕

ステップ1～4（4～7月）〈光とあそぼう〉

夏休み特別プログラム「造形発見展一光と造形一」に向けての準備プログラムとして「光とあそぼうステップ1、2、3、4」を実施した。

・ステップ1（4.12～5.8）

赤と青のセロファンをはってメガネを作り、水色とオレンジ色で描いた絵を交互に片目で見ると絵が変わる。この光学フィルターの単純な原理を利用した「ウインクめがね」は、素朴な驚きのある遊びとして親子で楽しく制作する風景が見られた。視覚上の色の混合を、遊びを通して体験させることを目指した「色ごま」は、子どもたちが形や色を工夫し、楽しく回して遊ぶことはできたものの、光との結び付きを意識させるには至らなかった。そのほか、児童福祉週間に季節行事と「光と造形」を関連づけて、「ひかるこいのぼり十かざぐるま」「空をとぶこいのぼり」のプログラムを実施した。

・ステップ2 (5.10~29)

ギャラリーで行った「遊びと造形発想展」に合わせて、子どものためのプログラムを造形スタジオで実施した。

・ステップ3 (5.31~6.19)

光をよく反射する紙を利用して「はんしゃめがね」は、子どもが光の方向を見極めながら制作し、光そのものを意識するきっかけとなったプログラムであった。高学年そのための「光のチューブ」は、反射面を筒にすることによって外界の光が反射・屈折し、トレシングペーパーを通して幻想的な光の動きを見せるもので、単純な構造でありながら子どもたちは光の美しさをストレートに体験できた。「かげあそび」は、スクリーンに投影された光の中に、子どもたちが工夫した形が現れ、年齢にかかわらず楽しめるプログラムであった。

・ステップ4 (6.21~7.17)

ブラックライトの部屋で白い紙や蛍光紙、蛍光ペンやクレヨンが明るく発光する「ひかるおめん」。その神秘的な光の美しさに子どもたちは目を見張った。「光のてんびょう」では、黒い紙の上に無数の針の点をあけ、驚くほどの根気で作品を仕上げた。テレビ画面上に完成作品を置くと光が乱舞し、思いがけない美しさに子どもたちは顔をほころばせていた。「かわりまんげきょう」は、長方形の鏡を三角柱に組み合わせた基本形から自由に構造を発想し、さまざまな工夫をこらして光の可能性を探った。

「光とあそぼうステップ1~4」の期間では、子どもたちの制作時の反応を確かめながら、内容や素材、制作方法を検討し、試行した。一方、特別期間に向けて、子どもたちが光の美しさや不思議さが体験できる展示物の準備も着々と行い、環境を整備していった。

〔特別期間〕

① 造形発見展「光と造形」 (7.19~8.31)

さまざまな光にあふれた日常環境でありながら、光そのものの存在に気づくことが少なくなった子どもたちのために、遊びを通して、〈光〉のいろいろな様相や現象に出会い、体験する環境を仕掛けたのが、造形発見展「光と造形」である。〈光〉を造形の道具として捉え直し、いろいろな〈光〉の表現を生み出した。子どもたちは自分で作った素朴な〈光〉の作品から大きな喜びと楽しい発見をしたようだ。

展示・体験コーナーでは、「かげ絵の箱」「かがみの箱」「色の回転板の箱」「透過光と反射光の箱」を設置し、光との出会いの導入部とした。スタジオ内には、蓄光シートに自分

3 造形

自身の影を数秒間定着させる「光の壁」。光ファイバーが、布の生地を通してさまざまな色光に変化する「光のトンネル」。水面にできた波紋がリズミカルに動く様子がスクリーン上に映し出される「水面の反射光」。鏡の不思議な反射が体験できる「鏡のコーナー」。赤・青・緑の光の三原色のほかに各種の照明が調光操作できる「光のげきじょう」を設置した。それぞれの装置の制作に当たっては、調査と試行錯誤を繰り返し、相当な労力を要した。技術的な面では、外部の専門家や劇場事業部に多大な協力をあおいだ。いずれの装置とも、子どもたちにはたいへん好評で、光と造形の制作に参加するための重要な動機づけの場となった。

制作コーナーは、親子でつくる「はんしゃめがね」「ウインクめがね」「ひかるおめん」「かげえ」。子どもだけでつくる「ひかりのてんびょう（6歳以上）」「ひかるチューブ（8歳以上）」「かわりまんげきょう」「おどろきばん（いずれも9歳以上）」のプログラムを実施した。制作の現場は、多数の来館者のためにかなり混乱した。材料や道具の扱いも乱雑となり、スタッフは整理と整備に追われたが、追いつけない状況もしばしばあった。また、説明をして材料を渡したもの、混雑のため制作する場がないという場面も頻繁に起きた。今後、造形スタジオ内の状態を常に把握しながら、入場を制限することも考える必要がある。

② 一日造形教室

造形発見展「光と造形」の期間中、火曜日から金曜日には、小学校3年～中学校3年生を対象として一日造形教室を開催した。A「ひかりのぞきめがね」、B「動くしかけ絵」、C「飾りロウソク」、D「手づくりカメラでうつそう」、E「光のはこ」の5つのプログラムを実施した。

昨年度の反省から今回は午前の部は実施前日までの予約受け付けとし、午後の部はスタジオでの当日受け付けのみとしたため、受け付けの際の混乱はかなり避けられ、また当日遠方から来館した児童の参加も可能となった。

③ 光のイベント

この期間中の土曜日・日曜日には、光をテーマに活動を行っているアーチストたちによる子どものための次のようなイベントを行った。

「光にすかしてみよう（姉歯公也）」「光センサーであそぼう（加藤到）」「ストロボ光であそぼう（松村泰三）」「動く光のオブジェをつくろう（田中清隆）」「光るパネルであそぼう（I.K.I.F.）」「レーザー光であそぼう（森脇裕之）」。これらプログラムの中で、子どもたちはアーチストの扱う光を見つめ、ともに制作を行い、ともに遊んだ。子どもたち、アーチスト、そして造形のスタッフそれぞれにとって、有意義な体験であった。

④ 特別展「光の造形展」（8.4～31）

造形スタジオでの造形発見展「光と造形」にちなみ、1階のギャラリーで「光の造形展」を開催した。光を素朴な視点から捉え直した作品、光センサーを利用した映像作品、コンピュータで光を制御し、錯視を利用した作品、動くネオン管の作品、生物のように動く光の作品、

III 各部の活動(1)

レーザー光の作品、自然の素朴の中に人工の光を組み込んだ作品など、多様な視点から光をとらえた、7人のアーチストによる約20点の作品が展示された。展示場でのスタッフは、できるだけ子どもたちがその作品にかかわれるよう、積極的に言葉掛けをする努力をした。年齢による差はあったものの、子どもも親とともに光の魅力的な美しさや不思議さを発見し、体験できる空間となった。

(1) オープンスタジオ

〔平常期間〕

ステップ1～3（9～12月）

冬休み特別プログラム「オープンスタジオ」へのステップ・プログラムとして行ったものである。ステップ1（9.1～10.2）は「ペーパーウィーヴィング」「ストローウィーヴィング」「ボール紙ウィーヴィング」「紙の彫刻」のプログラムを実施した。低年齢の子どもたちが織ったり編んだりするには、どのようなプログラム内容が適切か、その展開の方法を試行した。

ステップ2（10.4～10.30）からは「かお」をテーマにし、〈線の表現〉を基にしたプログラムを実施した。「かおをかこう（線で描いてみよう）」「針金の顔」のプログラムを加えた。

ステップ3（11.1～12.11）は〈面からの表現〉を意図して進めた。プログラムは「アルミバッジの顔」「ビニールシートの顔」を実施した。

ステップ期間中は、素材に抵抗感のあるものを使ってみたり、複雑な技法を使ったりした。また、プログラムの年齢の設定、手順方法、道具の選定などについても、種々の試みをした。

〔特別期間〕

「オープンスタジオーかおー」（12.13～平成元年1.8）

オープンスタジオは、子どもたちが素材・道具・技法の関係を分かりやすく体験できるように設定したワークショップである。今回のテーマは「かお」。紙・木・毛糸・ビニール・アルミ板・針金・廃材など素材ごとにコーナーを設定した。使う道具、技法、素材を1枚のパネルに1プログラムずつ展示し、子どもが見ても分かるようにした。また、ステップ1～3で作った子どもたちの作品を、幅60cm、長さ50～60cmのヴィペール紙にはり、スタジオの天井に展示し、雰囲気を出した。3階ロビーの円形劇場の外壁面にも、パネルで子どもの作品を展示した。いろいろな形に切った木片を組み合わせてつくる〈木端の顔〉は子どもたちが自由にお話を作って表情を変えたりできるので、人気のあるプログラムとなった。

「かお」というテーマは身近であり、更に目、鼻、口と記号的な要素を組み合わせてできることから、低年齢の子どもたちでも積極的に参加できた。特に、「顔をかいてみよう」のプログラムでは、目と口になる部分として、3つの穴をあけた紙を使った。これによって、どんな子どもでも顔を意識でき、いつもは小さく描くことしかできない子でも、必然的に紙の大きさいっぱいに絵を描くようになった。

今までのオープンスタジオに比べると、大きな展示物は少なくなったが、各コーナーの展

3 造形

示物を充実することができた。年末年始の慌ただしい中で、制作時間を長くかけて活動に参加しようとする子は少なく、一日造形教室は80人募集のうち6人の参加であった。次回は形にとらわれずに、一日造形教室の実施を考えたい。

(ウ) 木と造形

〔平常期間〕

「木と造形」ステップ1. 2 (平成元年1.10~3.17)

ステップ期間には、混雑したときに体験することのできない、木に関するプログラムを実施した。例えば、「はっぱのスタンプ」では、枝にやすりをかけ、自分でスタンプを作る。「木のチップであそぼう」では、幼児も2cmの枝をのこぎりで切り、紙やすりをかけて、すべりのよいチップを作る。遊び道具を作る過程で、木を直接加工し、木の特質を体験できるものである。

3歳の子どもも、親とともにのこぎりを使ったり、やすりをかけたり、抵抗感のある体験ができるように設定した。親子で作る場合には、子どもができることは、1人でさせること。できない部分も過度の手助けを避け、なるべく2人で力を合わせて行い、子どもの自主性を尊重するよう促した。

母親がやりすぎてしまう場面が時折見受けられたが、現代のようにのこぎりを使うことがあまりないであろう母親たちにとっては、手助けをしそうる余裕もなかったというのが現実であり、かえって調和のある親子の造形関係ができたようである。

年齢の高い子どもたちで時間に余裕のある場合は、意欲を持って、作りたい物が作れるような環境を整えた。ステップ期間中は8歳以上に限定し、木という抵抗感のある素材に対して、子どもたちがどのようなかかわり方をするのか見守りながら、徐々に道具の設定や加工の種類を変化させていった。

参加した子どもたちは、時間のたつのも忘れ、自分で決めた物を具体的な形に表していく。できた物は技術的なでき具合よりも、努力の跡が見て取れるものが多かった。9歳以上の子どもは、自分で作ることのできる範囲を知り始める。今回の経験から総じて言えることは、8歳と9歳の違いは大きいということである。

造形スタジオは、今までオープンスペースで使用していたが、今回は、絵具のコーナー(プレイングボード)と、木のコーナーの区別を明確にした。それによって、木で制作する雰囲気がより高まったようである。

〔特別期間〕

素材との出会い展「木と造形」No.2 (3.18~4.9)

春休み特別期間中の「木と造形」No.2では、前年の「木と造形」No.1の経験を踏まえ、特に小学校1年以上の子どもたちに手ごたえのある制作をしてもらうために、造形環境を次のように構成した。(1)スタジオ・ワークショップ——小学1年以上の子どもたちのためのプログラムを行う造形スタジオ。(2)ギャラリー・ワークショップ——子どもと親、また、あまり時間のない子どもたちのためのプログラムを行うギャラリー。この2つのスペースをワ-

クショップの場とした。

(1) 小学生以上のスタジオワークショップでは、子どもたちがそれぞれに自分のレベルで木を加工し体験するプログラムの設定を行った。自分の力で最後まで、自分の作りたい木の制作物を作るよう環境を整えた。使用する材料や道具についての簡単な説明を受け、まず作りたい物の図面を書き、材料の選択を行う。作っていくうちに、図面との多少の違いは子どもたちの意思で判断され、制作が続けられる。でき上がったものはさまざまである。指導員1人に対して5人の子どもがグループとなって、それぞれに制作過程で分からぬことの助言を受けた。今回の特別期間において言えることは、8歳と9歳の違いが顕著であること。反面、7歳の子どもでものこぎりや金づちを自分なりに使用しながら、独力で作りたい物を作っていく。男女の違いは、年齢が低いほど、差がある。小学校5、6年になると制作上の工夫の度合いが異なり、男女の技術的な差はあまり見られない。指導員は、子どもが何をつくりたいか、木と道具に関してどのような経験をしているのか、努力や意志力がどのくらいあるのかなどを見守り、活動は子どもとの快活な雰囲気の中で展開された。各グループで子どもが作り始めると、スタジオの中は活気づき、まるで木工房のように動き出す。子どもの動きは自主的で自分で完成を判断する。後片づけをして作品を持って帰るときの子どもたちはみな満足した表情であった。それぞれ貴重な体験をした。

(2) ギャラリーワークショップでは、木を素材にするだけでなく、木のイメージを広げることを目的に活動を進めた。「おやこでつくろう」の制作風景は、時として親のほうに消極的な様子が見られ、残念であった。日ごろ、活動を造形スタジオで行っているが、慣れない感じるのは親のほうで、子どもは作り始めるとその環境に順応するのが常であるようだ。ギャラリーから造形スタジオ（3F）への導線は、思ったほど困難ではなかった。一方、表示を最初から徹底する必要を感じた。文字表示は、ほとんどといってよいほど、読まれない。ビジュアル・インフォメーションが大切であることを痛感した。

2) 講座・クラブ

① こどもクリエイティブクラブ（4～7月）

A 「幼児の造形ーかみとあそぼう」

新聞紙・ダンボール・和紙のそれぞれの特徴を体験しながら、子どもたちが制作を楽しんだ。新聞紙を破り、水ノリではり重ねながら形を作っていく。彩色して楽しい帽子に仕上げた。和紙を実際に漉（す）き、染紙をしたり、その染紙で花を作ったりした。3段の厚いダンボールをのこぎりで切り、作っていく過程で紙の強さを手を通して知った。1回目には母親と離れるのがいやで泣いていた女の子も、2回目からは笑顔になり、最後には積極的な元気のよい様子が見られた。まとまりのある活動を展開することができた。

B 「光と造形」

子どもたちが、いろいろな光の要素を体験しながら造形活動を行い、身の回りのさまざまな光に視点を広げられることを目的にしたプログラムであった。内容は、光と影で遊ぶ、カ

3 造形

ラフルなロウソクを作る、光のレールを作る、色の円盤を作る、ストロボ光で動く絵を作る、光の写し絵などであった。それぞれは異なった光の要素ではあるが、子どもたちは光と造形の素朴な結び付きに興味を示した。理科的な内容を含んだ活動もあったが、小学校1年生から5年生の子どもたちが学年を越えて、お互いに手助けしながら制作が進められた。

C 「アニメ体験Ⅰ」

AV事業部と共同でクラブを実施した。静止した絵が動いて見えるアニメの原理を分かりやすく体験できるくばたぱたアニメ、切り紙や粘土を使ったストーリーアニメや、身の回りの物を動かすなど、従来の子どもの持つアニメの概念を変える内容である。参加者は小学校3年生から高校1年生と幅広く、作品も全くさまざまな視点を持った、興味深いものが生まれた。視覚文化の中で育った子どもたちの映像に対する反応は敏感であり、動きを捉える目は、鋭いといえる。コマ撮りする子どもの、なにげない様子からは、<創造>という言葉を身近に感じさせてくれる。

D 「粘土であそぼう」

粘土の可塑性を制作を通して体験するプログラムである。さらさらした粉状の土から粘土を作る、手型をとる、粘土板にハンコで模様をつける、粘土にガラスを押し込み焼く、野焼きをする、粘土で物語立ての冒険旅行をする。造形のクラブでは初めてのことだが、小学校1年の目の不自由な子が参加した。子どもは子どもなりに目の見えない友達とかかわり合う。大人のように過度の手伝いはせず、それがかえって円滑で自然な交流となる。そして全員が明るい快活な子どもたちで、期せずしてグループであることが、生きた楽しい粘土活動を行うことができた。

② こどもクリエイティブクラブ（9～12月）

A 「幼児の造形ーかみであそぼうー」

前回の「かみとあそぼう」と基本的な考えは変わらないが、指導者の個性によって具体的な内容が少し変わった。色画用紙と、反射する紙をそれぞれに5cmの帯にして立ち上がるよう編み、画用紙の面に絵を描くと、それが反射面に写るものや、波ダンボールの特徴を生かして紙版画を作ったり、多様な制作内容になった。グループは、比較的おとなしい雰囲気であったが、子どもがそれぞれに自分の力で制作していった。新聞紙の帽子は、粘土によって原型を工夫してから、はり紙をしたので、前回に比べると、動物型の帽子のようにおもしろいものができた。プログラムは、繰り返し検討することが重要であることを再認識した。

B 「幼児の造形ーねんどあそびー」

紙粘土、油粘土、土粘土などいろいろな粘土の種類を使って、いろいろなものを作る、手の触覚体験のプログラムである。共同制作で動物園を作ったり、フルーツ皿や自分の顔や季節的な要素を取り入れ、ハロウィンのお面づくりなどを行った。粘土は幼児にとって、特に好まれる素材であり、粘土にもいろいろな感触のものがあること、更に楽しいテーマに誘われて形を作っていくおもしろさを体験した。グループ全体に軽快な雰囲気が一貫して流れていたので、活動は常にピクニックのような情景であった。

III 各部の活動(1)

C 「いろいろな飾りロウソクをつくろう」

クリスマスに向けて、いろいろな飾りロウソクを作った。燭台（しょくだい）もガラスや粘土や木で作り、まさに手でつくる楽しさが体験できたプログラムである。参加人数は男女2人と定員に満たなかつたが、制作は活動的に進められた。少人数にもかかわらず、快活な子どもたちは、初めのころはロウソクの特徴を指導員から教えてもらつたが、ロウの熱さに対する経験も増してくると、積極的に試行錯誤を行つた。ロウで制作するというより、ロウを使って自在に遊ぶ様子が見られた。子ども自身がさまざまに試作し、自由に遊ぶことができることこそ、造形スタジオの本来のクラブの意味である。

D 「アニメ体験II」

「アニメ体験I」に引き続き、内容を展開したものと、初めての参加者のために前回のプログラムの繰り返しと、2つの活動が並行して進められた。継続者は、しりとり形式でアニメをつないでいく〈しりとりアニメ〉の後、それぞれにテーマや素材を決め、個人のペースで制作を行つていった。題材は、男女に違いが現れた。自分の仕事を計画して進める者や共同で作る女の子などさまざまな進行であるが、全体にリラックスした自由な雰囲気であった。子ども自身が自分のペースを知り、計画性をもつて制作を進めるのを見ていると、多面的な可能性と要素がアニメ制作に潜んでいるのを感じる。

E 「木の造形」

枝や幹や板材を使った、木の造形プログラムである。切る、穴をあける、彫るなどの作業を通して、木で作りながら木の性質を体験した。ノミを持つことが初めての子どもたちは、指導員の厳しい説明を受け緊張しながら貴重な体験をした。手引きのこぎりで枝を切り、音具を作ったり、糸のこで動物パズルを作ったり、彫刻刀で彫った板をふたにした木の箱を制作したり、活動は充実していた。それでも、当初考えていたプログラムから1つ減らしたものである。それは、小学校1年生の参加が多く、今まで木に対する子どもの体験が少なかつたからである。10回の中で、子どもが顕著に変化した。特に男の子が週ごとに意欲が出て、行動が積極的になり、道具の使い方もうまくなつた。個々の子どものペースを知り、無理なく子どもが制作できるように導いてあげることの大切さを感じた。

F 「粘土体験」

前期「粘土であそぼう」との違いは、日常生活の中にも粘土の感触に似たものがあるので、それとともに体験することであった。板型やひも作りによる器作りや、土笛を作るといった、粘土の顕著な特色を体験するプログラムを実施する一方、盲人のための手で見るギャラリーに「瞑想（めいそう）のための球体」という展覧会をみんなで見にいった。また、クッキーをつくったり、うどんをこねるなど、身近でありながら、感触体験として意識していない日常のひとこまを取り上げ、活動として実施した。においがあり、温度があるため、目の見えない参加者にとっても、また晴眼者にとっても新鮮な体験であったようだ。

③ 子どもクリエイティブクラブ（平成元年1～3月）

A 「幼児の造形—粘土あそびー」

3 造形

前回の「粘土あそび」の考えを基本に、季節行事の要素を入れながらプログラムを実施した。紙粘土を細かくちぎったり、土粘土を大量に使って、作ったり、子どもたちの手の体験は多様であった。サンプルを見て、それをつくる場合、子どもの反応は予測できるが、子ども自身が自分で作る物を考えて形にしていくときは、指導者の言葉かけや個々への配慮が重要である。

今期もこの2とおりのプログラムを組み込んでいたが、子ども自身によっても、どちらか得手不得手があるようだ。自分の作った物を売る「お店やさんごっこ」は子どもの得意な遊びであるが、このクラブでも最終日は活気ある活動となった。

B 「幼児の造形一木とあそぼうー」

「木とあそぼう」では、木をイメージさせる活動と、木そのものを加工させる活動の両方を考慮して実施した。幼児にとって、木を加工するのは容易ではない。手作り木琴は、木の音の“暖かさ”を、制作を通して体験させるものである。また、金づち、のこぎり、やすりなど、幼児が使える道具を整え、木の種類も木端や枝を準備して、作りたい物を作らせた。

個々の興味によってできてくるものはさまざまであるが、幼児であっても、環境いかんによって、自由なテーマによる木の制作は可能であった。ただ限られた時間（1時間）の中では活動を進めるのが難しい。〈木の街〉ではA4判のベニヤ板の上に、小枝やいろいろな木の実から好きなものを選択し、並べながら、小さい木の街を作った。個性のある町が生まれた。幼児と木をかかわらせる活動は、多くの可能性を持っている。

C 「バースデー・ロウソクをつくろう」

前回のプログラムを基本にし、バースデー・ロウソクを制作した。ロウソクの持つ美しさは、炎がともされて見ることができ、また、ロウソクそのものにも一種独特的の雰囲気がある。子どもたちがそれぞれに飾りロウソクを作ると、形や色のいかんにかかわらず、子どもの手から離れた瞬間に、質感に誘われてロウソクとしての存在感が表れる。それは、ロウ自体にロウソクとしての用途が兼ね備わり、半透明である質感に、その魅力があるのかもしれない。パラフィンを湯煎（ゆせん）したものを取り出し、生温かくなったロウで粘土細工のように形を作っていくと、徐々に冷えながら固まっていく変化が、手に不思議な感触であった。少人数の参加ではあるが、子どもはそれぞれにロウと楽しく遊んだ。

D 「アニメ体験III」

I期から継続した子どもたちが6人という造形クラブでは、異例のものとなった。内容はII期から引き続き撮影している男の子や、新たにテーマを設けて取り組む子などさまざまであった。子どもたちは、個人のペースで活動を進めることができた。アフレコ（音入れ）に関しても、それぞれの工夫が見られ、特に男の子は、撮影中にイメージ音楽ができていたかのように、求める音が見つかるまで取り直しを行うといった念の入れようである。1年を通じて言えることは、子どもは画面や映像に大人のような恐怖心はなく、ビデオをまさに道具として使い、自分の表現の手段にしていることである。

それは、造形の活動からみて新たな視点であり、創造性とかかわるプログラムであること

を確信した。

E 「粘土と造形」

粘土に触り、粘土で作りながら、子どもたちそれぞれの個性に合った粘土との出会いができるように設定したプログラムである。粘土と、その他の素材である木や石膏や布などを用いて、作る物がおもしろかったり、作る過程が楽しかったりする活動を実施した。どろんこになって土塙（どべい）を塗ったり、粘土の雌（め）型に石膏を流し込み、予測のつかない“生き物”を作ったり、子どもたちが日ごろ粘土制作だと思っている粘土体験とは異なった活動を開催した。ある形になって完結することより、形にならなくとも、その過程で得る体験が大切だと考えたプログラムである。テーマは粘土であるが、それにとらわれず、子どもが生き生きと行動できるような内容であった。10人という少人数制の、目の届いた活動を今後も行っていきたい。

3) その他

① 「第3回造形スタジオ展」（11.1～30、開館3周年記念）

例年どおり、造形事業部の活動をより多くの人々に知ってもらうために「第3回造形スタジオ展」を企画した。

前年実施したオープスタジオ「造形ジャングル」、素材との出会い展「木と造形No.1」、造形発見展「光と造形No.1」、「こどもクリエイティブクラブ」の作品展示とそのプログラムの一部を制作体験できる「ミニワークショップ」で構成した。「オープスタジオ」のさまざまな素材と技法によって作り出された動物たち。「素材との出会い展」の木が自然の中で生きていることを想起させる作品群。造形の新しい可能性と広がりを感じさせる有形無形の光を扱った「造形発見展」の作品。少人数制で時間をかけて行うクラブ活動の成果としての、土やガラスを使った作品。アニメの映像など、それぞれの作品に感心したり、しきりにうなづく人も多く見受けられた。各テーマのコンセプトがより明確に浮かび上がり、来館者に造形スタジオの活動内容を少しでも理解してもらえたと思う。

ギャラリー使用について、造形事業部は開館以来、過去8回使っており、いずれもテーマに合わせて最大限にギャラリーを生かしてきた。しかし、展示内容が平面的なものだけでなく立体を含み、バラエティーに富んでくると、現状の照明設備、電気容量などの不備な点が顕著に表れてしまう。ギャラリーは「こどもの城」の入り口でもあり、活動の導入部になる大切な場所であるだけに、設備・備品などの改善を考えていきたい。

② 「レミー・シャーリップの絵本教室」（6.29）

JBBY（日本国際児童図書評議会）との共催による企画であった。国際文化交流会の事業の1つである「日本芸術家交換」メンバーの1人として日本に招聘（へい）されていたレミー・シャーリップ氏を講師として迎えた絵本制作の実践教室だった。氏はパフォーマーでありながら、絵本制作もしているアーチストである。氏の作品で邦訳されているものが数冊あるが、絵本制作の指導については未知のことであった。JBBYと造形事業部との共同で、30人募集

3 造形

したところ 52 人の参加があった。内容的には氏の天性の指導力によるものと思われるが、参加者 1 人 1 人の中にひそむ創造力を解き放ち、短時間のうちに、それぞれの興味深い表現を開陳させることになった。造形事業部単独では実現しがたい魅力的な企画も、他の機関と共催することによって実行できると思われる。

③ 「遊びと造形発想展」（5.15～29）

元筑波大学教授高山正喜久氏を代表とする「おもしろ発想法の会」との共催である。氏の 30 年間にわたる教職の実践活動から得られた、造形指導の全貌を 3 回にわたりて展開する第 1 回の催事であった。平面（二次元）から立体（三次元）を構成していく学生たちのさまざまな習作が展示された。氏は、その実践教育の中で、造形における立体の構成力が非常に大切であることに早くから着目し、学生たちに実力を養成させるために提供した課題にこだえた作品の集成が本展である。

造形事業部が日ごろ試行している領域と隣接しているところもあり、共催で事業を行った。なお、本展を見に造形教育関係者が 1,000 人ほど来館したが、このことは、「こどもの城」にとって極めて有意義であった。会期中に「ワークショップ」も行われた（参加者 88 人）。

④ 保育研究大会実践教室

ワークショップ「こどもの体感を豊かにするために」（11.30）

このワークショップは、第 32 回保育研究大会のための特別プログラムとして行った。

保育活動の中で、造形を特に重視している保育の現場の人々が全国から参加した。造形事業部が、日ごろの活動から保育者たちに特に伝えたいモチーフは、「こどもの体感をどうしたら豊かにできるか」ということであった。そのため、保育にとってすぐ有効であると同時に、私たちの意図が理解されやすいプログラムを、私たちのコレクションから 6 つ選びだし、2 時間のうちに体験してもらった。しかし、参加者のほとんどが、プログラムの習得にのみ注意を奪われて、保育者に理解してもらいたい私たちのモチーフが、十分に伝達できなかっただと思われる。保育者とのこのような共同作業は、相互的な啓発という意味でも、今後重要になってくるだろうし、将来定期的に実行したいものである。

4) グループ活動

「木をつくろう」「かげをうつそう」のプログラムを実施した。各プログラムとも、参加グループとの事前の打ち合わせによって内容に変化を加えた。

「かげをうつそう」では、前年の内容に加えて、高学年向きに蓄光シートを使ったパズルゲームを実施した。20 ピースほどの蓄光シートに映しだされた影を、時間内に床面から壁面に移動し組み直す。20 人前後の子どもたちが 2 グループに分かれて共同作業で進行する。お互いの役割がはっきりできているグループのほうが、早く組み立てられた。

グループ活動は、今後も参加団体の年齢や状況に合わせてプログラムの幅を広げていきたい。今年度は、新しいプログラムを実施することはできなかったが、内容を検討しながら、来年度には少しずつやっていけるよう準備している。

4 音 楽 事 業 部

III 各部の活動(1)

(1) 63年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

| 曜日 区分 時間 | 火 | | 水 | | 木 | | 金 | | 土 | | 日 | | |
|----------------|--------------|-----------------------------|-----|------|----------------------|-----|------|---|-----|------|---|------|-----|
| | スタジオ | | ロビー | スタジオ | | ロビー | スタジオ | | ロビー | スタジオ | | シネセ室 | ロビー |
| | A | B | A | B | A | B | A | B | A | B | A | B | |
| 10:00 - | | | | | | | | | | | | | |
| 11:00 | | | | | | | | | | | | | |
| 12:00 | | | | | | | | | | | | | |
| 13:00 | | | | | | | | | | | | | |
| 14:00 | | | | | | | | | | | | | |
| 15:00 | ムリーズ ビングA | | | | I おかさん もいつしょ | | | | | | | | |
| 16:00 | ムリーズ ビングB | | | | II おかさん もいつしょ | | | | | | | | |
| 17:00 | ムリーズ ビングC | サシ イザ イセ | | | III おかさん もいつしょ | | | | | | | | |
| 18:00 | | アパ ソ一 カサ ンシ ブルン | | | | | | | | | | | |
| 19:00 | | | | | | | | | | | | | |
| 20:00 | | | | | | | | | | | | | |
| 21:00 | | | | | | | | | | | | | |

4 音 樂

2) 平常期間プログラム

| 名 称 | | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 要 員 | 備 考 | |
|------------------------|--|--|--|-----------------------------|-------------------------------|---|----------------|
| わいわいわいわい | | ①外部専門家によるプログラム ・邦楽系 ・洋楽系 ・民族音楽系 | 4.10～平1.3.30 (3回) 同上 (5回) 同上 (9回) | 13：30～ 15：30 同上 同上 | 音楽スタジオB 音楽スタジオB 音楽スタジオB | (人) 出演者3～7 スタッフ4～6 出演者5～7 スタッフ4～6 出演者2～10 スタッフ4～6 | 観客数(1回) 50～130 |
| | | | | | | 〃 50～100 | |
| | | | | | | 〃 60～100 | |
| わいわいわいわい | | ②職員によるプログラム ・アンクルン ・お話劇場 | 同上 (7回) 同上 (5回) | 同上 同上 | 音楽スタジオBまたはロビー 音楽スタジオB | スタッフ5～7 アルバイト3～4 または出演者3 スタッフ4～5 | 〃 40～95 |
| | | | | | | 〃 80～120 | |
| わいわいわいわい | | ③関連団体によるプログラム ・受講生によるもの ・婦人ボランティアによる影絵 | 同上 (2回) 同上 (1回) | 同上 同上 | 同上 同上 | スタッフ4～6 受講生18～20 スタッフ4～6 婦人ボランティア12 | 〃 40～83 |
| | | | | | | | 〃 90～110 |
| | | | | | | | |
| 音の大冒険「風」 | | 4.6～27 | 開館時間中 | 音楽ロビー | 職員 アルバイト | | |
| 世界の音楽I 「インドネシア」 | | 5.7～7.17 | 同上 | 同上 | 同上 | 楽器展示 民族楽器による演奏 | |
| 世界の音楽II 「ブラジル サンバ！」 | | 7.21～9.30 | 同上 | 同上 | 同上 | (同上) 演奏マラソン | |
| 世界の音楽III 「ヨーロッパ」 | | 10.1～12.25 | 同上 | 同上 | 同上 | ポルカの演奏マラソン。 12月に入ってからは 「クリスマスファンタジー」 としてクリスマスソング のメドレー | |
| 世界の音楽IV 「日本」 | | 12.26～ 平1.3.5 | 同上 | 同上 | 同上 | | |
| 世界の音楽V 「韓国」 | | 3.7～23 | 同上 | 同上 | 同上 | 楽器展示 | |

3) 特別期間プログラム

| 名 称 | | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 要 員 | 備 考 |
|---------------------|--|-------|--|-------|--------------------|---|
| <春休み> デジタル演奏マラソン | | 4.4・5 | 11:00～11:30 13:00～13:30 14:30～15:30 16:30～17:00 | 音楽ロビー | (人) 職員 アルバイト | DX7, イミュレーター, シンセドラム, CPをス タッフが演奏し, 子ども たちがクルクル, シェイ カー, 鈴で参加した演奏 マラソン |

III 各部の活動(1)

| 名 称 | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 要 員 | 備 考 |
|---|-----------|---|---|---|---|
| <児童福祉週間> キヤッスル・クエスト | 4.29~5.5 | 11:00~16:30 (ただし 5月 2日は 13:00~16:30) | 音楽ロビー 同スタジオA・ B ふしげが丘 4階ロビー 階段 | (人) 職員 アルバイト ボランティア | AV事業部との共同事業 |
| <同上> こどもデパート | | | 音楽ロビー 同スタジオA・ B | 職員 受講者 | |
| <夏休み> わいわいスタジオスペシャル 「はるかなるアンデスの 歌声」 | 8.5・6 | 13:30~15:30 | 音楽スタジオ B | スタッフ 6 出演者 4 | アンデスの音楽のミニコンサート |
| <同上> わいわいスタジオスペシャル 「おもしろ体験 擬音祭 りなのだ」 | 8.13・14 | 同上 | 同上 | スタッフ 4 | AVとの共同企画 |
| <同上> わいわいスタジオスペシャル 「THE 怪談」 | 8.27・28 | 同上 | 同上 | スタッフ 8 協力スタッフ 6 | 他部の職員も参加 |
| <夏休み> ブラジル・サンバ！演奏 マラソン | 7.21~8.30 | 11:00~11:30 13:00~13:30 14:00~14:30 15:00~15:30 16:00~17:00 | 音楽ロビー | 職員 アルバイト ボランティア | サンバの楽器一スルドレ ピイキ, アゴゴ, タンボ リン, パンディエロ等一 をスタッフが演奏し, 子 どもたちがガソザなどで 参加した演奏マラソン |
| <同上> 楽器展「おもしろ楽器展」 | 8.9~19 | 開館時間中 | 音楽スタジオ A | 職員 アルバイト | 名古屋の「リトル・ワールド」ほかから世界のマ ラカスを借りて展示, ほ かに日に3回, 手作り楽 器コーナを設け, 子ども たちに作らせた。 |
| <同上> 夏季合宿 ・ユースバンド・三味線 (合同) | 7.21~24 | 3泊4日 | こどもの国 | スタッフ 2 講師 2 助手 4 受講生 36 | ユースバンドは最終日に 皇太子記念館でのイベン トに参加 |
| <同上> 夏季合宿 ・ガムラン講座・クラブ | 7.26~28 | 2泊3日 | 館内(ホテル) スタジオA | スタッフ 1 講師 1 助手 1 受講生 16 | |
| <同上> 夏季合宿 ・合唱団・講座 | 8.10~13 | 3泊4日 | 似鳥臨海少年 自然の家・三 滝少年自然の 家 | スタッフ 3 助手 2 協力スタッフ 2・ 混 声合唱 9・その 他 2 | 8.12日, 広島県民文化 センターで「トアエ・モ ア」とのジョイントコン サート。同13日, 平和 記念公園でドーム前コン サート |
| <同上> 夏季合宿 ・パーカッション・アン サンブル | 8.23~25 | 2泊3日 | 館内(ホテル) スタジオA・ B | スタッフ 1 講師 1 助手 2 受講生 17 | |

4 音 樂

| 名 称 | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 要 員 | 備 考 |
|---|----------|---|-------------|--------------------------------------|--|
| <夏休み> サマーセミナー ・リズムムービング&パー カッション | 7.22・23 | 10:00~12:00 13:00~16:30 | 音楽スタジオ A | スタッフ 1 講師 1 助手 1 受講生 20 (人) | |
| <同上> サマーセミナー ・三味線 | 8.26~28 | 10:00~12:00 | 同上 | スタッフ 1 講師 1 助手 1 受講生 12 | |
| <開館3周年記念> ハッピーパースデーこと もの城演奏マラソン 「フォークダンス」 「和太鼓三味線」 「サンバ」 「ジャムセッション」 | 11.3 | 11:00~11:30 13:00~13:30 15:00~15:30 16:15~17:00 | 音楽ロビー | 職員 アルバイト | 3周年記念の特別行事と して今までの演奏マラソンの集大成とし、4種類 の演奏マラソンをした。 |
| <冬休み> わいわいスタジオスペシャ ル ・お話劇場「スノーマン」 | 12.24・25 | 13:30~15:30 | 音楽スタジオ B | 職員 8 出演者 2 | 観客数(1回) 80~90 |
| <同上> クリスマス・ファンタジー ・演奏マラソン | 12.24・25 | 11:00~11:30 13:00~13:00 14:15~14:45 15:00~15:30 16:15~17:00 | 音楽ロビー | 職員 アルバイト | クリスマスマドレーの演 奏マラソン。CP、マリ ンバetcの楽器をスタッ フが担当。子どもたちは 鈴、カスター、タツパリン で参加 |
| <同上> お正月東西対抗ゲーム大 会 | 1.3~6 | 11:30~ 13:30~ 15:30~ | 同上 | 職員 アルバイト ボランティア | 「みかんとり」「歌合戦」 「かるたとり」の3ゲー ムを東西2つのチームに 分けて競うゲーム大会 |
| <春休み> ・いも虫ジャンケン ・サンバでポン！ | 3.24~ | 11:00~11:30 13:00~13:30 14:00~14:30 15:00~15:30 16:00~16:30 | 同上 | 同上 | |

4) 講座・クラブ等

| 名 称 | 対 象 | 人 数 | | 曜 日 間 | 場 所 | 期 間 回 数 | 料 金 | 講 師 等 | 備 考 |
|----------------|------|--|--|------------------------|-----------------|---|---|----------------|-----|
| | | 定 員 | 受講数 | | | | | | |
| リズム・ムー ビングA | 3・4歳 | (人) (1) 17 (2) 16 (3) 14 | (人) (1) 17 (2) 16 (3) 14 | 火曜日 14:00~ 15:00 | 音楽 スタジ オA | (1) 4.12~7.12 全13回 (2) 9.6~12.13 全11回 (3) 1.10~3.14 全9回 | (円) 10,000 9,000 8,000 | 柳沼輝子氏 米原敬子氏 | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

III 各部の活動(1)

| 名 称 | 対 象 | 人 数 | | 曜 日 間 | 場 所 | 期 間 回 数 | 料 金 | 講 師 等 | 備 考 |
|---------------------|--------|---------------------|-----------------------------------|------------------------|---------|--------------------------|---------------|---|-----|
| | | 定 員 | 受 講 數 | | | | | | |
| リズム・ムービングB | 5・6歳 | (人) (1) 15 | (人) (2) 11 (3) 9 | 火曜日 15:00～ 16:00 | 音楽スタジオA | (1) 4.12～7.12 全13回 | (円) 10,000 | 柳沼輝子氏 米原敬子氏 | |
| | | 20 | | | | (2) 9.6～12.13 全11回 | 9,000 | | |
| | | | | | | (3) 1.10～3.14 全9回 | 8,000 | | |
| リズム・ムービングC | 小1～3年 | (1) 19 | (1) (2) 14 (3) 14 | 火曜日 16:00～ 17:00 | 同上 | (1) 4.12～7.12 全13回 | 10,000 | 同上 | |
| | | 20 | | | | (2) 9.6～12.13 全11回 | 9,000 | | |
| | | | | | | (3) 1.10～3.14 全9回 | 8,000 | | |
| パークションアンサンブル | 小4～中3年 | (1) 18 | (1) (2) 19 (3) 16 | 火曜日 17:00～ 19:00 | 音楽スタジオB | (1) 4.12～7.12 全13回 | 17,000 | 柳沼輝子氏 米原敬子氏 河田樹子氏 井上明子氏 石坂千和氏 | |
| | | 15 | | | | (2) 9.6～12.13 全11回 | 15,000 | | |
| | | | | | | (3) 1.10～3.14 全9回 | 13,000 | | |
| おかあさんもいっしょ・リトミックI | 3～5歳 | (組) (1)(組) 17 | (1) (2) 16 (3) 16 | 水曜日 13:30～ 14:30 | 音楽スタジオA | (1) 4.13～7.20 全12回 | 14,000 | 吉村温子氏 川口あづさ氏 | |
| | | 20 | | | | (2) 9.7～12.21 全11回 | 14,000 | | |
| | | | | | | (3) 1.11～3.29 全12回 | 11,000 | | |
| おかあさんもいっしょ・リトミックII | 同上 | (1) 14 | (1) (2) 17 (3) 16 | 水曜日 14:30～ 15:30 | 同上 | (1) 4.13～7.20 全12回 | 14,000 | 同上 | |
| | | 20 | | | | (2) 9.7～12.21 全11回 | 14,000 | | |
| | | | | | | (3) 1.11～3.29 全12回 | 11,000 | | |
| おかあさんもいっしょ・リトミックIII | 3～5歳 | (1) 18 | (1) (2) 16 (3) 16 | 水曜日 15:30～ 16:30 | 同上 | (1) 4.13～7.20 全12回 | 14,000 | 同上 | |
| | | 20 | | | | (2) 9.7～12.21 全11回 | 14,000 | | |
| | | | | | | (3) 1.11～3.29 全12回 | 11,000 | | |

4 音 樂

| 名 称 | 対 象 | 人 数 | | 曜 時 | 日 間 | 場 所 | 期 間 回 数 | 料 金 | 講 師 等 | 備 考 |
|--------------------------------|--------------------------|--------------------------------|--------------------------------|------------------------|------------------|---------------------|--------------------------------|--------|-------|-----|
| | | 定 員 | 受 講 數 | | | | | | | |
| おかあさん もいっしょ・ リトミック 初級 | 3～5歳 | (組) (1) 18 | (組) (2) 20 (3) 11 | 木曜日 13:00～ 14:00 | 音楽ス タジオ A | 吉村温子氏 川口あづさ 氏 | (1) 4.14～7.14 全12回 | 14,000 | | |
| | | (2) 16 | | | | | (2) 9.8～12.22 全11回 | 14,000 | | |
| | | (3) 11 | | | | | (3) 1.12～3.29 全12回 | 11,000 | | |
| シンセサイ ザー 火曜日コース | 中1～ 高3年 小5～ 高3年 | (人) (1)(人) 8 (2) 4 | (人) (1)(人) 8 (2) 4 | 火曜日 16:00～ 18:00 | シンセ サイザー 室 | 岩下哲也氏 | (1) 4.12～7.12 全13回 | 20,000 | | |
| | | | | | | | (2) 9.6～12.13 全11回 | 19,000 | | |
| | | | | | | | | | | |
| シンセサイ ザー 日曜日コース | 小5～ 高3年 | | 8 (3) 4 | 日曜日 15:00～ 17:00 | 同上 | 同上 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | (3) 1.22～3.26 全9回 | 15,000 | | |
| シンセサイ ザー 土曜日コース | 中1～ 高3年 小5～ 高3年 | (1) 11 | 8 (2) 8 (3) 8 | 土曜日 16:00～ 18:00 | 同上 | 同上 | (1) 4.16～7.16 全13回 | 20,000 | | |
| | | (2) 9.10～ 12.17 全11回 | | | | | (2) 9.10～ 12.17 全11回 | 19,000 | | |
| | | (3) 1.14～3.18 全9回 | | | | | (3) 1.14～3.18 全9回 | 15,000 | | |
| 合唱 | 小1～4年 | (1) 27 | 30 (2) 23 (3) 26 | 水曜日 16:30～ 18:30 | 音楽 スタジ オB | 吉村温子氏 川口あづさ 氏 | (1) 4.13～7.20 全12回 | 14,000 | | |
| | | (2) 9.7～12.21 全12回 | | | | | (2) 9.7～12.21 全12回 | 14,000 | | |
| | | (3) 1.11～3.22 全11回 | | | | | (3) 1.11～3.22 全11回 | 11,000 | | |
| 三味線 I | 小2～ 高3年 | (1) 7 | 8 (2) 8 (3) 12 | 日曜日 | 音楽 スタジ オA | 田島佳子氏 川原江里子 氏 | (1) 4.10～7.10 全12回 | 15,000 | | |
| | | (2) 9.9.11～ 12.18 全4回 | | | | | (2) 9.9.11～ 12.18 全4回 | 17,000 | | |
| | | (3) 1.22～3.19 全9回 | | | | | (3) 1.22～3.19 全9回 | 13,000 | | |

III 各部の活動(1)

| 名 称 | 対 象 | 人 数 | | 曜 日 間 | 場 所 | 期 間 数 | 料 金 | 講 師 等 | 備 考 |
|--------------|------------|-----------------|-----------------|------------------------|-----------------|---------------------------|---------------|---------------------------------------|-----|
| | | 定 員 | 受 講 数 | | | | | | |
| 三味線II | 小2～高3年 | (人) (1) 8 | (人) (2) 8 | 日曜日 | 音楽スタジオA | (1) 4.10～7.10 全12回 | (円) 15,000 | 田島佳子氏 川原江里子 氏 | |
| | | (3) 3 | | | | (2)9.11～ 12.18 全14回 | 17,000 | | |
| | | | | | | (3) 1.22～3.19 全9回 | 13,000 | | |
| ガムラン | 小1～中3年 | (1) 6 | 15 | 日曜日 14:30～ 16:30 | 同上 | (1) 4.17～7.17 全12回 | 15,000 | 田村史子氏 中村美郁氏 | |
| | | (2) 6 | | | | (2)9.11～ 12.11 全14回 | 17,000 | | |
| | | (3) 5 | | | | (3) 1.15～3.19 全9回 | 13,000 | | |
| おはやし グループ | 小4～ 中3年 | (1) 8 | 12 | 水曜日 16:30～ 18:30 | 同上 | (1) 4.13～7.20 全13回 | 13,000 | 川島佑介氏 | |
| | | (2) 7 | | | | (2) 9.7～12.7 全12回 | 13,000 | | |
| | | (3) 5 | | | | (3) 1.18～3.22 全10回 | 10,000 | | |
| 児童合唱団 I | 小2・3年 | (1) 22 | 30 | 土曜日 14:30～ 16:30 | 音楽 スタジ オB | (1) 4.9～7.16 全13回 | 13,000 | 吉村温子氏 川口あづさ 氏 | |
| | | (2) 21 | | | | (2)9.10～ 12.17 全13回 | 15,000 | | |
| | | (3) 20 | | | | (3) 1.14～3.28 全9回 | 11,000 | | |
| 児童合唱団 II | 小4～ 中3年 | (1) 66 | 30 | 土曜日 16:30～ 18:30 | 同上 | (1) 4.9～7.16 全13回 | 13,000 | 同上 | |
| | | (2) 63 | | | | (2)9.10～ 12.17 全13回 | 15,000 | | |
| | | (3) 60 | | | | (3) 1.14～3.28 全9回 | 11,000 | | |
| ユースバンド | 小5～ 高3年 | (1) 24 | 28 | 日曜日 10:00～ 12:00 | 同上 | (1) 4.17～7.17 全11回 | 18,000 | 山本武雄氏 山本真理子 氏 三田村健氏 岡本篤彦氏 | |
| | | (2) 21 | | | | (2)9.11～ 12.18 全14回 | 21,000 | | |
| | | (3) 21 | | | | (3) 1.22～3.26 全10回 | 15,000 | | |

4 音 樂

| 名 称 | 対 象 | 人 数 | | 曜 日 時 間 | 場 所 | 期 間 回 数 | 料 金 | 講 師 等 | 備 考 |
|-----------------|------------|-----|-------|------------------------|-----------------|---------------------------|---------------|----------------------|-----|
| | | 定 員 | 受 講 數 | | | | | | |
| ガムラン グループ | 小4～ 中3年 | (人) | (人) | 日曜日 16:30～ 18:30 | 音楽 スタジ オA | (1) 4.17～7.17 全12回 | (円) 15,000 | 田村史子氏 佐々木美奈 子氏 | |
| | | (1) | 9 | | | (2)9.11～ 12.11 全14回 | 17,000 | | |
| | | (2) | 9 | | | (3) 1.15～3.19 全9回 | 13,000 | | |
| 混声合唱 | 高校生 以上 | (人) | (人) | 土曜日 18:30～ 20:30 | 同上 | (1) 4.9～7.16 全12回 | 13,000 | 吉村温子氏 川口あづさ 氏 | |
| | | (1) | 14 | | | (2) 9.3～12.24 全14回 | 15,000 | | |
| | | (2) | 12 | | | (2) 1.14～3.25 全9回 | 11,000 | | |
| おとなのため のガムラン | 同上 | (人) | (人) | 日曜日 18:30～ 20:30 | 同上 | (1) 4.17～7.17 全12回 | 18,000 | 田村史子氏 福沢達郎氏 | |
| | | (1) | 10 | | | (2)9.11～ 12.18 全14回 | 21,000 | | |
| | | (2) | 9 | | | (2) 1.15～3.19 全9回 | 15,000 | | |
| | | (3) | 7 | | | | | | |



「こどもの城ニュース」から

(2) 音楽事業部の活動

開館4年目を迎えた昭和63年度音楽事業は、おおむねこれまでの諸事業の大枠を継承し、その充実・進展を図ることを基調としたが、一方で新たなニーズにこたえる若干のプログラム開発に着手し、今後の方針を模索した。

63年度諸事業は、次のように大別されよう。

(a) 一般来館対応事業

- ① 音楽ロビー活動
- ② 日曜・祝日イベント
- ③ 特別期間プログラム
- ④ 全館・他部合同プログラム
- ⑤ 劇場公演

(b) メンバー対応事業

- ⑥ 音楽講座・クラブ活動
- ⑦ グループ活動
- ⑧ 音楽特別セミナー
- ⑨ 「子どもの城」外の活動
- ⑩ 音楽施設レンタル業務

以上の整理・分類は、もとより厳密なものではない。担当スタッフをはじめ、その企画、準備、実行は、しばしば重複し、並行したからである。

しかし、63年度事業を概観したとき、いくぶん、(a)群（一般来館対応＝オープンスペース・プログラム）に重点が置かれていたと言えるかもしれない。それは、ロビーにおける年間通し企画『世界の音楽』シリーズや、児童福祉週間特別プログラム『キャッスル・クエスト』に顕著であった。いわば、狭義の音楽プログラムから一步踏み出した、低年齢層や多様な好み・レベルに対応する新しい試みであり、その結果は今後の在り方に1つの示唆を与えるものであった。

このことは、公募や申し込みによる(b)群事業の停滞を意味したわけではない。講座・クラブ活動は、依然として、効率性、ニーズの偏り、クラス漸増などの課題を負ってはいるものの、参加児童の充足度や定着性において、高い、着実な成果をもたらしつつある。グループ活動、特別セミナーをも含めて、メンバー・プログラムは、〈音楽〉ならではの基本的な活動であることを改めて確認させられたと言えるであろう。

また、希望者グループ対象のガムラン一日教室、『保育研究大会』におけるリズム・ムービング特別講座が実施され、更に、児童合唱団の広島交歓コンサート、三味線・おはやし両グループによる『子ども邦楽まつり』参加出演が実現した。いずれも、従前の事業枠を越えて、「子どもの城」音楽活動の未来への1つの里程碑となった。

本年は、職員・スタッフの実践的な研修にも力を注いだことを付記しておく。

1) 平常期間

〈日曜日・祝日イベント〉

日曜日・祝日のスタジオ事業「わいわいスタジオ」は、プログラムの種類・数ともにある程度充実してきていたので、本年度は今までに実施したものの中検討に努めた。

4 音 楽

本年度に実施したプログラムは、外部専門家によるミニコンサート形式のもの、職員によるもの、関連グループ（音楽講座・クラブ、婦人ボランティア）によるものの3種類に大別することができる。

それぞれの音楽の特徴やプログラムの内容を改めて見直したこと、より完成度の高いプログラム作りができた。

(ア) 外部専門家によるもの

前年度から始めた、職員が企画・構成して外部専門家に演奏してもらうパターンはほとんど定着した。また、それぞれの音楽の特徴や来館者層の低年齢化などさまざまな状況を考慮し、コンサートのテーマをできるだけ簡潔にすることで、親しみやすいミニコンサートが展開できた。

数は少ないが新たなジャンルの音楽も加わり、幅広い音楽をより印象的に子どもたちに提供できた。

実施プログラムは次のとおり。

| | |
|------------------|-----------------------|
| ▽やってみよう和太鼓 | 4/10 (和楽器のコンサート) |
| ▽ひびけプラスアンサンブル | 4/17 (金管五重奏のコンサート) |
| ▽インドの国からナマステ | 5/22 (インド音楽コンサート) |
| ▽地球の反対側からアローアミーゴ | 5/29 (サンバのコンサート) |
| ▽バグース！ガムランバリ | 6/19 (バリガムランのコンサート) |
| ▽音の魔法使いMasMas | 7/3 (木管五重奏) |
| ▽サンバ・ファンタスティーカ | 9/4 (サンバのコンサート) |
| ▽リズムは友達Part 8 | 9/15 (パークッションのコンサート) |
| ▽バリ島一周音楽の旅 | 10/16 (バリガムランのコンサート) |
| ▽パークッションで世界の旅 | 11/23 (パークッションのコンサート) |
| ▽リズムは友達Part 9 | 2/11 |
| ▽チュパック | 2/19 (インドネシアの音楽と影絵) |
| ▽葵太鼓だ！ドンドコドン | 3/5 (和太鼓のコンサート) |
| ▽ニーハオ！中国の楽器たち | 3/21 (中国のハープ他のコンサート) |
| ▽新鮮です！日本の弦楽器 | 3/26 |

(イ) 職員によるもの

63年度は前年度に行った「アンクルンの体験ミニコンサート」「お話劇場」などのプログラムの再検討が大きなテーマになった。内部プログラムは長期にわたって行ってきたものが多く、ある程度の完成を見てしまい、職員の中でマンネリ化しつつあったためである。

しかし、プログラムの構成、扱う題材などの見直しを行った結果、観客参加型だけでなく、コンサート的なプログラムを新たに生んだり、更に完成度・満足度の高いプログラムに成長させることができた。

当面は、今あるプログラム1つ1つを大切に実施してゆきたい。

III 各部の活動(1)

(ウ) 関連グループによるもの

参加グループは音楽講座・クラブ、婦人ボランティアがあるが、いずれも実施回数は少ない。

音楽講座・クラブのものは、日ごろの練習成果の発表や活動紹介の場として有意義だが、あくまでも子どもたちの負担にならないよう、慎重に企画しなければならない。

婦人ボランティアによる「影絵」は、昨年同様スケジュール調整など多少の問題はあったが、1つのプログラムをみんなで作っていく楽しさや、他種のプログラムにはない観客との親近感を感じることができた。わいわいスタジオを広く多くの人に利用してもらう足がかりとして、大切なプログラムである。

〈ロビー一般来館対応〉

音楽ロビーの一般来館対応では、世界中のさまざまなタイプの音楽のエッセンスを音楽体験の入り口にしようと考え、世界の音楽シリーズと題し、「インドネシア」「ブラジル」「ヨーロッパ」「日本」「韓国」をテーマとした。

昨年度から引き続き行ったプログラムは「カムカム劇場」「演奏マラソン」「楽器体験」で、新しく「音楽遊び・ゲーム」のプログラムを開催させた。

(1)カムカム劇場

時間を固定し、呼び込みや放送等宣伝を充実させたので、平均40~50人、多いときは80人以上を集め、常連客を作っていた。

主な内容は表3のとおりで、平日の来館者層を考慮し、児童向けのオリジナルプログラムとした。30分のイベントとして行われるが、その前後の活動とのつながりを

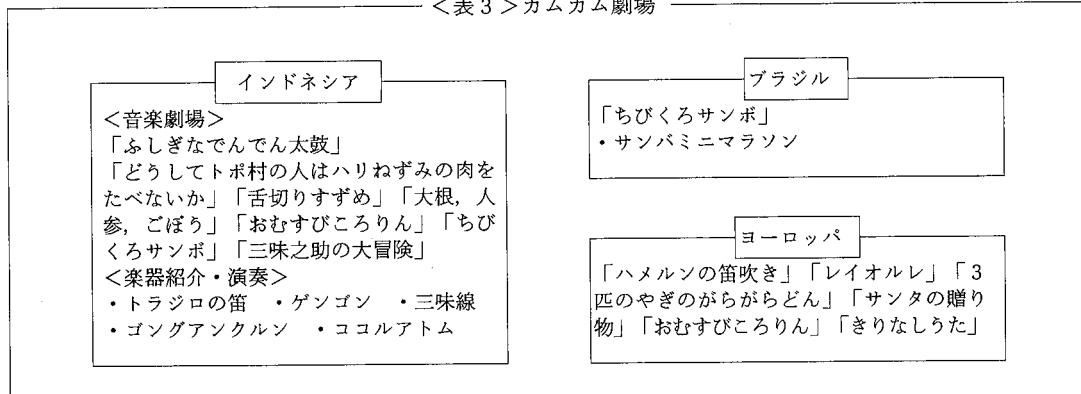
表1 世界の音楽実施期間

| テー マ | 実施期間 |
|---------|-----------------|
| インドネシア | 63. 5. 7 ~ 7.17 |
| ブ ラ ジ ル | 〃 7.21 ~ 9.30 |
| ヨーロッパ | 〃 10. 1 ~ 12.25 |
| 日 本 | 〃 12.26 ~ 3. 5 |
| 韓 国 | 平 1.3.7 ~ 3.24 |

表2 カムカム劇場 時間帯

| | |
|---|----------------------------|
| 火 | 15:30~16:00 |
| 水 | 15:00~15:30 |
| 木 | 15:30~16:00 |
| 金 | 15:00~15:30 |
| 土 | 14:30~15:00 16:00~16:30 |

表3 カムカム劇場



考えていけば、より充実したものになるだろう。

(2)演奏マラソン

日曜・祝日など、大勢の来館者向け参加型プログラムとしてさまざまなバリエーションを生んだ。

<表4>演奏マラソン

| | | | |
|--|--|--|---|
| <p>インドネシア</p> <p><形 式></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オブジェとココルアトムの即興 ・アンクルンと竹の楽器のリズム即興 ・ジョゲットブンブンに合わせてリズム打ち ・ジャワガムランと打楽器のリズム打ち | <p>ブラジル</p> <p><形 式></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回30分を1日5回。演奏部分と参加部分が交互にある。参加楽器はガンザ、すず、カスタネット、クルクル。司会が演奏の流れをリードする。 ・「オパ」「ブレイク2」「Z」のブレイクを体とリズムと声で表現する。 ・「ソロまわし」「壁ぬり」等楽器紹介を盛り込んだ演奏をする。 ・演奏に合わせてサンバのステップを踏む。楽器を演奏しながら行進、踊りをする。 ・「ブレイク2フ」「リーズ」「ブレイク」「スイッチバック」「テンポチェンジ」等リード楽器や司会の合図に合わせ、参加者が演奏や動きをする。 ・歌をうたう。 ・演奏者は衣装をつける。 <p><主 な 曲></p> <p>「オレオラ」「エンヘイド」「ブラジル」「ケロジノボカンタ」「アフターファイブ」</p> | <p>ヨーロッパ</p> <p><形 式></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポルカ(2拍子)の曲演奏し、それに合わせて打楽器を鳴らしたり、ポルカを踊って参加する。 ・スネアドラム、タムタムでリズムをキープ。リード楽器はCP, PF, DW, DXなどの電子楽器やマリンバ、アコーディオン。 ・スタッフと来館者が同じフロアで演奏できるようステージをなくす。人形劇の1シーンとして参加演奏を取り入れるなど新しい提供の仕方を試みる。 ・クリスマスにはそれにちなんだ曲をメドレーで演奏する。リード楽器にトランペット、トロンボーン、ユーホニュームホルンが加わる。 ・クリスマスマドラーは、歌詞カードを用意し、来館者と一緒に歌う。 <p><主 な 曲></p> <p>「ドードレプスカポルカ」「チロルのポルカ」「ビア樽ポルカ」「エッセンポルカ」「ハイジのテーマ」「ウィーンはウィーン」「あわてんぼうのサンタクロース」「ジングル・ベル」「サンタが町にやってくる」「サンタクロースがやってくる」「ママがサンタにキッスした」「きよしこの夜」「もろびとこぞりて」「牧人ひつじを」「あら野のはてに」「もみの木」</p> | <p>日本 韓国</p> <p><形 式></p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者の年齢、人数に応じサンバ・ポルカの演奏マラソンをする。平日で来館者が少ない時でも音を絶やさないようにする。 ・手作り楽器をつかって演奏に参加し、ゲームのような展開を加える。 ・演奏に動きを結びつけ、リトミック的な要素をいれる。 ・ジョゲットブンブンに合わせて打楽器でリズムを刻み、インドネシアの曲と日本の童謡を交互に演奏する。童謡は歌詞カードを配り一緒に歌う。 <p><主 な 曲></p> <p>「ドードレプスカポルカ」「チロルのポルカ」「ビア樽ポルカ」「きらきら星」「チューリップ」「そうさん」「くつがなる」「めだかの学校」「とんぼのメガネ」「さっちゃん」「夕焼け小やけ」「アメフリ」「かわいいかくれんぼ」</p> |
|--|--|--|---|

III 各部の活動(1)

“リード楽器の演奏（スタッフ）”や“打楽器の演奏（来館者）”という従来の形に、「ブレイク」「ソロ」「テンポチェンジ」といった緩急をつけることで30分間の演奏に変化を持たせた。来館者の参加方法は、打楽器の「演奏」に「歌」「かけ声」「踊り」を加え、年齢や興味に応じて参加できるようにした。進行の仕方も、その時々の来館者の特徴をつかみながら進めるようにしたので、自然な形で「演奏マラソン」が行われ、多くの来館者を呼んだ。

(3) 楽器体験

各テーマに関する楽器の展示、紹介、VHDにより好きな音楽の演奏風景を視聴できるコーナーを設けた。扱いの難しい楽器もあり、単に触れるだけではない体験となるような検

＜表5＞楽器体験

| | |
|--|---|
| <p>インドネシア</p> <p>＜シンセサイザー＞ DW6000</p> <p>＜オブジェ＞「スワラビパタロ」「スワラビパジロ」</p> <p>＜インドネシアの楽器＞ ジョゲットブンブン・バリガムラン・ジャワガムラン・チェンチェン・スリソコルアトム・クルクル・アンクルン・ゴングアンクルン・グンタン・クプラティンパン・グントラッグ・トレバン</p> | <p>ブラジル</p> <p>＜シンセサイザー＞ DW6000 CP80M</p> <p>＜サンバの楽器＞ スルドー・ヘビニキ・アピート・アゴゴベル・カウベル・タンボリン・ヘコヘコ・パンディエロ・ガンザ・クィーカーカバーニョ・ギター・ベース</p> <p>＜おもしろ楽器展 マラカス特集＞ 世界のマラカスを展示（フランス、インド、スリランカ、日本、台湾、インドネシア、マリ、ザイール、セネガル、ザンビア、ケニア、アメリカ、メキシコ、ブラジル、ペルー、グアテマラ、ボリビアなど）</p> <p>＜手作り楽器＞ 「手作りマラカスコンテスト」の実施 1日3回、サンバ演奏マラソンで使える「ガンザ」を作る</p> |
| <p>ヨーロッパ</p> <p>＜シンセサイザー＞ DW6000 CP80M DW7</p> <p>＜ヨーロッパの楽器＞ アルペンホルン・マリンバ・シロホン・リコーダー・チェンバロ・トロンボーン・ユーホニューウム・トランペット・アコーデオン・ハンドベル・オルフル楽器</p> <p>＜手作り楽器＞「ガンザ」</p> | <p>韓国</p> <p>＜シンセサイザー＞ DW6000 CP80M</p> <p>＜韓国の楽器＞ アジェン・カヤグム・ヘグム・チャンゴ</p> <p>＜その他の楽器＞ アンクルン・箏・ジェゴック・クロマハープ</p> <p>＜手作り楽器＞ 「Vガチャ」「ストロー笛」「マメデエロ」「紙でっぽう」</p> |
| <p>日本</p> <p>＜シンセサイザー＞ DW6000 CP80M DW7</p> <p>＜日本の楽器＞ 三味線・大太鼓・締太鼓・大鼓・小鼓・篠笛・能管・箏・当たり鉦・オルゴール・双盤・木魚</p> <p>＜手作り楽器＞ 「竹のカスター」「ストロー笛」「紙でっぽう」</p> | |

討が必要である。「シンセサイザー」「箏」は来館者の年齢・興味に関係なく楽しめ、音質・音量の点で他のプログラムと共存しやすいという利点があり、長期間続けて提供した。

「箏」は日本の代表的な音階“平調子”に調弦し、「さくらさくら」をはじめとする曲を自由に弾(ひ)けるようにしたが、ひなまつりでは、「うれしいひなまつり」を「締太鼓」「鼓」「三味線」と合奏するという方法もとり好評だった。同じように、スタッフの指導が少し入ることで初対面の来館者同士に合奏の楽しさを伝えやすいものに「アンクルン」があった。

(4)春一番・ひな祭り

2月25・26日(土・日)の2日間、プレイ、研修教養部との合同行事「春一番・ひな祭り」を行った。音楽は一度に多人数が来たときの参加のさせ方など前年の反省を生かし、ロビーでの太鼓・琴などによる合奏形式の和楽器体験を行った。しかし、ある程度の満足感を与えるという音楽と、できるだけ多くの来館者に参加してもらいたいという企画者側の考え方には多少食い違いがあった。

このような他事業部との共同事業を行う場合、どこまで音楽の立場を主張するか、どこまで譲歩できるかが非常に難しい。そのためにも、それぞれのイベントで来館者に何を持って帰ってもらうかという共通意識を各部がしっかり持つ必要がある。

(5)音楽遊び・ゲーム

来館者が自由な気持ちで安心して音楽活動に参加するには、心身のリラックスが必要で、緊張や萎縮した気持ちのままでは初対面の人と一緒に演奏活動への参加は促せない。そこで、

<表6>音楽遊び・ゲーム

| <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; padding: 5px;">インドネシア</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;"> • アンクルンの牢屋 • 手遊び、歌遊び • いすとりゲーム • ケチャッ • 手の笛 • 鈴ころがし • こだまごっこ </td></tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; padding: 5px;">ヨーロッパ</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;"> • いすとりボルカ • フルーツバスケット • グルグルジャンケン • みかんとり • だるまさんがころんだ </td></tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; padding: 5px;">日本</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;"> • かごめかごめ • ひらいたひらいた • おちゃらか • ずいずいずっころがし • らかんさん • 一本橋 • お寺の和尚 • どびんちゃんびん • だるまさんがころんだ • なーんだなんだ • 泣いた泣いた • おはじき • 紙でっぽう • 折紙 • 紙飛行機 • フラフープ • お手玉 • 羽根けまり • すずまわし • 山の手線 • 汽車ゲーム • 机たたきブンチャッチャ • バケツ太鼓 • いすとりゲーム • バンブーダンス • ケチャッ • この色なんだ? • この音なんだ? • アンクルン銃撃戦ごっこ </td></tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; padding: 5px;">韓国</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;"> • あぶくたった • だるまさんがころんだ • 糸屋のおばさん • 花いちもんめ • 音あてクイズ「こんにちはどなたです」 • 大声コンテスト • フラフープ • 高鬼 • いすとりゲーム • 2重3重ジャンケン • イモ虫ジャンケン • ツーリンショー • サンバでポン • ジャンケン大王 • イントロかるた大会 • わっかにドボーン </td></tr> </tbody> </table> | インドネシア | • アンクルンの牢屋 • 手遊び、歌遊び • いすとりゲーム • ケチャッ • 手の笛 • 鈴ころがし • こだまごっこ | ヨーロッパ | • いすとりボルカ • フルーツバスケット • グルグルジャンケン • みかんとり • だるまさんがころんだ | 日本 | • かごめかごめ • ひらいたひらいた • おちゃらか • ずいずいずっころがし • らかんさん • 一本橋 • お寺の和尚 • どびんちゃんびん • だるまさんがころんだ • なーんだなんだ • 泣いた泣いた • おはじき • 紙でっぽう • 折紙 • 紙飛行機 • フラフープ • お手玉 • 羽根けまり • すずまわし • 山の手線 • 汽車ゲーム • 机たたきブンチャッチャ • バケツ太鼓 • いすとりゲーム • バンブーダンス • ケチャッ • この色なんだ? • この音なんだ? • アンクルン銃撃戦ごっこ | 韓国 | • あぶくたった • だるまさんがころんだ • 糸屋のおばさん • 花いちもんめ • 音あてクイズ「こんにちはどなたです」 • 大声コンテスト • フラフープ • 高鬼 • いすとりゲーム • 2重3重ジャンケン • イモ虫ジャンケン • ツーリンショー • サンバでポン • ジャンケン大王 • イントロかるた大会 • わっかにドボーン |
|---|--------|--|-------|--|----|--|----|--|
| インドネシア | | | | | | | | |
| • アンクルンの牢屋 • 手遊び、歌遊び • いすとりゲーム • ケチャッ • 手の笛 • 鈴ころがし • こだまごっこ | | | | | | | | |
| ヨーロッパ | | | | | | | | |
| • いすとりボルカ • フルーツバスケット • グルグルジャンケン • みかんとり • だるまさんがころんだ | | | | | | | | |
| 日本 | | | | | | | | |
| • かごめかごめ • ひらいたひらいた • おちゃらか • ずいずいずっころがし • らかんさん • 一本橋 • お寺の和尚 • どびんちゃんびん • だるまさんがころんだ • なーんだなんだ • 泣いた泣いた • おはじき • 紙でっぽう • 折紙 • 紙飛行機 • フラフープ • お手玉 • 羽根けまり • すずまわし • 山の手線 • 汽車ゲーム • 机たたきブンチャッチャ • バケツ太鼓 • いすとりゲーム • バンブーダンス • ケチャッ • この色なんだ? • この音なんだ? • アンクルン銃撃戦ごっこ | | | | | | | | |
| 韓国 | | | | | | | | |
| • あぶくたった • だるまさんがころんだ • 糸屋のおばさん • 花いちもんめ • 音あてクイズ「こんにちはどなたです」 • 大声コンテスト • フラフープ • 高鬼 • いすとりゲーム • 2重3重ジャンケン • イモ虫ジャンケン • ツーリンショー • サンバでポン • ジャンケン大王 • イントロかるた大会 • わっかにドボーン | | | | | | | | |

演奏など音楽的要素の強い体験を通して一体感、解放感、充実感を味わう前の段階として、スタッフや周りの来館者、ロビーの環境に親しみを持ってもらう活動が大切である。「日本」「韓国」のテーマの時期からは、この点をプログラム展開の重要なポイントとした。

日本の伝統的な集団遊びは、提供の仕方に工夫を加えることで子ども同士を結びつけるよい機会となり、仲間作りの場として発展していった。そして常連の子どもたちとともに、ロビー独自の音楽遊びをつくりだしていくことができた。

これらのゲームや音楽遊びを通したコミュニケーションが、音楽体験をより豊かなものにすると痛感した。ロビーに音楽の泉を絶やすことなく、そこへつながる入り口を、親しみやすいものになるよう築いていくことが次年度の課題である。

2) 特別期間

(ア) 春休み

第3回音楽事業部講座・クラブ発表会「ぼくらのサウンド'88」のほか、ロビーでは前年度に引き続きデジタル演奏マラソンを実施した。(62年度年報参照)

平成元年春休みには、新たなプログラム「サンバでポン!」「いも虫ジャンケン」を時間を決めて実施した。どちらも夏休みに行ったサンバを生かしたジャンケンゲームで、幼児から大人まで幅広く楽しめるゲームになった。

(イ) 児童福祉週間

この期間は毎年来館者が非常に多いのでイベントの形も今までの「わいわいスタジオ・スペシャル」のように閉鎖的なスタジオイベントから、広いスペースを使い、時間や対象・人数などの制限も少ない大型イベントへと変わる傾向があった。これが63年度は、館内オリエンテーリングの要素を含んだロールプレイングゲーム「キャッスルクエスト」となり、研修教養部、プレイ事業部の協力を得て実施した。

このようなイベントは全く初めてで、音楽的な色彩の薄いイベントを音楽事業部を中心になって実施することについての疑問など、さまざまな反省が出たが、多くの来館者が年齢を問わず参加し満足できるイベントとしては、画期的なものだった。

<大型のごっこ遊び キャッスルクエスト>

大型児童施設の特性を生かしてダイナミックな“ごっこ遊び”を展開し、その中でインドネシアの音楽や影絵を始めとする文化・芸能を紹介することをねらいに、4月29日から7日間、「キャッスルクエスト」を展開した。

グループ活動等では、劇遊び・ごっこ遊びが今までにも多く行われてきたが、一般来館者を対象とした“ごっこ遊び”としては初の試みであった。

「キャッスルクエスト」では、東南アジアの民話をモチーフに、魔王を倒すまでの修行や経験・謎解きなどを、ゲームやジャンケンなどの形に置き換えて、「子どもの城」館内や屋上ふしげが丘を「ラーマーヤナ物語」の世界に見立てて遊びを展開した。

4 音 樂

子どもたちはふしぎが丘で、足の早さを競う＜早駆け修行＞や肺活量を競う＜ア音連続発声＞、巻物を巻き取る＜早巻き＞など、4つの修行を行う。この修行を終えるとカードにスタンプがもらえる。

次に子どもたちは館内を徘徊（はいかい）する魔物と、ジャンケンで勝負をすることになる。うまく勝てればスタンプがもらえるのだが、負け続けるとゲームの続行資格を失ってしまう。

スタンプがカードいっぱいに集まつた子どもは、4階Aスタジオで、インドネシアのワヤンクリット（影絵芝居）を見て＜魔王ラバナを倒すための秘術＞を習うことができ、最終決戦場の4階Bスタジオでは、巨大スクリーンに映ったラバナとのジャンケン勝負が待ち受けている。

徘徊する魔物と神様は音楽事業部職員が担当したが、屋上で子どもたちに修行を施す＜賢者＞はボランティアに、最終のBスタジオの＜映像効果＞と運営補助はAV事業部が協力した。

運営に際して最大の留意点は、いかに子どもたちとともにファンタジーの世界を共有しうるかということであったが、スタッフ側も役を十分に楽しんで演じていたようであった。

この期間の子ども入館者約10,000人のうち、3,614人がこれに挑戦し、45%に当たる1,630人がゲームを完了した。

(ウ) 夏休み

〈スタジオイベント〉

「わいわいスタジオ・夏休みスペシャル」は、毎週土・日曜ごとに実施した。

63年度はロビーが新たな活動を開催しようとしていたこともあって、音楽はできる限りロビーに力を注ぎ、スタジオのイベントはAV事業部中心のプログラムによって行われた。

音楽のプログラムとしては「フォルクローレコンサート」、毎年恒例の「怪談」などがある。

〈ロビー活動〉

ブラジル大使館の協力を得て、ブラジルのビデオやパネルを展示するなか、連日「サンバ演奏マラソン」を行った。

「サンバ」という新しいジャンルに取り組むに当たり、職員・アルバイトは前年度3月から研修を重ね、サンバグループ“カナリオ”と交流を深めながら独自のプログラム作りを目指し、多くの新しい試みをした。

来館者とともに音楽をつくり、一緒に楽しむという点でサンバはエネルギーッシュな夏にふさわしいテーマで、それまでになかった「踊り」「歌」を使ったプログラムのきっかけとなつた。演奏面でも質の高いものが提供でき、後に「イモ虫ジャンケン」「サンバでポン」といった音楽ゲームや、健常児、障害児に向けたグループ活動「楽しくサンバ」など新プログラムを生み出した。

音楽スタジオAで行った「第3回おもしろ楽器展」は世界中のマラカスや、身の回りの材料を使ったユニークな手作りマラカスを展示し、自由に音を出せるようにした。単純な楽器

III 各部の活動(1)

であるが、形や材質の多様さが来館者の目をひいた。同会場で1日3回行った手作り楽器「ガソザ」（ブラジルのマラカス）は非常に人気があり、當時満員となった。更に、この手作り「ガソザ」でロビーの「演奏マラソン」に参加するという流れは、演奏する楽しさをより大きくした。楽器を作るときにスタッフとのコミュニケーションを十分にとり、演奏活動へつないでいく流れは今後も考えていくべきプログラムの1つである。

〈サマーセミナー〉

成人向け短期集中型の「サマーセミナー」は、本年度も夏休みに適した企画として、非常に好評だった。「リズム・ムービング&パーカッション・アンサンブル」は相変わらず希望者が多く、20人が参加したが、前年度に引き続いての人や遠方からの参加者もいた。「三味線」は参加者数が定員に及ばなかったが、邦楽をより多くの人に体験してもらうという主旨を貫いて開講した。

その他「シンセサイザー」が予定されていたが、希望者が少なかったため中止した。

参加者は毎年熱心な人が多く、成果もあがっているが、夏休み中は行事もたて込んでいるうえ、来館者も多いので、他事業とのバランスが大きな問題になっている。

〈開館3周年記念〉

本年度は今までの一般来館活動「演奏マラソン」の集大成をロビーで実施した。

内容は「フォークダンス」「和太鼓・三味線」「サンバ」「ジャムセッション」の4種類で、それぞれ15~30分ほどのプログラムを一日を通して行った。

(エ) 冬休み

(1)年末

わいわいスタジオでは、「クリスマスファンタジー」と題して、お話劇場のスペシャル版を行った。今までのお話劇場は、ピアノの演奏と語り、それに映像という組み合わせが主だったが、今回は打楽器との組み合わせにチャレンジした。取り上げた題材も初めてのもので、映像処理や演奏者との練習スケジュールの調整など幾つか問題はあったが、タイトルどおり、広がりのあるファンタスチックなお話劇場を展開することができた。

ロビーでは、クリスマスソングを盛り込んだポルカの演奏マラソンを行った。

(2)年始

本年度は「初笑い！東西対抗ゲーム大会」と題して、幼児から大人までを対象に、音楽ゲームを行った。音楽が加わることで、より楽しさが広がる、お正月の解放的な雰囲気の中で家族そろって楽しめる、そんなゲームを年齢に応じて数種類用意した。（みかん取り競争・イントロかるた取り・いろはルーレット歌合戦）

参加希望者はあらかじめ申し込んでもらい、東西2チームに分かれて競い合うのだが、心配されていたチーム作りもスムーズに行われ、各チームともチームリーダーを中心とてよくまとまっていた。

1月3日（火）から6日（金）までの4日間、平均1日3回行い、1,000人以上が参加した。毎年来館者の多いこの時期に、よくマッチしたイベントであった。

3) 講座・クラブ

本年度は講座9種類17コース、クラブ4種類5コース、受講生は3歳児から成人まで353人でスタートした。

前年度のように途中の学期から講座が増設されることはなかったが、講座・クラブによつては、受講生のレベル差から1コマまたは2コマを更に細かく分けたり、同時に2つの場所を使うなど工夫して講座を運営したところもあった。

継続年数や各講座・クラブの専門性などから生じる個人的なレベルの差は、講師、助手の協力で乗り切ることができた。しかし、これは音楽関係の講座には常につきまとつ問題。「こどもの城」の音楽講座の根本的な在り方にかかわることでもあり、今後も不斷に追究しなければならない課題である。

<合宿>

本年度も7・8月にかけて、ユースバンド、三味線、ガムラン講座・クラブ、合唱団、合唱講座、パーカッション・アンサンブルが合宿を実施した。

本年度は前年度以上に各講座・クラブの規模、特性を考え、より特徴のある合宿になった。ユースバンドと三味線は対象年齢が近いこと、単独合宿には人数がやや少ないとことなどがある、合同合宿の形にし、7月21日から4日間、「こどもの国」で実施した。合同合宿は初めての試みで、合宿中は練習場所の確保など、幾つかの問題もあったが、お互いの講座・クラブの活動を理解し、1講座の枠を越えて横のつながりをもたせるうえで、非常に有意義な合宿になった。

ガムラン、パーカッションは、楽器運搬などの問題から、「こどもの城」のホテルを利用した内部合宿を行った。ガムランは7月26日から、パーカッションは8月23日から、いずれも2泊3日。

合唱は62年5月、青山円形劇場で行われた世代交流の「ふれあいコンサート」に出演した広島市のおばあちゃんのコーラス・グループ「トワエ・モア」へのお返しを兼ね、8月10日から3泊4日の日程で広島合宿を行った。広島県民文化センターでの「トワエ・モア」とのジョイント・コンサート(12日)、平和記念公園の原爆ドーム前でのコンサート(13日)などを通じての交流には心の触れ合う感動があった。参加者は職員を含め116人。

合唱の合宿には人数規模が大きいことなどに伴ういろいろな問題はあるが、今回の「トワエ・モア」との交歓の模様は新聞などでも報道され、「こどもの城」の活動を広く全国各地に紹介するうえで、意味のあるものとなった。

合宿は各講座・クラブの子どもたちにとっても、音楽事業部にとっても意義のある大切な事業だが、職員の負担が大きい点で、他事業とのバランスが課題として残されている。

4) グループ活動

この活動は年々、“常連”と呼べる団体の利用が増えてきている。毎年同じプログラムを

III 各部の活動(1)

希望するケースが多く、今年度は、今までのプログラムの見直し、発展が必要であった。

新しく加わったプログラム「楽しくサンバ」、「和楽器に触れてみよう」は、通常活動の「わいわいスタジオ」やロビー活動からヒントを得て、アレンジしたものである。したがって、職員の手が多くかかるが、練習も積み、内容も全員が把握しているので、今後よりよいプログラムに発展させていけるのではないかと思う。

音楽のプログラムは、音楽の楽しさを通しての子どもとの触れ合いが中心になってくるので、演奏者や職員の練習時間の確保等、まだまだ未解決の部分を残している。

次年度は、部内に残されている問題、グループ活動運営組織の見直しなど城全体の課題を1つずつ解決していき、新プログラム、特に幼児向けのプログラム開発に力を入れたい。

5) 劇場公演

〈音楽事業部主管〉

本年度は「第4回こどもの城・おまつり劇場」（8月21日、円形劇場）「第3回音楽講座・クラブ発表会—ぼくらのサウンド'88」（4月1～3日、円形劇場）を開催した。「おまつり劇場」は、子どもたちによって守り、受け継がれている日本の伝統芸能を広く紹介するという趣旨。

招待したのは神奈川県足柄上郡大井町の「あしがらあそびの学校」と東京都小金井市の貫井囃子保存会で、「あしがらあそびの学校」の子どもたちは「中野七頭舞」を早いテンポと所作でみごとに舞い、貫井囃子保存会の小・中学生は江戸時代から続いているという郷土のお囃子を軽やかな踊りもまじえて披露した。

「ぼくらのサウンド'88」は、前年度同様、講座・クラブの特徴を生かした形で行った。特に、第2日の合唱関係・リトミックの公演は、国際交流部とのジョイントで、より華やかなものになった。

〈賛助出演〉

前年度同様、青山劇場・円形劇場で行われた「オペラクリエーション・イン青山」のオペラ公演、オペレッタ公演への合唱団参加や、外部ホールで行われた他団体主催公演への三味線・おはやしグループの参加がある。63年度は参加依頼の数も少なく、「こどもの城」からの出演がほとんど恒例化しつつある行事だったので、計画的に無理なく参加することができた。

6) その他

・施設レンタル

63年度は前年度の反省に基づき他事業の充実を勘案して時期や時間を限定し、効率的なレンタルができた。

・保育研究大会実践講座（11月30日）

音楽事業部は柳沼輝子講師によるリズム・ムービングを実施した。

5 A V 事 業 部

5 A V

(1) 63年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

| 曜日 区 分 時間 | 火 | | 水 | | 木 | | 金 | | 土 | | 日 | |
|--------------------|---------------|--------|---------------|--------|---------------|--------|---------------|--------|---------------|-------|---------------|----------------|
| | A V ライブラリー | 映像調整室 | A V ライブラリー | 映像調整室 | A V ライブラリー | 映像調整室 |
| 10:00 | | | | | | | | | | | | |
| 11:00 | グループ活動 | グループ活動 | グループ活動 | グループ活動 | ・ファミリー・ビデオ | グループ活動 | グループ活動 | グループ活動 | 自由利用 | 自由利用 | 自由利用 | マックTV・子どもの城情報局 |
| 12:00 | グループ活動 | グループ活動 | グループ活動 | グループ活動 | ラブ | グループ活動 | グループ活動 | グループ活動 | 自由利用 | 自由利用 | 自由利用 | わいわいスタジオ |
| 13:00 | | | | | | | | | | | | |
| 14:00 | 自由利用 | 自由利用 | 自由利用 | 自由利用 | ビ母デとオ子教 | 自由利用 | 自由利用 | 自由利用 | おもしろ館 | おもしろ館 | おもしろ館 | 造形クリエイティブ |
| 15:00 | 自由利用 | 自由利用 | 自由利用 | 自由利用 | 室の | 自由利用 | 自由利用 | 自由利用 | おもしろ館 | おもしろ館 | おもしろ館 | クラブアニメ体験 |
| 16:00 | | | | | | | | | | | | |
| 17:00 | | | | | | | | | | | | ぱたぱたアニメ |
| 18:00 | | | | | | | | | | | | をつくろう |

III 各部の活動(1)

2) 平常期間プログラム

| 名 称 | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 要 員 | 備 考 | |
|--|-----|--|--|---|------------------------|---|
| ウ オ ル ト ・ デ イ ズ ニ ー ビ デ オ 試 写 会 | 4月 | 17(日) 24(日) | 11:00~ 16:50 | フリーホール 同上 | (人) 職員 1 アルバイト 2 | バンダイと提携の、ディズニー短編及び長編アニメ上映会。 4月利用者数 402 人 |
| | | 8(日) 15(日) 22(日) 29(日) | 12:00~ 17:00 11:00~ 17:30 12:00~ 17:40 12:00~ 17:00 | フリーホール 8階研修室 同上 同上 | 同上 | 利用者数 1,127 人 |
| | 6月 | 5(日) 12(日) 19(日) 26(日) | 11:30~ 18:00 11:00~ 17:40 同上 12:00~ 17:45 | フリーホール 同上 同上 同上 | 同上 | 利用者数 1,539 人 |
| | | 3(日) 10(日) | 11:30~ 18:00 11:00~ 17:40 | フリーホール 同上 | 同上 | 利用者数 544 人 |
| | | 4(日) 11(日) 15(木) 18(日) 23(金) 24(土) 25(日) | 12:00~ 17:30 同上 同上 同上 11:30~ 17:20 12:00~ 17:30 | フリーホール 同上 同上 8階研修室 フリーホール 同上 同上 | 同上 | 利用者数 3,302 人 |
| | 10月 | 2(日) 9(日) 10(月) 16(日) 23(日) 30(日) | 12:00~ 17:30 12:00~ 16:50 12:00~ 17:30 同上 同上 同上 | フリーホール 同上 同上 同上 同上 | 同上 | 利用者数 1,219 人 |
| | | 3(木) 6(日) 13(日) 20(日) 23(水) 27(日) | 12:00~ 17:30 同上 同上 12:00~ 16:20 12:00~ 17:30 12:00~ 16:50 | 8階研修室 同上 フリーホール 同上 同上 同上 | 同上 | 利用者数 1,683 人 |

| 名 称 | | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 要 員 | 備 考 |
|--|--------|--|-------------|------------------|----------------------|---|
| ウォルト・ディズニービデオ試写会 | 12月 | 18(日) | 12:00~17:30 | 8階研修室 | 職員1 アルバイト2 (人) | 利用者数 96人 |
| | 平1. 1月 | 15(日) 16(日) 22(日) | 同上 | フリーホール | 同上 | 利用者数 1,740人 |
| | 2月 | 5(日) 11(土) 12(日) 19(日) 26(日) | 同上 | 同上 | 同上 | 利用者数 2,573人 |
| | 3月 | 12(日) 19(日) 21(火) | 同上 | 同上 | 同上 | 利用者数 695人 |
| こどもの城アニメフェスティバル | | 4.10 | 10:00~17:30 | AV ライブラー及びフリーホール | 職員1~3 アルバイト6 | アニメフェスティバルのサブ会場として、アニメ映画を終日上映。 |
| スポーツ・ソフト特集 | | 10.1~31 | 同上 | AV ライブラー | 職員1~3 アルバイト1~3 | 体育の日に関連させ、スポーツ・ソフトのカタログを更新。 |
| こどもの城アニメフェスティバル | | 平1. 3.4・5 | 同上 | AV ライブラー及びフリーホール | 職員1~3 アルバイト6 | アニメフェスティバルのサブ会場として、アニメ映画を終日上映。 |
| おもしろビデオ館「交通安全だ！」 | | 4.15~22 (毎週金曜日全2回) | 15:30~16:00 | 音楽スタジオB | 職員2 アルバイト1 | AV ライブラーのビデオソフトの中から、テーマを決めて作品を選び、紹介する。“見てもらいたい”作品を提供することによって<映像>のおもしろさ、すばらしさを知ってもらう。(延べ42人) |
| 同上 「いきものはともだち」 | | 5.13~6.24 (毎週金曜日全7回) | 同上 | 同上 | 同上 | 同上(延べ160人) |
| 同上 「世界のアニメーション傑作シリーズ・カナダ=ノーマン・マクラレンのふしぎな世界」 | | 7.1~7.15 (毎週金曜日全3回) | 同上 | 同上 | 同上 | 同上(延べ100人) |
| 同上 「人形アニメでみる日本のむかしばなしと童話」 | | 9.16~10.28 (毎週金曜日全7回) | 同上 | 同上 | 同上 | 同上(延べ210人) |
| 同上 「ハロルドとえほんの旅」 | | 11.4~12.16 (同上) | 同上 | 同上 | 同上 | 同上(延べ200人) |
| 同上 「まんが映画大集合」 | | 平1.1.13 ~3.17 (毎週金曜日全9回) | 同上 | 同上 | 同上 | 同上(延べ310人) |

III 各部の活動(1)

| 名 称 | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 要 員 | 備 考 |
|--|--|------------------------------------|-----------------|--------------------------------------|---|
| わいわいスタジオ=チャレンジ・ザ・インフォビジョン 「クイズ!日本全国鉄道の旅・水無月編」 | 6.5 | 13:30~14:20 15:30~16:20 | 音楽スタジオB | (人) 職員2 アルバイト1 (音楽事業部の協力あり) | オリジナルソフト「インフォビジョン」をより多くの人に知ってもらうことと、その一層の活用をはかるため、集団で視聴できるように改編して、わいわいスタジオの1プログラムとして取り上げた(各回約100人参加)。 |
| わいわいスタジオ=おもしろビデオ館 「人形アニメで見る日本のむかしばなしと童話」 | 9.23・25 | 13:30~14:15 15:30~16:15 | 同上 | 同上 | 平常期間に行っている「おもしろビデオ館」の特別版。今回は<人形アニメ>に焦点をあて、上映の合い間に、その作り方の実際をビデオを使ってデモンストレーションした(23日は各回160人前後、25日は各回300人前後が参加)。 |
| わいわいスタジオ=チャレンジ・ザ・インフォビジョン 「ぼくらの東京探検」 | 10.1・2 | 13:30~ 14:20 15:30~ 16:20 | 同上 | 同上 | 「都民の日」にちなんで『インフォビジョンばくらの東京探検』を取り上げた(各回とも100人弱の参加)。 |
| わいわいスタジオ=しねまでいく 「特選カナダのアニメーション第2弾」 | 平1.1.15・16 | 13:30~ 14:10 15:30~ 16:10 | 同上 | 同上 | 冬休み特別期間(1.7・8)に引き続き、カナダ大使館の協力で、カナダのアニメーションを上映した(4回の上映で、延べ450人が来場)。 |
| 同上 「特選カナダのアニメーション第3弾」 | 2.12 | 同上 | 同上 | 同上 | カナダのアニメーションの基盤を作ったノーマン・マクラレンの作品を特集(延べ180人)。 |
| 同上 「特選カナダのアニメーション第4弾」 | 3.12 | 同上 | 同上 | 同上 | (延べ160人) |
| ぱたぱたアニメをつくろう | 4.9~ 平1.3.18 (特別期間および祝日を除く毎週土曜日)全38回 | 16:00~閉館 | 音楽ロビー | 職員1 アルバイト2 | 自分が描いた2枚の絵を約1/4秒ずつ交互に約20コマ撮影。再生すると、アニメーションのように絵が動いて見える(毎回、30~40人)。 |
| マックTVこどもの城情報局+わいわいスタジオ | 4~平1.3 (日・祝日および特別期間) | 10:30~閉館 | 映像調整室および音楽スタジオB | 職員2 アルバイト2 (音楽事業部との共同) | 館内テレビを通して、催事案内情報を来館児・者に提供すると同時に、音楽スタジオBで行われる各種イベントを中継。 |

3) 特別期間プログラム

| 名 称 | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 要 員 | 備 考 |
|--|-----------|---|-------------------------|-------------------------------------|---|
| <春休み> インフォビジュン特集 | 3.26~4.5 | 10:00~ 17:30 | AV ライブ ラー | 職員 1~3 アルバイト 5 (人) | 新作の加わるインフォビ ジュンを特集し、その浸 透をはかる。 |
| <同上> ディズニービデオ試写会 | 同上 | 11:00~ 17:30 | フリーホール | 職員 1 アルバイト 2 | バンダイと提携のディズ ニー短編アニメ上映会。 利用者数2,495人(4.1~5) |
| <同上> ぱたぱたアニメをつくろ う | 4.1~3 | 10:30~ 15:30 | 音楽ロビー | 職員 2 アルバイト 2 (音楽事業部の 協力あり) | 毎週土曜日に行っている 「ぱたぱたアニメをつく ろう」の特別版。映画発 明以前の<視覚玩具>を 現代風にアレンジした 「ビデオ・オンプロチネ マ」や「驚き盤」も併せ て展示した。(ぱたぱた アニメの制作に参加した のは、各日 150 人前後)。 |
| <児童福祉週間> のりもの大百科 | 4.29~5.5 | 10:00~ 18:00 | AV ライブ ラー | 職員 1~3 アルバイト 1~ 5 | こどもたちに人気のある、 消防車、電車等の乗り物 を大特集。 |
| <同上> ディズニービデオ試写会 | 同上 | 11:00~ 17:30 | フリーホール 及び 8 階研修 室 | 職員 1 アルバイト 2 | 利用者数 2,949 人 |
| <夏休み> オリジナルソフト特集 | 7.21~8.18 | 10:00~ 18:00 | AV ライブ ラー | 職員 1~3 アルバイト 5 | 新作の加わったオリジナ ルソフト及びインフォビ ジュンを特集。 |
| <同上> わいわいスタジオ=チャ レンジ・ザ・インフォビ ジュン「日本全国鉄道の 旅・青田編」 | 7.23・24 | 13:30~ 14:20 15:30~ 16:20 | 音楽スタジオ B | 職員 2 アルバイト 2 (音楽事業部の 協力あり) | 夏休みに入ったばかりの せいか、来館児・者数が それほど多くなかった (各回約 100 人)。 |
| <同上> わいわいスタジオ=おも しろビデオ館 「世界のアニメーション シリーズ・カナダ傑作選」 | 7.30・31 | 11:30~ 12:20 13:30~ 14:10 14:30~ 15:10 15:30~ 16:10 | 同上 | 同上 | カナダ大使館とバイオニ ア・レーザーディスク社 の協力を得て、カナダの アニメーションをレーザー ディスクで 4 つのプログ ラムを上映(延べ 650 人)。 |
| <同上> 自由研究に役立つかな | 8.19~31 | 10:00~ 18:00 | AV ライブ ラー | 職員 1~3 アルバイト 5 | 夏休み後半に宿題と関連 したソフトを特集し、話 題作りをはかる。 |
| <同上> AV アニメーションフェ スタ '88 | 8.20 | 11:00~ 12:20 13:30~ 14:00 14:30~ 15:10 15:30~ 16:10 16:30~ 17:10 | 音楽スタジオ B | 職員 1 アルバイト 2 (音楽事業部の 協力あり) | 高校生が作ったアニメー ション作品の上映と、テ レビの人気番組「ピッカ ピカ音楽館」の立体アニ メを担当している石田卓 也氏を招いて話を聞いた (延べ 430 人)。 |

III 各部の活動(1)

| 名 称 | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 要 員 | 備 考 |
|---|--|---|-------------------------|--|--|
| <夏休み> AV アニメーションフェ スタ '88 | 8.21 | 11:00～ 12:30 13:30～ 14:10 15:30～ 17:00 | 音楽スタジオ B | (人) 職員 1 アルバイト 2 (音楽事業部の 協力あり) | 映画発明以前の<動いて みえる>おもちゃ=視覚 玩具の展示と実演。スト ロボライトを用いた視覚 玩具<ピカピカアニメ> を制作者の峰岸恵一氏の 指導で、みんなでチャレ ンジ。ばたばたアニメも つくった(延べ330人)。 |
| <同上> ディズニービデオ試写会 | 7.23・24 8.6・7 8.12～21 8.27・28 | 11:00～ 17:55 (日により変 動あり) | フリーホール 及び 8階研修 室 | 職員 1 アルバイト 2 | 利用者数 10,025 人 |
| <開館記念> 青山劇場公演ダイジェス ト'87～'88 | 11.1～3 | 10:00～ 17:30 | AV ライブラ リー | 職員 1～3 アルバイト 1～ 5 | 開館 4周年を記念して、 青山劇場・円形劇場の公 演ダイジェストのビデオ ソフト製作。 |
| <冬休み> 昔のヒーロー特集 | 12.24～1.8 | 同上 | 同上 | 職員 1～3 アルバイト 3～ 5 | 日ごろ、子どもに番組選 択の主導権を握られ、ブー スで寝ているお父さんお 母さんの子ども時代のテ レビ番組を特集、親子で 一緒に見てもらい、共通 の話題を提供。 |
| <同上> ディズニービデオ試写会 | 12.25 平1.1.4～8 | 12:00～ 17:30 (日により変 動有り) | フリーホール 及び地下2階 体育室 | 職員 1, アルバ イト 2 | 利用者数 2,146 人 |
| <同上> ばたばたアニメをつくろ う | 12.26・27 | 13:30～ 15:00 15:30～ 17:00 | 音楽スタジオ B | 職員 2 アルバイト 2 | 年末とあって来館児・者 も少なく、新しいプログ ラム「くるくるアニメ」 作りをシミュレーション 的に取り入れた(延べ150 人)。 |
| <同上> INC チャイルドビジョ ン試写会 | 1.3 | 13:00～ 17:30 | フリーホール | 職員 1, アルバ イト 2 | INC と提携し著名な絵 本を原作とした良質のア ニメ作品を上映。 利用者数 177 人 |
| <同上> しねまていく=特選カナ ダのアニメーション第1 弾 | 平1. 1.7・8 | 11:00～ 11:40 13:30～ 14:10 15:30～ 16:10 | 音楽スタジオ B | 職員 2 アルバイト 2 (音楽事業部の 協力あり) | 多くの優れた映像作品に 触れることが大切である と考えて実施した。アニ メ王国ともいえるカナダ の作品を、カナダ大使館 の協力を得て上映。 1月7日に昭和天皇が崩 御されたため、来館児・ 者は少なかった(延べ350 人)。 |
| <春休み> インフォビジョン特集 | 3.26～4.7 | 10:00～ 17:30 | AV ライブラ リー | 職員 1～3 | 新作の加わったインフォ ビジョンの浸透をはかる。 |

| 名 称 | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 要 員 | 備 考 |
|--|-----------------|---|-------------------------|-------------------------------|---|
| <春休み> しねまていく | 3.30~4.2 | 11:00~ 12:10 13:30~ 14:40 15:30~ 16:40 | 音楽スタジオB | (人) 職員2 アルバイト2 | カラー長編アニメーション「セロ弾きのゴーシュ(63分)」を連続4日間上映(延べ900人)。 |
| <同上> ディズニービデオ試写会 | 3.26・ 31~4.5 | 12:00~ 17:30 (日により変動あり) | フリーホール 及び地下2階 体育室 | 職員1 アルバイト2 | 利用者数 763人(3.31) |
| <春休み・児童福祉週間・ 夏休み・冬休み> マック TV こどもの城情報局+わいわいスタジオ | 特別期間中の開館日 | 10:30~閉館 | 映像調整室および音楽スタジオB | 職員2 アルバイト2 (音楽事業部の協力あり) | さまざまな活動プログラムが各所で展開される特別期間。それらの情報を館内案内テレビを通して来館児・者に提供。 |

4) 講座・クラブ

(講師等の欄中、※印はこどもの城職員)

| 名 称 | 対 象 | 人 数 | | 曜 時 | 日 間 | 場 所 | 期 間 数 | 料 金 | 講 師 等 | 備 考 |
|--------------------------------------|-------------|-----------|-----------|----------------------------|-----|---------|---|---------------|---------------------------------|--------------------------------------|
| | | 定 員 | 受講数 | | | | | | | |
| クリエイティブクラブ (造形事業部) 「アニメ体験」(I期) | 小3~ 高3 | (組) 10 | (組) 10 | 土曜日 15:00~ 16:30 | | 造形スタジオ | 4.23 5.14・21 ・28 6.4・11・18 ・25 7.2・9 10回 | (円) 13,000 | ※木辺高敏 ※星間行雄 造形事業部 スタッフ | 62年度の経験を踏まえて、本格的にスタートした。 |
| 同上 (II期) | 同上 | 10 | 7 | 同上 | | 同上 | 9.24 10.8・15 ・22・29 11.5・12 ・19・26 12.3 10回 | 13,000 | 同上 | 新規参加したのは1人。他は継続。 |
| 同上 (III期) | 同上 | 10 | 7 | 同上 | | 同上 | 1.21・28 2.4・18 ・25 3.4 6回 | 9,000 | 同上 | 指導内容の都合から新規募集をしなかった。 |
| (短期) 保育クラブの会員のための母と子のビデオ教室 | 保育クラブ会員の母と子 | 8 | 5 | 7.26・27 10:30~ 12:30 | | 音楽スタジオB | | 4,000 | ※木辺高敏 ※星間行雄 ほか1人 | 保育クラブ会員に対するサービスと、母と子のビデオ教室のPRを兼ねたもの。 |
| | | 8 | 7 | 8.29・30 10:30~ 12:30 | | 同上 | | | 同上 | 同上 |

(2) AV 事業部の活動

AV 事業部の活動は、AV ライブラリー・AV 資料室・マスターコントロールと、ビデオ活動の 2 つに大きく分かれる。

AV ライブラリーは、子どもたちが自分でソフトを選ぶことによって、主体的に映像に接するための視聴施設。開館以来の懸案であったホスト・コンピュータの入れ替えが 63 年度に行われ、処理速度が大幅に向上了し、運営の大きな問題であった、混雑時の端末の応答待ちによる混乱が解消された。また 4 月と 3 月の 2 回、日本アニメフェスティバルのサブ会場として、参加作品を上映し、非常に多くの利用者があった。

AV 資料室は、AV ライブラリーの後方支援部門。年間 626 本の市販ソフトを購入し、このうち年度内に約 200 本の試視聴・データ登録をし、インフォビジョンも 2 本を製作、プログラミングを行った。また「バンダイ」と提携して「ディズニー・アニメ試写会」を年間を通して行った。このほかにライブラリー用目録の製作、AV ライブラリー機器のメンテナンス、館内放映用週間催物案内の製作、マスターコントロールの収録時の支援などを行った。

マスターコントロールは、AV ライブラリーの映像製作部門であり、AV ライブラリー用の番組製作、外部依頼による劇場公演の収録、アトリウム映像、案内テレビ映像の送出、および機器のメンテナンスなどを行っている。63 年度は初の試みとして「青山バレエ・フェスティバル」収録のビデオの外部販売を行い、まずまずの成果をあげたほか、AV ライブラリー用に「ローザンヌ国際バレエ・コンクール」の収録を行った。

ビデオ活動では<映像>というコミュニケーションの道具とどのようにかかわっていったらよいかを、さまざまな形で考え、具体的なプログラムに作り上げようと努めている。「ビデオを見る（見せる）」という行為 1 つとっても、我々がなすべき道は幾とおりもあり、どれを選択するか我々の主体にかかわってくる。好きかってに見せておくこともできれば、見てほしい（見せたい）作品を見せて視野を広げさせることもできるし、<映像>への関心を深めさせることもできる。

子どもたちの可能性を伸ばす<見方（見せ方）>があると信じて、「おもしろビデオ館」や「しねまていく」（16mm 映画の上映会）を実施している。また<作る>という創造的な活動として「ぱたぱたアニメをつくろう」や母親を対象とした「ビデオ教室」等を開催している。そのほか、さまざまな形で行われている<映像>を用いた情報の伝達・提供・記録などに積極的に関与している。この場合も「使われる」のではなく、いかに「使いこなす」かという視点を大切にし、コミュニケーション・ツールとしての<映像>の在り方を摸索している。

1) AV ライブラリー・AV 資料室・マスターコントロール

(ア) 63 年度の課題と実績の評価

62 年度の年報で、AV ライブラリーと AV 資料室・マスターコントロールの今後の課題

およびその達成のための具体的方法として、次の3つをあげた。

①AVライブラリーの類似施設の増加に対して、子どもの城AVライブラリーに特色を持たせる。

- インフォビジョンの充実
- オリジナル・ソフトの充実
- 徹底した子ども向けのソフト収集

②AVライブラリーの利用者増、ディズニー・アニメ試写会利用者増を図り、入館者増に結びつける。

- AVライブラリーについては、平日の利用者増を図る。このため、幼児（2・3歳）と母親の親子連れ向けにPRを行い、「子どもの城」の存在を浸透させ、大学生など子ども以外の平日利用者層を開拓する。
- ディズニー・アニメ試写会については、「パンダイ」と連携をよくし、必要な時期に適切なプログラムで開催する。

③マスターコントロール収入の増大を図るとともに、AVライブラリー・AV資料室・マスターコントロールの運営をより効率化し、支出を抑制して、AV事業部の赤字を減らす。

- 収入につながる劇場収録・体育合宿の収録
- 体育講座の収録
- AVライブラリー・AV資料室・マスターコントロールの人員の一体運用

以上の3つの課題から、63年度の実績を評価してみよう。

① インフォビジョン

①に関しては、『消えた毛糸玉』と『ゆかいな動物クイズ』の2本の幼児向けインフォビジョン（それぞれ15分）を製作し、プログラミングを行い、前者は冬休みから、後者は春休みからAVライブラリーで利用可能になった。インフォビジョンの利用回数は徐々に増えているが、特に『消えた毛糸玉』は好評で、利用回数に貢献した。インフォビジョンは他施設にない、「子どもの城」独自の対話型番組であり、ボタンを押すのが好きという幼児の一般的な傾向からみても、今後も継続的に幼児向きのものを製作していくべきだと思われる。

② オリジナル・ソフト

マスターコントロール製作の子どもの城オリジナル・ソフトについては、63年度目標の120本に対して、実績は20本にとどまった。この原因は、マスターコントロールの収益に結びつく仕事が増加したため、AVライブラリー向けの編集を後回しにせざるを得なかつたためである。人手を増やすずに仕事量の増加に対応するには、現在ネックとなっているテロップの製作専用機導入が必要である。

③ 市販ソフト

子ども向け市販ソフトの購入については、626本の購入のうち、一部音楽ものを除くほと

III 各部の活動(1)

などが、子ども向けである。相変わらず著作権の問題はあるものの、ほぼ満足できる内容であった。ただ、63年度については、購入時期が例年より大幅に遅れ、一部は12月、大部分は3月末に品物を入手した。このため約3分の2は、試視聴・登録を次年度に残してしまった。次年度はなるべく早く購入するようにしなければならない。新規ソフトの購入は、AVライブラリーの魅力の増減に直結するが、今後は、毎年消耗ソフトの代替分を増やさざるをえない。限られた新規分の枠の中で、できるだけ子ども向けの人気のある、よいソフトを集めため、その選定には現在よりも更に重きを置きたい。

④ AVライブラリー利用者

AVライブラリーの63年度の利用回数は78,385回、利用人数は183,860人で前年比11%（7,861回、18,547人）増であった。これを休日（土・日・祝・特別期間などの午前10時開館日）と平日（通常期間の午後1時開館）に分けてみると、休日は前年比7%（3,774回、9,529人）増、平日は利用回数で26%（4,087回）増、利用者数で25%（9,018人）増であった。全利用者の75%が休日に、25%が平日に利用している（前年度は78%、22%）。有料入館者数（有料・招待の合計、6歳未満は含まれていない）は、6%（16,322人）増、休日7%（17,331人）増、平日2%（1,009人）減である。全有料入館者の86%が休日に、14%が平日に利用している（前年度は85%、15%）。

休日の利用者増は、主にホスト・コンピュータの入れ替えによる高速化のためであり、入館者増によるものではない。AVライブラリーの1日の処理能力は、ブースの数と開館時間で限られている。休日は既に上限に達しており、入館者が増えても利用者は増えない。ホスト・コンピュータの高速化により、ほぼ5%，ブース2つ分ほどの能力増があり、利用者増が可能になった。平日の利用者増は、数字的には満足すべきものであるが、入館者増には結びついていない。この意味では目標はまったく達成されていない。恐らく増加のおよそ半数は、講座の受講証による利用者（63年度のAVライブラリーの講座の受講証による利用回数は、5,957回。62年度はデータ無し）の増加、残りは、有料入館者が何度も利用したためであろう。

「平日の利用者を増やすための幼児と母親向けのPR」は行わなかった。何か機会を見つけて行いたいと思うが、これは全館的に取り組むべき課題だろう。「大学生など子ども以外の新たな利用者層を開拓する」という点に関しては、4月と3月の2回の日本アニメ・フェスティバル（日本アニメ・フェスティバル実行委員会主催。年1回の催しであるが、日程の関係で63年度中に2回行われるという結果になった）へのAVライブラリーの参加があげられる。普段「こどもの城」とは無縁の多数の高校生、大学生のアニメ・ファンがAVライブラリーを利用したので、少なくとも存在を知られたという点では、多少の効果があったはずである。また、特に3月の場合、このフェスティバルのため人気番組95タイトルが特に用意されたので、平日の利用者増に大いに貢献した（前年同時期比131%増）。次年度も「こどもの城」で行われれば参加したいと考えている。

⑤ ディズニー・アニメ試写会

ディズニー・アニメ試写会は、81日（前年度比37%増）、547回（前年度比33%増）開催し、34,386人（前年度比37%増）の利用者があった。「バンダイ」との連携は非常にうまくいったが、主に人形劇と会場が競合し、冬休みの混雑する時期に思うように開催できなかったのが残念である。

⑥ マスターントロール収入の増大と運営の効率化

63年度マスターントロール収入は、前年度比57%増であった。従来からの劇場収録、体育合宿収録に加え、金額的に大きかったのは、初の試みである「青山バレエフェスティバル」収録ビデオの劇場観客向け販売である。体育講座は「母と子のすくすくランド」を3本収録した。少ない人員なので限りあるが、合理化努力を怠らず、来年度も努力していきたい。

運営の効率化はかなりうまくいったと考えている。63年度は常勤職員は実質的には2人減の4人になったが。この人員でAVライブラリー利用者11%増、ディズニー・アニメ試写会利用者37%増、マスターントロール収入57%増の仕事量をこなした。AVライブラリー、AV資料室、マスターントロールの人員はほぼ一体として運用できる体制は整った。しかし、AV資料室の仕事の一部を来年度に回したり、マスターントロールでは収入が見込めるのに断らざるをえない場合があるなどかなり無理が出ている部分もあり、来年度はなんらかの対策を考える必要がある。

⑦ 来年度の課題

来年度も63年度の課題は引き続き取り組んでいく必要があると考えている。これに加え、AVライブラリー、マスターントロールの一部機器は、購入後5年を過ぎるので平成2、3年度に更新を行うための計画を立てなければならない。

(イ) 通常期間・特別期間の活動

① AVライブラリー

① 利用者数・利用回数

利用回数・利用者数については前述した。今後これを伸ばすには、平日の利用者増を目指すことが第一だが、1つは冬時間を探討し直すことがある。閉館時間は夏が午後6時、冬が午後5時30分であるが、冬時間の期間中の特に休日の利用者は、AVライブラリーの場合、夕方に集中する傾向があるからだ。

② 視聴時間・待ち時間

平均視聴時間は、26分・前年比6%減、休日は25分・同6%減、平日は30分・同11%減であった。平均待ち時間（申し込んでから、ブースで視聴を開始するまでの時間。待たない場合で2分）は12分・前年比7%増。休日は15分・同16%増、平日は3分・同5%減であった。休日のAVライブラリーは処理能力の上限まで稼働しており、有料入館者増は、利用者数増にはならず、待ち時間増になるだけである。

平均待ち時間が、15分の場合、午後2～5時の待ち時間は約60分程度である。待ち時間が60分を超えると、申し込んでも実際には見ない人や、さまざまな苦情、迷子などが急に増えるので、平均待ち時間がこれ以上増えないようにしたい。しかし、根本的に有効な手段

III 各部の活動(1)

AVライブラリー利用状況

| | 開館日数 (日) | | 入館者数 (人) | | 利用回数 (回) | | 利用者数 (人) | | AVライブラリー 利用率 (人・%) | |
|-----|-------------|----------|-------------|----------|--------------|----------|--------------|----------|--------------------------|-----|
| | 63年度 | 前年比 % | 63年度 | 前年比 % | 63年度 | 前年比 % | 63年度 | 前年比 % | 63年度 | 前年差 |
| 4月 | 27 | 4 | 24,395 | 2 | 5,506 | 1 | 12,709 | -0 | 52 | -1 |
| 5月 | 26 | -4 | 28,329 | 2 | 5,965 | 11 | 13,784 | 11 | 49 | 4 |
| 6月 | 26 | 4 | 17,996 | 12 | 5,050 | 18 | 11,422 | 14 | 63 | 1 |
| 7月 | 27 | 0 | 27,809 | -7 | 7,963 | 4 | 18,897 | 3 | 68 | 7 |
| 8月 | 29 | 0 | 63,877 | 20 | 13,146 | 8 | 31,701 | 9 | 50 | -4 |
| 9月 | 26 | 0 | 19,950 | 8 | 5,870 | 11 | 13,846 | 13 | 69 | 2 |
| 10月 | 26 | -4 | 16,157 | 5 | 5,258 | 15 | 12,082 | 17 | 75 | 8 |
| 11月 | 26 | 4 | 18,065 | -15 | 5,809 | 11 | 13,438 | 11 | 74 | 17 |
| 12月 | 25 | 0 | 10,417 | 6 | 4,219 | 16 | 9,944 | 22 | 95 | 12 |
| 1月 | 25 | -4 | 22,345 | 1 | 6,222 | 10 | 14,900 | 11 | 67 | 6 |
| 2月 | 23 | -4 | 18,220 | 1 | 5,216 | 13 | 12,500 | 15 | 69 | 9 |
| 3月 | 28 | 0 | 35,450 | 16 | 8,161 | 23 | 18,637 | 19 | 53 | 2 |
| 合計 | 314 | -0 | 303,010 | 6 | 78,385 | 11 | 183,860 | 11 | 61 | 3 |
| 備考 | こどもの城開館日数 | | 有料・招待の合計 | | AVライブラリー利用回数 | | AVライブラリー利用者数 | | 利用者数/入館者数 | |

はない。ただ数の少ないインフォビジョンおよびレーザー・ディスク用ブースは、VHS用ブースに比べて極端に待ち時間が長くなるので、レーザー・ディスク・プレーヤーを増設することは多少有効である。インフォビジョンおよびレーザー・ディスクは、ビデオテープと異なり、消耗しないという利点もあるので、できればこれを増設したいと考えている。

③ 視聴の傾向

63年度も62年度と同様、アニメと特撮TV（ウルトラマン・仮面ライダー等）が中心で、全視聴数の約82%を占める。このほか視聴数の多いのは、インフォビジョンを含むこどもの城オリジナル作品、哺（ほ）乳動物、日本の音楽、陸の乗り物、外国語1子ども向けなどである。前年度に比べて特にウルトラマンの視聴回数が大きく増えている。また4月と3月のアニメフェスティバルでは、このフェスティバルのために特別に用意されたソフトが、わずか16日に1,650回も利用された。

番組数がかなり増えたことにより（3月末で4,563タイトル），特定の番組への集中はかなり解消されたが、ほとんど見られない古い番組もまた増加している。

④ 特別期間

62年度と同様、特別期間には「インフォビジョン特集」「昔のヒーローに会いに行こう」などの強調テーマを設定したが、基本的には通年使用できる親切で見やすいカタログを整えることに重点を置いた。特別期間はそもそもが満員なので、特定の作品を強調し、視聴が集中することは混乱の原因になること、およびAVライブラリーの特徴は4,500タイトルの中から、利用者が自由に選択できる点にあるため、作品の押し付けをするより、むしろカタ

ログを整備することで、子どもが主体的に番組を選択しやすくなることに重点を置くべきだと考えたからである。今後も特別期間の特集は、カタログ中心で対応していくつもりである。

② AV 資料室

① インフォビジョンのプログラミング

62年度は、『消えた毛糸玉』『ゆかいな動物クイズ』のインフォビジョン2本を国費で製作し、プログラミングを完了した。

インフォビジョンは、(1)AVライブラリーの看板であり、他の類似施設にはない「子どもの城」独自の番組である (2)自前の著作権の作品である (3)AVライブラリーの目的である、子どもの映像に対する主体性を育てるに最も適した番組である (4)数の少ない幼児向け市販ソフトを補完することができる、などの点から来年度以降も小さいものを毎年1本程度は製作していきたいと考えている。

② 市販ソフトの選定・購入・試視聴・データ登録

63年度は、市販ソフトを国費および協会費で626本購入した。選定に当たっては、①消耗分の置き換え②幼児向け③視聴回数の全体比に比べ、本数の全体比の小さい分類のソフト（哺乳動物・日本の音楽・陸の乗り物・アニメ・特撮TV2），を優先して選んだ。ソフト会社との著作権の処理交渉は順調に進み、おおむね希望したものを購入することができた。しかし、購入時期が大幅にずれ込み、12～3月になってしまったため、多少の混乱があった。またこのため、AVライブラリーには5～12月まで新着ソフトが入らないということになり、62年度購入ソフトの消耗がかなり進んでしまった。試視聴・データ登録は12月から毎月50本程度行い、63年度末までに約200本を処理した。

③ ポスター・目録の製作

AVライブラリーの目録は①特集カタログ（写真入り）②総合カタログ（35分以内版・全件版）③年齢別カタログ（3・4歳向け、5・6歳向け）④新着ソフトカタログ（35分以内版・全件版）⑤外国語カタログ、の5種類を常備している。

特集カタログおよびポスターについては、特別期間のAVライブラリーのテーマに合わせ、62年度は、「のりもの大百科」「オリジナル・ソフト」「自由研究に役立つかな」「スポーツ・ソフト特集」「昔のヒーロー」「インフォビジョン」の6種類を作製した。なるべく写真を多くし、字の読めない幼児でも選べるようにしている。また総合カタログ、年齢別カタログ、新着ソフトカタログは、いたみが早いのではほぼ月1回の割で更新している。

④ ディズニー・アニメ試写会

ディズニー・アニメ試写会は、「バンダイ」と提携し①混雑時にAVライブラリーで処理しきれない利用者への対応を図る②バンダイの協力により「子どもの城」への入館者の増大を図る③質の高いディズニー・アニメの上映を定期的に行い「子どもの城」の魅力を高めることを目的にしている。相変わらず人気は高く、年間34,386人の利用者があったが、来年度はディズニーとバンダイの契約の関係で、ディズニー・アニメ試写会を、この方式の他のプログラムに変えることもある。

III 各部の活動(1)

③ マスターントロール

① 62年度収入と63年度収入の比較

マスターントロールの63年度収入が、前年度より増えたのは初の試みである青山バレエフェスティバルの公演記録VTRテープの観客向け販売が、ますますの成果をあげたことによる。来年度もできるだけ収入を拡大するよう努力していきたい。

② 青山劇場・青山円形劇場の収録

青山劇場・円形劇場の収録は、外注・内部依頼を合わせ、20本、39本の計59本行った。1本につき、ほぼ2回収録することも多いので、実際の収録回数はほぼ80回である。収録の際は人手がいるので、AV資料室の要員の応援で、おおむね順調に作業をこなしている。

③ その他の収録

体育合宿の収録、「こどもの城」の全館的な記録などを計14回行った。通常の劇場収録は収入はあるが、年によって件数に変動があるので、収入は少ないが安定している体育講座の収録にも、今後は力を入れたい。

④ AVライブラリー向け番組製作

これまでに青山劇場・円形劇場で収録したもののうち13本、その他7本の計20本を編集し、こどもの城オリジナル・ソフトとして、AVライブラリーで視聴に供したが、目標の120本には遠く及ばなかった。人員は増やさずに仕事量が増えたので、しわ寄せがここにきてしまった。ネックはテロップ製作である。オリジナル・ソフトは、こどもの城AVライブラリーでしか見ることのできないソフトなので、他の類似施設にはない特徴となるものである。見られる回数も徐々に増えており、来年度は100本程度制作していきたいと考えている。

(ウ) グループ活動

63年度はAVライブラリーで13回、336人のグループ活動があった。他のプログラムが始まるまでの時間待ちなど、主に時間調整に当てられた。

2) ビデオ活動

63年度の活動の基本は、62年度までの活動を総括して、63年度以降どのような活動を開いていったらよいのかを展望することにあった。

我々は何をしてきたのか、これから何をしていったらよいのかを<子どもたちのために>という視点から自らに問いかけることである。言葉を換えて言うと、「こどもの城」におけるAV事業部の在り方を確認することであり、「こどもの城」そのものの在り方を問い合わせることでもあった。

結論を先に述べてしまえば、十分な総括・展望はなし得なかった。その理由としては、我々の力量不足ということに尽きてしまうのだが、「こどもの城」についての共通の理解が十分に形成されていないなどの理由をあげることもできよう。

低年齢化傾向を示す来館児への対応をどうするか、それを踏まえたうえで「こどもの城」の在り方・AV事業部の在り方等について考えなければならない。そのとき、現状をどのよ

うな視点からどのように分析し、解釈すればいいのかという根本の問題を避けて通るわけにはいかない。その視点を定めることが、我々の力だけではできなかった。根本的には「子どもの城」の組織全体の問題として考えなければならないことだろう。

今年度は、今までの活動を整理し、今後の活動を展望するための共通理解を作り上げることを念頭に置いたため、目新しい活動は特にしなかった。

「ぱたぱたアニメをつくろう」「おもしろビデオ館」や夏休みの「AVアニメーション・フェスタ」などは、内容的な充実と効率的な活動の展開を心がけた。また、年度後半から始めた「しねましていく カナダ・アニメーション」の上映会は、優れた映像作品を積極的に定期的に提供していくというねらいをもって始めた新しいプログラムだ。

また、間接的な活動として「マック TV プレス」というB4判の簡易印刷の機関紙を発行して、我々の活動の広報をすると同時に、活動のねらい（目的）をより明確に＜主張＞することを試みた。1つ1つの活動内容を充実させていくためには、目的意識化することが大切であり、そのためのアプローチの1つとして、「マック TV プレス」の発行に取り組んだ。

「マック TV プレス」は、ほぼ月1回のペースで、創刊号から第17号までを発行した。定期的に発行することを第一に考えたため、記事内容の重複やレイアウトのパターン化、原稿の推こう不足など幾つかの欠点が指摘できるが、＜継続＞できたことでよしと考えている。

活動そのものでアピールすると同時に、補助的にさまざまなメディアを使ってアピールすることが大切である。また、そうすることによって、自分自身を見詰め直すことができる。

(ア) 平常期間

①おもしろビデオ館

AVライブラリーに所蔵されているたくさんのビデオ・ソフト（映像作品）の中から、特定のテーマを決めて選び出し、音楽スタジオBで大型（40インチ）のテレビで上映している。1～5人の小人数でベースに入って視聴するのではなく、小学校の教室程度のスペースでみんなで視聴する方法をとっている。

ビデオ・ソフト—視聴者という单一の関係で終わるのでなく、視聴者—ビデオ・ソフト—視聴者、というビデオ・ソフトを仲介とした複数の関係を作り出し、新しいコミュニケーションを産み出すことができれば、と考えている。

映像作品を見た（見せた）ことで終わるのでなく、見た（見せた）ことから始まる、という考え方で子どもと映像（作品）の関係を作り上げていきたいと考えている。

作品の選定に際しては、タイトルが知られていないなどの理由で視聴される回数の少ないもので、子ども向けの映像作品として優れていると思われるものを1つの基準にしている。

しかし、平日（おもしろビデオ館は金曜日の午後）の来館児・者は幼児連れの親子が多く、作品選びが難しくなっている。幼児のために考慮された映像作品が少ない（少なくとも日本には）からである。興味を引いて最後まで飽きずに見ることができるような見せ方の工夫はもちろん、たくさんの作品を見てよいものを選び出す努力をしなければならない。そのためには、専門職として映像に対する＜知識＞をしっかりと身に付けていく必要がある。

III 各部の活動(1)

映像（作品）を子どもたちに＜見せる＞という、至極簡単にみえることが、実は非常に難しいということを痛感している。

② わいわいスタジオ

音楽事業部と協力して実施している。毎月1回程度、AV事業部が企画を担当している。63年度は「チャレンジ・ザ・インフォビジョン」と「しねまていく」の2つのプログラムを中心に行った。

オリジナル・ソフトである「インフォビジョン」は、コンピュータでコントロールしているため、基本的にはAVライブラリーでしか視聴できないが、そのPRと活用を考え、集団で視聴できるように工夫して、マニュアル操作で実施した。

取り上げた作品は『日本全国鉄道の旅』と『ばくらの東京探検』の2つ。説明や解説・解答などの動画部分をコース別に収録したビデオ・テープを数本用意しておき、会場の選択結果に合わせてデッキに装着する。出題等の静止画はテロップを用意しておいて、画面を切り替えて映し出す。全体の進行は司会者が担当し、会場の意見を聞いたり、まとめたりする。

小グループに分けて対抗戦形式で進行させたりしてショー・アップを図った。映像を使った「クイズ」とあって、小学生等には好評だったが、幼児には少し難しいようだった。来館児・者が低年齢化するに伴って、内容を再検討せざるを得ず、年度後半は実施していない。

幼児が喜ぶプログラムを開発したとしても、今度は小学生等が物足りなさを感じるようになり、多様な来館児・者層に対応することができなくなる。0歳から18歳までの幅広い＜児童＞を対象とする、「こどもの城」の宿命といえる。

「しねまていく」は、夏休み特別期間にレーザー・ディスクで上映した「おもしろビデオ館—カナダアニメーション傑作選」（協力=カナダ大使館、パイオニア・レーザーディスク（株））の延長線上に位置付けられるもので、カナダ大使館の協力を得て実施した。

カナダ大使館には、カナダ国立映画庁（NFB）の優れたアニメーション作品が置いてある。さまざまな技法を駆使して、「言葉」がなくても理解できるように作られた作品がいっぱいある。

＜テレビ・アニメ＞しか知らない日本の子どもたちが、ふだん目につくことのないこれらのアニメーションに触れることが意味は大きいと考えている。子どもたちは真剣なまなざしでスクリーンに見入る。おとなだから理解できないような作品でも、＜動き＞やくひかりと、かけ＞という映画本来のおもしろさを十二分に理解し楽しんでいってくれる。

子どもたちが知っている映像の世界と違った、もう1つ別の映像の世界があることを知って欲しいというのが、根っこにある。いろいろなもののが存在を知ってこそ、初めて主体的に選択もできるのではなかろうか。

③ ぱたぱたアニメをつくろう

土曜日夕方の定番プログラムとして、今年度も昨年度と同様に実施した。ここでも、低年齢化の傾向が現れていて、危機感を抱いている。このプログラムの下限は、自分が描いたもの（模様でもよい）がテレビに映し出されたとき、それと分かることに置いているが、それ

すらおぼつかなくなりそうな気配がある。

プログラムに変化を持たせるために、家でもできる「くるくるアニメ」というプログラムを待ち時間に指導してみたりして、内容の充実に努めている。

④ マックTV こどもの城情報局

館内テレビを使って、来館児・者に催事情報を提供した。情報提供の方法を全館的に検討しようという動きもあり、今年度は目新しい試みはしなかった。

⑤ 映像の記録・制作

映像の記録・制作は多方面にわたるが、大きく分けると来館児・者へのPR用のCM作りと、活動のための＜道具・手段＞としての映像作り、文字どおりの記録作りに分けられる。

「子どもの城」の催し物のPRの方法の1つとして、映像（ビデオ）の利用がある。館内案内テレビを通して、全館に流す場合（主に、マックTV こどもの城情報局）と、会場の入り口等でスタンド・アローン型で繰り返し流す場合の大きく2つの方法がある。

どちらにしても、映像（ソフト）を制作しなければならない。催し物の内容、対象、そして使い方（事前のPRか当日のPRなのか、等）などの打ち合わせを十分にしたうえで、制作に当たっている。

今年度も、特別期間の全館行事（「でっかい夏みつけた」「くもの巣城たんけん」など）のCMや季節行事（「神出鬼没 鬼たいじ」「ひなまつり」など）のCMのほかに、造形事業部の「遊びと造形発想展」のCMなどを制作した。

また、劇場事業部からの依頼で、夏休み自主公演「トラや帽子店」のCMも制作。前売り期間中、館内案内テレビで放送した。

活動のための＜道具・手段＞としての映像には、グループ活動プレイプログラム「宇宙冒険旅行」用のものがある。地球を出発して宇宙へ飛び出すときに使われる、一種の場面転換のためのバック・グラウンド・ビデオ（BGV）である。ほかにも、冬休みの音楽プログラム「東西対抗ゲーム大会」で使われたくひらがなルーレットの映像、わいわいスタジオ「お話劇場」用のスライド制作などがある。

記録としては「グループ活動のシミュレーションの記録」「光と造形展の作品の記録」制作のほかに、研修教養部の「ジュニア・アウト・ドア・スクール」「ジュニア・スキー・キャンプ」のビデオ記録制作の指導と編集を担当した。

各事業部の活動記録については原則として、それぞれの事業部にお願いしたい、というのが我々の基本的な考え方で、それが限られたマン・パワーを有効に使う方法であると考えている。したがって部内の記録については、器材を貸し出し、撮影や編集について指導するという形をとっている。ビデオ・カメラの内部貸し出しあは、長期も含めて18回。

また、種々の活動で使うマイクやモニターTV、ビデオ・デッキについても、こちらの活動に支障のない限り、その用途を聞いて使用しやすい形を考えたうえで貸し出している。映像に関することは、「子どもの城」のなかの専門部署として、可能な限りのアドバイスを心がけている。各種器材の内部貸し出しあは約50回を超えていている。

(ウ) 特別期間

特別期間のプログラムは、3つの考え方で企画されている。1つは平常期間活動の延長線上に位置付けられる、集大成的なもの。1つは、平常期間にシフトできる新しいプログラムを志向するもの。もう1つは、特別期間ならではのものである。

実際のプログラムはこれらのものが複合している。例えば、「AVアニメーションフェスタ」は、アニメーション作家を招いて話を聞いたり、実演してもらったりという特別期間ならではの要素もあるし、〈視覚玩具〉の展示は、造形事業部と共同で行っているクリエイティブクラブ「アニメ体験」等の新しいプログラム作りに貢献している。そして、この催し全体を「ぱたぱたアニメをつくろう」の延長線上に位置付けることができる。

① ぱたぱたアニメをつくろう

基本的には土曜日のプログラムを拡大したもの。〈驚き盤〉などの視覚玩具を同時に展示するなど、内容的な充実も図っている。春休み、夏休み（AVアニメーションフェスタの一部として実施）、冬休みの各特別期間に実施した。

② AVアニメーションフェスタ（8.20・21）

今年度が3回目。高校生のアニメーション作品（8ミリ映画）の上映、アニメーション作家の石田卓也氏を招いての上映会、映像作家の峰岸恵一氏を招いて「びかぴかスコープ」（ストロボ・ライトを利用した視覚玩具の一種）のワークショップ、映像作家の岩井俊雄氏の作った「プラキシノスコープ」「立体ゾートロープ」「驚き盤」「フリップ・ブック」の展示、そしてぱたぱたアニメつくりという内容。〈動かないもの〉が〈動く〉という、アニメーション（動画）の基本的な仕組みを体験的に理解できるよう、プログラムを組んだ。

高校生の作品上映については、いろいろな意見もあろうが、彼らの創造的な営為の結果である作品の発表の場が少ないこと、〈作る〉ことの熱意にあふれた作品が多数あること、そして何よりも「こどもの城」が高校生を含む〈児童〉の健全育成の創造的な場であることを考慮すると、意義あるものと考えている。今年度も10校から14本の作品が集まった。

〈見る〉から〈作る〉への流れを意図したAVアニメーションフェスタは、その個別の方法論については、検討の余地があろうが、方向としては、間違っていないと確信している。

(エ) 講座・クラブ

今年度も母と子を対象とした「母と子のビデオ教室」と同教室の修了者を対象とした「ファミリー・ビデオ・クラブ」の2つを実施した。また、造形事業部と一緒にクリエイティブ・クラブ「アニメ体験」を開講した。

「母と子のビデオ教室」は、定員8組に対して4組、6組、0組という状況で、決して盛況とはいえないかった（第3期は開講しなかった）。「ファミリー・ビデオ・クラブ」は2組、4組、5組だった。

継続している人は器材の扱いにも慣れ、家で撮影してきたものを手際よく編集していた。ハイキングや遠足のときのビデオをタイトルや音楽、ナレーションをつけて編集し、一緒に行った人に分けてあげたりする人、自転車の練習に取り組む様子と誕生日のプレゼントに買っ

てもらった自転車をうれしそうに見詰める姿を記録する人——思い思いに子どもが成長する様子をビデオに記録している。

以前受講していた人から、ある日電話があった。「入賞したんです」「何が?」「以前そちらで作ったビデオを区のコンテストに出したら、入賞したんです」。とてもうれしそう。講座に来なくても、継続してビデオを撮影している。うれしい電話だった。

夏休みには、保育クラブ会員を対象とした「母と子のビデオ教室」も開催した。

「アニメ体験」は、62年度の第2期(9~12月)に試行的に実施したものを踏まえ、3期に分けて年間を通して行った。継続して受講する子どもが多く、第2期は7人中6人が継続者だった。第3期は、指導内容が掛け離れてしまうため、継続者のみとした。対象は小3~高3。第1期の作品集は「ビデオ・キャパ」という雑誌のビデオによるアニメコンテストで入賞した。

子どもたちの作品は、長いものでも1分程度だが、どれもが子どもらしいユニークな発想で作られている。男の子は「たたかい」や「宇宙」をテーマにしたものが多く、女の子は「いきもの」や「女の子」がでてくるものが多かった。いずれの登場キャラクターも、(動かないものだけでも)生き生きと動き回って見える。

バックの効果音や音楽も、それぞれの子どもが独自のしっかりとした考えを持っていて、妥協することなく納得するまで考え方抜いていた。機会(場所)さえ与えれば、子どもたちは映像で表現する力を持っている。その力は、むしろおとな以上かもしれない。

(オ) グループ活動

グループ活動の基本は、プログラム活動と考えている。単なる施設利用でなく、一定のプログラム(指導内容)を持ったものをグループで来館した子どもたちに提供すること、という考え方だ。異論はあるかもしれないが、我々はこのように考えている。

今年度用意したプログラムは「ぱたぱたアニメをつくろう」「フィルムに絵を描いて映してみよう」「チャレンジ・ザ・ビデオ」の3つ。前二者は幼児から、後者は小学校高学年からを対象としている。小学校の利用が少ないため「チャレンジ……」を実施する機会が少ないが、体験した子どもたちには好評である。

子どもたちの感想を、原文のまま紹介しよう。

「初めて自分でビデオカメラを持ち写さしてもらい、とてもウキウキとして、うれしかったです。また、ふ通では体験できないような、とつげきインタビューをしてみたり、されたり、ただのしりとりではなく、アイデアのある、楽しいしりとりをしたりして、とても、楽しくてよかったです」(6年・女)

「家に帰ると、すぐビデオカメラを出して、こどもの城でやった『しりとり』をやりました。とったあとみんなで見たらとてもおもしろくて何回もやりました」(6年・男)

「がっこうでビデオをつかうとき、先生がだしていて学校のビデオは、AVのときのカメラとおなじなので『ぼくわかるよ』と、ついいいってしまいました」(6年・男)

III 各部の活動(1)

分類別視聴回数・番組数

(63年度)

| 分類 | | 回数 | 比% | 番組数 | 比% |
|----|--------------|-------|------|-----|------|
| 01 | こどもの城オリジナル作品 | 176 | 0.23 | 28 | 0.61 |
| 02 | インフォビジョン | 1,515 | 1.95 | 8 | 0.18 |
| 03 | 青山劇場・円形劇場 1 | 863 | 1.11 | 131 | 2.87 |
| 04 | 青山劇場・円形劇場 2 | 73 | 0.09 | 80 | 1.75 |
| 06 | 日本アニメフェスティバル | 1,650 | 2.13 | 133 | 2.91 |
| 小計 | | 4,277 | 5.52 | 380 | 8.33 |
| 11 | 天文学と宇宙 | 313 | 0.40 | 31 | 0.68 |
| 12 | 地球の科学 | 69 | 0.09 | 26 | 0.57 |
| 13 | 物体の運動 | 16 | 0.02 | 11 | 0.24 |
| 14 | 電気・音・光 | 56 | 0.07 | 24 | 0.53 |
| 15 | 化学 | 20 | 0.03 | 10 | 0.22 |
| 16 | 数の科学 | 21 | 0.03 | 13 | 0.28 |
| 17 | 気象 | 38 | 0.05 | 13 | 0.28 |
| 小計 | | 533 | 0.69 | 128 | 2.81 |
| 21 | 生物全体 | 23 | 0.03 | 11 | 0.24 |
| 22 | すごく小さな生き物 | 7 | 0.01 | 2 | 0.04 |
| 23 | 水の中の生き物 | 251 | 0.32 | 29 | 0.64 |
| 24 | 哺乳動物 | 841 | 1.08 | 70 | 1.53 |
| 25 | 鳥・へび・かえるの仲間 | 148 | 0.19 | 36 | 0.79 |
| 26 | 昆虫 | 259 | 0.33 | 36 | 0.79 |
| 27 | 植物 | 30 | 0.04 | 24 | 0.53 |
| 28 | 生態系 | 5 | 0.01 | 5 | 0.11 |
| 29 | その他／生物 | 101 | 0.13 | 28 | 0.61 |
| 小計 | | 1,665 | 2.15 | 241 | 5.28 |
| 31 | 世界 | 68 | 0.09 | 81 | 1.78 |
| 32 | 世界の歴史 | 31 | 0.04 | 4 | 0.09 |
| 33 | アメリカ大陸 | 124 | 0.16 | 22 | 0.48 |
| 34 | 中国 | 63 | 0.08 | 20 | 0.44 |
| 35 | アジア・オセアニア | 77 | 0.10 | 12 | 0.26 |
| 36 | アフリカ | 15 | 0.02 | 3 | 0.07 |
| 37 | ヨーロッパ・ソビエト | 83 | 0.11 | 19 | 0.42 |
| 38 | 世界の文学 | 70 | 0.09 | 18 | 0.39 |
| 小計 | | 531 | 0.68 | 179 | 3.92 |
| 41 | 日本の歴史 | 135 | 0.17 | 35 | 0.77 |
| 42 | 昭和の歴史 | 50 | 0.06 | 27 | 0.59 |
| 43 | 日本の自然と旅 | 64 | 0.08 | 34 | 0.75 |
| 44 | 日本の風俗 | 9 | 0.01 | 25 | 0.55 |
| 45 | 日本の文化 | 9 | 0.01 | 24 | 0.53 |
| 47 | 産業 | 18 | 0.02 | 20 | 0.44 |
| 49 | その他／日本 | 4 | 0.01 | 3 | 0.07 |
| 小計 | | 289 | 0.37 | 168 | 3.68 |
| 51 | あそびとおもちゃ | 441 | 0.57 | 73 | 1.60 |
| 52 | 趣味 | 71 | 0.09 | 76 | 1.67 |
| 53 | 芸能 1 落語 | 96 | 0.12 | 53 | 1.16 |
| 54 | 芸能 2 | 50 | 0.06 | 35 | 0.77 |
| 55 | 福祉と健康 | 23 | 0.03 | 34 | 0.75 |
| 56 | 看護と性 | 55 | 0.07 | 38 | 0.83 |

| | | | | | |
|----|---------------|--------|--------|-------|--------|
| 57 | 発達と保育 | 27 | 0.03 | 36 | 0.79 |
| 58 | 人々の生活 | 15 | 0.02 | 10 | 0.22 |
| 59 | おかあさんの勉強室 | 203 | 0.26 | 27 | 0.59 |
| | 小計 | 981 | 1.27 | 382 | 8.37 |
| 60 | 童謡 | 166 | 0.21 | 23 | 0.50 |
| 61 | 音楽 | 52 | 0.07 | 28 | 0.61 |
| 62 | クラシック音楽 | 160 | 0.21 | 61 | 1.34 |
| 63 | ロック・ポップス1 | 281 | 0.36 | 54 | 1.18 |
| 64 | ロック・ポップス2 | 278 | 0.36 | 44 | 0.96 |
| 65 | ジャズ | 34 | 0.04 | 25 | 0.55 |
| 66 | 日本の音楽1・ソロ | 1,037 | 1.34 | 90 | 1.97 |
| 67 | 日本の音楽2・グループ | 561 | 0.72 | 49 | 1.07 |
| 68 | その他／音楽 | 56 | 0.07 | 25 | 0.55 |
| 69 | 美術と工芸 | 44 | 0.06 | 84 | 1.84 |
| | 小計 | 2,669 | 3.44 | 483 | 10.59 |
| 71 | 海・山のスポーツ | 149 | 0.19 | 39 | 0.85 |
| 72 | 球技 集団 | 347 | 0.45 | 46 | 1.01 |
| 73 | 球技 個人 | 55 | 0.07 | 22 | 0.48 |
| 74 | 器械体操 | 10 | 0.01 | 9 | 0.20 |
| 75 | 武道・格闘技 | 135 | 0.17 | 17 | 0.37 |
| 76 | 海と空のり物 | 242 | 0.31 | 20 | 0.44 |
| 77 | 陸のり物 | 1,794 | 2.31 | 50 | 1.10 |
| 78 | 宇宙のり物 | 239 | 0.31 | 9 | 0.20 |
| 79 | その他／スポーツ・のり物 | 140 | 0.18 | 7 | 0.15 |
| | 小計 | 3,111 | 4.01 | 219 | 4.80 |
| 80 | ディズニー・アニメ | 9,469 | 12.21 | 198 | 4.34 |
| 81 | アニメ1 童話 | 4,992 | 6.44 | 246 | 5.39 |
| 82 | アニメ2 名作アニメ | 2,011 | 2.59 | 309 | 6.77 |
| 83 | アニメ3 昔話／歴史 | 2,150 | 2.77 | 92 | 2.02 |
| 84 | アニメ4 マンガ | 14,872 | 19.18 | 223 | 4.89 |
| 85 | アニメ5 宇宙SFマンガ | 2,544 | 3.28 | 164 | 3.59 |
| 86 | アニメ6 スポーツマンガ | 1,438 | 1.85 | 93 | 2.04 |
| 87 | アニメ7 少女向マンガ | 5,394 | 6.96 | 54 | 1.18 |
| 88 | アニメ8 長編 | 820 | 1.06 | 92 | 2.02 |
| 89 | その他／アニメ | 645 | 0.83 | 80 | 1.75 |
| | 小計 | 44,335 | 57.19 | 1,551 | 33.99 |
| 90 | 特撮 TV1 海外 | 219 | 0.28 | 60 | 1.31 |
| 91 | 特撮 TV2 ウルトラマン | 11,715 | 15.11 | 131 | 2.87 |
| 92 | 特撮 TV3 変身ヒーロー | 2,912 | 3.76 | 131 | 2.87 |
| 93 | 特撮 TV4 時代劇・妖怪 | 822 | 1.06 | 81 | 1.78 |
| 94 | 特撮 TV5 その他 | 1,920 | 2.48 | 138 | 3.02 |
| 95 | 映画1 特撮 | 426 | 0.55 | 66 | 1.45 |
| 96 | 映画2 童話 | 89 | 0.11 | 25 | 0.55 |
| 97 | 映画3 その他 | 147 | 0.19 | 47 | 1.03 |
| 98 | 外国語1 子供向け | 856 | 1.10 | 124 | 2.72 |
| 99 | 外国語2 その他 | 32 | 0.04 | 29 | 0.64 |
| | 小計 | 19,138 | 24.68 | 832 | 18.23 |
| | 合計 | 77,529 | 100.00 | 4,563 | 100.00 |

注：(1) これまで、3月のデータで比較していたが、平成1年3月はアニメフェスがあり、年間の視聴傾向とかなり異なるので年間の合計とした。

(2) この表の視聴回数は申し込み数ではなく、実際にブースで視聴された数

6 保育研究開発部

III 各部の活動(1)

(1) 63年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

| 曜日 時間 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|----------|---------------------|--------------------|-------------------|-------------------|-------------------|----------------|
| 10:00 | | | | | | |
| 11:00 | 幼児保育室 グループ ラク | 母子教室 グループ ララ | 保育室 グループ ララ | 保育室 グループ ララ | 保育室 グループ ララ | 授乳室 親育の一般開放 |
| 12:00 | | | | | | |
| 13:00 | | | | | | |
| 14:00 | | | | | | |
| 15:00 | | | | | | |
| 16:00 | | | | | | |
| 17:00 | | | | | | |
| 18:00 | | | | | | |

6 保育

2) 平常期間プログラム

| 名 称 | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 要 員 | 備 考 |
|------------|---|------------------------------------|-------|-----|-----|
| 保育室IIの一般開放 | 4.1～ 平1.3.31 (毎土・日 曜日・祝祭 日、及びこ どもの城特 別期間) | 10:00～ 17:00 | 保育室II | 職員 | |
| 親子イベント | 毎月最終日 曜日 | 14:00～ 14:30 15:00～ 15:30 | 同上 | 同上 | |
| 授乳室 | 毎日曜日及 び祝祭日 | 10:00～ 17:00 | 保育室 I | 同上 | |

3) 特別期間プログラム

| 名 称 | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 要 員 | 備 考 |
|--|--------------------|------------------------------------|-------|--------------------------------|-----|
| <春休み> 親子であそぼう春がきた | 4.1～4 | 13:30～ 14:00 15:00～ 15:30 | 保育室II | 職員 | |
| <児童福祉週間> 親子シアター | 5.3・4・5 | 13:00～ 13:30 15:00～ 15:30 | 同上 | 大妻女子大学パ ネルシアター同 好会 職員 | |
| <夏休み> 親子で遊ぼう | 7.24・31 8.14・28 | 13:00～ 13:30 14:50～ 15:20 | 同上 | 職員 | |
| <同上> おやつの実演会 | 8.7・21 | 14:00～ 14:30 | 同上 | 同上 | |
| <同上> 夏まつりゲーム「ボール コロコロ」 | 8.21 | 14:30～ 17:30 | ふしきが丘 | 同上 | |
| <冬休み> 親子できこう たのしい お話 (クリスマス会) | 12.24 | 14:00～ 14:30 | 保育室II | 同上 | |
| 親子であそぼう | 12.25・1.3 | 14:00～ 14:30 15:00～ 15:30 | 同上 | 同上 | |

III 各部の活動(1)

| 名 称 | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 要 員 | 備 考 |
|----------------|--------------|-------------------------------------|------------|---|---------------------|
| 第2回こどもの城保育セミナー | 8.23 | 10:00 ~ 16:30 | 青山円形劇場 | 巷野悟郎氏 キャシー中島氏 テリー・スザン氏 中尾敬子氏 船越智行氏 大場幸夫氏 職員 | 保育者対象。参加費 6,000 円 |
| 保育クラブフェスティバル | 7.16 3.10 | 10:30 ~ 11:50 10:30~ 11:30 | 体育室 研修室 | 保育・プレイ職員 成田和夫氏 職員 | 保育クラブ会員対象。参加費 500 円 |

4) 講座・クラブ

| 名 称 | 対 象 | 人 数 | | 曜 時 | 日 間 | 場 所 | 期 間 回 数 | 料 金 | 講 師 等 | 備 考 |
|---------------------------|-----------|----------------|----------------|--------------------------|---|---|---|--------------------------------|--|-----|
| | | 定 員 | 受講数 | | | | | | | |
| 保育クラブ | 1~5歳 | (人) 一 | (人) 562 | 火~土曜日 | 保育室 I II | 年間 240日 | (円) 1~2歳 900/時間 3~5歳 700/時間 | 各部職員 | 単位時間当たりの定員 1~2歳 12人 3~5歳 10人 1~5歳 10人 | |
| 幼児グループ | 4・5歳 | 20 | 17 | 火~金曜日 10:00~ 14:00 | 保育室 I 造形スタジオ 音楽スタジオ プール プレイホール ほか | 63.4.8 ~8.20 9.1 ~12.23 平成1.11 ~3.20 | 32,000/ 月 | 同上 | | |
| 母子教室 11期 12期 13期 | 1歳児 母子 | 12 12 12 | 12 12 13 | 火曜日 10:30~ 12:30 | 保育室 II | 3か月 12回 | 27,000 | 巷野悟郎氏 上野光子氏 永井千恵子氏 職員 | | |

(2) 保育研究開発部の活動

63年度保育研究開発部の事業活動は、平常事業として、母子教室、保育クラブ、幼児グループの活動を前年度からの課題点を踏まえながら行った。特に2・3歳児を中心として、保育に対する関心、需要は高く、主として在宅の母の育児上の悩みや迷い、都市型の生活環境の中での活動の制限や遊び場の不足などが目立ち、今日の幼児と家庭の抱えている問題点、それに対するプログラムの在り方について問題点がはっきりしてきた。

特別期間や日曜・祝祭日には一般来館者に保育室を開放したり、親子イベントプログラムを実施した。また、保育室を授乳室としても提供した。

研修事業としては、前年度に引き続き第2回1日保育セミナーを円形劇場で実施した。

1) 母子教室

1・2歳の母子を対象とした母子教室は、グループ人数を昨年の15組から12組に減らし、

表1 母子教室プログラム（第13期）

| 回 | 月 日 | テーマ（講師一敬称略一） | 会場 |
|----|----------|---|-------|
| 1 | 1. 10(火) | お母さんと遊ぼう (1) オリエンテーション 保育研究開発部 | 保育室II |
| 2 | 1. 17(火) | お母さんと遊ぼう (2)～動いて遊ぼう 同上 | 同上 |
| 3 | 1. 24(火) | お母さんと遊ぼう (3)～動いて遊ぼう 同上 | 同上 |
| 4 | 1. 31(火) | お母さんと遊ぼう (4)～粘土で遊ぼう 同上 | 同上 |
| 5 | 2. 7(火) | お母さんと遊ぼう (5)～紙で遊ぼう 同上 | 同上 |
| 6 | 2. 12(火) | お母さんと遊ぼう (6)お父さんの子育て講座 保育研究開発部 プレイ事業部長 神谷明宏 | 同上 |
| 7 | 2. 14(火) | お母さんの手作り人形 保育研究開発部 | 同上 |
| 8 | 2. 21(火) | 子育て談義 同上 | 同上 |
| 9 | 2. 28(火) | 子どもの栄養 雪印乳業管理栄養士 上野光子 | 同上 |
| 10 | 3. 7(火) | 家庭と教育 青山学院大学教授 永井千恵子 | 同上 |
| 11 | 3. 12(日) | 子育てを考える 小児保健部長 川野悟郎 | 保健室II |
| 12 | 3. 24(火) | お別れパーティー —みんなで遊ぼう！— 保育研究開発部 | 同上 |

III 各部の活動(1)

プログラムの回数を12回に増やすことで、スタッフと参加メンバーのかかわりや母親同士のかかわりをより深める展開を試みた。スタッフと母親との面談や、医師らによる講義、コミュニケーションゲームなどの実技や母子遊び、毎回のプログラムに組み込まれたおやつのメニューなどを通じて、参加した母親が、それぞれの母子関係や子どもの理解について、いろいろな角度から見つめ直し、考え、感じとるきっかけをつかめるように配慮した。母子教室終了後は保育クラブの会員として受け入れ、アフターフォローをする中で母子教室で作られた関係を維持するよう働きかけた。

2) 保育クラブ

前年度の活動実施状況を見ると、午後5時30分以降の利用者が非常に少なく、あっても1人という状態だったため、活動時間帯を10時～5時30分に変更した（前年度は10時～6時）。会員は前年度から更新した397人に新規の会員165人を加えて562人となった。集団あそびの場として継続的に保育参加を希望する会員が多く、前年度の6か月、3か月の2

表2 保育クラブ活動状況

(1) 居住地域分布

| | | 会員全体 | | 利 用 者 | | | | 会員全体 | | 利 用 者 | | |
|------|---------|------|------|-------|------|-----------|---------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 都道府県 | 市 区 | 人 数 | % | 人 数 | % | 都道府県 | 市 区 | 人 数 | % | 人 数 | % | |
| 東京都 | 港 区 | 97 | 17.3 | 56 | 17.6 | 東京都 | 葛 館 区 | 2 | 0.4 | 1 | 0.3 | |
| | 渋 谷 区 | 79 | 14.1 | 45 | 14.2 | | 江 戸 川 区 | 1 | 0.2 | 0 | 0.0 | |
| | 世 田 谷 区 | 88 | 15.7 | 49 | 15.4 | | 荒 川 区 | 1 | 0.2 | 0 | 0.0 | |
| | 目 黒 区 | 42 | 7.5 | 23 | 7.2 | | 中 野 区 | 9 | 1.6 | 8 | 2.5 | |
| | 新 宿 区 | 12 | 2.1 | 9 | 2.8 | | 墨 田 区 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | |
| | 大 田 区 | 24 | 4.3 | 17 | 5.3 | | 練 馬 区 | 3 | 0.5 | 2 | 0.6 | |
| | 品 川 区 | 13 | 2.3 | 6 | 1.9 | | 2 3 区 外 | 24 | 4.3 | 10 | 3.1 | |
| | 杉 並 区 | 14 | 2.5 | 6 | 1.9 | | 神奈川県 | 川 崎 市 | 13 | 2.3 | 5 | 1.6 |
| | 台 東 区 | 7 | 1.2 | 2 | 0.6 | | 横 浜 市 | 21 | 3.7 | 13 | 4.1 | |
| | 千 代 田 区 | 23 | 4.1 | 19 | 6.0 | | その他の市 | 11 | 2.0 | 4 | 1.3 | |
| | 板 橋 区 | 8 | 1.4 | 2 | 0.6 | 静 岡 県 | | 2 | 0.4 | 2 | 0.6 | |
| | 豊 島 区 | 2 | 0.4 | 2 | 0.6 | 千 葉 県 | | 12 | 2.1 | 4 | 1.3 | |
| | 江 東 区 | 10 | 1.8 | 6 | 1.9 | 茨 城 県 | | 3 | 0.5 | 2 | 0.6 | |
| | 中 央 区 | 6 | 1.1 | 6 | 1.9 | 埼 玉 県 | | 5 | 0.9 | 4 | 1.3 | |
| | 北 区 | 3 | 0.5 | 2 | 0.6 | そ の 他 の 県 | | 9 | 1.6 | 2 | 0.6 | |
| | 足 立 区 | 2 | 0.4 | 1 | 0.3 | 合 計 | | 562 | 100.0 | 318 | 100.0 | |
| | 文 京 区 | 16 | 2.8 | 10 | 3.1 | | | | | | | |

6 保 育

(2) 性別・年齢分布 (%)

| | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 合計 |
|----|--------------|---------------|---------------|---------------|-------------|------------|----------------|
| 男児 | 35 (6.2) | 78 (13.9) | 71 (12.6) | 67 (11.9) | 29 (5.2) | 0 (0.0) | 280 (49.8) |
| 女児 | 29 (5.2) | 87 (15.5) | 87 (15.5) | 58 (10.3) | 21 (3.7) | 0 (0.0) | 282 (50.2) |
| 合計 | 64 (11.4) | 165 (29.4) | 158 (28.1) | 125 (22.2) | 50 (8.9) | 0 (0.0) | 562 (100.0) |

(3) 利用頻度 (%)

| | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 合計 |
|-------------|---------------|----------------|----------------|----------------|---------------|------------|----------------|
| 一度も利用していない | 21 (32.8) | 47 (28.5) | 62 (39.2) | 84 (67.2) | 30 (60.0) | 0 (0.0) | 244 (43.4) |
| 今まで数回利用している | 17 (26.6) | 66 (40.0) | 63 (39.9) | 33 (26.4) | 18 (36.0) | 0 (0.0) | 197 (35.1) |
| 月1回以上利用している | 23 (35.9) | 36 (21.8) | 15 (9.5) | 5 (4.0) | 2 (4.0) | 0 (0.0) | 81 (14.4) |
| 週1回以上利用している | 3 (4.7) | 16 (9.7) | 18 (11.4) | 3 (2.4) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 40 (7.1) |
| 合計 | 64 (100.0) | 165 (100.0) | 158 (100.0) | 125 (100.0) | 50 (100.0) | 0 (0.0) | 562 (100.0) |

(4) 利用目的 (%)

| | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 合計 |
|---------|----------------|------------------|------------------|----------------|---------------|------------|------------------|
| 集団保育 | 249 (39.2) | 1,069 (53.6) | 1,178 (59.7) | 140 (34.1) | 31 (35.6) | 0 (0.0) | 2,667 (52.3) |
| 緊急時 | 4 (0.6) | 13 (0.7) | 10 (0.5) | 10 (2.4) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 37 (0.7) |
| 就労・就学 | 155 (24.4) | 395 (19.8) | 461 (23.4) | 198 (48.3) | 21 (24.1) | 0 (0.0) | 1,230 (24.1) |
| 用事 | 177 (27.8) | 420 (21.1) | 291 (14.8) | 61 (14.9) | 35 (40.2) | 0 (0.0) | 984 (19.3) |
| 講座・サークル | 51 (8.0) | 91 (4.6) | 32 (1.6) | 1 (0.2) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 175 (3.4) |
| 保育相談 | 0 (0.0) | 6 (0.3) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 6 (0.1) |
| その他 | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) |
| 合計 | 636 (100.0) | 1,994 (100.0) | 1,972 (100.0) | 410 (100.0) | 87 (100.0) | 0 (0.0) | 5,099 (100.0) |

III 各部の活動(1)

歳児グループの実践の結果を踏まえて、今年度は3か月間の定期的・継続的な予約ができる方法を試み、そのメンバーに、日々予約をする不定期メンバーを統合したグループ編成による保育を行った。

また、午後の時間帯のプログラムの充実を図るため、曜日ごとに「つくってあそぼう」「おはなしの世界」「うごいてあそぼう」などテーマを設けたり、家庭的な雰囲気を大切にしたプログラム展開を工夫したりして午後の活動の活性化に努めた。

更に多様な保育ニーズを踏まえて、午前から午後にかけて両方の活動に参加する長時間プログラムの開発を試みようとしたが、子どもの疲労の問題、午後から受け入れる子どもと、午前から延長して受け入れる子どもが混在する状態での活動の展開などに多くの問題点を感じられた。

受け入れ方法やプログラム内容の工夫に伴い、保育クラブの利用率は高くなった。しかし、親の用件や都合が優先して、子どもに負担がかかっているのではないか、と思われる場面も目立つようになり、これは次年度への課題として残された。

親子参加プログラムとして野外での活動、伝統行事にちなんだ活動や親子あそび、ゲストを迎えての保育フェスティバルの催しを行い、会員の親子が多数參加した。

また、年4回「保育通信」を発行し、「子どもの城」や保育クラブの情報、子どもの姿からとらえた育児情報などについて全会員に伝えた。このほか、心理専門の職員による保育相談を行うなど、保育クラブは家庭育児を援助する機能を充実していくことに留意して活動を展開した。

3) 幼児グループ

前年度から継続した5歳児10人、保育クラブからの新規登録児を加えた4歳児7人の計17人のグループ編成で活動を行った。主として3歳児の保育クラブメンバーを10~13人統合して、前年度に引き続き5階保育室、プレイルーム、屋上での活動を中心に、プール、造形、音楽などの活動を織り込みながら展開した。

保育クラブの3歳児は曜日を決めて定期的に予約をするメンバーが増えて、幼児グループの4・5歳児と保育クラブの3歳児がしだいに顔なじみになっていった。しかし、日によってメンバーが変わるので3歳児の安定がなかなか得られなかったり、4・5歳児と3歳児のかかわりあいが深まり切れないなど、問題点が感じられた。幼児グループは午後2時まで活動するが、保育クラブの午後の受け入れが1時30分に始まるので活動が重なり、4・5歳児が多く活動が活発になってきただけに、スペースの使い方に工夫が必要であった。

63年度は「子どもの城」の中での活動だけでなく、羽田空港の見学や、神奈川県相模原市くぬぎ台保育所を訪問して交流保育をするなど館外活動も積極的に取り入れて、いろいろな人の出会いを広げた。

4) その他の活動

(ア) 第2回こどもの城1日保育セミナー（8. 23）

前年度に引き続き「保育におけるコミュニケーション」のテーマのもとに、今年度は、「親と保育者のコミュニケーション」を取り上げた。

プログラムの内容は、こどもの城小児保健部長巷野悟郎、タレントのキャシー中島両氏による「子育て対談」、大妻女子大学教授大場幸夫氏の司会によるシンポジウム「親と保育者のコミュニケーション」（シンポジストは、千葉市立さつきが丘第1保育所長中尾教子氏、台東区松が谷福祉会館船越智行氏、こどもの城国際交流部長テリー・スザーン、同保育研究開発部長岡本美智子），そして国際的な視点からテリー・スザーン部長による講演と実技を行った。

「こどもの城」の円形劇場を会場として全国各地から108人の参加を得た。親とのかかわりについての問題提起は大きな関心を呼び、活発に意見が交わされたが、1日だけだったため、十分に論議が深まり切らない感じが残った。

(イ) 実践報告

11月26日に開催されたこどもの城小児保健部によるシンポジウム「子どものことばを考える」で保育の実践現場から「子どもの生活のことば」について報告発表を行った（報告者・山田道子）。

また、全国社会福祉協議会主催による全国保育研究大会において保育クラブ活動の実践について報告発表を行った（11月30日）。

(ウ) 保育室の開放及び授乳室の設置

前年度に引き続き土・日曜日、祝祭日、「こどもの城」の特別期間には、一般来館者のために保育室IIを親子遊びの場として提供した。

また、毎月、最終日曜日及び特別期間に季節感や伝統行事を取り入れ、歌やゲーム、製作遊びなどを組み合わせた親子遊びのプログラムを行った。家族で参加する親子連れも多く、ゲームの中で自己紹介をしたり、大人も童心に戻って和やかなひとときを過ごす姿が多く見られた。

特別期間には行事にちなんだゲームやおやつの実演会を行い、多数の参加を得た。また日曜、祝祭日には保育室Iを授乳室とした。

(参考) 第12期 母子教室おやつの献立

| | |
|----------------|----------------------------------|
| (1) 9, 6 (火) | ロールパン、ツナと卵のサラダ、フルーツポンチ |
| (2) /13 (火) | しそ風味スパゲティ、チーズはんぺん、ポテトサラダ、ヨーグルトあえ |
| (3) /20 (火) | ひじきごはん、ささみの黄金揚げ、ごまあえ、果物 |
| (4) /27 (火) | カレー炒めうどん、スティックきゅうり、甘煮豆、果物 |
| (5) 10, 4 (火) | おにぎり、鶏肉トマト煮、果物 |
| (6) /18 (火) | すきやき丼、果物 |
| (7) /25 (火) | お子様ランチ |
| (8) 11, 6 (日) | おにぎり、豚汁、果物 |
| (9) /8 (火) | 茶巾ずし、果物 |
| (10) /22 (火) | サンドイッチ、果物 |
| (11) 12, 4 (日) | マーブルケーキ、果物 |
| (12) /13 (火) | ショートケーキ、果物 |

7 小児保健部

III 各部の活動(1)

(1) 63年度活動一覧表

1) 週間事業実施時間

| | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | |
|---------|------------------------------------|---------------|---------------------------|-----------------|--------------------------------|--------------------------------------|----------------------------|
| 9:00 - | | | | | | | |
| 10:00 - | 総合健康相談 （月1回） せんそく相談 （月1回） | マタニティ・スイミング | ミーティング ケース・カン ファラנס | 言語相談 総合健康新相談 | マタニティ・スイミング 心理相談 総合健康新相談 | 育児・生活相談（健診日） 精神相談（月1回） 総合健康新相談 | 心理相談 総合健康新相談 ダウントミック |
| 11:00 - | | | | | 総合健康新相談 | 精神相談（月1回） 総合健康新相談 ダウントミック | |
| 12:00 - | | | | | | | |
| 13:00 - | マタニティ 心理相談 | マタニティ 心理相談 | 発達育児・生活相談 総合健康新相談 | 言語相談 発達相談 | 心理相談 総合健康新相談 | 心理相談 総合健康新相談 ダウントミック | |
| 14:00 - | | | | | | | |
| 15:00 - | | | | | | 健康スポーツ教室 肥満児クラス | |
| 16:00 - | | | | | | | |
| 17:00 - | | | | | | | |
| 18:00 - | | | | | | | |

7 小児保健

2) 特別期間プログラム

| 名 称 | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 要 員 | 備 考 |
|--|---------------------------------|--------------------|----------------|--|--|
| <児童福祉週間> 子育て相談コーナー | 4.29, 5.3・5 | 13:30～16:00 | 小児保健部 | 二木武・巷野悟郎氏ほか職員 | 相談件数 5件 |
| <夏休み> 子育て相談コーナー | 7.23・24・30・31 8.6・7 27・28 | 13:30～16:00 | 同上 | 同上 | 相談件数 15件 |
| <同上> こども1日ドック | 7.26・28 | 12:30～17:30 | 小児保健部 健康開発室 | 体育・小児保健職員 | 対象小・中学生 受診=7人 料金 5,000円 血液検査などは実費 |
| <同上> 健康教室集中講座 | 8.25～27 | 14:00～17:00 | 研修室 体育室 | 東京女子医大教授 村田光範氏 和洋女子大教授 坂本元子氏 体育・造形・小児保健職員 | 対象: 太りすぎの小1～6児童とその親 参加21組 参加費 5,000円 |
| <開館3周年記念> シンポジウム 「変わる育児事情」—子どもの言葉を考える— | 11.26 | 13:30～17:30 | 研修室 | 帝京大学医学部教授 田中美郷氏 筑波大学心身障害系教授 長畠正道氏 保育研究開発部 山田道子氏 巷野悟郎氏 | 参加者 169人 保母・看護婦・園長・保健婦・助産婦など |
| <冬休み> 子育て相談コーナー | 12.24～1.2 | 13:30～16:00 | 小児保健部 | 二木武・巷野悟郎氏ほか職員 | 相談件数 5件 |
| <同上> こども1日ドック | 64.1.5・6 | 12:30～17:30 | 小児保健部 健康開発室 | 体育・小児保健職員 | 受診 10人 料金 5,000円 血液検査などは実費 |
| <春休み> 子育て相談コーナー | 3.26～30 | 13:30～16:00 | 小児保健部 | 二木武・巷野悟郎氏ほか職員 | 相談件数 23件 |
| 第3回こどもの城マタニティ・コンサート | 5.7 | ① 14:00 ② 18:00 | 青山円形劇場 | 出演者 長澤真澄・青木裕子・野末源一・古谷博・市川英子・巷野悟郎・神代千佳子各氏 | 対象: 妊娠5～9か月の妊婦とその夫 将来、子どもを持ちたい人 参加人数 3回合計 665人 参加費 2,000円 |
| 第4回こどもの城マタニティ・コンサート | 9.10 | ① 14:00 ② 18:00 | 青山円形劇場 | 出演者 中西俊博, 赤木りえ, フェビアン・レザ・パネ, 石原亜季, 野末源一, 市川英子, 巷野悟郎各氏 | 対象: 第3回に同じ 参加人数 3回合計 768人 参加費 2,000円 |

III 各部の活動(1)

2) 特別期間プログラム

| 名 称 | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 要 員 | 備 考 |
|-------------------------|-----------|---------------------------------------|---------|-----------|---|
| マタニティ・スイミング 同窓会(第3回) | 11.2 6 | ①10:30 ②13:30 13:30 (各回約2時間) | Bリハーサル室 | 体育・小児保健職員 | 対象:マタニティ・スイミング講座の卒業生 参加人数 99組 参加費 1組 1,500円 |

3) 講座・クラブ

| 名 称 | 対 象 | 人 数 | | 曜 時 | 日 間 | 場 所 | 期 間 数 | 料 金 | 講 師 等 | 備 考 |
|--|-----------------------------|------------------|-----------------------|--|---|--|--|---|---|-----|
| | | 定 員 | 受講数 | | | | | | | |
| 健康スポーツ教室 <太りすぎ クラス> 第V期 | 小1～6 年の太り すぎ児童 | (人) (1) 30 | (人) 16 25 29 | 土曜日 14:00～ 17:00 | 小児保 健部 体育室 プール 健康開 発室 造形ス タジオ 音楽ス タジオ 研修室 | 4.23～ 7.16 (12回) 9.10～ 12.10 (12回) 1.1.7～ 3.18 (10回) 全34回 | (円) 20,000 20,000 17,000 検査・診 察料は別 途 | 東京女子医 大教授村田 光範氏 和洋女子大 教授小林幸 子氏 同講師 石 井莊子氏 同助手 川 野辺由美子 氏 体育・音楽・ 造形職員 | 他にぜん息児が1学 期1人、2学期2人、 体育プログラムを受 講 | |
| マタニティ・ スイミング | 妊婦 (妊娠16 週以降) | 各月 35 | 25～ 39 | 水泳 火・木曜日 10:00～ 12:30 レクチャー 月1回(火 または木曜 日) 13:30～ 14:30 | プール 小児保 健部 研修室 ホテル | 入学金 5,000 月謝 10,000 (臨月に 限りD・ H・Cビ ジター扱 いも可) | 日本赤十字 社医療セン ター産科医 師、助産婦、 体育職員 | | | |
| 母と子の リトミック <ダウント ン症児クラ ス> 第V期 | 3～5歳 のダウント ン症児と母 親 | (組) 10 | (組) 10 | 木曜日 14:30～ 15:30 | 音楽ス タジオ A | 4.14～ 7.14 (12回) 9.8～ 12.15 (12回) 1.1.12～ 3.16 (10回) 計34回 | 15,000 15,000 12,000 | 玉川大講師 吉村温子氏 川口あさ 氏ほか 音楽職員 | ボランティアとして 健常児親子1組が参 加 | |
| 肥満児指導 者講習会 (第5回) | 養護教諭 栄養士 保健婦 保母など | (人) 50 | (人) 52 | 土曜日 10:00～ 17:00 | 研修室 体育室 | 8.23 | 8,000 (昼食付) | 東京女子医 大教授村田 光範氏 和洋女子大 教授坂本元 子氏 体育職員 | | |

(2) 小児保健部の活動

63年度における小児保健部の活動としては、前年度に引き続き、3本の柱として、診療・相談（クリニック）活動、講座（健康教室）および研究・研修活動の充実を目標においた。事業内容としては、前年度に実施したものに加え、ダウン症等の発達障害児のための発達相談を開設した。

1) 診療・相談活動

診療・相談活動は、前年度同様に実施された。本年度は、件数の増加とともに、相談の質の充実を目指した。また、従来、心理相談に含めて対応していたダウン症児中心の、発達に遅れのある子どもを対象とした発達相談を新規に開設した。診療・相談来所者の数、居住地域、来所時年齢、主訴・問題（相談内容）については、表に示した。63年度の新規来所者数は508人であった。この中には、マタニティ・スイミング受講者も含まれている。再来所者を含めての月別診療・相談件数は年間延べ数で1,961件であり、前年度件数より約25%の増加であった。件数増加の要因としては、従来から継続して行ってきた関係機関への広報活動により、関係者の診療・相談活動への理解が深まってきたこと、および新聞、テレビなどマスコミの協力を得て広く一般への周知が図られたことがあげられる。

(ア) 来所者の居住地域

地元渋谷区からの来所が最も多く、次いで隣接区である世田谷、港、目黒区の順であり、神奈川県（川崎市、横浜市）からの来所者も多くみられた。

(イ) 来所時の年齢

マタニティ・スイミング受講者を除くと、昨年度同様、0～6歳の幼児が多く、小児の来所者の4分の3を占めた。0、1歳では、乳幼児健康診査の受診者が多く、2～6歳では、言語相談や心理相談を中心とする専門相談の受診者が多かった。

(ウ) 相談内容について

前年度に引き続き、育児・健康相談の件数が本年度においても増加した。これは、小児保健クリニックが必ずしも障害児のみを対象としているのではなく、育児に関する問題を気軽にしかも時間をかけて相談できる医療機関として一般に周知されてきたためと思われる。また、マタニティ・スイミングの卒業生や保育クラブ在籍児による利用も増加した。この育児相談を機会に、継続して受診したり、他の専門相談へ紹介される例も多くなってきている。次に肥満に関する相談が多く、これは開館当初から健康教室という形で小児肥満に対し「子どもの城」全体で取り組んできた成果が現れてきたためと考えられる。

神経症・習癖・情緒障害や言語発達遅滞を中心とした問題についても、新規来所者数の増加がみられた。言語発達遅滞や精神発達遅滞に関する相談については、長期間継続して来所する場合が多く、新規来所者の中での割合はそれほど多くないが、延べ来所者の中では多数

III 各部の活動(1)

を占めている。

<小児保健部来所者の概要>

(1) 新規来所者数

| | |
|------------------|-------|
| 診療・相談 | 390 人 |
| (うち健康教室肥満クラス受講児) | (26) |
| (うち健康教室喘息クラス受講児) | (2) |
| (うちダウントラス受講児) | (6) |
| マタニティ・スイミング | 118 |
| 合 計 | 508 |

(2) 来所者の居住地域内訳

| 居 住 地 域 | 人 数 | % |
|-----------------|-----|-------|
| 渋 谷 区 | 105 | 20.7 |
| 世 田 谷 区 | 71 | 14.0 |
| 新 宿 区 | 17 | 3.3 |
| 港 区 | 36 | 7.1 |
| 目 黒 区 | 27 | 5.3 |
| そ の 他 の 23 区 内 | 125 | 24.6 |
| 都 内 (市 部) | 30 | 6.0 |
| 神 奈 川 県 | 54 | 10.6 |
| 千 葉 県 | 20 | 3.9 |
| 埼 玉 県 | 17 | 3.3 |
| そ の 他 の 都 道 府 県 | 6 | 1.2 |
| 合 計 | 508 | 100.0 |

(3) 初回来所時年齢内訳

| | |
|-------|--------|
| 0 | 75 (人) |
| 1 | 64 |
| 2 | 31 |
| 3 | 48 |
| 4 | 36 |
| 5 | 25 |
| 6 | 11 |
| 7 | 24 |
| 8 | 17 |
| 9 | 16 |
| 10 | 13 |
| 11 | 10 |
| 12~17 | 14 |
| 18歳以上 | 124 |
| 合 計 | 508 |

(4) 月別診療・相談件数（無料相談コーナーの相談者を除く）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 診 療 | 129 | 142 | 138 | 140 | 99 | 138 | 133 | 114 | 154 | 154 | 157 | 194 | 1,692 |
| 相 談 | 12 | 27 | 19 | 25 | 21 | 33 | 16 | 12 | 25 | 20 | 23 | 36 | 269 |
| 計 | 141 | 169 | 157 | 165 | 120 | 171 | 149 | 126 | 179 | 174 | 180 | 230 | 1,961 |

(5) 新規来所時の主訴・問題

| 主訴・問題 | 人 | % | | | | |
|----------------------------------|----|-----|---------------------------------------|-----|-------|--|
| ぜんそく・アトピー・湿疹 | 17 | 3.3 | 育児・健康相談 | 190 | 37.0 | |
| 肥満 | 37 | 7.3 | その他 心理面の相談 (遊べない、社会的不適応など) | 9 | 1.8 | |
| 神経症・習癖・情緒障害等 (遺尿・夜尿・緘默・恐怖症など) | 31 | 6.1 | その他 身体面の相談 (斜視、てんかん、 脳性まひ、低身長、頭痛等) | 29 | 5.7 | |
| 言語発達遅滞 (疑いも含む) | 33 | 6.5 | ダウント | 27 | 5.3 | |
| 精神・運動発達遅滞 (疑いも含む) | 10 | 2.0 | マタニティ・スイミング | 118 | 23.2 | |
| 自閉症 | 5 | 1.0 | | | | |
| 微細脳障害 | 2 | 0.4 | 合 計 | 508 | 100.0 | |

2) 特別企画 (催し)

(ア) こどもの城マタニティ・コンサート (第3・4回)

前年に引き続き、第3回および第4回をそれぞれ5月7・8日および9月10・11日に開催した。妊婦自身が楽しめ、リラックスできることを目的に、対象は妊婦とその夫および将来子どもを持ちたい人とし、青山円形劇場で行った。内容は、第3回は新進若手ハーピストの長澤真澄さんによるクラシック主体の演奏、第4回は、やはり若手演奏家でネオクラシックともいべき分野で新しい曲作りや演奏に取り組んでいる中西俊博さんのバイオリン、赤木りえさんのフルート、フェビアン・レザ・パネさんのピアノのトリオによるクラシック、ジャズ、ポピュラーなどさまざまなジャンルの演奏であった。前年度までと同様に、各回とも音楽演奏の合間に、産婦人科と小児科の医師の話や助産婦による呼吸法の指導を行い、妊婦向けの特色ある内容とした。また、妊婦にとって安全で心地よいコンサートとなるよう、会場のいすや空調、照明などの環境面にも十分配慮をした。

このコンサートには、年々夫婦での来場が増えている。アンケート調査の結果によれば、参加者の約70%が夫婦で来場し、70%近くが「楽しかった」、「リラックスできた」という感想であった。

また、妊婦自身のためのコンサートとして企画したにもかかわらず、来場理由を「胎教によいため」としたもののがクラシックが演奏主体であった第3回には約70%を占めた。我々としては、あくまでもお母さん自身が楽しくゆったりとした妊娠生活を送ることを援助するために、この企画を続けていきたい。

(イ) 子育て相談コーナー (児童福祉週間、夏休み、冬休み、春休み)

館内での小児保健部のPRを目的として、一般来館者を対象に無料の相談を実施した。相

III 各部の活動(1)

談件数は、児童福祉週間5、夏休み15、冬休み5、春休み23で、内容は発育、発達、食事、育児・しつけ、アレルギー、湿疹、習癖など、生活全般にわたった。

(ウ) こども一日ドック（夏休み、冬休み）

学校の休みを機会に、心身両面からの総合健診を行い、生活の見直しを図ることを目的に、体育事業部との協力事業として小・中学生を対象に実施した。前年度同様、内容は、医師の診察や各種の検査（呼吸機能、聴力、身体計測、尿検査、血圧測定）による医学的所見と、健康開発室で行った体力テストの結果、更に生活習慣調査、食生活調査、心理検査などの分析結果を総合的に考え合わせた所見に基づき保健、生活指導を行うものである。希望者には、血液検査も追加して行った。夏休み7人、冬休み16人の受診であったが、ほとんどは特に異常や問題はなかった。

前年は反省点として、参加者の少なかったこと、待ち時間が長くなってしまうことが挙げられていたが、本年は新聞に募集記事が掲載されたため、特に冬休みは、多くの参加があった。また、予約時間の調整により、待ち時間の減少を図った。

今後も「子どもの城」らしい事業の1つとして、こども一日ドックを発展させていきたい。

(エ) 開館3周年記念シンポジウム

「子どもの城」開館3周年記念事業の一環として、11月26日に9階研修・会議室においてシンポジウムを開催した。昨年と共通のテーマ「変わる育児事情」のもとに、今年度は「子どもの言葉を考える」と題して、保育や健診の現場において問題になりやすいとされている「言葉」に焦点を当てた内容とした。参加者は、保母、看護婦、保健婦などの小児保健関係者を中心とした約170人であった。

シンポジウムは、まず、子どもの城保育研究開発部の山田道子コーディネーターによる「ことばにまつわる子どもの情景を保育現場より報告する」というテーマの話から始められた。ここでは、日常の保育に携わっている立場から、子どもの言語発達に関するさまざまな現象について問題提起がなされた。

次に、田中美郷先生（帝京大学医学部教授）に耳鼻咽喉科、聴覚・言語学の専門の立場から「子どもの言葉の発達を理解するために」と題して、子どもの言語発達の過程、その障害となる原因や適切な指導・援助の在り方について講演をいただいた。最後に、「言葉の遅れとその周辺」というテーマで長畠正道先生（筑波大学心身障害系教授）に児童精神医学の立場から、脳の発達に関する最近の知見を交え、言葉の遅れを主訴とする障害のうち、主として精神発達遅滞と自閉症を中心に、その病態と治療の在り方についてお話をいただいた。

その後、巷野悟郎小児保健部長の司会により、質疑応答が行われた。会場の参加者から、現場で困っている言葉に関する問題についての具体的な質問が提出され、各先生から回答や追加発言がなされた。

「子どもの城」の研修・啓発活動の一環として、今後も「変わる育児事情」に即したテーマを選び、シンポジウムを開催する予定である。

3) 講 座

(ア) 健康スポーツ教室（太りすぎクラス）

（第V期）

「こどもの城」開館当初から発足したこの講座も4年目を迎える内容もかなり充実してきたといえる。前年度同様1年コースとしたが、受講者は、1学期16人、2学期25人、3学期29人であり、延べ参加者34人、1年間通して参加した者は13人であった。テレビや新聞等のマスコミで何度か紹介されたため、途中からの入会者も多かった。また、健康教室ぜんそく児クラスとの合併の形で、1学期1人、2学期2人の気管支ぜんそくを持った子どもが体育プログラムと一緒に受講した。受講期間中に肥満度が減少した者は34人中21人であった。今年度から、新たな試みとして、休み期間中フォロー・アップの目的で、体育事業部の主催するスポーツ・キャンプへの参加を受講児に勧めた。夏休みは9人、冬のスキー・キャンプには5人が参加した。

本教室の実践は来年度で5年目を迎えることになるが、前記のようにマスコミによる報道や指導者講習会での紹介、および「こどもの城」の見学者への説明などにより、活動自体はかなり多くの人々に知られてきたといえる。しかし、これまでの経験から、教室での指導が中断した場合（休み中や卒業・退会後）に肥満度の上昇がみられること、長期間の受講者において、指導への慣れがみられ、肥満の改善が進まない傾向がみられることなど今後の検討課題は多いと思われる。「こどもの城」の特色を生かしつつ、これまでの蓄積されたデータの解析を行いながら望ましいプログラム作りを進めていきたい。

(イ) マタニティ・スイミング

妊娠中の生活を心身ともに、より快適に送ってもらうことを趣旨としたこの講座も、3年目を迎えた。体育事業部と小児保健部の共同事業とし、更に日本赤十字社医療センター（産科および分娩室）の協力を得て実施した。

プログラムは前年と同様、毎週火曜日・木曜日に月7回実施された。水泳は原則として、午前11時～正午までで、検診を水泳前後に行い、そのほかに月1回レクチャーの時間を設けた。定員は35人であるが、毎月10～20人ほどの受講待機者がいた。これは、年々マタニティ・スポーツが盛んになってきており、その傾向を反映しているともいえるが、「こどもの城」のプログラムの安全性が認められてきた結果でもあるだろう。年間延べ118人の受講者であり、ほとんどが20代後半から30代前半の初産の主婦であった。また、本年度は、卒業生の再受講すなわち、第1子妊娠時に受講し、更に第2子についても受講した人が3人いた。

受講者の感想としては、水泳後は腰背痛が軽減する、教室が友人づくりや気分転換など精神衛生面で役に立つ、毎回の健康チェックが妊娠中の健康管理に役立ったなどの感想が多くあった。今後は、これまでの蓄積データをもとに、妊娠中の水泳活動が妊婦の健康や出産に対して心身両面でどのような影響を与えるかについての検討を進めるとともに、出産後の児の成

III 各部の活動(1)

育状況との関連もみていきたいと考える。また、関係学界においても指摘されていることがあるが、現代の核家族社会の中での子育てのグループ作りの実践も、同窓会活動を中心に果たしていきたい。

レクチャーのテーマと講師（敬称略）

| 月 | 講義テーマ | 講師 |
|----|------------------|-----------------|
| 4 | いろいろな育児 | 小児保健部部長 巷野 悟郎 |
| 5 | 赤ちゃんのビデオをみよう | 小児保健部心理士 吉田 弘道 |
| 6 | 産科の先生を囲んで | 日赤産婦人科医師 福田 秀基 |
| 7 | 妊娠・授乳期の栄養 | 小児保健部栄養士 大津栄久子 |
| 8 | 妊娠中の生活と出産準備品について | 小児保健部 神代・上別府 |
| 9 | お産の呼吸法 | 日赤分娩室助産婦 仲尾 知子 |
| 10 | あなたはどんなママになりますか | 小児保健部心理士 上別府圭子 |
| 11 | 赤ちゃんからのメッセージ | 日赤産婦人科医局長 浦野 晴義 |
| 12 | 小児科医を囲んで | 小児保健部医師 佐々木 俊 |
| 1 | 妊娠・授乳期の栄養 | 小児保健部栄養士 大津栄久子 |
| 2 | マタニティと運動 | 体育事業部部長 羽崎 泰男 |
| 3 | 出産準備品と育児用品について | 小児保健部保健婦 中澤 恵子 |

(ウ) 母と子のリトミック（ダウン症クラス）

（第V期）

音楽や遊びを通じて母子のかかわり方や子どもの発達の見方を考えることを目的としたクラスで、3～5歳のダウン症児の親子10組を対象とした。前年度と同様、音楽事業部の協力で、母子一緒にリトミック活動を週1回1時間、4階の音楽スタジオで実施した。

本年度から1年コースで実施したが、1～3学期とも10組の親子が受講した。通年で参加したものは7組であった。ここでの活動は、障害児のための教育・訓練よりも、遊びを主体とした楽しい内容であり、お母さんや友達、スタッフとのかかわり合いの中で、自分の気持ちを表現できること、さまざまな要素のプログラムの中から最も魅力あるものを見つけてもらうことをねらいとしている。受講児のほとんどは、地域の通園訓練施設や幼稚園・保育園に在籍しながら、このクラスを受講しており、遊びを主体とした楽しいプログラムの中で、違った角度から子どもやそのかかわり方を見直せるという点で母親には好評であった。また、リズム遊び、スキシップ、造形活動、リラックス、全身運動などさまざまな要素の活動が取り入れられているため、子どもの個性に合った活動を見つけ出し、生活の中での望ましい対応の仕方を考えるのに役立つとも考えられる。

このリトミック講座も、「こどもの城」における障害児のためのプログラムの1つとして周知されつつあり、問い合わせや見学希望が増えている。それらへの応待の中で保護者や児童福祉関係者から、卒業生すなわち就学年齢に達した児のためのプログラム、ダウン症以外の障害児のためのプログラムに対する要望が寄せられており、今後の課題と考えられる。

(エ) 夏休み健康教室集中講座 (太りすぎクラス 8.25~27)

「健康スポーツ教室」の夏休みにおける短期集中講座として、昨年に引き続き実施した。小児肥満の原因や、肥満と健康との関係を理解させ、肥満改善の方法を身につけさせることを目的に、母親には、医学面、栄養面の講座と個別の栄養指導を行い、並行して、児童は体育プログラムと造形・音楽プログラムおよび全館行事（ミステリー・ハウス）に参加した。

肥満児のための健康スポーツ教室を中心とした活動の周知が徹底されてきたためか、参加者が21組と前年の9組に比較して多かった。そのうち、6組が2学期からの健康スポーツ教室にも参加した。

(オ) 第5回肥満児指導者講習会 (8.23)

主として学校保健関係者など、子どもの肥満の予防と改善について指導を行う立場の人を対象とした講習会である。

「こどもの城」オープン以来継続している「健康スポーツ教室」の経験を踏まえ、更に学校などでの現場指導に役立つよう、実技指導を取り入れたり、質問時間を長く設けるなど、より具体的、実践的な内容となるよう配慮をした。参加者のほとんどは、学校の養護教諭や栄養士であり、前年同様定員を超える52人の参加があり、学校現場における肥満への取り組みの重要性を改めて感じさせられた。

4) 研究活動

診療・相談の内容や効果を検討する目的で幾つかの調査研究を実施した。前年度に引き続き、肥満児健康教室における各種データのまとめを実施しつつ、今後の「こどもの城」における指導の在り方を検討している。また、前年度まで実施したぜんそく児健康教室の2年間の経験について、継続して受講した児の追跡データとともにまとめを行った。更に、マタニティ・スイミングにおける健診結果と一般産科外来受診者データとの比較を行い、妊婦水泳受講者における特徴についてのまとめを行った。

マタニティ・コンサートに関しては、第3回までのアンケート結果をもとに、参加者の特徴について分析を行った。

一方、日常診療・相談の中での研究としては、発達障害児の注意行動理解への瞬時心拍数(heart rate)の応用性に関する研究、臨床神経学的観点から見たダウン症児の発達特性に関する研究、小児保健クリニック来所者の意識調査などを実施した。また、臨床心理場面における家庭関係把握を目的とした「動物家族画」による心理テストの開発に関する研究も昨年度に引き続き行った。

厚生省心身障害研究の一環として、「福祉機器の開発及び福祉関係情報処理に関する研究（主任研究者 穴山徳夫）」の中での分担研究「福祉機器の安全性と標準化に関する研究」と「家庭保健と小児の成長・発達に関する総合的研究（主任研究者 高石昌弘）」の中での「サーモグラフィによる障害児の認知発達に関する研究」を行った。また、「広げよう愛の輪運動基金」からの研究助成を受け、「障害児の家族に対する社会心理学的研究—サーモ

III 各部の活動(1)

グラフィによる障害乳幼児の家族認知の研究一」を実施した。

5) 今後の課題

小児保健部（小児保健クリニック）の利用者はしだいに増えつつあるが、今後も引き続き、館内掲示の充実や、関連病院・施設との連絡・調整の見直し、学会での報告などを実施しつつ、更に活動内容の周知徹底を図りたい。

小児保健部の事業内容は、妊娠期から乳幼児、学童そして思春期までを対象として非常に多岐にわたっている。

これまで、ほかで行われていない新しい試みとして、各事業とも並行してデータを蓄積し分析・研究を行いながら実践活動を続けてきた。「こどもの城」開館以来3年間を経た現在においては、肥満児の健康教室やマタニティ・スイミングのように、「こどもの城」ならではの、要員や設備を生かしながら事業が軌道に乗り、ある程度実施に当たっての指針が確立されてきたものもある。また、ぜんそく児を対象とした健康教室は、事業を始めた当初は、ほかでは行われていない先駆的な事業として、ニーズも高く参加者も多かったが、その後、各自治体や地域のスイミング・スクールにおいてぜんそく児を対象としたプログラムが普及してきたため参加者が減り、本年度は肥満児クラスと合併した形での実施となった。今後も、時代とともに移り行く小児医療・保健の状況・課題を見極めながら、「こどもの城」の小児保健部の果たすべき役割を踏まえて、常に事業の見直し、反省、改善を続け、現在ある施設・設備や人的資源を有効に活用しつつ、長期的視野をもって事業の計画および実施を進めたい。

ハロー マックロー ワールド



(1) 演目一覧表

1) 青山劇場

| 公演名 | 期間 | 回数 | 料金 | 総席数 | 入場者数 | 入場率 |
|---------------------------------------|-----------------------|------------|------------------------|--------|--------|------|
| | | | (円) | (人) | (人) | (%) |
| <自主> | | | | | | |
| オペラクリエーション・イン・青山 第3回公演 オペラ「愛の妙薬」 | 5.26~28 | 2 | 5,000・4,000 | 2,156 | 1,409 | 65.4 |
| こどもの城サマーフェスティバル 「ビバ！ファンタジー」 | 8.1・2 | 2 | 1,000 | 2,400 | 1,704 | 71.0 |
| 第3回青山バレエフェスティバル | 8.28~31 | 3 | 5,000・4,000 | 3,234 | 3,051 | 94.3 |
| こどもの城 アジア音楽祭(2) 「ガムランーもう一つのリズムの世界」 | 11.30 | 1 | 2,500 | 1,078 | 769 | 71.3 |
| こどもの城 友の会のつどい 「音楽畑ファミリーコンサート」 | 12.24・25 | 1 | 2,500・2,000 | 1,200 | 984 | 82.0 |
| 第17回ローザンヌ国際バレエコンクール 東京開催 | 1.24~29 | 2 | 5,000 | 2,400 | 1,708 | 71.2 |
| 第17回ローザンヌ国際バレエコンクール 東京開催記念「ガラ公演」 | 1.30~2.1 | 2 | 8,000・7,000・ 5,000 | 2,156 | 2,066 | 95.8 |
| (小計) | 7 | 13 | | 14,624 | 11,691 | 79.9 |
| <提携> | | | | | | |
| ミュージカル 「ビッグ・リバー」 | 4.1~5.5 (63.2.26~) | 42 (74) | 10,000・8,000・ 5,000 | 48,972 | 35,073 | 71.6 |
| アキコ・カンド第15回リサイタル 「フォー・シーズンズ」 | 5.23~25 | 2 | 4,000・3,000 | 2,400 | 1,676 | 69.8 |
| 前進座公演 「五重塔」 | 12.4~20 | 24 | 6,500・4,000 | 28,800 | 17,850 | 62.0 |
| (小計) | 3 | 68 | | 80,172 | 54,599 | 68.1 |
| <貸館> | | | | | | |
| 第5回日本アニメフェスティバル | 4.10 | 2 | 無料 | 2,332 | 1,553 | 66.6 |
| 宝塚歌劇団雪組東京特別公演 「レッドヘッド」 | 5.7~18 | 15 | 4,000・3,000 | 18,000 | 13,502 | 75.0 |
| 劇団樹座公演 「THE. オーディション」 | 5.21・22 | 2 | 3,000 | 2,400 | 2,155 | 89.8 |
| 小原重徳とジョイフルオーケストラ 「日曜日の午後のコンサート」 | 5.29 | 1 | 4,500・3,800 | 1,200 | 812 | 67.7 |
| 日本信販ミュージカル 「アニー」 | 5.30~6.27 | 36 | 7,000・5,000 | 39,960 | 33,931 | 84.9 |

III 各部の活動(1)

| 公演名 | 期間 | 回数 | 料金 | 総席数 | 入場者数 | 入場率 |
|--------------------------------------|--------------------------------|----|--|--------|--------|------|
| | | | (円) | (人) | (人) | (%) |
| 少年隊ミュージカル PLAY ZONE'88「カプリッチョ」 | 7.1~31 | 39 | 5,000 | 42,042 | 41,748 | 99.3 |
| 明治生命ミュージカル・ファンタジー 「12ヶ月のニーナ」 | 8.3~22 | 26 | 7,000・5,000 | 28,028 | 20,273 | 72.3 |
| 第6回西友ミュージカル 「赤いくつ」 | 8.23~27 | 8 | 無料 | 8,432 | 5,774 | 68.5 |
| アメリカンファミリー生命 ドラマミュージカル「STAND UP！」 | 9.1~15 | 16 | 5,000・4,000 | 17,248 | 12,923 | 74.9 |
| 谷村新司リサイタル'88 「CORAZON III」 | 9.16~29 | 12 | 7,000・5,000・ 4,000 | 13,296 | 12,505 | 94.1 |
| 林英哲コンサート 「饗宴」 | 9.30 | 1 | 3,500 (当日 4,000) | 1,176 | 1,164 | 99.0 |
| 高島忠夫・寿美花代コンサート | 10.1・2 | 1 | 5,000・4,000 | 1,192 | 1,046 | 87.8 |
| 劇団四季公演 「35ステップス—オータム—」 | 10.3~11.3 | 38 | 8,000~2,000 | 40,964 | 29,600 | 72.3 |
| 劇団四季公演 「HANS」 | 11.4~26 | 24 | 8,000~2,000 | 25,872 | 22,128 | 85.5 |
| 第38回児童福祉施設文化祭 | 11.27 | 1 | 無料 | 1,200 | 1,100 | 91.7 |
| 服部克久 音楽畠コンサート・パートIV | 11.28 | 1 | 5,000 | 1,180 | 992 | 84.1 |
| 第32回全国保育研究大会 | 11.29・12.1 | 2 | 参加費 | 2,400 | 769 | 32.0 |
| '88曜会公演 | 12.2・3 | 2 | 7,000・3,000 | 2,156 | 1,454 | 67.4 |
| JR東日本びゅうシアター 「カルメン」 | {12.26~29 1.2~23 2.2~27} | 72 | 9,000・7,000 4,000 | 77,616 | 62,582 | 80.6 |
| 第6回日本アニメフェスティバル | 3.4・5 | 2 | 無料 | 2,400 | 2,214 | 92.3 |
| 日本バレエスペシャルー西村万里(陳 兵)と仲間たち | 3.7・8 | 2 | 7,000・6,000 5,000 | 2,156 | 1,158 | 53.7 |
| 明治生命ミュージカル 「12ヶ月のニーナ」 | 3.9~31 | 33 | 7,000・5,000 (ファミリー券 24,000・18,900) | 35,574 | 23,333 | 65.6 |

8 劇 場

| 公演名 | 期間 | 回数 | 料金 | 総席数 | 入場者数 | 入場率 |
|--------|----|-----|-----|---------|---------|------|
| (小計) | 22 | 336 | (円) | (人) | (人) | (%) |
| 青山劇場 計 | 32 | 417 | | 461,620 | 359,006 | 77.8 |

2) 青山円形劇場

| 公演名 | 期間 | 回数 | 料金 | 総席数 | 入場者数 | 入場率 |
|---|-------------------|------|---------------------|---------|---------|--------|
| <自主> | | | (円) | (人) | (人) | (%) |
| 世界人形劇フェスティバル'88東京—こどもの城プレフェア— | 5.2~4 | 5 | 無料 | 1,400 | 1,337 | 95.5 |
| 第3回こどもの城マタニティ・コンサート | 5.6~8 | 3 | 2,000 | 987 | 679 | 68.8 |
| トラや帽子店のサマーバーゲンコンサート | 7.22~24 | 4 | 1,000 | 1,328 | 1,257 | 94.7 |
| カナダからのコミック・マイム「ゆかいいなボテトピープル」 | 7.25~31 | 7 | 2,000 | 2,100 | 1,474 | 70.2 |
| こどもの城・キリン民話劇場 第3回公演「つる」 | 8.1~8 | 9 | 1,500 | 2,214 | 1,691 | 76.4 |
| 夏休みこどもの城人形劇フェア | 8.12~14 | 7 | 1,000・800 | 1,750 | 1,247 | 71.3 |
| 第4回こどもの城マタニティ・コンサート | 9.9~11 | 3 | 2,000 | 987 | 692 | 70.1 |
| こどもの城人形劇フェア「ペペットボックス版ジャックと豆のつる」 | 10.1 | 3 | 500 | 840 | 566 | 67.4 |
| 第2回青山演劇フェスティバル ～'88階からの時代の風景～ | (10.3~28) | (28) | | (7,639) | (6,047) | (79.2) |
| 遊○機械／全自動シアター 「ベビールーム」 | 10.3~12 | 13 | 2,200 | 3,926 | 3,572 | 91.0 |
| 時々自動 「イチニチ」 | 10.13~17 | 4 | 2,200 | 1,128 | 690 | 61.2 |
| プロジェクト・ナビ 「DUCK SOAP 2」 | 10.18~28 | 11 | 3,000 | 2,585 | 1,785 | 69.1 |
| こどもの城オープン3周年記念 「みんなうたおうちこどものバイエル」 | 11.4~6 | 4 | 1,500 | 1,316 | 881 | 66.9 |
| こどもの城人形劇フェア「快傑つばくろ頭布」 | 11.23 | 2 | 500 | 560 | 529 | 94.5 |
| The Nutcracker | 12.19~27 | 9 | 2,500 (当日 2,800) | 2,250 | 2,050 | 91.1 |
| 第1回こどもの城・キリン・ファミリー・オペレッタ「おとぎの国のメルヘン通り③」 | 12.28・29 1.3~8 | 10 | 2,000 (当日 2,300) | 2,820 | 2,688 | 95.3 |
| こどもの城人形劇フェア「スケッチブックのサウンド紙芝居」 | 1.28・29 | 4 | 500 | 1,120 | 476 | 42.5 |

III 各部の活動(1)

| 公演名 | 期間 | 回数 | 料金 | 総席数 | 入場者数 | 入場率 |
|---|----------|-----|---------------------|--------|--------|------|
| | | | (円) | (人) | (人) | (%) |
| dance at the gathering Vol.7 「ダンスコレクション2」 | 3.19~24 | 6 | 3,500 | 1,692 | 1,638 | 96.8 |
| (小計) 15 | | 104 | | 29,003 | 23,252 | 80.2 |
| ※第2回こどもの城 音楽クラブ合同コンサート 「ぼくらのサウンド'88」(音楽事業部) | 4.1~3 | 5 | 無料 | 1,230 | 1,045 | 85.0 |
| ※ファミリアインスター・ナショナル チルドレンズフェスティバル(国際交流部) | 4.28~5.1 | 6 | 800 | 2,100 | 1,790 | 85.2 |
| ※キャッスル・フェスティバル'88 (企画部・音楽事業部) | 5.5 | 3 | 無料 | 750 | 644 | 85.9 |
| ※第4回こどもの城・おまつり劇場 (音楽事業部) | 8.21 | 1 | 無料 | 240 | 238 | 99.2 |
| ※第2回こどもの城1日保育セミナー (保育研究開発部) | 8.23 | 1 | | 282 | 190 | 67.4 |
| ※こどもの城開館3周年記念 「かぼちゃのちゃちゃちゃ」(国際交流部) | 10.29・30 | 3 | 500 | 990 | 829 | 83.7 |
| ※カムカム・クリスマス (国際交流部) | 12.16~18 | 4 | 800 | 1,320 | 1,050 | 79.5 |
| (小計) 7 | | 23 | | 6,912 | 5,786 | 83.7 |
| <提携> | | | | | | |
| ラファエル・ロメーロ ～カンテ・フラメンコの世界～ | 4.21~27 | 6 | 5,000 | 2,220 | 1,393 | 62.7 |
| 風が窓に歌うとき | 5.30~6.4 | 4 | 3,500 | 1,376 | 897 | 65.2 |
| 劇団キオ 「こんにちはママ！」 | 8.15~19 | 8 | 1,800 | 1,640 | 953 | 58.1 |
| ミクロロゴス | 11.7~14 | 8 | 4,000 | 3,008 | 1,938 | 64.4 |
| 人形劇団ひとみ座 「マウイ・チキチキー南の島の少年ー」 | 3.27~4.1 | 10 | 2,000 (当日 2,300) | 2,180 | 1,663 | 76.3 |
| (小計) 5 | | 36 | | 10,424 | 6,844 | 65.7 |
| <貸館> | | | | | | |
| ザ・グッバイコンサート 「6ナイトショー・イン青山」 | 4.4~9 | 6 | 3,000 | 2,160 | 2,158 | 99.9 |
| Spring has come party! | 4.10 | 2 | 800・500 | 508 | 491 | 96.7 |
| ゴーバンズライブ | 4.11 | 1 | 2,000 (当日 2,500) | 230 | 229 | 99.6 |
| 佐々木千歳ダンス・コンサート'88 「怪盗紳士ルパンと二人の刑事」 | 4.16・17 | 2 | 3,000 | 476 | 321 | 67.4 |

8 劇 場

| 公演名 | 期間 | 回数 | 料金 | 総席数 | 入場者数 | 入場率 |
|---------------------------------------|----------|----|-------------------------------------|---------|-------|------|
| DANCE COMMAND No. 1 ～ぼくの好きなダンサーたち～ | 4.18～20 | 4 | 3,500 | (円) (人) | (人) | (%) |
| 劇団ランプティ・パンプティ 「GRANDE」 | 5.9～15 | 9 | 2,000 (当日 2,200) | 3,078 | 2,464 | 80.1 |
| シェイクスピア・シアター 「間違いの喜劇」 | 5.17～28 | 12 | 3,000 | 3,384 | 2,490 | 73.6 |
| ヤマハエレクトーンフェスティバル'88 | 5.29 | 1 | 500 | 300 | 177 | 59.0 |
| 母と子の楽しい英語の集い | 6.5 | 2 | 無料 | 564 | 307 | 54.4 |
| 谷山浩子 101人コンサート | 6.6～9 | 4 | 3,500 | 1,504 | 1,441 | 95.8 |
| タゴール音楽と舞踊劇公演 「歓喜の波」 | 6.10～20 | 9 | 3,500・3,000 (当日 4,000・ 3,500) | 2,397 | 1,373 | 57.3 |
| 福田ワサブロー東京公演 | 6.22～24 | 1 | 5,000 | 260 | 198 | 76.2 |
| 茜の会第5回朗読のつどい | 6.25 | 1 | 1,500 | 320 | 308 | 96.3 |
| 第8回 IME ミュージカル 「Doji Dotch」 | 6.26～7.3 | 7 | 3,500 | 1,288 | 916 | 71.1 |
| 三条万里子ダンスコンサート 1988 | 7.8～10 | 4 | 3,500 | 792 | 618 | 78.0 |
| 高橋久美子コンサート・1988 | 7.11 | 1 | 3,300 (当日 3,500) | 282 | 254 | 90.1 |
| クリエイティブスタッフ第4回公演 「像」 | 7.12～15 | 3 | 3,500 (当日 4,000) | 876 | 691 | 78.9 |
| 竹の会「20本の尺八」 | 7.16・17 | 3 | 2,000 (当日 2,500) | 690 | 366 | 53.0 |
| 劇団ポプラ夏のこども劇場 「チキチキバンバン」 | 7.18～20 | 3 | 1,500 (当日 1,800) | 738 | 643 | 87.1 |
| 片桐麻美 1st. CONCERT 「EVER GREEN」 | 7.21 | 1 | 2,800 | 293 | 253 | 86.3 |
| 世界人形劇フェスティバル'88 東京 | 8.9～11 | 4 | 2,500 (当日 2,800) | 840 | 838 | 99.8 |
| ギィ・グラヴィス劇団日本第2回公演 「星の王子さま」 | 8.24～28 | 12 | 4,000 | 4,344 | 3,009 | 69.3 |
| GONTITI コンサート | 8.29 | 1 | 3,500 | 302 | 280 | 92.7 |
| KILLING TIME コンサート | 8.30・31 | 2 | 3,000 | 472 | 318 | 67.4 |
| 友部正人コンサートシリーズ 「待ちあわせ」 | 9.1 | 1 | 2,800 (当日 3,000) | 282 | 233 | 82.6 |
| ばらえてい BOX 第8回公演 「ミラクル・ストーン」 | 9.2・3 | 2 | 2,500 (当日 2,800)・ 3,800 | 492 | 385 | 78.3 |
| 田島佳子 「三味線のつどい」第2回公演 | 9.4 | 1 | 3,000 | 338 | 259 | 76.6 |
| 古村理のサウンド・グラフィック・ デザイン展 | 9.5～8 | 3 | 無料 | — | 314 | —* |

III 各部の活動(1)

| 公演名 | 期間 | 回数 | 料金 | 総席数 | 入場者数 | 入場率 |
|---|------------|----|---------------------|-------|-------|------|
| | | | (円) | (人) | (人) | (%) |
| 山形真紀子ダンスリサイタル 「群生」 | 9.12・13 | 2 | 3,500 | 492 | 424 | 86.2 |
| 中村攝ピアノソロ 「月とマリピエロ」 | 9.14 | 1 | 3,000 | 320 | 93 | 29.1 |
| 第33回こどもの歌まつり | 9.15 | 1 | | 325 | 320 | 98.5 |
| DASH' 「遠野」 | 9.16~19 | 5 | 3,000 | 1,365 | 1,096 | 80.3 |
| 江戸期の能と歌舞伎舞踊の会 | 9.20 | 1 | 3,000 | 329 | 285 | 86.6 |
| アーストンボラージュ 「'88 spring & summer collection」 | 9.21 | 2 | 無料 | 574 | 535 | 93.2 |
| ダンスシンフォニー「STOP and GO」 PART 2 | 9.22~25 | 6 | 3,000 | 1,778 | 1,489 | 83.7 |
| dance at the gathering Vol. 5 佐々木隆子「タップ・タップ・タップ」 | 9.26~28 | 5 | 4,500 (当日 5,000) | 1,230 | 1,155 | 93.9 |
| 中島啓江の「天高くオペラ肥ゆる秋III」 | 9.29・30 | 2 | 3,000 (当日 3,300) | 408 | 296 | 72.5 |
| ヤンフェス・ロック'88 | 10.2 | 1 | 無料 | 300 | 241 | 80.3 |
| こどもの城開館3周年記念イベント 日米交歓公演「ファンタスティックス」 | 10.31~11.3 | 4 | 5,000・4,000 | 1,016 | 903 | 88.9 |
| 電劇公演 「パンドラドッグ2」 | 11.15~22 | 8 | 3,000 (当日 3,500) | 1,144 | 609 | 53.2 |
| トウキョウスフィアによる 2夜連続コンサート | 11.24・25 | 2 | 3,000 | 488 | 267 | 54.7 |
| 坪口昌恭ライブ 「SAKLA」 | 11.26 | 1 | 2,500 | 220 | 197 | 89.5 |
| 全国画塾指導者連盟 「21世紀を創る子どもたち」 | 11.27 | 2 | 1,000 | 742 | 285 | 38.4 |
| スカル・ジュプソン日本人によるバリ島の 舞踊とガムラン音楽 | 11.28 | 1 | 2,000 | 282 | 271 | 96.1 |
| 第32回全国保育研究大会 | 11.29~12.1 | 3 | 参加費 | 900 | 421 | 46.8 |
| ブリキの自発団 「好奇心のつよい女」 | 12.2~15 | 12 | 3,000 | 3,480 | 2,425 | 69.7 |
| 劇団冒険物語 「朝に別れのギムレットを」 | 1.10~16 | 8 | 2,200 | 1,880 | 1,575 | 83.8 |
| ブリキの自発団 「好奇心のつよい女」 | 1.17~23 | 5 | 3,000 | 1,450 | 1,353 | 93.3 |
| 劇団青年座スタジオ公演 「なんせんす」 | 1.30~2.5 | 8 | 4,000 | 1,904 | 1,429 | 75.1 |
| 竹内登志子ダンスのトボスー① 「エター・サイクル」 | 2.6・7 | 3 | 2,500 | 738 | 461 | 62.5 |
| dance at the gathering Vol. 6 Movin' 「1367 gの罪」 | 2.8~13 | 7 | 3,500 | 1,974 | 1,852 | 93.8 |
| シェイクスピア・シアター 「ノイゼズ・オフ」 | 2.14~26 | 11 | 3,000 (当日 3,300) | 2,200 | 1,519 | 69.0 |

8 劇 場

| 公演名 | 期間 | 回数 | 料金 | 総席数 | 入場者数 | 入場率 |
|---|---------|-----|---------------------|---------|---------|----------------|
| | | | (円) | (人) | (人) | (%) |
| 橋本一子ピアノリサイタル「一世の終りと世界の創造」 | 2.27 | 1 | 3,000 (当日 3,500) | 300 | 297 | 99.0 |
| TOKYO JAZZ ENSEMBLE LAB LIVE CONCERT | 2.28 | 1 | 3,000 | 350 | 334 | 95.4 |
| 第6回日本アニメフェスティバル | 3.4・5 | 6 | 無料 | 1,548 | 905 | 58.4 |
| 日本映画学校第1期生俳優科卒業公演 | 3.7~10 | 4 | 1,300 (当日 1,500) | 992 | 875 | 88.2 |
| ユリ・リトミック教室10周年記念公演 「でっかい地球だ！」 | 3.11・12 | 2 | 2,000 | 516 | 465 | 90.1 |
| 笑福亭鶴瓶 「鶴瓶嘶一聞き上手な人たちの集まりー」 | 3.16 | 1 | 1,500 | 400 | 373 | 93.3 |
| 花岡陽子スペニッシュダンスカンパニー公演 | 3.17・18 | 2 | 3,000 | 564 | 412 | 73.0 |
| 福田ワサブロー 「まばたきの隙に見えしもの まばたきの隙に去りしもの」 | 3.25・26 | 3 | 5,000 | 783 | 578 | 73.8 |
| (小計) | 60 | 223 | | 59,242 | 45,928 | 77.0 (*を除く) |
| 青山円形劇場 計 | 87 | 386 | | 105,581 | 81,810 | 77.5 |
| 劇場合計 | | 803 | | 567,201 | 440,816 | 77.7 |

注 ※印は劇場事業本部以外のこどもの城事業部が主管した公演である。

(2) 劇場事業本部の活動

63年度の青山劇場は、ミュージカル「ビッグ・リバー」（3月6日から5月5日まで。62年度事業年報参照）で始まり、63年度最大の眼目である「第17回ローザンヌ国際バレエコンクール」及び同コンクール記念の「ガラ公演」で終えるという大型の自主・提携公演に挟まれた1年間であった。一方、青山円形劇場は、総体的に安定した1年間だったと言えよう。オープンした60年11月から61年にかけては、試行錯誤の1年間として精力的にさまざまな試みにチャレンジし、62年度はその成果を踏まえての軌道修正と新企画の始まりがあり、そして63年度は今までの流れを踏襲・発展した形での演目のライゾ・アップが見られる。

63年度の両劇場を前年度と比べて見てみると以下のようになる。（〔 〕内は前年度）

1) 青山劇場

①総演目数 32本〔30本〕

②ジャンル

ミュージカル12本〔8本〕、演劇（台詞劇）1本〔3本〕、歌舞伎0本〔1本〕、オペラ1本〔1本〕、コンサート8本〔7本〕、舞踊6本〔3本〕、学会1本〔3本〕、

その他3本〔4本〕

③公演形態

自主公演7本〔7本〕，提携公演3本〔2本〕，貸し劇場22本〔21本〕

④対象

一般21本〔21本〕，青少年3本〔3本〕，児童・ファミリー8本〔6本〕

2) 青山円形劇場

①総演目数 87本〔82本〕

②ジャンル

ミュージカル5本〔6本〕，演劇（台詞劇）13本〔17本〕，人形劇7本〔0本〕，コンサート32本〔26本〕，舞踊16本〔14本〕，学会・シンポジウム3本〔8本〕，その他11本〔11本〕

③公演形態

自主公演15本〔17本〕，提携公演5本〔1本〕，貸し劇場67本〔64本〕

④対象

一般48本〔47本〕，青少年13本〔13本〕，児童・ファミリー24本〔21本〕，その他2本〔1本〕

青山劇場において特徴的なのは，ミュージカルと舞踊の比率が高くなったことである（61年度はミュージカル6本，舞踊1本であった）。これは後述するように，ミュージカルや舞踊というジャンルが，青山劇場のカラーとして定着しつつあることの現れであろう。また，青山円形劇場において特徴的なのは，「子どもの城」の中にある劇場として児童・ファミリー対象の演目に力を注いだ結果としての「人形劇」ジャンルの増大である。次に自主・提携公演を中心にして個々の演目を見てみたい。（順不同）

(ア) 青山劇場

① オペラ「愛の妙薬」(5.26～28)

若手の音楽家の集団「オペラクリエーション・イン・青山」による青山劇場第3回公演。演出に新進の宮本亜門を起用し，このグループの目指す“楽しく新しいオペラ”となった。

② 子どもの城サマーフェスティバル「ビバ！ファンタジー」(8.1・2) 子どもの城友の会のつどい「音楽畠ファミリーコンサート」(12.24・25)

子どもの城友の会の会員を主な対象としたファミリー企画。前者は夏休み，後者は冬休みに行われ，家族連れでにぎわった。

③ 第3回青山バレエフェスティバル(8.28～31)

若い才能ある踊り手に，更なる飛躍を期待し，優れた資質を発表する場を提供する同フェスティバルも，3回目を迎えて芸術的成果，社会的評価ともに定着した。今年度の特色は，フランスから工藤大貳氏を芸術監督として招き，氏が振り付けた2つの新作をメイン・プログラムにおいた点と，パリ・オペラ座から迎えた2人のゲストが披露したオリジナル作品を

配した点である。他に類似の催しが始めていたりする状況からも、このような新しい企画は、今後の同フェスティバルの展開に大切な要素となる。

④ こどもの城アジア音楽祭〔2〕

「ガムラン～もう一つのリズムの世界～」(11.30)

身近なようで知られていないアジア音楽に目を向ける同企画は、今回インドネシアのガムラン音楽を研究・習得し、演奏活動を続けている日本人グループを特集した。アジア音楽の中でも獨得の音とリズムの世界を持つガムラン音楽を展望し、日本人が研究・演奏することの意義を理解してもらう催しともなった。こどもの城ガムラン・グループも出演し、日ごろの練習の成果を発揮した。

⑤ アキコ・カンダ 第15回リサイタル「フォー・シーズンズ」(5.23～25)

ヴィヴァルディの名曲「四季」をもとに、アキコ・カンダが「女」を表現した舞踊公演。台本・演出に小田島雄志、照明に吉井澄雄、装置に清家清、音楽監修に南安雄といいう一流のスタッフを迎え、密度の高いステージを見せた。なお、アキコ・カンダはこの公演で昭和63年度芸術選奨に輝いた。

⑥ 前進座「五重塔」(12.4～20)

幸田露伴の名作「五重塔」の舞台化。中村梅之助の棟梁川越源太、村田吉次郎ののっそり十兵衛を中心に、谷中の五重塔再建にかける男の情熱を描いて好評を博した。

⑦ 第17回ローザンヌ国際バレエコンクール東京開催(平成元1.24～29)

63年度青山劇場の最大の催しであった同コンクールは、例年スイスのローザンヌで行われ今回初のアジア開催となった。このコンクールの目的は、将来プロを目指す15歳から19歳までの才能ある若い踊り手に、奨学金を提供するなど、その成長の手助けをすることがある。今回は同コンクール始まって以来の23か国1地域から140人の参加者を迎えるという大規模なものとなった。ローザンヌと東京・青山劇場の2か所でまず予選が行われ、選ばれた30人が青山劇場で準決選、決選を競った。また、世界バレエ界トップ・クラスの審査員、ゲスト・ティーチャーも青山劇場に集結し、予選から決選までの10日間、世界バレエ界の目が青山劇場に注がれたと言っても過言ではない。このコンクールを通じて、日本のバレエ環境に対する意識の向上、及び若い人のための芸術活動への関心と理解を高めるうえで青山劇場の果たした役割は大きい。このコンクール開催に文化庁とNHK放送文化基金から、それぞれ助成されたのも、こうした点が評価されたものである。また当コンクールの模様はNHKから、制作過程を追ったドキュメンタリーと舞台中継という2つの形でオン・エアされ、バレエに特別の関心を抱かない人々にも舞台芸術の持つすばらしさと、若者たちが1つの目的に向かってひたむきに汗を流していく姿を伝えて感動を呼び起こした。

⑧ ローザンヌ国際バレエコンクール東京開催記念「ガラ公演」(1.30～2.1)

過去に同コンクールで受賞した日本人ダンサーを国内外から招き、中国、米、英などの優れた若手ダンサーを加えて、同コンクール記念にふさわしい華やかさだった。

このほか、貸し劇場として特徴的なのは、「アニー」(日本テレビ)、「12ヶ月のニ

III 各部の活動(1)

ナ」（ホリプロダクション）、「赤いくつ」（西友）、「HANS」（劇団四季）とファミリーで楽しめるミュージカルが目立ったことと、「アニー」、「少年隊ミュージカル」、「谷村新司リサイタル」は、いずれも3回目の公演で、シリーズ企画が定着してきたことである。意欲的な新企画としては、「12ヶ月のニーナ」、「カルメン」（東宝）、「35ステップス～オータム～」（劇団四季）などが挙げられる。

(イ) 青山円形劇場

①ラファエル・ロメーロ～カンテ・フラメンコの世界～（4.21～27）

スペインの代表的フラメンコ歌手ラファエル・ロメーロとギターの名手ペリーコ・エル・デル・ルナールII世の来日公演。フラメンコ・ブームといわれる昨今でも、日本ではまだ一般になじみが深くないカンテ（歌）の真髄を、円形の緊密な空間で存分に聴かせてくれた。

②第3回／第4回こどもの城マタニティ・コンサート（5.6～8, 9.9～11）

このコンサートは、昨今はやりの教育主義的な「胎教」を目的としたものではなく、妊婦（とその家族）がリラックスし、妊娠期を心豊かに過ごす手助けをすることを趣旨とする。今年度はシリーズの第3回、第4回を実施した。第3回はハーピストの長澤真澄を迎えて世界の民謡から現代音楽までをソロ演奏、第4回はバイオリニストの中西俊博を中心とするユニットが、スタンダードジャズやオリジナル曲を披露して劇場を温かな雰囲気で包み込んだ。

③風が窓に歌うとき（5.30～6.4）

バスーン奏者田中雅仁を中心とする「アンサンブル・ラミ」と、パリ在住の日本人写真家SENKO-SHIBASAKI（柴崎千郷）のフォト・タブローの世界とのジョイント・コンサート。フォト・タブローをスライドで投影しながら、フランスのベル・エポック期に活躍した作曲家の木管アンサンブル作品を中心にした4夜連続のコンサートで、視覚的因素を加えることによって円形劇場でのコンサートに新しい可能性を示した。

④トラや帽子店のサマーバーゲンコンサート（7.22～24）

夏休み企画。とぼけた味わいと子どもたちを包み込むキャラクターで人気のバンド「トラや帽子店」が、劇場に集まった親子を楽しませた。

⑤カナダからのコミック・マイム「ゆかいなポテト・ピープル」（7.25～31）

夏休み企画。カナダからパントマイム劇団「シアター・ビヨンド・ワーズ」を招いて、その楽しくファンタスティックな世界を展開。じゃがいもの仮面をつけた「ポテト・ピープル」一家の日常を言葉を用いずにおもしろおかしく演じて、幼児から大人までをほのぼのした笑いに包んだ。

⑥こどもの城・キリン民話劇場第3回公演「つる」（8.1～8）

夏休み企画。日本の民話をさまざまな舞台表現形式で上演するシリーズの第3弾。今回は子ヅルが、京の都に献上されるために母ヅルと離ればなれにさせられた悲劇を描いたバレエ作品。ツルの母子の情愛がバレエで効果的に表現され、ファミリーを中心とした観客に好評を得た。

⑦劇団キオ「こんにちは　ママ！」（8.15～19）

夏休み企画。大阪で活発な演劇活動を続ける児童劇団「キオ」の初の東京公演。おてんば子ガラスの成長記録を、ローラースケートやカスタネットを使った斬新でスピーディーな演出で楽しく見せてくれた。

⑧第2回青山演劇フェスティバル～'88階からの時代の風景～（10.3～28）

新しい感性を持ち、独自の表現で時代を捉えている小劇場系の劇団によるフェスティバル。62年に始めたシリーズ企画の2回目で、今年度の参加劇団は、「遊●機械／全自動シアター」、「時々自動」、「プロジェクト・ナビ」の3劇団。

「遊●機械／全自動シアター」は昨年度も出演し、その高い舞台成果を評価しての連続出演。少年を主人公とし、一見でたらめに見えるストーリーやギャグを用いながら「現代」という時代の中に生きる我々の姿を浮き彫りにした。

「時々自動」は台詞を極度にそぎ落とし、獨得の音楽を用いる実験的なスタイルの集団。演劇というよりはパフォーマンスに近い表現で「詩」を感じさせた。

「プロジェクト・ナビ」は名古屋を本拠地とする劇団で、明確なストーリー展開と、この劇団特有の飄逸な雰囲気を通じて、現代の抱えている病と明日への希求を観客に伝えた。このフェスティバルは青山円形劇場の秋の目玉企画として定着したが、各地で同様のフェスティバルが行われるようになった現況を考えると、次年度からはこのフェスティバルならではの新機軸の試みを打ち出すことが課題となろう。

⑨こどもの城オープン3周年記念「みんなでうたおうこどものバイエル」(11.4～6)

こどもの城オープン3周年を記念して企画された。ピアノ練習曲集「バイエル」に15人の詩人たちが詩をつけた「みんなでうたおうこどものバイエル」（ばるん舎刊）を立体化したコンサート。小川美潮の歌と渡辺路子のピアノを中心に、ゲストとして招いた谷川俊太郎、ねじめ正一が、それぞれ自作の詩を朗読、また映像作家楠かつのりの作品も披露して、子どもから大人まで楽しめるユニークなコンサートとなった。

⑩ミクロロゴス（11.7～14）

61年11月の公演で大好評を博したフランスの古楽アンサンブルの再演。今回もフランスとイタリアの中世・ルネッサンス音楽を特集した2種類のプログラムで、前回以上に洗練された楽しいステージを見てくれた。

⑪The Nutcracker（12.19～27）

モダン・ダンスの黒沢美香と、実験的な芸術集団「ダム・タイプ」がその独得の感性で「くるみ割り人形」を展開。ポピュラーな素材を一旦解体し、組み立て直すという作業を通じて、理屈やストーリーを超えた芸術性の高い舞台となった。円形劇場のパフォーマンス路線を1歩進めた舞台として話題を呼んだ。

⑫第1回こどもの城・キリン・ファミリー・オペレッタ「おとぎの国のメルヘン通り3～アリスとサタンの心の旅～」（12.28・29, 1.3～8）

「良質のファミリー・エンタテイメントの確立」を目標に、オペラクリエーション・イン・青山のメンバーと「こどもの城」のスタッフが創作しているオペレッタ・シリーズの第3弾。

III 各部の活動(1)

63年度は「心の不思議さとすばらしさ」をテーマに、アリス、人魚姫、シンデレラ等、だれにも親しまれているキャラクターやイメージを自在に用いながらオリジナルのストーリーと曲を展開、完成度の高い舞台となって人気を博した。子どもの城児童合唱団や余バレエ・アカデミーの生徒ら、子どもたちが一緒に舞台に参加するのも特徴の1つ。今回からキリン記念財団の協賛を得て、同財団との共催となった。青山円形劇場冬休み企画。

⑭ダンス・アット・ザ・ギャザリング Vol. 7「ダンスコレクション2」(3.19~24)

「新しいダンス空間の創造」をテーマにしたシリーズ企画の7回目。今回は、クラシックバレエでもモダンダンスでもジャズダンスでもなく、一過性のコンテンポラリーダンスという新ジャンル開発に臨む前田清実の作品を取り上げた。全体は2部構成で、第1部では「カルミナブランナ」という大作に挑戦、そのテーマをみごとに反転してみせ、第2部「CHA CHA CHAのCHA」では、「チャ」という音をさまざまなイメージに展開した軽快なダンスで観客を沸かせた。

⑮人形劇団ひとみ座 「マウイチキチキ—南の島の少年—」(3.27~4.1)

春休み企画。南太平洋の島々に伝わるマオリ伝説をもとに、世界の始まりや少年マウイの冒險を描いた本格的人形劇。人形と仮面を使った遠藤啄郎の大胆な演出、創作楽器を主体にした音楽(矢吹誠作曲)の生演奏など、レベルの高い舞台づくりで子どもから大人まで広く感動を与えた。

⑯人形劇企画(子どもの城人形劇フェア)

ファミリーを対象とした企画に重点を置くための第1歩として、今年度採用されたのがこの一連の人形劇企画—子どもの城人形劇フェアである。ここにラインアップされた人形劇はレベルが高く、また比較的少ない経費で運営できる。したがって入場料もファミリーにふさわしく低料金に設定でき、仕込みも簡単である等メリットが多い。しかし、一方で人形劇の性質上、舞台を額縁型に組むことが多く、円形劇場としての性格を發揮できにくいという問題点も残した。今年度は6期間延べ15劇団がこのフェアに参加し、3歳から小学校低学年の幼児・児童とその家族を中心に入形劇ならではの舞台を楽しんだ。また「世界人形フェスティバルは、国際交流の視点からも有意義だった。その活動は以下のとおりである。

● 5月2~4日(ゴールデン・ウィーク企画)

「世界人形劇フェスティバル'88 東京～子どもの城プレフェア～」

人形劇トロッコ／人形劇団ひとみ座／つばくろ人形座

● 8月9~11日(夏休み企画)

「世界人形劇フェスティバル'88 東京」

マーメイト劇場(カナダ)／クシクシ人形劇場(ペルー)／ワヤン・ゴレ(インドネシア)／ラドスト人形劇場(チェコスロバキア)

● 8月12~14日(同上)

「夏休み子どもの城人形劇フェア」

人形劇団ひとみ座／劇団すぎのこ／つばくろ人形座／高津人形座／劇団ちろりん

●10月1日

「子どもの城人形劇フェア」

人形劇パペットボックス

●11月23日（勤労感謝の日）

「子どもの城人形劇フェア」

つばくろ人形座

●1月28・29日

「子どもの城人形劇フェア」

スケッチブック

また、この「子どもの城人形劇フェア」シリーズとは別に、夏休みには「世界人形劇フェスティバル'88東京」が催された。世界各国から集まった人形劇は、それぞれの国のおもしろい特色が見られ、国際交流の見地からも有意義であった。

●8月9・11日

「世界人形劇フェスティバル'88東京」

マーメイド劇場（カナダ）／クシ・クシ人形劇場（ペルー）／ワヤン・ゴレ（インドネシア）／ラドスト人形劇場（チェコスロバキア）

<次年度へ向けて>

オープンして3年間を経てみて、ばく然とではあるが両劇場のカラーと呼べそうなものが定着してきたように思える。青山劇場は、都会性、ファッショニ性、インテリジェンス等を有した華やかなもの、ジャンルで言えばミュージカルやバレエ公演、またはしゃれたコンサート等が似つかわしいし、青山円形劇場は、ジャンルを問わず円形のユニークな空間を生かし、客席と舞台の親密な関係の上に成り立つイベント性の強いものがふさわしいと思われる。

また、青山円形劇場は若者の新しい感性を最大限に取り入れたいわゆる小劇場ムーブメントの基点としての性格も強く持ちつつある。青山円形劇場はいわば「びっくり箱」や「おもちゃ箱」のような何が飛び出すか分からぬおもしろさを備えた劇場として認知されつつあるし、そのような方向性を目指してもいる。

更に青山劇場と青山円形劇場の双方にいえることは、「子どもの城」の重要な一環として、ファミリーを対象としたエンターティメントの提供の使命を帯びているということである。あらゆる世代の人々が（子どももおとなも）ともに楽しめる良質のファミリー・エンターティメントの確立は、口で言うほどたやすいものではないが、今後の両劇場の果たしていくかなくてはならない大切な課題だろう。

このようなカラーができていき、課題に挑むに当たって、劇場が単に器としてのハードを提供するだけでなく、ソフトを産み出していく力を持つことは、劇場に活気と自律性を与え、ひいては良質の貸し劇場公演にもつながっていく。劇場をオープンして3年を経た今、もう一度このことを肝に銘じなくてはならない。

III 各部の活動(1)

1) こどもデパート

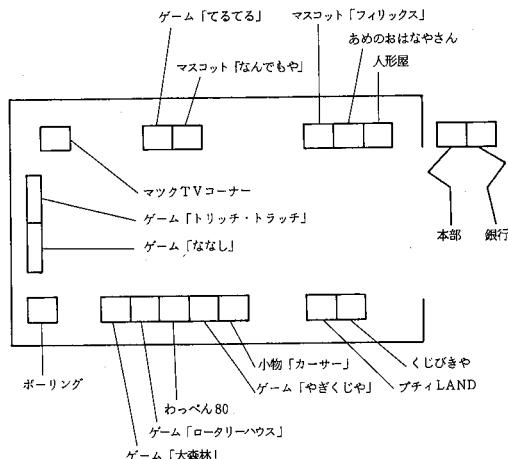
4月24日(日)に第3回こどもデパートを実施した。前年までと同じく、子どもたちが企画・運営し、手作りの品や本・中古雑貨などを販売する内容で、目的は、①集団活動を通して個人の役割とチームワークを学ぶ ②集団の中でのルールとマナーを身につける一方、製作・流通・宣伝など、社会の仕組みを学ぶ ③お店やさんごっこを通して、一般来館児童(お客さん)との交流を図る、というものである。

今年は、新たな試みとして、例年会場の1つについていたプレイホールの代わりに、地下2階の体育室を使用した。子どもたちの企画する店の傾向として、各店が広いスペースが必要とするゲーム店が多くなってきたためである。4階と地下2階の場所が離れていることから、

こどもデパート会場図

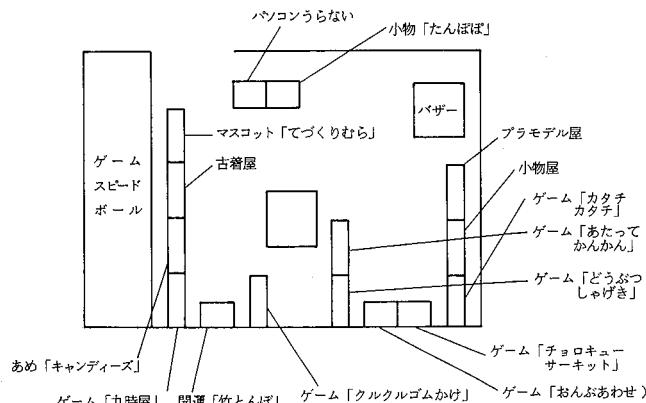
★4階音楽ロビー

| 第3回こどもデパート店舗数 | |
|------------------------------|-----|
| 音楽事業部 講座・クラブ児童・母親(こども喫茶店を含む) | 19店 |
| あそびガヤガヤ研究所 | 6店 |
| 研修教養部 婦人ボランティア | 1店 |
| 研修教養部 青年ボランティア | 1店 |
| 保育研究開発部 幼児と母親 | 1店 |
| プレイ事業部 クラブ児童 | 1店 |
| バザー店 | 2店 |
| 計 | 31店 |



★地下2階体育室

| 第3回こどもデパート収支 | |
|-------------------|-----------|
| 前年度から繰越金(準備費) | ①284,630円 |
| 収入(金券売上) | 591,930円 |
| 支出(材料費) | 218,595円 |
| 収支 | ②373,335円 |
| 残金(①+②) | 657,965円 |
| (社福)日本肢体不自由児協会へ寄付 | 300,000円 |
| 次年度へ繰越(準備費) | 357,965円 |



AV チームによる情報ステーションでお互いに状況を知り、一体感を出すよう工夫した。

今年もほぼ目的は達成できた。毎年経験しているベテランの子どもたちが積極的に運営し、初体験の子どもたちへアドバイスをするなど、徐々に大人の手を離れていく望ましい傾向にあると思われる。

2) くもの巣城たんけん

例年、夏のメイン行事として、61年のミステリーゾーン、62年のブラック・ボックス等「ふしぎ体験」をテーマにした催しを行ってきた。今年は「ふしぎ空間」の要素を残しながらも、ゲーム色の強いイベント「くもの巣城たんけん」を行った。

期間は7月30日～8月7日の9日間で、場所は地下1階のフリーホール。内容は、くもの巣のようにゴムひもが張りめぐらされた迷路内にある2か所のチェックポイントを探し出し、ゴールするまでにかかった時間を競うゲームである。

入り口でカードを1人ずつ配り、スタート時間を記入してコース内に入る。各チェックポイントでカードに自分でスタンプを押し、必ずゴールから出る。ゴールから出てきた所で係がタイムを記入し、優秀者には表彰状を出した。

コース内のゴムひも（くもの糸）は縦横にたくさん張り、くぐる・乗り越える・はう・かき分けるなどの運動がなければ通れないように設定した。コース内はブラックライトの照明のみで全体に暗く、7色の蛍光塗料で染め分けたゴムひもを浮かび上がらせることで、神秘的空間を演じた。

幼児から高学年・中学生にまで人気があり、内容としては成功だったが、スペースが狭いので全体に収容能力が少なく、混雑時には入場までに1時間以上の待ち時間が必要となった。入場者数は約8,000人で、1日平均約900人であった。

3) 夏まつり

8月20・21日、屋上のふしぎが丘を使って「こどもの城夏まつり」を実施した。

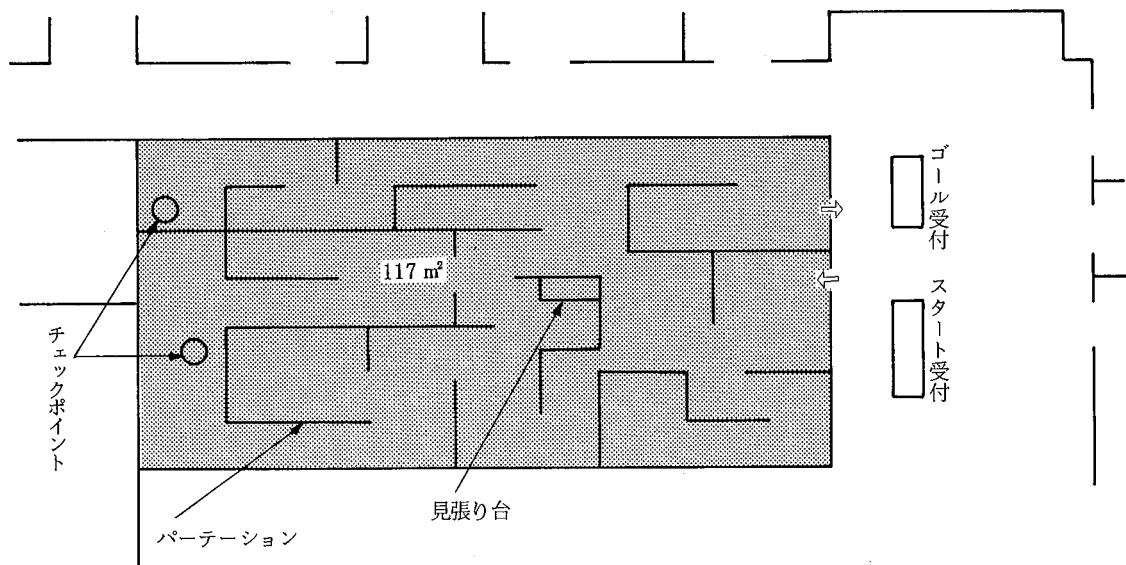
テーマは昨年と同じく、縁日・映画会・ゲーム大会などを通して同世代・異世代・親子などの幅広いコミュニケーションの場とし、地域との交流を図ろうというものである。

今年も渋谷区青年団体の協力が得られ、飲食関係の屋台やゲーム屋など合わせて17店舗を出店した。

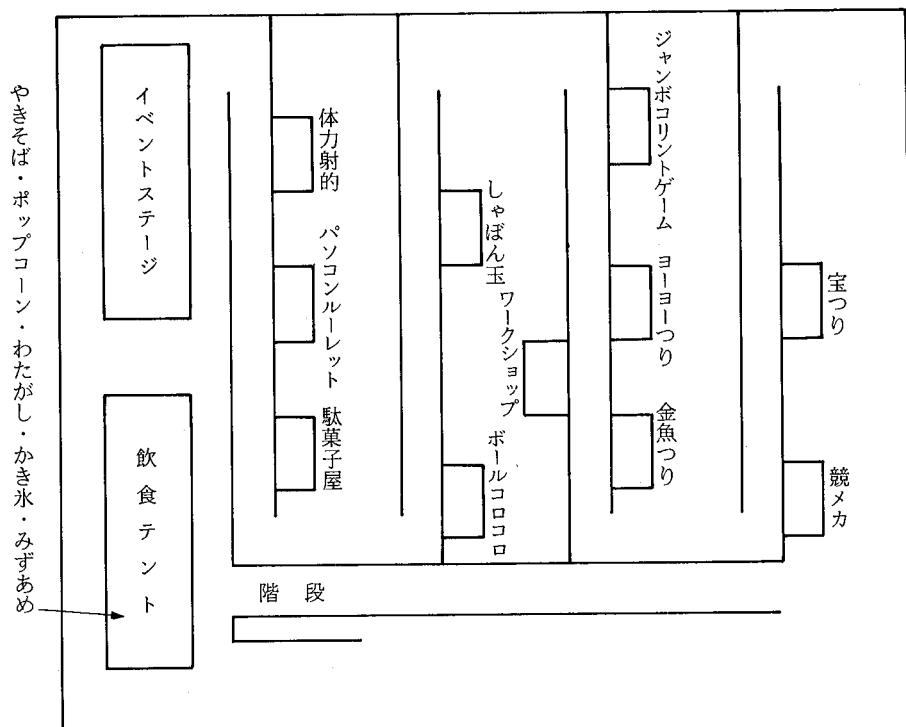
今年は、映画会を屋上最上階のネットの中で行い、例年の大スクリーンには、造形事業部によるワークショップで作った子どもの作品を写し出した。また、大道芸人のショータイムやミニコンサートなど、例年よりお祭り的演出に重点をおいた。

III 各部の活動(1)

くもの巣城たんけん会場図



夏まつり会場図



4) ウォーター・アドベンチャー

7月21日から同31日まで、子どもたちに人気のある水鉄砲を使った「ウォーター・アドベンチャー」が行われた。6人が1チームを構成し、屋上「ふしげが丘」に設けられたいくつかの“水の閥門”をくぐり抜ける。その間、各人の頭につけた紙の標的を水鉄砲で破られないようにして、最後の「赤い要塞」から黄金の鍵（かぎ）を取り出すまでのゲーム。

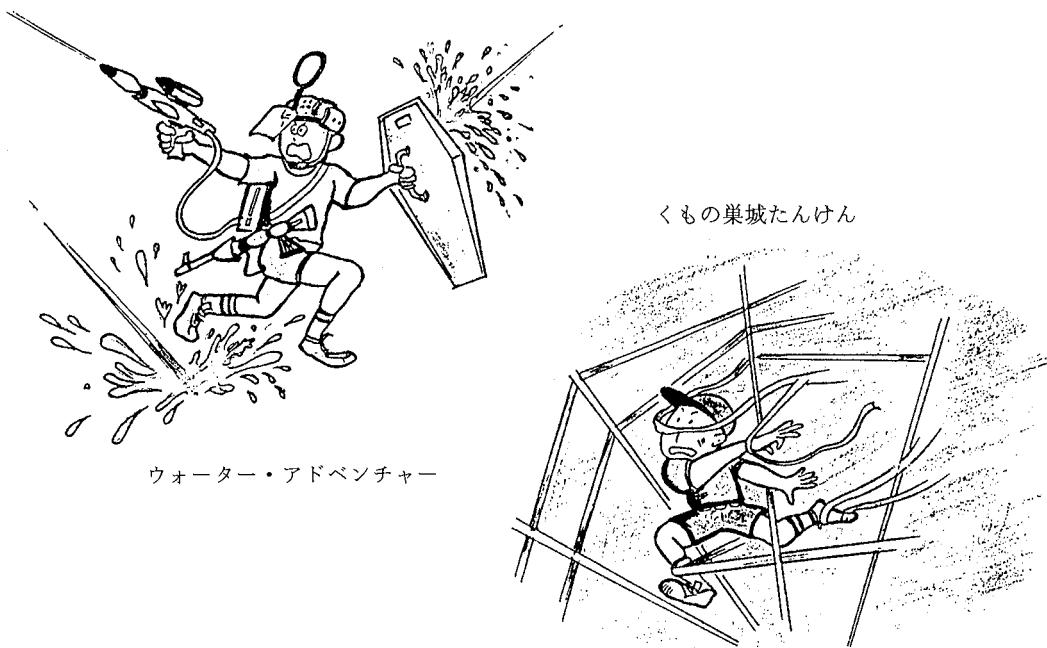
参加者は、受付で水鉄砲と盾、紙で作った棒をもらい、6人のメンバーが役割を相談して、武器、防具を持つ。

閥門はゲリラ地帯とタンク平原、赤い要塞。ゲリラ地帯には水鉄砲を持ったゲリラが配置されており、そのゲリラに頭の紙の標的を打ち抜かれないように壁に身を隠し、盾で防ぎながら、宝の2個の水風船を探す。これは次のタンクの平原で、戦車を倒すのに必要なもの。

タンクの平原には風船を装着した小型戦車が配置されている。戦車からの水鉄砲の攻撃をかいくぐり、風船を紙の棒で割ると無事に平原通過。

最後の赤い要塞には8個の穴があり、そのどれかに隠されている「黄金の鍵」を探し出してゴールに向かう。この鍵を探す間も水の攻撃を受ける。

まったく知らない同士の子どもがチームをつくり、仲間としてそれぞれの役割を果たしながら目的に向かって進む中で、協力、かばい合いの友情が自然に生まれていた。また夏のプログラムとして、水を使う季節感や、水鉄砲からは昔あそびの感じも出ていた。期間中の参加者は約1,800人。



—いずれも「こどもの城ニュース」から—

IV 各部の活動(2)

| | |
|---------|-----|
| 1 広報部 | 149 |
| 2 研修教養部 | 152 |
| 3 国際交流部 | 167 |
| 4 営業部 | 171 |

<夏休み重点に広報計画>

子どもたちを対象にした遊びの施設で、頭の痛いのはやはり平日対策であろう。「子どもの城」とて、もちろん例外ではない。

開館いらいのデータと経験から、明らかに「子どもの城」も“休日型”であり、かつ“雨天型”であることがはっきりしてきた。そこで、決して平日対策をおろそかにするわけではないが、本年度は思いきって夏休みに重点を置いてPR計画を立てた。不順な天候も味方してか、夏休み中の来館者の数は昨年を14,000人上回る117,700人に達した。各事業部の協力で、例年になく早めのスタートが切れたのも、作戦上大いに役立った。

早め早めの準備こそ、広報の成否を左右する最大のカギといえよう。

<有名ホテルからも資料請求>

5月中に、なんとか夏休みの行事がまとまつたので、6月早々新聞、テレビ、雑誌など報道関係をはじめ、全国各地の旅行会社、ホテル、旅館などにニュース・リリースとして広く発送した。この結果は朝日、毎日、読売の3大紙をはじめとして、10紙以上で取り上げられた。都内の有名ホテルからも「お客様に聞かれるので、子どもの城のリーフレットを送ってほしい」という要望がかなりあった。

これを受けて夏休み直前、朝日新聞(朝刊)、読売新聞(夕刊)、朝日小学生新聞の3紙に全5段の夏休み広告を掲載した。とたんに劇場の切符が飛ぶように売れ出したり、遠隔地から問い合わせが相次ぐなど、大きな反響を呼んだ。

隔月発行の「子どもの城ニュース」は8月15日の予定を1か月繰り上げて7月15日号

とし、夏休み特集を組んだ。屋上に新設された大型遊具「プレイポート」を目玉に、期間中のプログラムを写真やイラストで、来館者がそのままガイドとして使えるよう構成した。

夏休みに入り、7月25日から1週間、東横線、田園都市線、大井町線、池上線、目蒲線、世田谷線の東急各線60駅に「子どもの城」のポスターを掲出した。ポスターは前年夏、福田繁雄氏に依頼して制作したものの残りを日付だけ手直しして再利用した。

8月2日、開館以来の入館者が300万人を突破した。その情報をすぐ報道関係にファック

取材件数

| 年 ・ 月 | 新 聞 | テ レ ビ | ラ ジ オ | 雑 誌 | そ の 他 | 計 (件) |
|--------------|--------|-------------|-------------|--------|-------------|------------------|
| 63・ | 4 | 5 | 3 | 1 | 3 | 5 17 |
| | 5 | 6 | 5 | 0 | 4 | 3 18 |
| | 6 | 0 | 1 | 0 | 5 | 4 10 |
| | 7 | 3 | 2 | 2 | 6 | 2 15 |
| | 8 | 5 | 10 | 5 | 1 | 2 23 |
| | 9 | 0 | 1 | 1 | 3 | 2 7 |
| | 10 | 1 | 4 | 0 | 1 | 1 7 |
| | 11 | 4 | 2 | 1 | 7 | 2 16 |
| | 12 | 5 | 1 | 0 | 6 | 0 12 |
| | 平成1. | 1 | 4 | 7 | 0 | 2 13 |
| | 2 | 3 | 0 | 0 | 1 | 3 7 |
| | 3 | 2 | 4 | 0 | 5 | 2 13 |
| 計 | 38 | 40 | 10 | 42 | 28 | 158 |
| 開館以来の 総 計 | 210 | 258 | | 268 | 246 | 982 |

注：「その他」は、社内報、機関誌(紙)、PR紙などである。

IV 各部の活動(2)

スで送信、テレビ朝日、TBSラジオ、毎日新聞などで取り上げられた。

＜名物化した渋谷スタンプラリー＞

渋谷は若者の街といわれる。おしゃれでファッショナブルな店が多い。若い女性向けのある雑誌は、渋谷を特集すると必ず部数が伸びるという。その反面、渋谷にはもうひとつの顔がある。10を超す美術館、博物館、資料館などが集まる文化とファミリーの街、というのがそれである。

その代表的施設といえる「NHK展示プラサ」「電力館」「たばこと塩の博物館」「こどもの城」共催の「渋谷スタンプラリー」が前年に統いて実施された。春、夏の2回で延べ90

編集・発行

〔こともの城ニュース〕

| | 発行日 | 内 容 | おもな配布先 |
|------|---------------|---------------------|---|
| 第15号 | 63年 4月15日 | 「木の香いっぽい」ほか | ネットワーク..... 4,000部 |
| 第16号 | 6月15日 | 「ローザンヌ国際バレエコンクール」ほか | こどもの城友の会会員..... 約3,800部 |
| 第17号 | 7月15日 | 「こどもの城の夏休み」ほか | 都道府県民生主管部..... 1,156部 (全国57か所) |
| 第18号 | 10月15日 | 「おもしろ1週間」ほか | 保育園、幼稚園、小学校、 中学校..... 438部 (219件×2部) (渋谷区、東区) |
| 第19号 | 12月15日 | 「あったかーい冬休み」ほか | 渋谷町会、渋谷区ボイスカウト、 ガールスカウトほか..... 284部 (142件×2部) |
| 第20号 | 平成1年 2月15日 | 「世界が見つめた青山劇場」 ほか | その他、招待者、診察・見学者など へ贈呈・配布..... 約15,000部 |

〔児童手当誌〕

| | 発行日 | 内 容 | | 発行日 | 内 容 |
|----------------|--------------|---------------------|------|--------------|------------------------|
| ネットワーク 第14号 | 63年 6月1日 | 「遊びと造形発想」展ほか | 第24号 | 7月1日 | 「より魅力ある城を目指して」 ほか |
| 第15号 | 9月1日 | 「入館者300万人突破」ほか | 第25号 | 8月1日 | 「自然流の体育指導」ほか |
| 第16号 | 12月1日 | 「こどもの城満3歳」ほか | 第26号 | 10月1日 | 「心のよりどころを目指して」 ほか |
| 第17号 | 平成1年 3月1日 | 「ローザンヌ国際バレエコンクール」ほか | 第27号 | 11月1日 | 「多様化する保育ニーズを模索」 ほか |
| こどもの城 第22号 | 63年 4月1日 | 「造形連禱」ほか | 第28号 | 1月1日 | 「“子どもの言葉”をテーマに」 ほか |
| 第23号 | 5月1日 | 「ぼくらのサウンド」ほか | 第29号 | 平成1年 2月1日 | 「4回目を迎えるスタンプラリー」 ほか |

日間、平成元年の春には通算4回目を迎えた。回を重ねるごとに参加者が増え、名物行事として定着しつつある。NHKが加わっているので、この催しを通じてのPR効果は大きい。

一方、この種のラリーが各地でもいろいろな形で行われている。その中で、この「渋谷スタンプラリー」の特色を、今後どう伸ばし育していくか、渋谷という街全体を含めて考える時期がそろそろ来ているのではないか、とも思われる。

<色を添えたフォト・コンテスト>

夏の第3回スタンプラリーから、新たに「フォト・コンテスト」が加わり、色を添えた。フジカラー・グループの協賛で、スタンプラリーの期間中に写した作品を対象に審査が行われ、優秀なものにはカメラや賞状が贈られた。集まった約300点の応募作品は、表彰式のあと、4館で持ち回り展示された。

今後もスタンプラリーと平行して続けられる予定である。

◇◇◇◇さすがプロ“執念の火”をとらえたカメラ◇◇◇◇

8月に群馬県・西毛野外教育センターで行われた「ジュニア・アウトドア・スクール」を、日本テレビ「ズームイン!!朝！」が密着取材した。「カメラが向けられてもVサインをしないこと」と注意を受け、出発前は緊張していた子どもたち。半日もすると撮影用のライトがついても、一向に気にとめなくなった。子どもたちいわく「やることがいっぱい、Vサインなんてしているヒマないよ」。

ズシリと重いテレビカメラを肩にのせ、目の前にそびえる高岩山登山に同行した時は、「さすがプロ」と尊敬のまなざしが注がれた。雨が降るなか、足場がもろいに落石もあり、途中、ロープを使って登るというハードな行程。

カメラが前から撮ろうと先行して、道を間違えたり、ふもとで待っている小学生を頂上から写す予定だったのが、あいにく濃い霧につつまれて思わず天を仰いで「バカヤロー」。子どもたちはテレビの画面の裏の苦労を垣間見る思いだったようだ。

キャンプで最も難しかったのが「火起こし」。火切り棒で火ダネを作り、麻に燃え移らせるのだが、手本のはずのスタッフも思わぬ失敗。あいにくの天気で、道具一式が湿り気を帯びたためだった。みんな、あと一步のところまでいくのだが成功しない。城のスタッフも記録として撮っているビデオに、なんとか火のつく瞬間を収めようと、火のつきそうなグループをさがし歩く。結局、その日はテープをムダにしただけだった。翌日、子どもたちは先を争って再挑戦。しかし、道具一式は、いぜんぬれたままで、またも悪戦苦闘の繰り返し。だれもが、あきらめかけたが、「ついたぞー」という子どもの声がキャンプ場に響いた。子どもたちが声のした方にどっとかけ寄る。チョロチョロと燃え上がる“執念の火”を見て拍手の嵐。

わが子どもの城の記録ビデオには、残念ながらその様子は無い。しかし、「ズームイン!!朝！」で映しだされた画面には、火のついた瞬間と、子どもたちが集まってきて喜びの声とともに拍手する姿が、感動的に描かれていた。

ボランティア・講座・「ガヤ研」……

研修教養部の事業はおよその次の事項にまとめることができる。

(1) ボランティアの養成と活動に関するこ

63年度は、大学生を中心とする青年ボランティアの養成を第12期から第14期の3期にわたって行い、計131人が修了した。「こどもの城」開館前の59年からこの養成を始めており、第14期までの総修了者は605人。63年度末現在、うち212人が「こどもの城」での活動登録者となっている。

婦人ボランティアの養成も63年度は1期行い、13人が修了した。修了者総数は61人で、うち48人が登録されている。

(2) 児童厚生員等実技指導講習会の開催

全国の児童館などで働く児童厚生員の資質の向上に寄与するため、「こどもの城」の事業を活用しての実技を中心とする講習会を年2回開催しており、63年度は5月と10月に実施した。

(3) 福祉講座の実施

手話講座、点訳講座、お話講座、点訳サークルの運営及び子どもをめぐるさまざまな問題を取り上げる特別公開講座の実施。

(4) 実習生・研修生の受け入れ

大学生・専門学校生などの実習は保育・体育を中心に希望があり、研修教養部が窓口となってこれを受け入れ、各事業部との調整を行っている。

(5) あそびガヤガヤ研究所の運営

「こどもの城」は子どもの意志を大切にし、子どもの立場に立って運営することを旨としている。このため一般からの公募によって子どものグループをつくった。主な活動は①子どもによる新しい企画と、その自主的運営②子どもの目から見た現事業への意見などである。

(6) ジュニア・アウトドア・スクールとジュニア・スキースクールの運営

都市化社会で生活している子どもたちが大自然のもと、優れた指導者によって生活創造体験する意義は大きい。「こどもの城」は本来、屋内活動施設であるが、夏と冬にはボランティアの訓練を兼ねて上記のスクールを運営している。

1) ボランティアの活動

〔平常期間〕

平常期間のボランティア活動は次のようなプログラムで、定期的に行われた。

〈プレイホールでの週間活動〉

- (ア) 火曜日。婦人ボランティアの方が「おはなし紙しばい」を演じている。
- (イ) 水曜日。青年ボランティアによる「チャレンジギネス・ゲーム大会」。にぎやかに

2 研修教養

輪なげ、的あてなど、だれでもできるゲームで盛り上げてくれている。

(ウ) 木曜日。青年ボランティアによるパネルシアター。白いパネルに絵をはりながら、子どもたちと楽しいお話をする。

同じ木曜日、婦人ボランティアによる「影絵」もパネルシアター同様、子どもたちの歓声に迎えられるプログラムである。

(エ) 金曜日。青年ボランティアによる「みんなで遊ぼう・ゲーム大会」。bingo大会を数字・動物bingoとバラエティー豊かな内容で展開している。

(オ) 土曜日。来館者の多い土曜日は青年ボランティアによるSPT(サタデー・プレイ・タイム)。ニュースポーツや伝承あそび、手づくり工作など幅広く遊びにチャレンジした。

〈手足の不自由な子どもの水泳教室〉

体育事業部が土曜日午後、実施している。手足が不自由な子どもたちは水の中では、より動きやすくなり、それによって日ごろ運動不足になりがちな子どもが楽しい水中運動の時間をもっている。多くのボランティアの献身的な努力でこの教室が続けられ、成果をあげている。

〈ぱたぱた・アニメをつくろう〉

土曜日午後。AV事業部のプログラムでボランティアが活動している唯一のもの。

〈マックロ一人形劇〉

毎月第2土曜日午後3時からマックローファミリーを使っての人形劇が行われている。この人形劇グループは毎週金曜日午後6時半から練習を重ね、ボランティアならではの新鮮さで、子どもたちの心に食い込んでいる。

〈日曜日の行事〉

▽プラモデル模型工作教室=プレイホールで開いている。道具がうまく使えなくなった子どもたちが、ペンチ、ニッパー、ドライバーを用いて懸命に作る姿は真剣そのもの。専門の指導者はいるが、1人1人の子どもの状態を見てのボランティアの適切なアドバイスに温かな心の交流がある。

▽さよならのつどい=プレイホールで一般来館者とともに日曜日午後4時からいろいろなゲームやダンスなどをして、触れ合いの機会をつくっている。

〈その他〉

▽あそびガヤガヤ研究所=子どもらしい見方、発想から、「子どもの城」の諸活動をモニタリングしたり、遊びの創造、開拓を目指す小・中学生のグループが、子どもの城あそびガヤガヤ研究所。このグループを支えているのがボランティアで、子どもたちの独創性の發揮や自発的な企画活動の育成に努めている。

▽こどもデパート(4月24日)

婦人ボランティアが「手づくり小物屋」、青年ボランティアは「竹とんぼ屋」を、それぞれ出店した。

〔特別期間〕

(ア) 春休み

人形劇フェスティバルにボランティアグループが参加したほか、ふしぎが丘での活動を運営した。

(イ) 児童福祉週間（4月29日～5月5日）

この期間、全館行事のキャッスルクエストが行われ、そのポイントはほとんどボランティアで受け持ち、行事を成功に導いた。3日にはマックロー人形劇が出演。プレイホールでの「デカデカ鯉をつくろう」では婦人ボランティアが親切に指導し、青年ボランティアも子どもたちと色つけやはりつけを行った。

(ウ) 夏休み

- ・屋上ちびっこプール開きゲーム大会（7月20日）。夏休みの最初のゲーム大会はプールサイドでボランティアの創意によるゲームが行われ、子どもたちの元気な水着姿が躍った。

- ・ウォーター・アドベンチャー（7月22日～31日）。準備の段階から青年ボランティアが中心になってコースの設定などを行い、始まってからは連日、参加の子どもたちに対する“仮想ゲリラ”として、びしょぬれになりながら奮闘した。また婦人ボランティアも水風船づくりなどに裏方として活躍した。

- ・くもの巣城たんけん（7月30日～8月7日）。フリーホールいっぱいに張りめぐらしたゴムひものくもの巣の中にチェックポイントをおき、不思議な光の中をくぐり抜けてタイムを競う遊び。婦人ボランティアが受け付けや時計係から、コースの安全管理などに大活躍だった。

- ・こどもの城の夏祭り（8月20日・21日）。ふしぎが丘のスロープにちょうちんが飾られ、ボランティアは浴衣姿で、雰囲気を盛り上げた。金魚すくい、宝つり、メカレースなどをボランティアが出店した。

- ・ミステリーハウス（8月26日～28日）。あそびガヤガヤ研究所の企画・制作。ガヤ研担当のボランティアはその企画、制作を子どもとともに行った。同研究所第3期（63年8月終了）の子どもたちの“卒業制作”ともいうべき力作で、ボランティアも子どもたちとともに大成功の感激にひたった。

- ・プールじまいゲーム大会（8月31日）。不順な天候が続き、比較的低調に終わることになった屋上ちびっこプールだが、プールじまいは、ボランティアが博士になってのソウルオリンピックにちなんだスポーツ・クイズ大会や水風船ひろいなど、ボランティアの協力で盛り上がった。

夏休み特別期間はこのほか人形劇を始めいろいろなプログラムに活躍。またチャリティー部による青山劇場、青山円形劇場での観劇チャリティーでは体の不自由な人たちの介助・案内などに貢献した。

(エ) 開館記念（11月1日～3日）

チャレンジゲーム・スペシャル「ねらえ!!遊びの三冠王」を3日間通してふしぎが丘で

2 研修教養

行った。ジャンピング王、スピード王、ストライク王などアイディア豊かにゲームを組み立て、楽しいプログラムとなった。

(オ) 冬休み (12月25日～1月6日)

年忘れゲーム大会を年末に、昔あそび（屋上）と紙相撲大会（4階Bスタジオ）を正月に実施した。年末は参加者が少なかったが、新年は多くの参加者があり、紙相撲は満員の盛況。ボランティアの行司の「裁き」は手作りの衣装とともにみごとなものだった。

昔あそびは「けん玉」「福笑い」「竹馬」「三ツ馬」などで、親子で楽しめるプログラムとなった。

(カ) 春休み (3月25日～31日)

「チャレンジ・ゲーム」をふしぎが丘で実施した。マイクに向かっての大声をコンピュータ映像に連動させ、大きければ大きいほど画面の桜前線が北上する「桜前線」、7つのポイントを春の七草に見立て、走って全部にタッチして回る早さを競う「七草ジグザグタッチ」など季節感を取り入れた楽しいプログラムは、いずれもボランティアの考案であった。

〔季節行事〕

平常期間の定例的プログラムのほか、館内ではいろいろな季節行事が行われたが、どのプログラムにも青年ボランティアや婦人ボランティアの協力があった。

主なものは次のとおり。

- (1)母の日 (5月8日)
(2)父の日イベント「ここはとうさんラリー」(6月19日)
(3)敬老の日「昔あそびの名人におそわろう」(9月11日)
(4)スポーツの日プログラム「博士クイズとニュースポーツ大会」(10月8日～10日)
(5)ひな祭り「春一番ひなまつり」(2月25日・26日)

〔キャンプ活動〕

「こどもの城」が行う各種の子どもキャンプは、青年ボランティアの訓練を兼ねているが、ボランティアの参加によってキャンプの内容が大きく充実するのはもちろんである。

63年度のボランティアのキャンプ参加者数は次のとおり。

▽ジュニア・スキーキャンプ（新潟県グリーンピア津南、3月31日～4月4

ジュニア・アウトドア・スクール
参加者一覧

| | 男 | 女 | 計 |
|-------------|----|----|----|
| 小学校3・4年生 | 13 | 4 | 17 |
| 小学校5・6年生 | 6 | 22 | 28 |
| 中 学 生 | 9 | 10 | 19 |
| 小 計 | 28 | 36 | 64 |
| ス タ ッ フ | 3 | 1 | 4 |
| ボ ラ ン テ ィ ア | 8 | 15 | 23 |
| 小 計 | 11 | 16 | 27 |
| 合 計 | 39 | 52 | 91 |

スキーキャンプ
参加者一覧

| | 男 | 女 | 計 |
|-------------|----|----|-----|
| 小学校3・4年生 | 12 | 7 | 19 |
| 小学校5・6年生 | 12 | 17 | 29 |
| 中 学 生 | 17 | 15 | 32 |
| 小 計 | 41 | 39 | 80 |
| ス キ ー 講 師 | 4 | 3 | 7 |
| ス タ ッ フ | 3 | 0 | 3 |
| ボ ラ ン テ ィ ア | 9 | 12 | 21 |
| 小 計 | 16 | 15 | 31 |
| 合 計 | 57 | 54 | 111 |

日) 21人

△ジュニア・アウトドア・スクール(群馬県西毛野外教育センター, 8月1日~4日)23人

△インドア・キャンプ(夏休み特別期間中に4回)計48人

[募集と養成]

ボランティアについては、次のような過程で計画・募集養成活動を行った。

(ア) 年間計画の立案

講習会の時期、人数、対象、講習内容、運営方法などを検討して作成する。

(イ) 募 集

募集要項を「こどもの城」の事業に関心を持っている大学の教授に送って学生に呼びかけてもらうほか、各新聞社に依頼して、「お知らせ」欄などに募集記事を掲載する。

(ウ) 面接と講習会の運営

応募者に対しまず面接を行い、参加の動機、活動経験、活動への意欲、学校での勉強との関連などを聞く。同時に「城」の活動を紹介し、熱意ある受講を促して、講習に入る。

講習はボランティアに必要な知識と実技及び実際活動に必要なルールや心得るべきことについての座学と実習を交えて行う。更に「城」のこども活動各部門の事業説明をし、活動意欲の醸成に努めている。

(エ) 活動への参加

こどもの城ボランティア養成状況 (平成元年3月現在)

| | | 養 成 期 間 | 登 錄 数 | 修 了 者 数 |
|--------|----|-------------|-------|---------|
| 青 年 | 1 | 昭和59年6・7月 | 1 | 37 |
| | 2 | 〃 59年11・12月 | 8 | 44 |
| | 3 | 〃 60年2月 | 3 | 46 |
| | 4 | 〃 60年6・7月 | 9 | 50 |
| | 5 | 〃 61年2・3月 | 6 | 36 |
| | 6 | 〃 61年6・7月 | 8 | 35 |
| | 7 | 〃 61年11・12月 | 14 | 43 |
| | 8 | 〃 62年2・3月 | 13 | 49 |
| | 9 | 〃 62年6・7月 | 16 | 42 |
| | 10 | 〃 62年11・12月 | 12 | 44 |
| | 11 | 〃 63年2・3月 | 21 | 43 |
| | 12 | 〃 63年6・7月 | 25 | 42 |
| | 13 | 〃 63年11・12月 | 29 | 42 |
| | 14 | 平成元年2・3月 | 47 | 47 |
| | | 小 計 | 212 | 605 |
| 婦 人 | 1 | 昭和60年11月 | 16 | 19 |
| | 2 | 〃 61年10月 | 12 | 15 |
| | 3 | 〃 62年11月 | 12 | 14 |
| | 4 | 〃 63年10月 | 10 | 13 |
| | | | 小 計 | 48 |
| | | 合 計 | 262 | 666 |

(注)外国人ボランティアについては、特別期間及び行事などの際に随時30人程度の協力を得ている。

この講習会を修了した人はボランティアとして登録し、「こどもの城」での活動を開始することになるが、初めは1人で活動できる人は少ない。そこで既に活動をしている先輩ボランティアと協力して活動参加ができるようにし、講習会で得た参加意欲を失わないようプロジェクト・チームをつくり、活動参加の機会をつくっている。

(オ) スーパーバイズのため の会議

活動に参加した人は必ず活動反省会を持ち、活動経過を振り返り、その運営、リーダーシップのとり方などを相互に話し合い、専門職の指導助言を聞く。このようなミーティングはボランティアの活動の向上にとって欠かせないものである。

2 研修教養

第12期

〈ボランティア講習会プログラム〉

| 講習日程 | 時間 | 講師 | 講義内容 |
|---|------------------------|--------------------------|--|
| 6. 4 (土) | 5:30~7:30 7:30~8:30 | (財)日本児童手当協会常務理事 大野 出穂 | ボランティア希望者面接 「子どもの城プロジェクトについて」 |
| 6. 7 (火) | 6:00~6:30 6:45~8:30 | 日本野外教育協会会長 伊藤 昭彦先生 | 「体育事業部」事業概説(職員) 「子ども集団の指導方法」 |
| 6. 9 (木) | 6:00~6:30 6:45~8:30 | 東京都板橋区弥生児童館 東 正樹先生 | 「保育研究開発部」事業概説(〃) 「児童施設におけるプログラム指導」 |
| 6. 16 (木) | 6:00~6:30 6:45~8:30 | 横浜 YMCA講師 高塚 雄介先生 | 「プレイ事業部」事業概説(〃) 「ひとりひとりの子どもをつかむ」 |
| 6. 21 (火) | 6:00~6:30 6:45~8:30 | 協会職員 神谷 明宏 | 「AV事業部」事業概説(〃) 「ひとつの城のボランティア活動」 |
| 6. 24 (金) 25 (土) 26 (日) 市川少年自然の家 | 宿泊研修 | 千葉県市川市教育委員会 富田 利明先生 | 野外炊事・野外ゲーム グループワークトレーニング ロールプレイ等の実技指導を行い, その中から人間交流の大切さを学びます。 |
| 6. 30 (木) | 6:00~6:30 6:45~8:30 | 協会職員 常藤 恒良 | 「造形事業部」事業概説 「ボランティア活動と安全」 |
| 7. 5 (火) | 6:00~6:30 6:45~8:30 | 明治学院大学教授 福田 垂穂先生 | 「音楽事業部」事業概説(職員) 「児童健全育成とボランティア」 |
| 7. 7 (木) | 6:00~6:30 6:45~8:30 | 協会職員 佐野 真一 | 「小児保健部」事業概説 「子どもの城のボランティアの心得」(〃) 修了式(8:15~8:30) |

第13期

| 講習日程 | 時間 | 講師 | 講義内容 |
|--|------------------------|-------------------------|---|
| 11. 5 (土) | 5:30~7:30 7:30~8:30 | (財)日本児童手当協会理事長 小島 弘仲 | ボランティア希望者面接 「子どもの城プロジェクトについて」 |
| 11. 12 (土) | 6:00~6:30 6:45~8:30 | 玉川大学教授 高城 義太郎先生 | 「体育事業部」事業概説(職員) 「健全育成の現状と課題」 |
| 11. 17 (木) | 6:00~6:30 6:45~8:30 | こすぎ社会教育研究所所長 小杉 道雄先生 | 「保育研究開発部」事業概説(〃) 「あそびと子ども文化」 —今子ども達に何が必要か— |
| 11. 19 (土) | 6:00~6:30 6:45~8:30 | 群馬大学講師 田中 佑子先生 | 「プレイ事業部」事業概説(〃) 「子どもとどう関わるか」 —子どもの発達と遊びの関係から— |
| 11. 24 (木) | 6:00~6:30 6:45~8:30 | 協会職員 常藤 恒良 | 「AV事業部」事業概説(〃) 「ボランティア活動と安全」 |
| 11. 25 (金) 26 (土) 27 (日) 狭山青年の家 | 宿泊研修 | 八王子市立第十小学校教諭 丸山 正先生 | レクリエーションゲーム、グループワーク トレーニング、ロールプレイ等の実 技指導を行い、その中から人間交流の大 切さを学ぶ。 |

IV 各部の活動(2)

| 講習日程 | 時 間 | 講 師 | 講 義 内 容 |
|-----------|------------------------|----------------------|---|
| 12. 2 (金) | 6:00~6:30 6:45~8:30 | 江東区文化センター 恩田 大進先生 | 「造形事業部」事業概説（職員）「青少年の発達を援助するリーダーとは」 |
| 12. 6 (火) | 6:00~6:30 6:45~8:30 | 協会職員 神谷 明宏 | 「音楽事業部」事業概説（〃） 「子どもの城のボランティア活動」 |
| 12. 9 (金) | 6:00~6:30 6:45~8:30 | 協会職員 佐野 真一 | 「小児保健部」事業概説（〃） 「子どもの城でどう活動するか」 修了式（8:15~8:30） |

第14期

| 講習日程 | 時 間 | 講 師 | 講 義 内 容 |
|---|------------------------|---------------------------|--|
| 2. 4 (土) | 5:30~7:30 7:30~8:30 | (財)日本児童手当協会理事長 小島 弘仲 | ボランティア希望者面接 「子どもの城建設の理念と事業展開」 |
| 2. 7 (火) | 6:00~6:30 6:45~8:30 | 淑徳短期大学教授 木谷 宣弘先生 | 「体育事業部」事業概説（職員）「児童健全育成とボランティア—生涯学習社会における青年ボランティア—」 |
| 2. 9 (木) | 6:00~6:30 6:45~8:30 | 大正大学教授 吉澤 英子先生 | 「保育研究開発部」事業概説（〃） 「ボランティア活動参加の意義—ボランティア参加を活かすために—」 |
| 2. 14 (火) | 6:00~6:30 6:45~8:30 | 日本レクリエーション協会 宇田川 光雄先生 | 「プレイ事業部」事業概説（〃） 「子どもの心をとらえる行事の企画とその運営—子ども達の交流をつくるために—」 |
| 2. 21 (火) | 6:00~6:30 6:45~8:30 | 協会職員 常藤 恒良 | 「AV事業部」事業概説（〃） 「ボランティア活動の記録と安全管理—参加と責任の関係から—」 |
| 2. 24 (金) 25 (土) 26 (日) 市川少年自然の家 | 宿泊研修 | 千葉県市川市立二俣小学校教諭 鈴木 郁夫先生 | レクリエーションゲーム、グループワークトレーニング、ロールプレイ等の実技指導を行いその中から人間交流の大切さを学ぶ。 |
| 3. 2 (木) | 6:00~6:30 6:45~8:30 | 東京都レクリエーション連盟 奥野 正恭先生 | 「造形事業部」事業概説（職員）「今、リーダーにのぞまることは—子どもとよろこびをともに—」 |
| 3. 7 (火) | 6:00~6:30 6:45~8:30 | 協会職員 神谷 明宏 | 「音楽事業部」事業概説（〃） 「子どもはこんなリーダーをまつていい—子どもの城のボランティアの心得—」 |
| 3. 10 (金) | 6:00~6:30 6:45~8:30 | 協会職員 佐野 真一 | 「小児保健部」事業概説（〃） 「子どもの城で活動するために」 修了式 8:15~8:30) |

2 研修教養

第4期 婦人ボランティア講習会プログラム（子どもの城研修室）

| 日 時 | 内 容 | 講 師 |
|---------------------------|---------------------|-----------------------|
| 10. 19 (木) 14:00～16:30 | 子どもの城 プロジェクトについて | 協会理事長 小島弘伸 ほか |
| 10. 20 (木) 14:00～16:30 | 子どもの城 ボランティアの心得 | 協会職員 常藤恒良 |
| 10. 25 (火) 14:00～16:30 | 婦人のボランティア活動 | 社会活動教育研究所所長 新谷弘子先生 |
| 10. 28 (金) 14:00～16:30 | 施設における ボランティア活動 | 大正大学教授 吉澤英子先生 |

2) 児童厚生員等実技指導講習会

63年度は5月及び10月の2回、全国の児童館などに呼びかけて実施した。

第1回講習会では「子ども達の集団をどう楽しく指導するか」のテーマで、レクリエーションの原点に立ちかえり、講習を行った。参加者は20都道府県から40人。

第2回講習会では「指導者の表現力を高める」をテーマに、語りかけや、造形活動を通しての表現について学び、実際指導のワークショップを実施した。参加者は18都府県の37人。

3) 社会福祉講座

前年度同様、財団法人広げよう愛の輪運動基金の協賛で4講座・1サークルを開講した。

(ア) 手話講座 (63.4～8 全15回)

申込者34人中、16人が前年度に受講したことがある方であった。継続者と初心者の混合型クラスの、楽しみながら手話が身につく講座として定着したようである。平均出席率は70.3%で、勤め帰りの受講者が多い割には高率であった。

(イ) 点訳入門講座 (63.4～12 全24回)

今年度は、朝日新聞・毎日新聞等に本講座の募集記事が掲載されたため、申込者が多く、異例の定員枠拡大を図り、60人クラスで実施した。平均出席率は53%で、修了者は24人であった。正確な国語力と継続性が要求されるため、通信講座よりはるかに習熟度は高いとのことである。

(ウ) お話講座 (63.9～12 全8回)

内容は、ほぼ昨年と同様に毎回読み聞かせの導入としての「手あそび」のレパートリーを1つずつ増やしていき、1人から複数人数での絵本の読み聞かせの実習を中心進められた。

21人のクラスで、平均出席率は64%であった。受講者は、保育等の現場に勤める方が半数ほどおり、隔週の開講が評判よかったです。本講座の内容は、特に保育等の現場に勤める方に

IV 各部の活動(2)

63年度 第1回児童厚生員等実技指導講習会

| 月日 時間 | 第1日 5月20日(金) | 第2日 5月21日(土) | 第3日 5月22日(日) |
|----------|---------------------------|---|-----------------------|
| 7:00 | | 起床・洗面 | 起床・洗面 |
| 8:00 | | 朝食・休憩 | 朝食・休憩 |
| 9:00 | 受付開始 | ・ レクリエーション | ・ 活動の援助者を語る |
| 10:00 | 開講式 オリエンテーション | ダンスの指導法(実技) | —ボランティアの協力を得るために— |
| 11:00 | レクリエーションで自己紹介 | 東京都レクリエーション連盟理事長 奥野正恭先生ほか | 子どもの城専門職員 ボランティア部会 |
| 12:00 | 昼食・休憩 | 昼食・休憩 | 昼食・休憩 |
| 13:00 | 子どもの城施設見学 | ・ レクリエーション ゲームの指導法(実技) | 講習のまとめ 閉講式 解散 |
| 14:00 | ・ レクリエーション ソングの指導法(実技) | 日本レクリエーション協会 調査研究室プロデューサー 宇田川光雄先生 | |
| 15:00 | 清見台音楽学院院長 杉本龍之先生 | 自由時間 | |
| 16:00 | 夕食・休憩 | 夕食・休憩 | |
| 17:00 | | 自由観劇 「間違いの喜劇」 (青山円形劇場) | |
| 18:00 | グループワークトレーニング | | |
| 19:00 | 子どもの城専門職員 | | |
| 20:00 | 消灯・就寝 | 消灯・就寝 | |
| 21:00 | | | |
| 22:00 | | | |

2 研修教養

63年度 第2回児童厚生員等実技指導講習会

| 月日 時間 | 第1日 10月14日(金) | 第2日 10月15日(金) | 第3日 10月16日(日) |
|----------|---|---|---------------------------------------|
| 7:00 | | 起床・洗面 | 起床・洗面 |
| 8:00 | | 朝食・休憩 | 朝食・休憩 |
| 9:00 | 受付開始 | ・造形活動を通しての表現法 | ・社会資源を活かした表現法 |
| 10:00 | 開講式 オリエンテーション | 横浜市レクリーダー協議会常任理事 横浜レク・クラフト研究所所長 兼松ムツミ先生 | —児童館行事の企画と運営— こどもの城プレイ事業部長 神谷明宏 |
| 11:00 | レクリエーションで自己紹介 | | |
| 12:00 | 昼食・休憩 | 昼食・休憩 | 昼食・休憩 |
| 13:00 | こどもの城施設見学 | ・表現法実習(こどもの城プレイホール) こどもの城専門職員 | 講習のまとめ 閉講式 解散 |
| 14:00 | ・語りかけによる表現法 —紙芝居を使って— こどもの文化研究所 紙芝居実演家 右手和子先生 | | |
| 15:00 | | | |
| 16:00 | | 夕食・休憩 | |
| 17:00 | 夕食・休憩 | | |
| 18:00 | | 自由観劇 劇団四季「35ステップス」 (青山劇場) | |
| 19:00 | ・表現力を高める —グループワークトレーニング— | | |
| 20:00 | | | |
| 21:00 | 日本レクリエーション協会 レクリエーション研究室室長 菌田頼哉先生 | | |
| 22:00 | 消灯・就寝 | 消灯・就寝 | |

好評で、「手あそび」をもっと教えて欲しいとの声も多かった。

(エ) 後期手話講座 (63.10~平成1.3 全15回)

申込者23人中、16人が前期からの継続者であったにもかかわらず、講座進行について初心者から苦情もなく、和気あいあいとした雰囲気で手話を習得できたようだ。平均出席率は、63.5%であった。

継続者と初心者の混合型クラスは、講座進行上、難しい点も多いと思われるので、講師と今後の方針を改めて検討していきたい。

(オ) 公開講座——現代の子どもたちを考える——

年間5回の単発講座として計画していたが、実施したのは3回で、延べ参加者数は127人(1回当たりの平均42人)であった。

各回ともに内容面においては好評で、受講者数が少ない回には、受講者からもっとPRを

63年度 講座一覧

| 名 称 | 対 象 | 人 数 | | 曜 時 | 日 間 | 場 所 | 期 間 回 数 | 料 金 | 講 師 等 | 備 考 |
|--------------------------------|-------------------|-----------|-----------------------------|--------------------------------|-----|-----|---|--------------------------------|---|--|
| | | 定 員 | 受講数 | | | | | | | |
| 手話講座 | 高校生以上 | (人) 30 | (人) 前期 34 後期 23 | 火曜日 18:00~ 20:00 | | 研修室 | (回) 4.12~ 8.23 15回 10.25~ 1.3.4 15回 | (円) 9,000 (登録料 1,000) | (福祉)トット基金・ トット文化館館長 貞広邦彦氏ほか | 初心者と継続者の混 合クラス。聴覚障害 の方との交流会を持 つ等、広く社会福祉 の情報交換の場とな るような内容。 |
| 点訳入門講座 | 成人 | 30 | 前期 60 | 水曜日 18:30~ 20:00 | | 同上 | 4.13~ 12.14 24回 | 12,000 (登録料 1,000) | (社福)日本 点字学 園図書館 河井久美子 氏 | 点訳の基本を学び、 日常の文章が点字で 打てるよう指導。 ボランティア活動を 始めようとする方に 最適。 |
| お話講座 | 同上 | 30 | 後期 のみ 20 | 木曜日(隔 週) 18:30~ 20:00 | | 同上 | 9.8~ 12.22 | 8,000 (登録料 1,000) | 足立高等保 育学院講師 葦田正治氏 | 保育現場等で、すぐ に役立つ絵本の読み 聞かせの基本から、 複数人数で行う応用 的な表現活動を実習 の中心に進める。 |
| 点訳サークル | 点訳入門 講座終了 者 | 30 | 18 | 水曜日 18:30~ 20:00 | | 同上 | 4.6~ 1.3.8 18回 | 9,600 (登録料 1,000) | (社福)日本 点字学 園図書館 河井久美子 氏 | 点字の基礎をマスター した点訳入門講座修 了者のアフターケー ーの場。実際に視覚障 害の方から希望のあ った書物等をそれぞれ が点訳奉仕する。 |
| 公開講座 「現代の子 どもたち を考える」 | 一般 | 50 | 延べ 参加 者数 127 人 | 土曜日 14:00~ 16:00 | | 研修室 | 8.6 1回 10.1 1回 1.2.11 1回 | 各回800 (登録料 不要) | 上野動物園 杉浦 宏氏 東京学芸大 学教授 深谷和子氏 国立小児病 院精神科 医師 河合 洋氏 | ①「動物たちの子育 て」 ②「いま、子どもた ちの中に 何が起こっているか 一小・中学生の心 と行動—」 ③「今、子どもの心 が見えますか…?」 |

2 研修教養

して多くの方に聞いていただきたいとの声もあった。

単発講座にもかかわらず、第1回から第3回まで全部受講された方がこれまでの年度より多かった。

今後は、①単発講座としての在り方の検討 ②連続講座への転換 ③託児に関する問題等の課題がある。

(カ) 点訳サークル

前年度までの点訳入門講座の修了者18人が登録し、点訳奉仕活動を続けた。昨年度から継続している方が多く、サークルとしての活動が定着しつつある。

実際に視覚障害の方から要望のあった本を分担して点訳し、製本しているので依頼者からは喜ばれている。

4) 実習生及び研究生の受け入れ

63年度は実習生のみ7人にとどまった。各大学との連携を密にして実習、研修の場としてより多く、活発に利用されるようにしたい。

63年度 こどもの城実習生受け入れ状況

<目的別・学校別入人数>

| 実習目的 | 学 校 名 | 受け入れ事業部 | (人数) | 合計 | 備 考 |
|------------------|---|------------------|--------|----|----------------------------------|
| 社会福祉主事 視覚取得実習 | 昭和音楽大学（作曲学科） | プレイ事業部 | 1 | 1 | 6日間／7月中旬 |
| 施設実習 (職場実習) | 国際武道大学 日本経済短期大学 | 体育事業部 A V 事業部 | 2 1 | 3 | 14日間／7月下旬～8月上旬 12日間／9月中旬～9月下旬 |
| 見学実習 | 青山学院女子短期大学 | 研修教養部 | 2 | | 3日間／11月中旬 |
| | *国際社会福祉協議会 アジア・ソーシャルワーカー 日本研修プログラム参加者 | 研修教養部 | 1 | 3 | 2日間／10月下旬 〔国籍：ネパール／35歳男性〕 |

5) あそびガヤガヤ研究所

3年間の活動と刷新

60年8月20日、「こどもの城」の開館に先立って、子どもによる子ども文化の創造を願って設立したあそびガヤガヤ研究所（通称ガヤ研）は3年の歩みを続けてきた。その3年間は①子どもによる「こどもの城」のプログラムの評価 ②新しい遊びの開発 ③一般来館児に対する新しいプログラムの提供 ④研究員相互の学究活動と取材等の技術開発を中心に小学生と中学生がひとつにまとまって活動を展開してきた。しかし、3年を経過して活動が固定化し、所員1人1人の能力を十分生かすことができず、メンバーの新陳代謝も少なくて活力

IV 各部の活動(2)

を失う傾向を示していた。このため第4期（昭和63年11月～平成元年8月）の計画立案に当たって、組織・活動とも刷新を図り、新しい一步を踏み出すことになった。

新しい企画は次の諸点に要約できる。

- (1) 小学生・中学生を活動面で分離し、それぞれの目標をおいて運営する。
- (2) 中学を卒業する予定のメンバーは L I T (Leader In Training) に迎え、ジュニア・リーダーの基盤形成に結び付ける。
- (3) メンバーの相互作用を盛んにし、集団の士気を高めるため小集団を基本とした運営を

63年度 あそびガヤガヤ研究所活動年間プログラム

| | 小 学 生 | 中 学 生 |
|----------|---|--|
| テーマ | 「子どもの城をあそぶ」 | 「つくってあそぶ」 |
| 4月 | 「こどもデパート」参加準備 「こどもデパート参加」（ゴールデンウイーク中の子どもの城のイベント活動に参加） | 「活動記録と反省」プレイ事業部 神谷明宏 (活動を行うにあたって記録の大切さ、その方法、そして記録を生かした反省会の在り方を学ぶ) |
| 5月 | ゴールデンウイークの行事に参加し、モニター活動を行う。 | 「壁新聞をつくろう」 (こどもデパートの記事を中心に、ガヤ研独自の壁新聞づくりに取り組む) |
| 6月 | プレイ事業部の高学年対象の活動に参加し、モニター活動を行う。 | 「パソコン体験教室」プレイ事業部 小川能男 (パソコンの基本操作からロゴを使ってのさまざまな遊びを体験する) |
| 7月 | 夏休み行事に参加し、モニター活動を行う。 | 「スポーツ遊びの実際」体育事業部 秋元宏之 (体育室を使って、ダイナミックな集団遊びを体験する) |
| 8月 | 夏季合宿（2泊3日）、ガヤ研主催行事の実施、閉所式 (ガヤ研の自主企画を企画・運営する活動を通して、1年間のグループ活動を総括) | |
| 11月 | 任命式・オリエンテーション・開会式 | |
| 12月 | 「レクリエーションゲーム大会」 ☆さまざまなゲームを通して屋外でダイナミックに遊び、メンバーの交流を図る。 | |
| 平1 1月 | 「子どもの城探検」（日常活動モニター活動） ☆モニター活動及び小学生の交流プログラムを行い、親睦を深める。 | 「報道番組をつくろう」 ☆ビデオを使い、3分程度のニュースをつくり全館放送で流す。 |
| 2月 | 「ニューゲームに挑戦」 ☆プレイホール高学年コーナーを中心にモニター活動を実施。 | 「おもしろパーティーをつくろう」 ☆パーティー企画のノウハウを学び、卒業お祝い会への準備段階をする。 |
| 3月 | 「卒業お祝い会」 ☆中学3年生の卒業を祝う会。中学生が企画準備を行う。 ◎「春合宿」（1泊2日の宿泊プログラム） | |

行う（小学生2グループ、中学生1グループとする）。

〔第3期後半と第4期前半の活動〕

第3期は小学生24人、中学生31人。

4月○小学生=9月24日（日）に行われた「こどもデパート」に参加するための諸準備。

○中学生=学習会テーマを活動記録と反省会の在り方とし、テーマに添って神谷プレイ事業部長が指導。

5月○小学生=児童福祉週間行事に参加し、子どもモニターとして活動。

○中学生=「こどもデパート」などの活動を中心にガヤ研独自の壁新聞つくりを行う。

6月○小学生=プレイ事業部高学年コーナーの活動に参加し、モニター活動を行う。

○中学生=「パソコン体験」としてプレイ事業部小川コーディネーターの指導を受ける。

7月○全員=ガヤ研独自の夏休み行事「ミステリーハウス」を企画し、企画案の作成、作業の分担、製作を行う。

8月○全員=27・28日のミステリーハウス公開に向けて製作活動に休み返上で集中した。

7・8月活動の大きな目標としてきた館内合宿（8月26日～28日）とミステリーハウスがメンバー全員の協力で成功を収め、この感激をかみしめ第3期活動を終了した。

〔第4期の活動〕

63年11月13日（日）から第4期の活動を開始すべく所員を募集し、小学生31人、中学生26人でスタートした。

12月○小・中学生=レクリエーションゲーム大会を合同で開く（11日）。

1月○小学生=子どもの城探検。子どもの城の活動に分担して参加し、そのモニターレポートを行う（16日）。

○中学生=子どもの城の活動をビデオカメラで取材、活動の報道ビデオを作成（22日）。

2月○小学生=「ニューゲームに挑戦」として、体験的モニター活動を行う（5日）。

○中学生=3月の卒業お祝い会のためのパーティー企画について相談（19日）。

3月○小・中学生合同、中学校を卒業する所員のお祝い会。第1部講演会では「志をたてよう」というテーマで子どもの城大野常務理事が話したあと、激励会に移り、各グループ思い思いのアトラクションを楽しみ、「贈る言葉」の合唱をもって会を終了した（19日）。

ガヤ研のグループとしての育成

第4期のガヤ研から小学生、中学生のグループ分けをし、それぞれが特色ある活動を行うなかで、メンバーの個性や能力を十分發揮できるよう配慮してきた。まだグループが自活機能を持つまでには至っていないが、1人1人の個性ある貢献により、グループのバランスが保たれ、目的に対する強い集団士気が醸成されるように育つことを願っている。そのためにはグループとともに活動的ボランティアリーダーの育成も必要である。

◎健常児も利用「おもちゃ図書館」

62年度に開設した心身に障害のある子どもたちを対象としたおもちゃ図書館も2年を経過し、順調に運営されている。利用者もほぼ定着してきており、ボランティアと利用者の触れ合いの場として楽しい遊びを展開している。開館日（毎週水曜日）の午前中は障害児の利用者が比較的少ないため、一般来館の健常児の乳幼児も受け入れた。これは障害児並びにおもちゃ図書館に対する理解を広めるための試みであるが、今後も積極的に健常児の受け入れを実行したいと考えている。

また通常のおもちゃ図書館の運営のほか、10月18日から23日まで、アトリウムギャラリーにおいて「こどもの城」主催、財団法人日本おもちゃ図書館財団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、おもちゃ図書館東京連絡会の後援の、玩具メーカーの協賛によって、各種のおもちゃの展示、おもちゃ相談などを内容とする「豊かな遊びをひろげるおもちゃ展」を開催、好評を得た。

なお、展示終了後に玩具メーカーの好意により「こどもの城」のキャラクターである「マック・マックロー」のブロック人形の寄贈をいただき、子どもたちの人気者となっている。

◆おもちゃ図書館の運営（おもちゃの図書館マックロー）

- ①開館日 週1回 毎週水曜日 11:00~16:00
- ②対象者 就学前の心身障害児（保護者同伴）
- ③利用料 無料
- ④おもちゃ貸し出し 1人2個2週間程度
- ⑤対応 おもちゃ図書館ボランティア・グループ

おもちゃ図書館開館回数、利用者数等調べ

| | 開館回数 | 利用者延べ数 (保護者・児童) | おもちゃ貸出数 | ボランティア活動人員 |
|--------|-------|--------------------|---------|------------|
| 昭63. 4 | 4 | 88 | 39 | 14 |
| | 5 | 46 | 48 | 18 |
| | 6 | 37 | 26 | 25 |
| | 7 | 53 | 29 | 19 |
| | 8 | 56 | 30 | 20 |
| | 9 | 40 | 19 | 12 |
| | 10 | 58 | 16 | 45 |
| | 11 | 36 | 21 | 24 |
| | 12 | 120※ ₂ | 18 | 16 |
| | 平1. 1 | 28 | 20 | 14 |
| | 2 | 26 | 41 | 16 |
| | 3 | 55 | 52 | 16 |
| 計 | 57 | 643 | 359 | 239 |

注 ※₁は「おもちゃ展示」、※₂は「クリスマス」会開催

地区別利用者数

| | | | |
|--------------|----|-----|---|
| 渋谷区 | 17 | 板橋区 | 6 |
| 目黒区 | 10 | 港区 | 6 |
| 世田谷区 | 9 | 北区 | 5 |
| 練馬区 | 7 | 豊島区 | 4 |
| 杉並区 | 4 | 中野区 | 2 |
| 大田区 | 3 | 町田市 | 4 |
| 新宿区 | 2 | 横浜市 | 9 |
| 荒川区 | 2 | 川崎市 | 6 |
| 計 16 区市 96 人 | | | |

講座もスタート、始動の年に

62年10月、部として独立した国際交流部にとって、63年度は実質的な始動の年となった。62年12月からシミュレーションを重ねていた親子のグループ、パフォーミング・アーツ・グループが63年9月から国際交流部の講座として活動を開始し、国際交流行事でも重要な位置を占めるようになった。

国際交流事業として講座や劇場公演を行うには、「子どもの城」内部の各部門との協力が不可欠だが、実際には催しの多くが他部門の忙しい時期に集中するため、外部に協力を依頼したり、臨時のアルバイトを集めざるをえないなど、実施体制づくりの面に問題が残された。

1) 平常期間

(ア) ハロウィンの催し（10月27日）

保育研究開発部に協力して実施した。保育クラブ・幼児グループの親子とハロウィンの衣装作り、魔女探しのゲーム、ハロウィン・ソングの合唱、かぼちゃのランタン作りを行った。

(イ) 子どもの城のハロウィン「かぼちゃのちゃちゃちゃ」（10月29・30日）

青山円形劇場で開催するファミリー・シリーズで初めてハロウィンを取り上げた。仮装をした子どもたちのファッショショーンショー、魔女とドラキュラのハロウィン・ソング、巨大なかぼちゃのくりぬきショー、お父さんやお母さんの叫び声コンテスト、ディスコタイムと「トラや帽子店」の特別ライブなど観客とステージとが一体化するプログラムであった。会場の装飾に使用したかぼちゃのちょうちん作りには子どもの城婦人ボランティアの協力を得た。5月のファミリア・インターナショナル・チルドレンズ・フェスティバルに出演した親子のグループの活動が、9月から「パフォーミング・アーツ・グループ」として講座に組織され、定期的に練習を重ねていたが、このハロウィンの催しでも同グループのメンバーが黒いマントとケープ、帽子に仮面をつけ、ドラキュラに扮して歌やダンスに大活躍した。日本にまだなじみの薄いハロウィンの行事を、実際にやってみるよい機会であった。

(ウ) カムカム・クリスマス（12月17・18日）

ファミリー対象のクリスマス行事として例年どおり実施。今回は外部からプロの出演者を依頼せずに、子どもによる子どものためのクリスマスを目指した。「クリスマスって何？」をテーマに、歌とダンス・影絵と劇を展開した。

影絵はサウンド・オブ・シザース（切り絵）の子どもが図案製作から操作を担当。歌やダンスはパフォーミング・アーツ・グループが担当した。国際交流部企画として通常どおり日本語と英語を使ったが、子どもたちが2か国語のせりふを覚えて演技を行うには準備期間が足りなかった。また、特別ゲストとして在日のスウェーデンの子ども約10人が来館、独特的の白い衣装をつけ、ロウソクを手に持ち、スウェーデン語の歌でクリスマスらしさを盛り上げてくれた。

(エ) ローザンヌ国際バレエコンクール東京開催に協力（1月28・29日）

海外からの出演者、付き添い、報道関係者が多数来館するので、準備期間は英語版こどもの城案内ビデオの準備、資料つくり、英文雑誌や英字新聞への広報等を行った。期間中は外国人記者の館内案内、取材活動に協力した。

2) 特別期間

(ア) 音楽事業部講座発表会に協力（4月2日）

音楽事業部講座の発表会「ぼくらのサウンド'88—春です。イースター」にイースターの歌やクイズ・ゲームでジョイントした。春らしく、イースターらしくと、イースターバニー やイースターエッグに扮装して発表会を楽しく演出した。横浜地区で活躍中の外国の子どもによる合唱グループ「ヘブンス・ラブ」も出演し、日本語と英語をまじえたさわやかな歌声を聞かせてくれた。

(イ) アートスケープ'88（4月23日～5月5日）

東京・横浜地区のインターナショナルスクールの生徒の美術作品展で、城での開催は3回目。参加校は、横浜インターナショナルスクール、セントモール・インターナショナルスクール、清泉インターナショナルスクール、セントメリー・インターナショナルスクール、クリスチャン・アカデミー・イン・ジャパン、西町インターナショナルスクール、聖心インターナショナルスクール、横田ハイスクール、ザ・アメリカンスクール・イン・ジャパンの9校。30か国にのぼる国籍の生徒たちの彫刻・陶芸・ガラス工芸・ステンドグラス・油絵・水彩画・デッサン・コラージュ・写真などの作品約400点が展示された。同時に各校の先生が協力して作成したアートスケープ紹介ビデオをアトリウムの大型液晶テレビで放映した。恒例となったこの展覧会は多国籍の子どもによるさまざまな色使いや手法の作品が一堂に展示されるたいへん意義深いものである。

(ウ) ファミリア・インターナショナル・チルドレンズ・フェスティバル（4月29日～5月1日）

ゴールデンウイークに青山円形劇場でファミリー向けに開催された催し。マック・マックローのバースデーパーティー、西山千真さんの折り紙遊びのショー、そのほかにジャンケンゲームやライオンハントゲーム、小包ゲームなどを行った。保育研究開発部の幼児グループは迫力あふれるジャズダンス（ステイン・アライブ）を披露してくれた。国際交流部が公募した親子のグループ「パフォーミング・アーツ・グループ」は、歌やゲームに参加し会場を盛り上げた。

また協賛の株式会社ファミリアからは、キャラクターのぬいぐるみの出演協力、ゲーム参加者へのプレゼントの提供があった。

(エ) 濱戸大橋博'88・岡山国際交流フェスティバル（8月5日）

岡山県地域振興部国際交流課から依頼を受けて城からテリー・スザーン国際交流部長、神谷プレイ事業部長ら3人が出演した。各国のダンサーによるにぎやかなイベントのあと、会

場に集まった子どもたちを対象に日本のゲームと外国のゲームを行った。また「子どもの城」のPRをかねて、マックローの着ぐるみで歌のショーを行い、シールを配布した。

会場が屋外の広いスペースでスピーカー、マイクの不備や暑さなど困難な点も多かった。しかし、瀬戸大橋博の桃太郎やキジもまじって、子どもたちとのゲームやダンスの輪は日没後までにぎやかに続いた。

「子どもの城」として地方へ出向いて行った宣伝の1つの型である。

3) 講座・クラブ

(ア) サウンド・オブ・シザース(切り絵)

62年度は作品の題材に外国の季節行事や習慣を取り上げた。63年度には作品を発表する機会を与えることを第一目標とした。

1期には子どもたち自身でストーリーを考えた大型の絵本「おじさんと不思議なものおき」を作成し、日本語と英語で文章をつけ、8月中、1階のエントランスホールで展示した。受講生全員で1つの作品を作り上げたことは、子どもたち同士のつながりをつくるうえでプラスになった。

2期には「劇団夕やけ」のレヘン・ロイナ・マックギルさん、人形劇団「パペットBOX」の宮本明子さん、佐久間おさむさんを特別講師に迎え、12月の「カムカム・クリスマス」に向けて影絵人形を作った。

円形劇場の大きなスクリーンのため、等身大に近い人形を作つての操作で子どもたちにはたいへんな作業であったが、机の前を離れてみんなで作品を動かすことに興味深く参加していた。

(イ) パフォーミング・アーツ・グループ

62年度の「マザーグース・クリスマス」以来、シミュレーションとして活動していた親子のグループを基礎に、63年度2期からこれを講座とし、音楽スタジオAを利用して開始した。音楽・ダンス・演劇など多様なプログラムを取り入れ、創造性や積極性を養うこと、帰国子女や外国の子どもたちをも広く受け入れ、国籍を超えた子ども同士の直接的な交流の機会とすることを目的とした。

2期の12回のうち4回はメガ・フラッシュさんを講師に迎え、ストレッチングややさしいダンスの指導を約1時間ずつ受けた。

その他の時間は自己紹介やラップの練習、10月の「かぼちゃのちゃちゃちゃ」と12月の「カムカム・クリスマス」の練習にあてた。

歌やダンス、演劇に造形と多様なプログラムに加え、親子が一緒、2か国語の指導と新しい試みが多く、スタッフ不足や活動スペースの確保など問題点も多い。来年度は内部・外部スタッフとの協力のうえに、「子どもの城」ならではのユニークな親子グループに発展させたい。

IV 各部の活動(2)

1) 特別期間プログラム

| 名 称 | 期 間 | 時 間 | 場 所 | 料 金 | 要 員 | 備 考 |
|-----------------------------------|----------|---|----------------------|---------|----------------------------|--|
| ファミリア・インターナショナル チルドレンズ・フェスティバル | 4.29~5.1 | ①4.29 13:00 ② " 16:00 ③4.30 13:00 ④ " 16:00 ⑤5.1 13:00 ⑥ " 16:00 | 青山円形劇場 | (円) 800 | (人) 職員 5 (含劇場) アルバイト 17 | (株)ファミリアと共に実施したファミリー・イベント |
| アートスケープ '88 | 4.23~5.5 | 開館時間中 | アトリウムギャラリー・エントランスホール | 無料 | | |
| 瀬戸大橋博 '88・岡山国際交流フェスティバル | 8.5 | 18:00~20:30 | 瀬戸大橋博・岡山会場内 | | 職員 3 | 博覧会の中で、子どもたちと「ゲームであそぼう」。出張して行った催し。マックロー着ぐるみによるPRも。 |
| サウンド・オブ・シザース展覧会 | 8.11~31 | 開館時間中 | エントランスホール | | | |
| こどもの城のハロウィン 「かばちゃのちゃちゃちゃ」 | 10.29・30 | ①10.29 16:00 ②10.30 13:00 ③ " 16:00 | 青山円形劇場 | (円) 500 | 職員 6 (含劇場) アルバイト 16 | |
| カムカム・クリスマス | 12.17・18 | ①12.17 14:00 ② " 17:00 ③12.18 13:00 ④ " 16:00 | 青山円形劇場 | (円) 800 | 職員 8 アルバイト 18 | |

2) 講座・クラブ

| 名 称 | 対 象 | 人 数 | | 曜 時 | 日 间 | 場 所 | 期 回 数 | 料 金 | 講 師 等 | 備 考 |
|--------------------------|-------|--------|--------|----------------|-------------------------|---------|--|--------------------------------|---|---|
| | | 定 員 | 受講数 | | | | | | | |
| 日本語と英語でサウンド・オブ・シザース(切り絵) | 小2～小6 | (人) 30 | (人) 22 | 1期 2期 3期 | 毎水曜日 16:00～ 18:00 | 研修室 | 1回 4.13～7.6 12回 2期 9.14～12.14 12回 3期 1.11～3.22 10回 | (円) 18,000 18,000 15,000 | (内部)テリー・スザーン、宗像桃子(外部)ヘレン・ロイナ・マックギル、宮本明子、佐久間おさむ氏 | 12.17・18日カムカム・クリスマスに出演 |
| パフォーミング・アーツ・グループ | 小1～小6 | 30 | 39 | 2期 3期 | 毎木曜日 16:30～ 18:30 | 音楽スタジオA | 2期 9.8～12.15 12回 3期 1.12～3.23 10回 | (円) 18,000 15,000 | (内部)テリー・スザーン、宗像桃子(2期のみ)白石浩子(外部)メガ・フラッシュ | 10.29・30日かばちゃのちゃちゃちゃ。12.17・18日カムカム・クリスマスに出演 |

4 営業部

4 営業

1) 業務の概要

| 業種 | 店名等 | 場所 | 利用客席数等 | 開業日・開業時間等 | 備考 |
|------|-----------------|---------------------------|---|--|--|
| ホテル | こどもの城ホテル | 6, 7階 | 客室数 27 客室定員 64 | 無休 (12月29日から1月2日までを除く) | 洋室 24室 (シングル3, ツイン10, デラックスツイン11) 和室 3室 (4人用1, 5人用1, 10人用1) 料金 1泊 6,300円から (朝食・税込) |
| 飲食関係 | レストラン・ラブニール | 8階 | 客席数 60 | 毎週月曜日休業 (ホテル宿泊客の朝食を除く) (開業時間) モーニングタイム 7:30 ~9:00 ランチタイム 11:30 ~14:00 ディナータイム 17:00 ~21:30 | 洋食全般, パーティー及びホテル宿泊者の食事等 |
| | カフェテラス・アンファン | 1階 | 客席数 140 | 無休 (12月29日から1月2日までを除く) (開業時間) 10:00 ~21:30 | 喫茶, 軽食及び弁当仕出し等 |
| | すし・ひさご | 1階 | カフェテラス・アンファン内 | 無休 (12月29日から1月4日までを除く) (開業時間) 11:00 ~21:30 | すし, 和食及び弁当・料理の仕出し等 |
| | コーヒーウランジ・アミティーエ | 2階 | 客席数 60 | 毎週月曜日休業 (開業時間) 11:00 ~21:00 | 喫茶, 軽食 |
| | 劇場内・スナック | 青山劇場 内地下ロビー及び 2階ロビー | 立食 | 公演に合わせて開業 (開業時間) 開演前・幕間 | 同上 |
| 貸室 | 研修室 | 8~9階 | 室数 10 (一部通しで 使用できる) 利用人員 350 人ぐらいまで | 無休 (12月29日から1月2日までを除く) (開業時間) 9:00 ~21:00 | 研修及び会議等 料金 1単位時間 9,500円から (税別) |

IV 各部の活動(2)

| | | | | | |
|------------|---------|---|--------------------------------|---|---|
| 貸 室 | ギャラリー | 1階アトリウム | | 無休 (12月29日から1月2日までを除く) (開業時間) 10:00 ～18:00 | 各種展示会及び実演等 料金 1日 30,000円 から (税別) |
| | フリーホール | 地下1階 | | 無休 (12月29日から1月2日までを除く) (開業時間) 9:00 ～21:00 | 自由な企画で利用 料金 1日 55,000円 から (税別) |
| 物 品 販 売 | 売 店 | 1階アトリウム 3階ロビー —青山劇場 地下ロビー — | 3か所 | 毎週月曜日休業 (劇場ロビー 売店は公演に合わせて 開業) (開業時間) 開館時間と同じ | 絵画, 造形用品, 文具, 遊具, 玩具, 印刷出版物, 電気用品, 音楽用品, 衣料, スポーツ用品, 劇場関連用品, 催事関連用品, 雑貨等 |
| | 自動販売機 | 館内各所 | 飲食・乳販売 12か所 たばこ販売 7か所 | 無休 | 通常ドリンク類, 牛乳 類, スナック類 |
| | 酒 類 販 売 | 青山劇場 地下ロビー及び2 階ロビー | 2か所 | 青山劇場公演に合わせて開業 | 全酒類の小売り |
| 公 衆 電 話 | | 管内各所 | 16台 | 無休 | |
| 駐車場 | | 地下2階 ～地下4 階 | 約90台 (業務用車両分を 含む) | 無休 (12月29日から1月2日までを除く) (開業時間) 8:00 ～22:30 | 一般車両は地下駐車, バス等大形車両は1階 ピロティに駐車 料金 普通車両の場合 1時間 410円 |

注) 1. この表は、平成元年4月1日以降の利用者サービス事業について掲げたものである。

2. 春休み, 夏休み, 冬休み等の特別期間については、「こどもの城」全館の日程に合わせて休業日にも営業を行う。
3. 劇場公演日程に合わせて、関連部門は休業日であっても休業しないで営業する。
4. 各事業部の事業上必要なときは、当該事業に合わせ可能な限り上記場所以外でも営業を行う。

2) 業種別の状況

(ア) ホテル

引き続き利用客が増加してきている。これを営業収入でみると、62年度1億65万円、63年度1億261万円となっている。

客室がどのように利用されたかを63年度についてみると、客室利用率（注1）は全体で81%、客数比率（注2）では72%となっており、前年度に比べ利用効率は若干ながら高まっている。

客数比率が客室利用率に比べて低いのは、主としてツインルーム及び和室の利用人員が客室定員より少なかつたためなどの理由によるものである。利用効率の向上については、今後とも受注及びサービスの向上等に努力していく必要がある。

$$(注1) \text{ 客室利用率} = \frac{\text{(期間中利用室延数)}}{\text{(期間中日数} \times 27\text{室)}} \times 100$$

$$(注2) \text{ 客数比率} = \frac{\text{(期間中利用客延人員)}}{\text{(期間中日数} \times \text{定員 } 64\text{人}}} \times 100$$

| ホテル利用状況 | | |
|---------|---------|-------|
| 客室種別 | 客室利用率 | 客数比率 |
| シングル | 88.2% | 88.2% |
| ツイン | 82.1% | 77.7% |
| 和室 | 68.3% | 56.7% |
| 計 | 81.3% | 72.0% |
| 総利用者数 | 16,503人 | |

注) 利用率は次により算出した。

1) 研修室は(午前・午後・夜間)の件数を358日×10室=3580で除した。
(計)については358日×10室×3=10740で除した。

2) フリーホールについては件数を358日×1室×3=1074で除した。
3) ギャラリーについては件数を358日×1か所で除した。

(イ) レストラン・喫茶

飲食5店舗の営業状況をみると、ほぼ入館者数、劇場公演及び各種会議等の影響を受けた業務運営となっているが、本年度は9月中旬から11月初旬にかけて行った1階カフェテラス及び寿司コーナーの拡充工事の影響も大きかった。

営業収入でみると、前年度3億5,063万円、本年度3億5,336万円となっている。年間を通じての業務の状況は、第1四半期及び前述の工事が完了した12~3月が、大きく前年度同期の実績を上回り、冷夏であった7、8月及び工事中の9~11月が大きく落ち込む結果となっている。今後は拡充されたカフェテラス及び寿司コーナーの安定経営を更に進めるほか、引き続き喫食メニューの改善、料金の低康化とサービス向上を図っていく必要がある。

(ウ) 貸し室

引き続き利用が増加してきている。これを収入面でみると、62年度5,489万円、63年度6,358万円となっている（注）。研修室の利用は、有料による貸し付けのみでなく、「こどもの城」事業活動に使用しているほか、日曜、祝祭日、夏休みなどの特別期間中の入館者休憩室及び授乳室として利用されてきている。したがって1日のうちに空き室となる時間はあ

IV 各部の活動(2)

るもの、清掃日以外は満杯に近い利用状況となっている。アトリウム内ギャラリー及び地下1階フリーホールの利用も年々増加してきている。これらの利用については、今後更に効率を高め、入館者のために、また「子どもの城」のよいイメージづくりに貢献していく必要がある。

(注 料理飲食等消費税の課税対象となる室料等については、飲食業収入に含まれている。)

(エ) その他の業務

売店、自動販売機による販売、駐車場の提供、館内公衆電話の管理等については、前年度に引き続き「子どもの城」事業活動に即応する形で利用者サービス事業の一環として実施している。これらの収入の状況は、62年度1億4,429万円、63年度1億5,611万円となっている。「子どもの城」の利用を促進していくうえで、これらの利用者サービス事業はいずれも欠くことのできないものなので、引き続き多様な利用者需要に合わせたサービスの向上を図っていく必要がある。

フリーホール使用一覧

| 催事名 | 期間 | 主催 | 備考 |
|--------------|--------------|-------------------|----|
| 日本アニメフェスティバル | 62.4.10 | 日本アニメフェスティバル実行委員会 | |
| 人形劇 | 63.5.1~5.6 | 子どもの城プレイ事業部 | |
| 遊びと造形発想展 | 63.5.15~5.29 | 子どもの城造形事業部 | |
| お話キャラバン | 63.7.21~7.24 | 子どもの城プレイ事業部 | |
| くもの巣城たんけん | 63.7.30~8.7 | 子どもの城企画部 | |
| ガヤ研ミステリーhaus | 62.8.23~8.28 | 同上 | |
| 日本アニメフェスティバル | 平成1.3.4~3.5 | 日本アニメフェスティバル実行委員会 | |
| 人形劇 | 1.3.26~3.30 | 子どもの城プレイ事業部 | |
| ディズニーアニメ試写 | AV事業部の項参照 | 子どもの城 AV 事業部 | |

4 営業

ギャラリー使用一覧

| 催事名 | 期間 | 主催 | 備考 |
|--------------------------------|-------------------|-----------------------|--------|
| 「おんぶにだっこ・乳母車」展 | 63.3.26~4.5 | こどもの城小児保健部 | |
| 第12回全国はり絵展 | 63.4.7~4.13 | 日本情操教育振興会 | 貸しスペース |
| アートスケープ(インタナショナルスクールの生徒の作品展) | 63.4.23~5.5 | インターナショナルスクール 10校 | |
| 遊びと造形発想展 | 63.5.15~5.29 | こどもの城造形事業部 | |
| 東京工業大学・上智大学・昭和女子大学美術部による美術展 | 63.6.17~6.19 | 東京工業大学・上智大学・昭和女子大学美術部 | 貸しスペース |
| ローザンヌ国際バレーコンクール東京開催記念写真展 | 63.6.21~6.30 | こどもの城劇場事業本部 | |
| 野外活動の夢をひらく高校生のデザイン展 | 63.7.1~7.10 | 東京 YMCA デザイン研究所 | 貸しスペース |
| ミニカナダフェア | 63.7.25~7.31 | こどもの城劇場事業本部 | |
| 光の造形展 | 63.8.4~8.31 | こどもの城造形事業部 | |
| ティアラ展 | 63.9.22~9.24 | ヒコ・みずの宝石専門学校 | 貸しスペース |
| 第2回青山演劇フェスティバル・プレイベント<にぎやかな劇場> | 63.9.30~10.10 | こどもの城劇場事業本部 | |
| アルゼンチンの子供の絵の作品展 | 63.10.12~10.16 | アルゼンチン大使館 | |
| 豊かな遊びをひろげるおもちゃ展 | 63.10.17~10.24 | おもちゃ図書館財団・こどもの城 | 共催 |
| 第3回造形スタジオ展 | 63.10.26~12.4 | こどもの城造形事業部 | |
| 第7回肢体不自由児・者の美術展 | 63.12.6~12.11 | 日本肢体不自由児協会 | |
| 第4回 POLA 夏の絵のコンテスト入賞作品展覧会 | 63.12.13~12.18 | (株)ポーラ化粧品本舗宣伝部 | 貸しスペース |
| ソウルオリンピック写真展 | 63.12.20~平成1.1.22 | こどもの城企画部 | |
| 第37回全国児童生徒作品コンクール作品展 | 1.1.24~1.23 | (財)日本児童教育振興財団 | 貸しスペース |
| 日本絵本造形専門学院卒業制作展 | 1.2.2~2.5 | 日本絵本造形専門学院 | 貸しスペース |
| 武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科有志卒業制作展 | 1.2.10~2.19 | 武蔵野美大工芸工業デザイン学科有志 | 貸しスペース |
| ももの節句 もも飾りましょう!! | 1.2.26~3.3 | 小原流青年部 こどもの城企画部 | |
| 第36回文部大臣賞全国小中学生優秀作品展 | 1.3.5~3.12 | (財)児童憲章愛の会 | 協賛 |
| 木と造形 (ギャラリーワークショップ) | 1.3.18~4.9 | こどもの城造形事業部 | |
| マックローおもちゃ図書館 | 毎週水曜日 | おもちゃ図書館財団 | |

IV 各部の活動(2)

営業許可等の状況

| 業種 | 店名等 | 営業許可を受けた日 | 営業許可番号 | 行政庁 | 備考 |
|--------------|-----------------|-----------|------------------------|--------------|---------------------------------|
| 旅館業 | 子どもの城ホテル | 昭60.10.30 | 60 濰保衛環旅 第 10 号 | 渋谷区保健所 | 表示基準適合（渋谷消防署） 昭62.10.1渡予762号 |
| 飲食業 (飲食店) | レストラン・ラブニール | 昭60.10.22 | 60 濰保衛食ほ 第 1552 号 | 同上 | |
| 同 上 | カフェテラス・アンファン | 昭63.11.12 | 63 濰保衛食ほ 第 2307 号 | 同上 | |
| 同 上 | コーヒーラウンジ・アミティーニ | 昭60.10.22 | 60 濰保衛食ほ 第 1554 号 | 同上 | |
| 同 上 | 劇場スナック | 昭60.10.22 | 60 濰保衛食ほ 第 1553 号 | 同上 | |
| 同 上 | 自動販売機 | 昭60.10.31 | 60 濰保衛食ほ 第 2072~5 号 | 同上 | |
| (喫茶店) | 同 上 | 昭60.11.20 | 60 濰保衛食ほ 第 2308~9 号 | 同上 | |
| 同 上 | 同 上 | 昭60.11.30 | 60 濰保衛食ほ 第 2310 号 | 同上 | |
| 乳類販売 | 同 上 | 昭60.11.20 | 60 濰保衛食ほ 第 2311 号 | 同上 | |
| 食料品販売 | 同 上 | 昭61.4.28 | 60 濰保衛食れ 第 20, 21 号 | 同上 | |
| 乳類販売 | 同 上 | 昭63.2.6 | 63 濰保衛食ほ 第 2816 号 | 同上 | |
| たばこ小売 | | 昭60.9.30 | | 大蔵省 関東財務局 | |
| 酒類販売 | 劇場ロビー | 昭62.3.9 | 渋間第200号 | 渋谷税務署 | |

注) 1. 期間が定められている許可等については、当該期間満了後更新手続きをとっている。

2. カフェテラス・アンファンについては、改装後新たに営業許可を受け、前の営業許可については廃止した。

V グループ活動

グループ活動

V グループ活動

学校や園ではできない新体験を

前年度の実践の継続として、グループ活動を利用する子どもたちに、学校や園ではできない新しい体験を提供すること、グループでの活動の特性を生かして子どもたちの感性や社会性に働きかけること、そのために城の全部門がかかわり、その機能を総合的に活用したプログラムの開発を行うことを目的に事業の企画を行った。

具体的には、グループ活動の考え方や全館事業としての位置づけについて検討を加えるため月1回の各部連絡会、週1回の運営ミーティングを実施した。また、平常プログラム活動に加えて障害児のためのプログラム開発を試行するシミュレーション、子どもの城特別期間に団体観劇を行う特別プログラム活動等を事業計画として企画した。

(1) 利用状況

利用団体は幼児施設51団体、学校関係32団体、計83団体であり、幼児1,196人、就学児938人、計2,134人の子どもたちが利用した。幼児施設では幼稚園26の利用が最も多く、学校では小学校特殊学級18を含む小学校、次いで中・高生を含む養護学校の利用が多いことが特徴的である。

グループ活動実施状況から、月別の利用状況を見ると、幼児、就学児とともに夏休みの期間をはさんで9月から3月に利用が集中しており、年度末の2・3月に利用が急増する傾向は前年度と同じである。これらは園や学校の園外、校外活動の行事時期と一致しており、クラス単位のお別れ遠足や卒業の記念行事としてグループ活動が利用されたことを示している。

利用団体の地域では、幼児、就学児とともに東京23区内の利用が多く、次いで神奈川、埼玉、千葉などの近郊地域、次いで東京都下の利用が多い。

活動部門をみると、幼児施設は音楽23、体育、プレイ、AV各10、造形8の利用順であり、学校では音楽15、AV14、プレイ9、造形5、体育4の順となっている。

また、通園施設、自主訓練グループ、特殊学級、養護学校などの障害児施設では音楽11、AV9、プレイ7、体育4、造形3の順であり、その他、資料1のようなシミュレーション

〈資料1〉

障害児シミュレーション

| | 日 時 | 対 象 校 | 参 加 人 員 |
|--|---------------------------|----------|----------|
| 1. 造形プログラム 粘土でジャングル旅行 | 10月27日 11:00～ 12:00 | 都立港養護学校 | 小2・3年13人 |
| 2. プレイプログラム 劇あそび「宇宙冒険の旅」 “スペースアドベンチャー” | 11月8日 11:00～ 12:00 | 都立城南養護学校 | 高校3年18人 |

V グループ活動

として造形、プレイ部門での活動を行った。

年間のプログラム実施数は、資料2のとおりである。

他のプログラムと並行できるプレイの自由遊び、AVライブラリープログラムの利用が多い状況である。

更に、子どもの城特別期間中の特別プログラム活動として、資料3のようなグループ観劇を実施し、保育所、幼稚園、こども会、学校など計8団体71人の参加を得ることができた。

〈資料2〉

平常期間グループ活動実施状況

| 就学児プログラム | 実施回数 | 利用者数 | 担当部門 | 幼児プログラム | 実施回数 | 利用者数 | 担当部門 |
|----------------|-------|---------|------|-------------|--------|---------|------|
| グループクリエーション | (回) 6 | (人) 162 | プレイ | スカーフであそぼう | (回) 12 | (人) 240 | 音楽 |
| レクリエーションゲーム | 5 | 108 | 体育 | グループクリエーション | 8 | 270 | プレイ |
| アニメーションって不思議だね | 5 | 83 | AV | フロア運動 | 8 | 192 | 体育 |
| ガムランを体験しよう | 5 | 66 | 音楽 | 木をつくろう | 5 | 135 | 造形 |
| 和楽器に触れて見よう | 4 | 67 | 音楽 | まつりばやし | 4 | 78 | 音楽 |
| チャレンジビデオ | 3 | 84 | AV | 動物園に行こう | 4 | 49 | 音楽 |
| サンバ | 3 | 68 | 音楽 | 影をうつそう | 3 | 57 | 造形 |
| 木をつくろう | 3 | 29 | 造形 | 大型遊具あそび | 3 | 54 | プレイ |
| 影をうつそう | 2 | 50 | 造形 | ぱたぱたアニメ | 2 | 49 | AV |
| フロア運動 | 3 | 51 | 体育 | おむすびころりん | 2 | 47 | 音楽 |
| パソコン体験教室 | 1 | 40 | プレイ | すてきな新体操 | 1 | 66 | 体育 |
| 体力測定 | 1 | 26 | 体育 | ガムランであそぼう | 1 | 18 | 音楽 |
| アンクルン | 1 | 16 | 音楽 | フィルムに絵をかこう | 1 | 12 | AV |
| 動物園に行こう | 1 | 12 | 音楽 | ※自由遊び | 50 | 1,178 | プレイ |
| コンピュータゲーム | 1 | 12 | プレイ | ※AVライブラリー | 7 | 143 | AV |
| すてきな新体操 | 1 | 10 | 体育 | | | | |
| ※自由遊び | 29 | 616 | プレイ | | | | |
| ※AVライブラリー | 6 | 184 | AV | | | | |

〈資料3〉

特別期間グループ活動観劇プログラム

| | 演 目 | 期 間 | 場 所 | 料 金 | 参 加 人 員 |
|------------------|----------------------------|----------|--------------|------|-----------|
| 1. 子どもの城・キリン民話劇場 | 「パレエのための昔話“つる”」 | 8月4~8日 | 円形劇場 (9回) | 800円 | (人) 51 |
| 2. 劇団キオ | おてんば子ガラス成長の記録 「こんにちはママ」 | 8月16~19日 | 円形劇場 (8回) | 同 上 | 20 |

(2) 活動の実際

運営面では、前年度と同様にグループ活動に関する各部連絡会、運営のミーティングを定期化し、申し込み方法、対象、料金、プログラム実施日などについて検討を加えた。

また、学校、幼稚園、保育園等と並んで從来から要望のあった自主保育グループの受け入れを検討し、指導者が明確であり、打ち合わせのできるグループの受け入れを計画した。

障害児のシミュレーションは、前年度は通級学級を対象に実施したが、63年度は養護学校（都立港、城南養護学校）の協力を得て行った。その後、反省会を実施し、プログラムについて有益な助言を得る機会となった。

更に、活動プログラムの実施に際して、スタッフの対応のレベルを一定に保つため、スタッフ研修会を実施し、神谷プレイ事業部長から現代の子どもたちの傾向や、指導者として必要なこと、基本姿勢などについて研修を受けた。

今年度の活動プログラムは資料4のとおりである。前年度のプログラムに検討を加え、就学児24、幼児16のプログラムを企画し、その中で、AVライブラリーやプレイホールでの自由活動も重視する活動を行った。

グループ活動の通常プログラムは指導型プログラムを中心とし、施設を利用するプログラムと合わせて基本的な活動パターンとすることは前年どおりである。

〈資料4〉

平常期間活動プログラム

| 就学児プログラム | | 幼児プログラム | |
|----------|--|--|--|
| 音楽 | ガムランを体験しよう 和楽器に触れてみよう アンクルン サンバ レッツ・プレイ・シンセサイザー | マット・てっぽう・とびばこ 球技 水泳指導のエッセンス | |
| 造形 | かけをうつそう 木をつくろう | 幼児プログラム | |
| AV | AVライブラリー アニメーションって不思議だね チャレンジビデオ ビデオおもしろゲーム ぱたぱたアニメ フィルムに絵をかいてみよう | スカーフで遊ぼう おむすびころりん 動物園に行こう まつりばやし ガムランであそぼう ア！って何色どんな音 | |
| プレイ | 自由あそび グループクリエーション パソコン体験教室 コンピュータゲーム | かけをうつそう 木をつくろう | |
| 体育 | レクリエーションゲーム フロア運動 体力測定 すてきな新体操 | AVライブラリー ぱたぱたアニメ フィルムに絵をかこう | |
| | | 自由あそび グループクリエーション | |
| | | フロア運動 すてきな新体操 | |

(3) 問題点と今後の展開

グループ活動の位置づけとして、「子どもの城」の社会還元事業であり、講座・クラブ、一般来館と並ぶ重要事業であることを確認したが、その具体的な在り方については、「子どもの城」としての統一的な考え方や計画を模索しているのが実情である。

プログラムについても、より質の高いプログラムの開発や低年齢児のプログラム、障害児のためのプログラム開発について今後も検討を重ねる必要がある。

今年度の新しいプログラムとして音楽のアンクルン、サンバなどがあり、就学児、幼児合わせて40のプログラムがあるが、各部の共同プログラムが少なく、今後もこの点について検討する必要がある。

また、前年度と同様に特殊学級、養護学校の利用が多く、特に養護学校の場合、障害の程度も重度の子どもたちである。

63年度は養護学校の児童の協力を得てシミュレーションを実施したが、今後もプロジェクトを組みながらプログラム開発を続ける必要がある。

その他、グループ活動の運営について、「子どもの城」における組織的な位置づけや各部への調整機能、予算、広報等について、再度新たな視点での検討が必要である。

◆利用の諸規定◆

◆幼児プログラム

- ・対象年齢 3歳～就学前
- ・定 員 1グループ 10～30人
- ・料 金 子ども 1人 200円
先生 1人 200円
- ・実施時間 10～13時

◆就学児プログラム

- ・対象年齢 小学校1年～高校3年
- ・定 員 1グループ 10～30人
- ・料 金 子ども 1人 250円
先生 1人 250円
- ・実施時間 10～13時

| 実施日 | プロ グ ラ ム | | | | | |
|-----|----------|-----|-----|-----|-----|--|
| | | | A V | 体 育 | プレイ | |
| 火 | | | A V | | | |
| 水 | 音 楽 | | A V | | プレイ | |
| 木 | | 造 形 | A V | 体 育 | プレイ | |
| 金 | 音 楽 | 造 形 | A V | | プレイ | |

| 実施日 | プロ グ ラ ム | | | | | |
|-----|----------|-----|-----|-----|-----|--|
| | 音 楽 | | A V | 体 育 | プレイ | |
| 火 | 音 楽 | | A V | | | |
| 水 | | 音 楽 | | | プレイ | |
| 木 | | 造 形 | A V | 体 育 | プレイ | |
| 金 | 音 楽 | 造 形 | A V | | プレイ | |

◆申込方法

電話予約

- ・希望の月日・プログラムを活動予定日の最低1か月前までに電話で予約する。
下見・打ち合わせは最低3週間前までに行う。

下見・打ち合わせ

- ・活動プログラムの担当スタッフと詳しい内容の打ち合わせを行う。

活動日当日

- ・当日1階アトリウム受付に集合。なお、なんらかの事情で到着時間が大幅に遅れる場合は連絡をもらう。
- ・今後の活動のために、アンケートを実施する。

参考資料

[AVプログラム] —映像の世界でビックリ体験

<みんなでつくろう“ぱたぱたアニメ”>

みんなが描いた2枚の絵を交互に撮影。再生すると——不思議、動いて見える。アニメの原点を体験。

◎対象=4歳～ ◎定員=30 ◎時間=60～90分

<フィルムに絵を描いてみよう>

透明の映画フィルムに着色して映写。いろんな色や模様が画面で踊りだす光と色のファンタジー。

◎対象=4歳～ ◎定員=30 ◎時間=60分

<チャレンジ・ザ・ビデオ>

ともだち同士インタビューしあったり体験レポートを作ったり、キミも今日からビデオカメラマン。

◎対象=小3～ ◎定員=24 ◎時間=60～90分

<ビデオおもしろゲーム>

ビデオを使って、楽しいゲームをしてみよう。“伝言ゲーム”“しりとり”にビデオで挑戦しよう。

◎対象=小3～ ◎定員=24 ◎時間=60～90分

<AVライブラリーアクセス>

・人形アニメをみてみよう

おとぎばなしや童話を、人形アニメーションで見てみよう。そのおもしろさを体験しよう。

◎対象=4～5歳 ◎定員=80 ◎時間=30分

・みじかいいきものをみてみよう

身近にいるようで、よく知られていないいきものを見てみよう。その習性、特質を知ろう。

◎対象=4～5歳 ◎定員=80 ◎時間=30分

・のりものをみてみよう

いろいろなところで活躍しているのりものを見てみよう。

のりものに乗った楽しさを、体験しよう。

◎対象=4～5歳 ◎定員=45 ◎時間=30分

V グループ活動

・アニメの絵本をみてみよう

ビデオ絵本をみてみよう。ことばの不思議さを理解したり、ものを素直に感じ取る心をやしなおう。

◎対象=3~5歳 ◎定員=45 ◎時間=30分

〔プレイプログラム〕—幼児には参加劇、小・中生にはパソコン

<グループレクリエーション>

「子どもの城」のいちばん広いスペースを使ってのレクリエーションゲーム、ダンスやクイズ大会などの楽しい集いのプログラム。

またひとりひとりが物語の登場人物になって歌を歌ったり、ダンスをしたりしながら楽しく、ゆかいに遊ぶ参加劇のプログラムもあります。

◎対象=4歳~小6 ◎定員=60 ◎時間=60~90分

障害児

※参加劇は30人以内の幼児と障害児のみです。

<パソコン体験教室>

パソコンの基本的な操作LOGO（ロゴ）というプログラミング言語を使ってパソコンで図形や絵を描くプログラム。

◎対象=小4~中3 ◎定員=40 ◎時間=90~120分

<コンピュータプレイゲーム>

パソコンを使って絵を描いたり、音楽を演奏したり、熱気球やヨットのシミュレーションゲームでみんなで楽しく遊ぶプログラム。

◎対象=障害児 ◎定員=20 ◎時間=60分

〔音楽プログラム〕—いろいろな音に出会う楽しさ

<まつりばやし>

音楽スタジオはおまつり広場。楽しい歌と踊りをつけて、みんなで和太鼓をたたいてみよう。

◎対象=3~5歳 ◎定員=30 ◎時間=40~60分

<スカーフであそぼう>

スタジオに広がる音と照明でみんなのスカーフはいろんなものに変身。自由にそれを表現してみよう。

◎対象=3~5歳、障害児 ◎定員=30 ◎時間=40~60分

<どうぶつえんにいこう>

みんなで動物園をまわっていこう。ピアノと照明で次々動物がでてきます。自由に楽しく表現してみよう。

◎対象=3~5歳、障害児 ◎定員=30 ◎時間=40~60分

<おむすびころりん>

いろいろな場面をみんなに演じてもらいながら、劇あそび形式で、お話をすすめていきます。

◎対象=4~5歳 ◎定員=30 ◎時間=40~60分

V グループ活動

<「ア！」って何色、どんな音？>

「“あ”のつく言葉って何がある？あいうえお」は何色？>

一緒に言葉のおもしろさを探しにいきましょう。

◎対象＝4歳～小3 ◎定員＝30 ◎時間＝40～60分

<ガムランであそぼう>

ガムランはインドネシアの打楽器。演奏を聞いて、みんなもたたいてみよう。どんな音がするかな。

◎対象＝4～5歳 ◎定員＝25 ◎時間＝40～60分

<ガムランを体験しよう>

ガムランの演奏を聞いて、みんなも簡単なアンサンブルを体験してみよう。

◎対象＝小1～、障害児 ◎定員＝20 ◎時間＝40～60分

<レッツ・プレイ・シンセサイザー>

シンセサイザーのしくみや楽しみ方のいくつかを紹介します。演奏を聞いたら自分達もレッツ・プレイ！

◎対象＝小4～ ◎定員＝40 ◎時間＝40～60分

<和楽器に触れてみよう>

和楽器の代表、太鼓をおもいきりたたくことを通して、自己開放の場をつくります。リズムは簡単。

◎対象＝小4～小6、障害児 ◎定員＝25 ◎時間＝45分

<楽しくサンバ>

歌って、踊って、演奏しちゃおう！。

ブラジルのカーニバル気分で、みんなでサンバに挑戦。珍しい楽器、みんなの手作り楽器も登場します。

◎対象＝小1～、障害児 ◎定員＝40 ◎時間＝60～90分

<やってみよう アンクルン>

アンクルンは、インドネシアのハンドベルのこと。

1人1音ずつ受け持って、みんなでいろいろ演奏してみよう。あっという間に、竹の楽器のアンサンブルの出来上がり…！。

◎対象＝小3～ ◎定員＝24 ◎時間＝60～90分

〔造形プログラム〕—制作と体験を通して造形感覚をやしなう

<かけをうつそう>

2人1組になって白い大きな壁「ブレイングボード」にライトで映し出されたともだちの影のりんかくを絵具でうつします。うつしたった影の中に点や線などの模様をつくり、形や色のイメージを広げます。

(幼児) 大きなボードに形をうつし、形、色、動きを組み合わせてその楽しさ、面白さを体験します。

(就学児) 様々な姿勢をとるとともだちの映しだされた影からその身近な姿を一層認識します。その空白の形態を自分のイメージで塗り、彩り、構成する感覚をやしないます。

◎対象＝4～10歳、障害児 ◎定員＝30 ◎時間＝40～60分

V グループ活動

<木をつくろう>

グループ全員が協力して床に紙の大きな木を作ります。幹から太い枝が伸び、枝から細い小枝が出ます。スタジオいっぱいに広がった木にマーカーや切り紙で、葉、花、鳥、虫などを描いたり、はったりします。木が出来上がったあとは……。

ひとつの作業の上にもうひとつの作業がつらなってはじめて物が仕上がっていいくといふ「計画すること」の重要さと、木の成長の法則を造形活動を通して学びます。

◎対象=4~10歳、障害児 ◎定員=30 ◎時間=40~60分

〔体育プログラム〕一体力づくりをやさしく指導する

<すてきな新体操>

リズム体操からリング・ボール等手具の使い方の基礎指導から集団演技の指導。

◎対象=3歳~中3 ◎定員=30 ◎時間=60分

<レクリエーションゲーム>

色々なゲーム、ダンスや軽いスポーツゲームの指導。

◎対象=小1~、障害児 ◎定員=30 ◎時間=60分

<フロア運動>

マット、パラバルーン等を利用したゲームと体育指導。

◎対象=3~5歳(内容により親子も可) ◎定員=30 ◎時間=60分

<マット・てつぼう・とびばこ>

ころがる・まわる・とぶ・走る…身のこなし、基本動作を中心とした体育指導。

◎対象=小1~ ◎定員=30 ◎時間=60分

<球技>

バスケットボール・バレーボール・ミニサッカー・バドミントン・卓球から1種目を選んで。

◎対象=小3~ ◎定員=30 ◎時間=60分

<水泳指導のエッセンス>

陸上で行う水泳トレーニングと泳法練習、またビデオ撮影による分析指導。

◎対象=小1~中3 ◎定員=20 ◎時間=60分

<体力測定>

健康開発室での体力測定

◎対象=小1~ ◎定員=7種目20 24種目10

障害児(独立して動ける人) ◎定員=7種目10

◎時間=60分

◎料金 7種目 1人 100円

24種目 1人 1,000円

(注・グループ活動一覧表は18・19ページに)

VI その他の活動

| | | |
|---|---------------|-----|
| 1 | こどもの城全国連絡協議会 | 185 |
| 2 | チャリティー事業 | 187 |
| 3 | こどもの城友の会 | 189 |
| | ・第32回全国保育研究大会 | 190 |
| | ・入館者アンケート調査結果 | 192 |

こどもの城全国連絡協議会

1 連絡協議会

本協議会は全国の児童の健全育成に資することを目的とし、会員相互の提携により、全国の児童センター・児童館等の児童厚生施設（会員）の活動の進展を図るため次の事業を行った。

1) 事業実施状況

1. 会員数

| 区分 | 入会 | 未入会 |
|---------|------|-----|
| 県（指定都市） | 51 件 | 6 件 |
| 団体 | 6 | |
| 計 | 57 | |

(ア) 情報交換・資料提供

(1) 機関誌の発行

全国の児童館等へ年4回（6・9・12・3月）各4,000部を送付、「こどもの城」各部門の活動状況等の周知に努めた。

(2) 情報交換・資料提供等の協力援助

① 「こどもの城」の情報

全国の児童館等へ「こどもの城ニュース」を年6回（4・6・9・10・12・3月）各4,000部及び「昭和62年度こどもの城事業年報」を送付し、各館の健全育成活動の参考に供した。

② 地域児童館等の情報

次の資料を全国の児童館等へ送付し、各館の活動の振興に供した。

- ・児童館等の活動実践集（東京都児童会館発行）
- ・健全育成事例集（神戸市児童家庭課発行）
- ・木と造形・光と造形（こどもの城発行）

(イ) 児童文化・芸能活動

青山円形劇場において、こどもの城・おまつり劇場を開催し、子どもたちによる日本の芸能を紹介し、併せて児童の文化交流を図った。

（時期……63年8月・参加者……約400人）

- ① 神奈川県大井町の子どもたち——中野七頭舞ほか。
- ② 小金井市の子どもたち——貫井囃子。
- ③ こどもの城三味線グループの子どもたち——鞍馬山ほか。

(ウ) 児童厚生員等の実技指導研修・現任訓練

子どもの活動エリアを利用して実技指導講習会を開催し、たいへん好評であった。

2) 総会・幹事会等

平成元年3月13日幹事会（午前）・総会（午後）

をそれぞれ開催し、本協議会の事業・予算・決算について審議決定した。

なお、各都道府県（指定都市）児童福祉主管課・児童館連絡協議会及び関係団体等の本会入会状況及び役員は表のとおりである。（平成元年3月末現在）

VI その他の活動

2. こどもの城全国連絡協議会役員

| 区分 | 氏名 | 選出ブロック | 所属する会員組織の役職名 | 勤務先 |
|-------|--------|--------|---------------------|----------------|
| 会長 | 小島 弘仲 | こどもの城 | 日本児童手当協会理事長 | 財団法人日本児童手当協会 |
| 副会長 | 柿崎 茂樹 | 東京 | 東京都公立児童厚生施設連絡協議会長 | 東京都児童会館 |
| 副会長 | 清水 悠子 | 近畿 | 大阪府福祉部児童福祉課長 | 大阪府福祉部児童福祉課 |
| 幹事 | 佐々木光男 | 北海道 | 北海道児童館連絡協議会長 | 釧路市福祉部児童家庭課 |
| 幹事 | 千葉 胞義 | 東北 | 宮城県市町村児童館連絡協議会長 | 名取市・名取ヶ丘児童センター |
| 会計事務監 | 原 弘政 | 関東 | 神奈川県公立青少年育成施設連絡協議会長 | 神奈川県青少年センター |
| 会計事務監 | 中島 森雄 | 中部 | 愛知県児童館連絡協議会長 | 知立福祉センター |
| 幹事 | 岩本 憲道 | 中国・四国 | 広島県児童館連絡協議会長 | くるみ園 |
| 幹事 | 久々山 義人 | 九州 | 熊本県児童館連絡協議会長 | 本渡市市役所 |
| 幹事 | 堀 利雄 | こどもの城 | 日本児童手当協会常務理事 | 財団法人日本児童手当協会 |

(注) 役員の任期は、平成3年3月（定期総会時）までとする。

(参考) 児童厚生員等実技指導講習会プログラム

| 区分 | 時期 | 講習内容 |
|------------------------|------------------------------|---|
| 児童厚生員等実技指導講習会 (第1回) | 5月 20日（金） ～ 22日（日） | レクリエーションを中心として初心者クラスを対象とした。 <ul style="list-style-type: none"> ・ レクリエーションソングの指導法 ・ レクリエーションダンスの指導法 ・ レクリエーションゲームの指導法 (参加者 20都道府県, 40人) |
| 同上 (第2回) | 10月 14日（金） ～ 16日（日） | 実践的なレクリエーション指導を、表現力に重点を置いた内容で、中級クラスを対象とした。 <ul style="list-style-type: none"> ・語りかけによる表現法 ・造形活動を通じての表現法 ・社会資源を生かした表現法など (参加者 18都道府県, 37人) |

3) 会計

(こどもの城全国連絡協議会会計)

会費及び日本児童手当協会助成金を財源として、前記事業にかかる経理を次のとおり実施した。(昭和63年度収支計算書)

(収入の部)

| 科 目 | 63年度 | 備 考 |
|-------------------|-----------|-------------|
| | (円) | |
| 繰 越 金 収 入 | 10 | 会費は1会員 |
| 会 費 収 入 | 285,000 | 年5,000円とする。 |
| 日本児童手当協会 助成金収入 | 4,447,000 | |
| 雜 収 入 | 3,850 | |
| 計 | 4,735,860 | |

(支出の部)

| 科 目 | 63年度 | 備 考 |
|---------|-----------|-------------|
| | (円) | |
| 役員会・総会費 | 383,165 | 収支差額96円 |
| 業務諸費用 | 39,400 | は次年度繰越金とする。 |
| 機関誌発行費 | 1,651,679 | |
| 協力援助費 | 2,661,220 | |
| 計 | 4,735,764 | |

2 チャリティー事業

養護施設などから2,145人を劇場招待

63年度「こどもの城」チャリティ事業は、当初の基本的な考え方を踏まえ、前年度に引き続き青山劇場、青山円形劇場の観劇招待を中心に、館内見学及び夏休み、クリスマスなどの特別企画行事、各種イベントの招待など幅広い活動を進めた。

63年度中の青山劇場、青山円形劇場におけるチャリティ観劇は養護施設などの児童等を対象に延べ45回、2,145人を招待した。

その内訳は、養護施設などの児童51か所790人、母子寮の母子65か所415人、障害児・者のグループ33か所264人、児童相談センターの一時保護児童145人、老人ホームに入居のお年寄り12か所199人、そのほかホームヘルパー、ボランティアなど332人となっている。

なお、「こどもの城」の各部門を活用し障害を持った子どもたちの健康増進、生活指導、療育指針に役立たせるための協力も引き続き進めたい。

VI その他の活動

チャリティー事業一覧

| 実施月日 | 実施回数 | 実施場所 | 実 施 演 目 | 参 加 実人員 | 対 象 者 |
|--------------|------|--------|---------------------------|------------|---|
| 4月2～5月5日 | 9 | 青山劇場 | ミュージカル「ビッグ・リバー」 | (人) 556 | 養護施設等の児童 母子寮入寮の母子 在宅障害児・者 |
| 5月27～28日 | 2 | 青山劇場 | 「愛の妙薬」 | 84 | 母子寮入寮の母子 ホームヘルパー・ボランティア 日本障害者リハビリテーション協会 |
| 6月15日 | 1 | 青山劇場 | ミュージカル「アニー」 | 58 | 養護施設等の児童 母子寮入寮の母子 児童相談センター児童 ボランティア |
| 7月23～24日 | 2 | 青山円形劇場 | トライ帽子店の サマー・バーゲンコンサート | 39 | 養護施設等の児童 母子寮入寮の母子 |
| 8月2日 | 1 | 青山劇場 | こどもの城 「サマー・フェスティバル」 | 125 | 肢体不自由児施設の児童 児童相談センター児童 都児童会館児童 ホームヘルパー・ボランティア |
| 8月5～6日 | 2 | 青山円形劇場 | 民話劇場「つる」 | 70 | 養護施設等の児童 母子寮入寮の母子 |
| 8月12～14日 | 2 | 青山円形劇場 | 人形劇フェア | 67 | 母子寮入寮の母子 養護施設等の児童 |
| 8月15～22日 | 2 | 青山劇場 | ミュージカル 「12ヶ月のニーナ」 | 219 | 在宅障害児・者 養護施設等の児童 母子寮入寮の母子 ボランティア 共催団体関係者 |
| 8月18日 | 1 | 青山円形劇場 | 劇団キオ「こんにちはママ」 | 73 | 母子寮入寮の母子 養護施設等の児童 |
| 10月30日 | 2 | 青山円形劇場 | ハロウイン | 31 | 母子寮入寮の母子 |
| 11月19日 | 1 | 青山劇場 | ミュージカル「ハンス」 | 20 | 障害者施設の入所者 |
| 12月8～18日 | 10 | 青山劇場 | 前進座公演「五重塔」 | 394 | 老人ホームのお年寄り 母子寮入寮の母子 都児童会館関係者 児童相談センター児童 共催団体関係者 ホームヘルパー・ボランティア |
| 12月25日 | 1 | 青山劇場 | こどもの城 「友の会フェスティバル」 | 88 | 母子寮入寮の母子 養護学校生徒 児童相談センター児童 都児童会館児童 |
| 12月27日 | 1 | 青山円形劇場 | 「くるみ割り人形」 | 19 | 養護施設等の児童 |
| 64年1月5～6日 | 2 | 青山円形劇場 | 「おとぎの国のメルヘン通り PARTIII」 | 67 | 母子寮入寮の母子 養護施設等の児童 |
| 平成1年3月28～30日 | 3 | 青山劇場 | ミュージカル 「12ヶ月のニーナ」 | 159 | 母子寮入寮の母子 養護施設等の児童 児童相談センター児童 ボランティア |
| 3月29～31日 | 3 | 青山円形劇場 | 人形劇「マウイ・チキチキ」 | 76 | 養護施設等の児童 母子寮入寮の母子 |
| 計 | 45 | | | 2,145 | |

3 こどもの城友の会

3 友の会

広がる支援の輪、会員数は 3,758 家族に

「こどもの城」を多くの人に理解してもらい、その支援の輪を広げるとともに、利用の促進を図ることを目的として「こどもの城友の会」が設けられている。

この会は、ファミリーで「こどもの城」とのつながりを持ち、利用してもらうことを願って、八会を家族単位としたところに特色がある。

その会員数（家族数）は平成元年3月末現在で3,758家族に達し、前年度末3,482家族に比し276家族の増となった。

昭和63年度には、開館当初に会費を3年分一括納入して入会した会員の会費有効期間がいっせいに満了する。

この中の非継続者が会員数の減に結びつくので、年間の会員数増は期待簿と考えられたが、全体としては（1年分納入、3年分一括納入込み）有効期間が満了しても継続しないケースが1,118家族であったのに対し、入会が1,394家族にのぼった結果、差し引き増となったものである。

会員に対する特典のうち、青山劇場及び青山円形劇場での公演への優待などの状況は、優待が18公演（うち、友の会の集い1公演）、優先予約のみが1公演、特別案内のみが7公演であった。

なお、昭和63年度中には会則（制度）の改正は行われていない。

<資料1>

こどもの城友の会の概要（63年度）

- 1 入会資格 特別の資格なし。入会は家族単位
- 2 入会金 家族単位で1,500円
- 3 会費 家族単位で年2,000円（入会した月の応答月まで有効）
3年分一括納入が可能（3年分の額の10%割引）
- 4 特典
 - 1) 「こどもの城ニュース」（隔月刊）の送付
 - 2) こどもの城の講座、クラブの登録料の20%割引
 - 3) こどもの城の入館招待券を1年につき5枚進呈
 - 4) こどもの城の劇場での優待（こどもの城が指定する公演、日時）
 - 5) こどもの城の催しに特別案内、優待
 - 6) こどもの城が行う保育クラブへ入会できるのは友の会の会員のみ
 - 7) こどもの城の売店での買い物の際に5%の割引

◇第32回全国保育研究大会に協力◇

63年度の第32回全国保育研究大会は11月29日から12月1日まで、「子どもの城」をメイン会場として行われた。全国社会福祉協議会など大会主催団体から、この機会に「子どもの城」各部門で大会参加者のための実践講座を、との要請があり、子ども活動エリアの5事業部と、保育研開発、小児保健両部は、これまでの活動資料をもとにした講座8コースを大会第2日の11月30日に実施した。

これは「子どもの城」の事業内容、実績の一端を紹介するとともに全国各地の保育関係者との関係を緊密にしたいとの願いから担当することにしたもので、城の活動を理解してもらう絶好の機会となった。参加者は8コース計184人。

講座内容の概略は次のとおりである。これらの講座のほか、同日午後、巷野悟郎小児保健部長が「子どものからだと心の健康」の題で講義をし、テリー・スザーン国際交流部長がワークショップを行った。

[Aコース] 造形事業部担当

テーマ 「子どもの体感を豊かにするために」

視覚的、感覚的な体験が、造形意欲を刺激し、見る+聞く+触る+頭を使う+体を動かす、といった五感をフルに使う行動へと、子どもたちを駆りたてて、何かを作り始める——そんな体感をいかに豊かにするかが、講座の主題。

アトリウムギャラリーに展示中の作品を参観のあと、造形スタジオで次の6つの制作プログラムに実際に取り組んでもらった。

- ①くっつけむし②小枝の音具③はんしゃめがね④ひかるチューブ⑤ストロー・ウィービング
- ⑥テクスチャー

[Bコース] プレイ事業部担当

テーマ 「ボランティア活動を積極的に取り入れていくために」

保育所がチャイルド・ケア・センターから地域に根を張ったセンターを指向している現在、地域の協力をボランティアという形で掘り起こし、これを活用することが大切になる。

このため「子どもの城」における婦人ボランティアの募集・講習会・実際活動を紹介し、更に実践活動している婦人ボランティアのパネル・ディスカッションも入れて、参加者のより深い理解を図ることができた。

[C-1コース] 体育事業部担当

テーマ 「幼児体育の実践」

「子どもの城」の幼児体育では子どものとれた成育を親子関係、仲間とのかかわり、成長段階に適合した身体運動というトータルな視点でとらえている。このような幼児体育の実際にふれてもらうため、プログラムはまず体育事業部の幼児体育のビデオを見た後、プールサイドで幼児・母親水泳を参観、幼児体育を実践してもらった。

[C-2コース] 体育事業部担当

テーマ 「健康開発、体力測定の実践」

幼児の成長過程でのさまざまな身体運動に現在の都市生活の中で制約が生じてきており、総合的な幼児の体力測定は幼児に関する人にとって大きな関心事である。「子どもの城」で実施している体力測定を実践し、その結果や、注意すべき点などについて話し合いを行った。

[Dコース] 音楽事業部担当

テーマ 「音と動きによる新しい表現活動」

「生きたリズム」を子どもの心の中にわき上がらせ、音をいつくしむ感性を大切に育てることが「リズム・ムービング」の中心。その展開は、およそ①イマジネーションの触発・醸成 ②動きと音とのかかわり ③模倣の導入 ④音の発見 ⑤楽器の演奏 ⑥アンサンブルを楽しむ、のプロセスで行われることを基本におき、実践的なレッスンを行った。

[Eコース] 小児保健部担当

テーマ 「実践活動事例を中心とした相談活動」

子どもの城小児保健部での日ごろの相談ケースを紹介し、実際の相談をロール・プレイингで再現。参加者との質疑応答で更に問題を掘り下げることができた。

取り上げられたケースは身体的な面で①偏食問題 ②食が細い子の問題 ③アトピー性皮膚炎など。心の面では①教育、しつけ ②言葉の遅滞 ③友だちと遊べない子 ④排尿のしつけなど。

[Fコース] 保育研究開発部担当

テーマ 「保育クラブ活動の実践」

保育ニーズの多様化に柔軟に対応するため、「子どもの城」ではターミナル保育構想を基礎として、開館以来、フリータイム保育を実践してきた。この実践形態や方法、内容を紹介し、今回参加された保母さんとの討論の場をもった。

提出された問題点は①保育時間の問題 ②異年齢混合保育の問題 ③不定期、断続的な保育での集団適応の問題 ④母集団的存在としての幼児グループとの関係など。

[Gコース] A V 事業部担当

テーマ 「子どものためのプログラム—動く映像の秘密—」

私たちの周りには、テレビや映画などの（動く映像）があふれている。この映像との関係は、多くの場合、受け身の見方、見せ方という〈観賞〉の形で語られる。これも大切なことだが、〈つくる〉立場から子どもと映像の関係を考えてみようというのがこの講座のテーマ。

自分の描いた絵がテレビに映し出され、しかもそれが動いて見えるとき、子どもたちの感動を呼び起こす。この講座では A V 事業部が実施しているビデオと結びつけて2枚の絵で作るアニメーション「ぱたぱたアニメ」のプログラムを参加者に実際にやってもらい、〈動く映像〉の原点とともに、それを作る喜びを体験的に知ってもらった。

<入館者アンケート調査結果>

「子どもの城」の事業運営の参考にするため、63年11月8日（火）から同14日（月）＝埼玉県民の日で特別開館までと、12月6日（火）から同11日（日）までの計13日間、来館者対象のアンケート調査を実施した。

62年の夏休み特別期間に行ったアンケートに続くもので、63年度は平常期間の来館者の状態や意向を把握することに主眼をおいた。

回収数は計708で、調査結果の主な点は次のとおり。

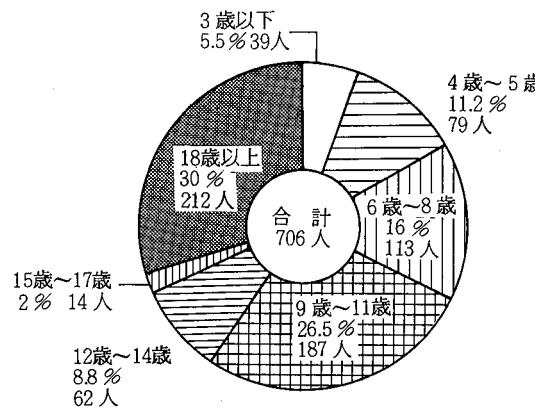
<住所> 渋谷、港、世田谷の3区で計32%だが、東京都以外の県からの来館者も29.2%にのぼった。これは調査期間中に「埼玉県民の日」があり、同県からの来館が多かったことによるが、このことは半面、特定の地域への集中的な広報（この場合は月曜は特別開館）の効果を示すものもある。

<子どもの城に来た回数> 「初めて」と「2回～9回」、「10回以上」がほぼ3分の1ずつとなっている。「10回以上」は講座・クラブのメンバーとみられるが、「2回～9回」の反復来館が34.5%と平常期間に多いのは、新鮮なプログラムの提供などによって、これからも維持していきたい傾向。「初めて」の34.6%と合わせ、バランスのとれた比率といえよう。

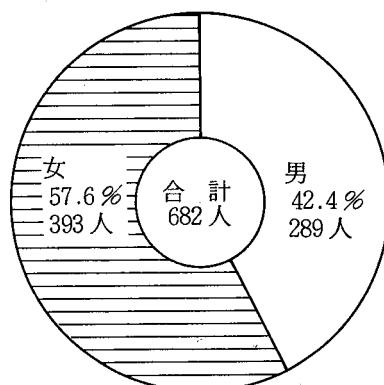
<また来たいと思うか> 「思う」が90.8%と大半を占めた。しかし「思わない」1.9%，「どちらともいえない」が7.2%あることを勘案し、アンケートに表れた「子どもの城」に対する意見、希望などについての配慮を怠ってはならないと思う。

<青山劇場・青山円形劇場の催し> 「見たことがない」が67%。一般来館者と劇場とを

1. あなたの年齢は？



2. あなたの性別は？

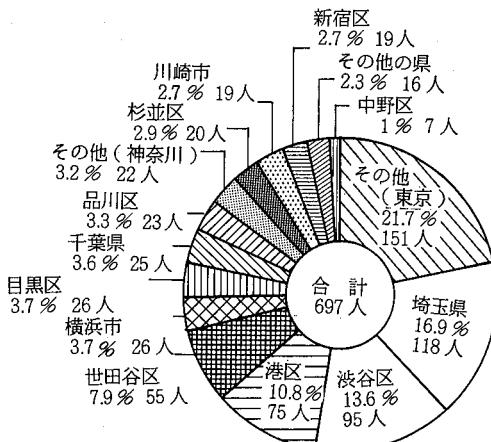


アンケートの結果

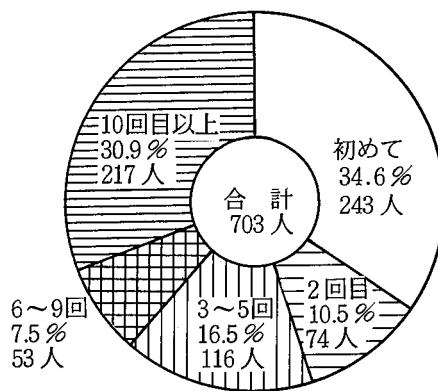
結びつける企画方法の開拓が課題となる。

＜意見・希望・感想など＞ 「楽しかった」「よかった」の声が多い一方で、弁当を食べる場所、禁煙、案内標示などに関する要望や苦情が目立った。

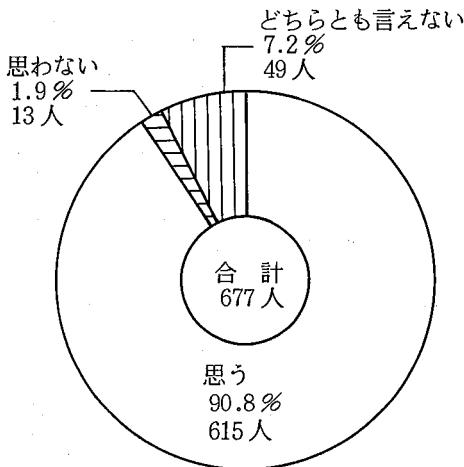
3. あなたの住んでる所は？



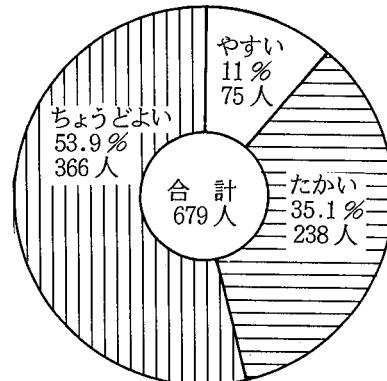
4. こどもの城に来た回数



5. こどもの城にまた来たいか？

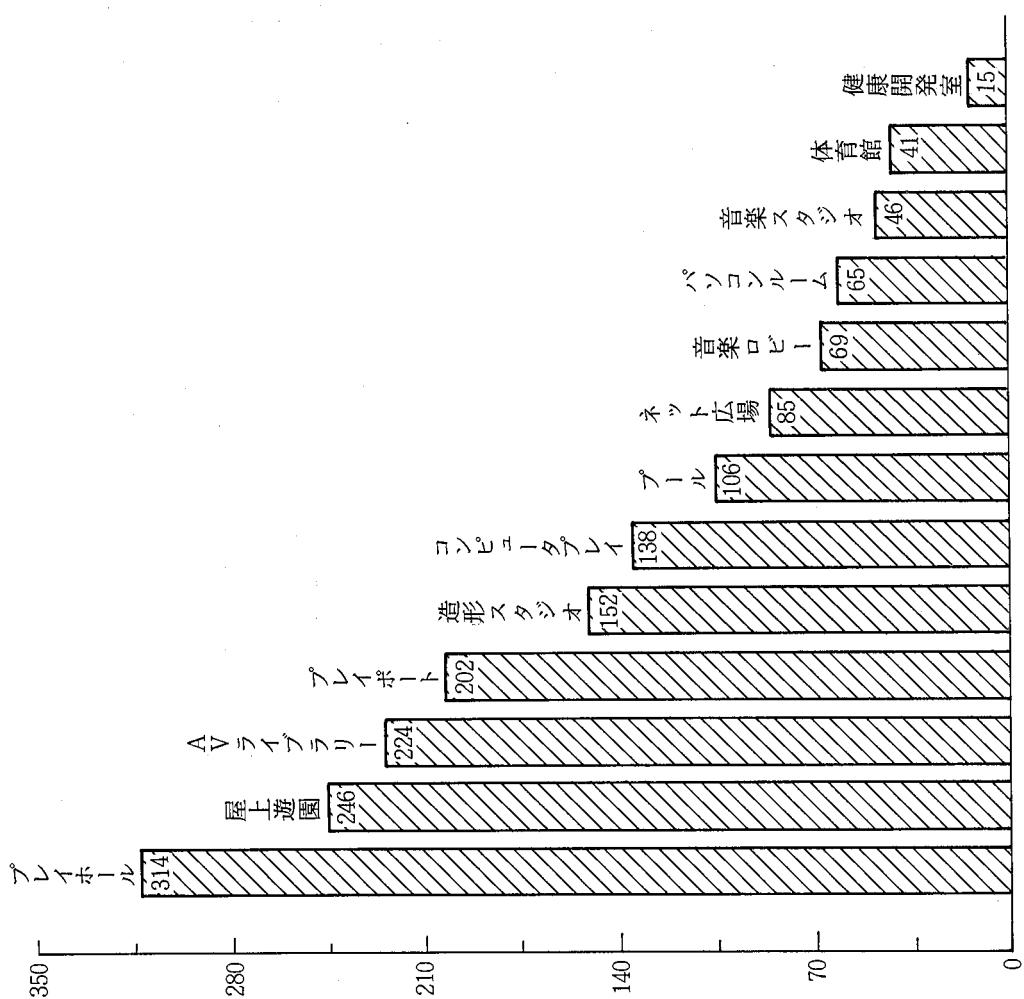


6. 入館料について

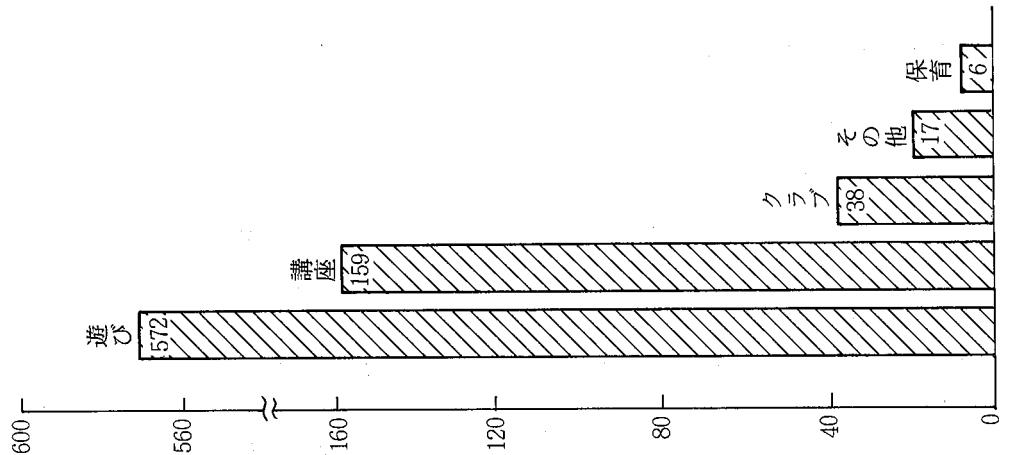


VI その他の活動

7. 今日楽しかった所はどこですか？



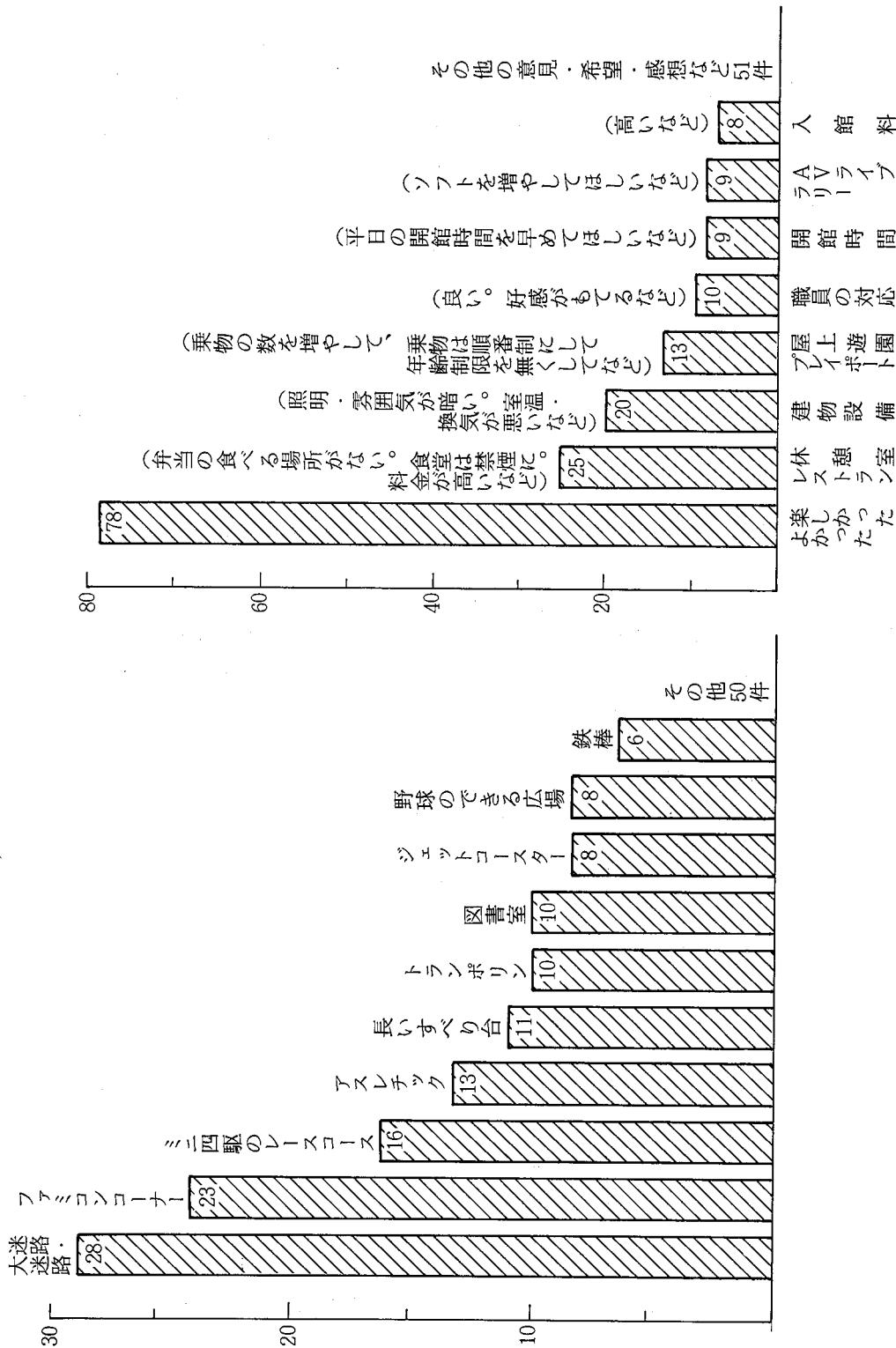
8. 今日は何をしましたか？



9. こどもの城に、こんなあそびがほしい、こんなものがほしい、ベスト10

10. こどもの城に関する意見・希望・感想などの主なもの

アンケートの結果



アンケート調査についてのお願い

今日は、こどもの城にご来館いただき、ありがとうございます。ただいま、こどもの城では、これから楽しいプログラムの計画や運営のため、皆様のご意見やご感想をおたずねするアンケート調査を行っております。ご協力ください。

このアンケート用紙をご記入のうえ、お帰りのとき1階アトリウム・エントランスホールの「アンケート入れ」の箱にお入れください。

- 1 あなたの年齢 ①3歳以下 ②4~5歳 ③6~8歳
 ④9~11歳 ⑤12~14歳 ⑥15~18歳
 ⑦18歳以上

- 2 性 別 ①男 ②女

- 3 今日は誰ときましたか。2つ以上○をつけてもかまいません。
 (こども) ①一人で ②お母さん ③お父さん ④おじいちゃん ⑤おばあちゃん ⑥ともだ
 ち ⑦近所の人 ⑧幼稚園・学校などのグループで ⑨その他 ()
 (大人) ①子ども ②近所の子ども ③親類の子ども ④ 幼稚園・学校などのグループの
 引率 ⑤その他 ()

- 4 あなたの住んでいるところは?。郵便番号が書いてある区は番号を○を囲んでください。
 渋谷区 150・151 港区 105・106・107・108
 目黒区 152・153 世田谷区 154・155・156・157・158
 新宿区 160・161・162 中野区 163・164
 杉並区 166・167・168 品川区 140・141・142
 東京都のその他の区・市・町・村 ()
 東京都以外 ①神奈川県 (ア)横浜市 (イ)川崎市 (ウ)その他の市町村 ()
 ②埼玉県 ③千葉県
 その他のところ ()

- 5 「こどもの城」に来た回数は
 ①初めて ②2回目 ③3~5回 ④6~9回 ⑤10回以上
 10回以上の人とは週におよそ何回きますか。(回)

- 6 今日、「こどもの城」に来て何をしましたか。
 ①クラブ ②教室・講座 ③遊び ④保育 ⑤その他 ()

アンケートの結果

- 7 今日、こどもの城で遊んだ中でとても楽しく、よかったですのはどれですか。
あてはまるものを○で囲みます。2つ以上○をつけてもかまいません。
- ①プール ②体育館 ③体力測定 _____ 地下2階
④プレイホール 高学年コーナー・ネットすべり台 _____
⑤コンピュータプレイ _____ 3階
⑥造形スタジオ _____
⑦音楽ロビー ⑧音楽スタジオ _____ 4階
⑨AVライブラリー _____
⑩屋上遊園・のりもの広場 _____
⑪プレイポート（ボールのプール） _____ 5階屋上
⑫ネット広場 _____
⑬パソコンルーム _____ 10階

- 8 今日、「こどもの城」に何時に来て、何時に帰りますか。
() 時ごろ～() 時ごろ

- 9 「こどもの城」にまた来たい思いますか。
①思う ②思わない ③どちらとも言えない

- 10 入館料（子ども300円・大人400円・同伴者のある6歳未満児は無料）について
①やすい ②たかい ③ちょうどよい

- 11 今までに青山円形劇場（3階）または青山劇場（1階）で公演をみたことがありますか。
①ある（青山円形劇場 回、青山劇場 回） ②ない

- 12 「こどもの城」にこんなものが欲しい、こんな遊びが欲しいと思うものがあれば、お書きください。

{ }

- 13 その他「こどもの城」についてのご感想やご意見・ご希望がありましたら、下の欄にお書きください。

{ }

こどもの城事業年報 昭和63年度

平成元年11月1日発行

財団法人 日本児童手当協会

理 事 長 小島 弘仲

〒 150 東京都渋谷区神宮前 5—53—1

電話 03 (797) 5666

印刷所 ヨシダ印刷両国工場